

Material Data System (IMDS)

ユーザーマニュアル

Version 15.3

このマニュアルで疑問点が解決されない場合は、公式ホームページをご参照ください:

<http://www.mdssystem.com>→ IMDS インフォメーションページ

- よくあるご質問(FAQ)のセクションは、このマニュアルに比べて比較的頻繁に更新されるため、このマニュアルでは明記されていないようなお客様が直面している問題について、回答が見つかる可能性があります。
- ニュースページでは、IMDS の最新情報を見つけることができます。
- IMDS アドバンスド・ソリューションズ・サービス
(<https://public.mdssystem.com/ja/web/imds-public-pages/imds-solutions>)のトレーニングページでは、IMDS のクラストレーニングまたは出張トレーニングに申し込むことができます。
- IMDS 利用の技術的な要件については、IMDS インフォメーションページ→IMDS のシステム情報のページから確認することができます。

変更履歴

Revision	Date	Description
1.0	Mar-27-2013	新規作成
1.1	June-21-2013	画面キャプチャーの入れ替え、説明の追加
1.2	May-24-2013	トラックの変更と修正
1.3	Jun-18-2013	5.2 の CMD の項を削除
1.4	Dec-12-2013	IMDS2020 機能拡張の追加
1.5	Mar-17-2014	IMDS リリース 9.0 変更点の追加
1.6	Jul-3-2014	IMDS リリース 9.0 リリース日以降の細かい修正と変更
1.7	Feb-27-2015	細かい修正と変更、拡張機能の変更の追加
1.8	Apr-27-2015	細かい修正と変更、拡張機能の変更の追加
1.9	Jun-10-2015	Jaguar Land Rover の章を追加
1.10	Jun-11-2015	IMDS リリース 10.0 変更点の追加
1.11	Jul-10-2015	IMDS リリース 10.0 の修正、米国のサービスセンターの連絡先変更
1.12	Oct-10-2015	IMDS リリース 10.0 の修正 ヒューレット・パカードエンタープライズのレイアウト変更
1.13	Apr-06-2016	84 ページ、材料データシートを公開するについての細かい修正と変更
1.14	Jun-30-2016	IMDS リリース 11.0 変更点の追加
1.15	Sep-01-2016	IMDS リリース 11.0 変更点の修正
1.16	Nov-12-2016	BMW の章と Tesla の章の追加
1.17	Jan-11-2017	ケミストリーマネージャーの章の細かい変更、最終ページのアドレス変更
1.18	Apr-25-2017	DXC Technology 変更、最終ページの連絡先の変更
1.19	Aug-31-2017	Volvo Group の章の追加、連絡先変更
1.20	Sep-19-2017	PSA Group の章の追加
1.21	Mar-19-2018	IMDS リリース 11.1 変更点の追加
1.22	Nov-19-2018	IMDS リリース 12.0 変更点の追加
1.23	Mar-06-2020	IMDS リリース 12.1 変更点の追加
1.24	Jun-05-2020	IMDS リリース 12.2 変更点の追加
1.25	Nov-11-2020	IMDS リリース 13.0 変更点の追加、11 章 SCIP の追加
1.26	Dec-08-2021	IMDS リリース 13.1 変更点の追加
1.27	Apr-13-2022	IMDS リリース 13.2 変更点の追加
1.28	Jan-11-2023	IMDS リリース 14.0 変更点の追加

1.29	Jul-31-2023	IMDS リリース 14.1 変更点の追加
1.30	Mar-20-2024	IMDS リリース 14.2、14.3 変更点の追加
1.31	Jan-13-2025	IMDS リリース 14.4、14.5 変更点の追加
1.32	Jul-05-2025	IMDS リリース 15.0 変更点の追加
1.33	Oct-17-2025	IMDS リリース 15.1 変更点の追加
1.34	Nov-26-2025	IMDS リリース 15.2 変更点の追加
1.35	Mar-30-2026	IMDS リリース 15.3 変更点の追加

目次

1	IMDS – 概要紹介	12
2	IMDS – はじめに	13
2.1	基本的な必須条件	13
2.2	企業登録	13
2.3	システムアクセス	18
2.3.1	ユーザーID の確認 /パスワードリセット	21
2.3.2	使用条件の承諾	23
2.3.3	仮パスワードの変更	24
2.3.4	デフォルトコンタクトの確認	25
2.3.5	通知の確認と同意	26
2.3.6	IMDS のナビゲーション	27
2.3.7	ツリーをさまざまなレベルに展開	34
2.3.8	ツリー検索条件に基づくツリーの展開	36
3	データシート(MDS)	38
3.1	データシートのご紹介	38
3.1.1	データシートとは?	38
3.1.2	バージョン管理	39
3.1.3	“ツリー構造”	41
3.1.4	データシートの“参照”	41
3.1.5	データシートの更新	42
3.1.6	自社データシートを obsolete（旧式、廃型）としてマークする	44
3.1.7	自社データシートを「まだ有効」としてマークする	45
3.2	IMDS での化学物質	46
3.2.1	全般	46
3.2.2	法的フラグ	46
3.2.3	ステータス	47
3.2.4	化学物質追加の申請	48

3.3	材料とコンポーネントのデータシート	50
3.3.1	データシートタイプ	50
3.3.2	マルチソース部品の作成	52
3.3.3	データシートの作成	58
3.3.4	IMDS コミッティー材料	58
3.3.5	材料データシートの作成	59
3.3.6	モジュールの作成	69
3.3.7	フィルター機能	70
3.3.8	置換機能	70
3.3.9	クリップボード	71
3.3.10	循環材料を含む材料のソース	73
3.3.11	樹脂・ゴム製部品への材質表示	76
3.3.12	・ ・として部品に使用	79
3.3.13	IMDS 化学物質のアプリケーションコード	80
3.3.14	サプライヤー情報	86
3.3.15	送信先情報画面	87
3.3.16	データシートの社内送信/送信/全送信	91
3.3.17	エラーチェック	95
3.3.18	データシートの公開と転送	103
3.3.19	データシートのコピーと論理削除された参照データのコピー	105
3.3.20	データシートの削除/送信先情報の削除	106
3.4	レコメンデーション	108
4	データシートの運用	110
4.1	サプライヤーから顧客へのデータ送信	110
4.2	データシートの機密性	111
4.2.1	自社における機密扱い物質の閲覧権限	111
4.2.2	送信先での自社機密扱い物質	111
4.3	入力依頼	113
4.3.1	入力依頼の内容	113

4.3.2	入力依頼に関する用語：送信先と送信元	114
4.3.3	データシート属性	115
4.3.4	管理用データ	115
4.3.5	入力依頼のステータス	116
4.3.6	入力依頼の作成	116
4.3.7	プロジェクトの作成	118
4.3.8	入力依頼の送信	118
4.3.9	入力依頼の拒否	118
4.3.10	送信/受信した入力依頼の検索	119
4.3.11	既存データシートの入力依頼への割り当て	120
4.3.12	未確認の入力依頼に関する週次メール通知	120
4.4	データシートレポート	122
5	MDS – 送信済み&受信済み一覧	125
5.1	送信済み一覧	125
5.2	受信済み一覧画面での承認/拒否	128
5.3	MDS フォローアップ	130
6	IMDS – 分析	133
6.1	データシート分析の詳細	133
6.1.1	材料分類での分析	134
6.1.2	材料での分析	134
6.1.3	化学物質での分析	134
6.2	Where-used 分析	134
6.2.1	絞り込み選択	136
6.2.2	詳細選択	137
6.2.3	化学物質による where-used 分析	138
6.2.4	化学物質リストによる where-used 分析	139
6.2.5	化学物質グループによる where-used 分析	140
6.2.6	材料分類による where-used 分析	140
6.2.7	データシートによる where-used 分析	141

6.2.8	GADSL / REACH-SVHC による where-used 分析	141
6.2.9	アプリケーションコードによる where-used 分析.....	142
6.2.10	含有リサイクルによる where-used 分析	142
6.2.11	プロセスケミカルの存在形態による where-used 分析.....	143
7	IMDS ケミストリーマネージャー	144
7.1	概要.....	144
7.2	ユーザーの取り扱い	144
7.3	規制情報の入力.....	145
7.4	バージョン	146
7.5	IMDS 標準データシートの特別な取り扱い.....	147
7.6	ウィザード.....	147
7.6.1	データシートの規制情報の読み込み.....	152
7.6.2	レポーティング.....	152
7.6.3	検索条件の保存.....	153
7.6.4	自社の規制情報の編集 – データタブ	154
7.6.5	自社の規制情報の編集– BPR	155
7.6.6	自社の規制情報の編集– REACH (材料).....	156
7.6.7	自社の規制情報の編集– REACH (コンポーネント).....	157
7.6.8	自社の規制情報の編集–MCCP(材料).....	158
7.6.9	MCCP を SVHC として取り扱う	159
7.6.10	自社の規制情報の編集–森林破壊防止規則(EUDR)	159
7.6.11	自社の規制情報の編集.....	160
7.6.12	規制情報のリリース.....	161
7.6.13	チェック.....	161
7.6.14	他社の規制情報を見る – データタブ	162
7.6.15	Combined result for download	163
7.7	構成情報画面.....	163
7.7.1	規制情報を読み取り専用でツリーに表示.....	163
7.7.2	規制の更新依頼を見つける – 構成情報タブ	165

7.7.3	規制情報画面の表示.....	165
7.7.4	特殊なユースケース.....	167
7.8	依頼コミュニケーション.....	168
7.8.1	規制情報の更新依頼.....	168
7.8.2	削除された企業の場合の更新依頼.....	169
7.8.3	規制情報の更新の依頼の受信- 通知メール.....	169
7.8.4	データシート検索画面で依頼を検索.....	170
7.8.5	構成情報画面で受信した依頼の表示.....	170
7.8.6	規制情報の更新依頼をクローズ.....	171
7.8.7	使用停止日または最終使用期限に達する化学物質に関する自動通知メール...	171
8	カーボンフットプリント(PCF).....	172
8.1	概要.....	172
8.2	PCF コンタクトパーソン.....	172
8.3	製品カーボンフットプリント/生産拠点.....	172
8.4	輸送カーボンフットプリント/輸送ルート.....	175
8.5	川下企業への可視性.....	176
8.6	モジュール/データシートのコピー/バージョン管理.....	177
8.7	PCF 更新メール.....	178
9	IMDS セキュリティ.....	179
9.1	物理的セキュリティ.....	179
9.2	オペレーティングシステムセキュリティ.....	179
9.3	データベースセキュリティ.....	179
9.4	アプリケーションセキュリティ.....	180
10	システム管理メニュー.....	181
10.1	個人設定.....	181
10.2	パスワード変更.....	184
10.3	通知.....	184
10.4	企業.....	185
10.4.1	企業情報の変更.....	185

10.4.2	組織の追加.....	188
10.4.3	組織の削除.....	189
10.5	コンタクトパーソン/規制情報コンタクト/PCF コンタクト.....	189
10.6	ユーザー.....	192
10.6.1	ユーザー権限.....	192
10.6.2	プリセット.....	195
10.6.3	ユーザーの作成.....	199
10.6.4	ユーザーID に権限とプリセットを割り当てる	202
10.6.5	ユーザーID を組織に割り振る	203
10.6.6	ユーザーの無効化.....	204
10.6.7	パスワードリセット.....	205
10.6.8	トラストユーザー.....	205
10.7	データシート管理.....	206
10.8	データシート統計.....	207
10.9	組織レポート(ユーザーが割り振られていない組織のレポート)	208
11	IMDS CAMDS MDS データ転送.....	210
11.1	アクセス割り当て.....	210
11.2	データシート/モジュールのエクスポート	211
11.3	外部 XML ファイルからのデータシート/モジュールのインポート	214
12	SCIP インターフェース	221
12.1	構成情報画面の SCIP 情報.....	221
12.1.1	コンポーネント SCIP 情報.....	221
12.1.2	材料 SCIP 情報.....	226
12.2	SCIP 提出	227
12.3	SCIP 提出検索画面.....	233
12.4	SCIP Dossier.....	234
13	Aston Martin Lagonda 向け拡張機能.....	236
14	BMW 向け拡張機能	237
15	FCA US LLC 向け拡張機能.....	238

16	ダイムラー AG 向け拡張機能.....	239
17	Fiat 向け拡張機能.....	240
18	フォード向け拡張機能.....	241
18.1	Certification.....	241
18.2	フォード指定の部品番号とサプライヤーコード.....	241
19	GM 向け拡張機能.....	243
20	Jaguar Land Rover 向け拡張機能.....	244
21	マツダ向け拡張機能.....	245
22	Next.e.GO Mobile 向け拡張機能	246
23	日産向け拡張機能.....	247
24	PSA 向け拡張機能.....	250
25	ルノー向け拡張機能.....	253
26	Scania 向け拡張機能	255
27	Tesla 向け拡張機能	256
28	トヨタ向け拡張機能.....	257
29	Volvo Car Corporation 向け拡張機能.....	258
30	Volvo Group 向け拡張機能	259
31	IMDS – アドオンサービス	261
31.1	IMDS-a2 Optimizer.....	261
31.2	IMDS Connect.....	262
31.3	IMDS Reorganization.....	263
31.3.1	Company Merge.....	263
31.3.2	Company SplitOff	263
32	IMDS – ヒント	265
33	用語説明.....	272
34	連絡先.....	280

1 IMDS – 概要紹介

既存の法的要件に従って車両の95%を再利用またはリサイクルしたい企業は、車両全体の正確な内容を理解する必要があります。

国内外における環境法令（例えば、使用済み車両に関するEU指令、危険材料に関する法律など）により、製品の全サプライヤーは、自社製品の全ライフサイクル（製造、使用、処分など）に対し、将来的に責任を負う可能性があります。さらに、材料に関する危険度の分類に加え、一般的に使用されている材料を代替する製品に含まれる全ての材料情報を提供し、材料の科学的所見を保証しなければなりません。そのため、使用されている材料の構成に関して詳細な知識を有していることが必要です。

アウディ、BMW、ダイムラークライスラー、フォード、オペル、ポルシェ、ボルボ、フォルクスワーゲン各社とEDS (EDSは2008年にHewlett Packard Enterpriseに買収され、2017年にCSCとDXC Technologyに合併されました。以下DXCと表記します。) は、ジョイントベンチャー（JV）プロジェクトとして、「マテリアルデータ シートEDI（EDI=エレクトロニックデータインターチェンジ）」というチームを形成しました。このチームは情報技術(IT)を、全サプライヤーからの材料データシート (MDS)の集約の為に使用します。

同概念は、インターネットをベースとした国際マテリアルデータ システム（IMDS）を用いて実現されました。DXCは中心となり、セキュリティの高いクラウドのデータベースを提供し、これにより、自動車製造メーカーおよびパーツサプライヤーは、プロセスの標準化および効率的なデータ集約が時間をかけずに可能となりました。年々当初のプロジェクトチームは拡大し、地理的条件に関わらずほぼ全ての自動車製造メーカーを含むまでになりました。

2 IMDS – はじめに

2.1 基本的な必須条件

IMDS にアクセスするためには、ユーザーはインターネット接続とサポート対象のブラウザを用意する必要があります。技術的制約により、ユーザーは、例えば Microsoft Edge や Firefox の最新バージョンのように、DXC がサポートするバージョンのブラウザ(IMDS 公式ホームページ <http://www.mdsystem.com>>IMDS システム>リリースノート から確認できます。)を使用してください。

サポート対象以外のブラウザやバージョンでも、IMDS をご利用いただけるものが存在します。しかしヘルプデスクでは、サポート対象のブラウザを使用した場合の問題以外に対応いたしかねますのでご了承ください。いかなる場合も、ブラウザのインターネットオプションで Java Scripting を有効にしてください。ブラウザの設定が正しく行われていないと、IMDS アプリケーションが正しく動作しません。IMDS では Web アプリケーション、ブラウザナビゲーションといった多くの異なる処理が同時に行われているため、キーボードや画面の「戻る」ボタンを使った場合、IMDS のシステムコントロールが阻害され、期待する動作ができなくなります。このため、必ず IMDS のボタンや、IMDS の画面がナビゲートする主要部分の機能を使用してください。

2.2 企業登録

注意: 各企業または各拠点は、IMDS に 1 企業として登録することができます。これは自社や、関連企業と顧客やサプライヤーとの間の区別をはっきりとさせるために行われます。オンラインで企業登録を行う前に、既に自社企業が登録されているかどうかを、サービスデスクに問い合わせさせていただくことをお勧めします。一度企業が登録されると、カンパニアドミニストレーター(自社企業の管理者権限を持つユーザー)は他のユーザーや他のカンパニアドミニストレーターを作成することができます。社内の担当者が頻繁に交代したり退職することを考えると、最低でも 2 名以上のカンパニアドミニストレーターを IMDS の企業に登録することを強くお勧めします。

企業登録はホームページ(IMDS インフォメーションページ→IMDS ログイン→企業登録→企業を登録から行えます。

ログイン

ユーザーID

パスワード

使用言語 日本語

- IDの確認
- 新しいパスワードの発行依頼
- 使用条件

登録

- 企業を登録する
- 企業登録の手順について (英語)

ヘルプ

- オンラインユーザーマニュアル
- IMDSサービスセンターへのお問い合わせ

簡易マニュアル

- データシート(コンポーネント)の作成方法 (英語)
- データシート(材料)の作成方法 (英語)

ビデオチュートリアル(英語)

- Home and Login Pages
- Function Descriptions and Search

企業登録

企業データ

次のフィールドにあなたの会社情報を入力してください。赤い米印が付いているフィールドは入力必須です。

企業名 *

住所 *

郵便番号 *

市町村名 *

メールボックス

DUNSナンバー

国名 *

カンパニアドミニストレーター

カンパニアドミニストレータの情報はここに入力して下さい。このユーザはあなたの企業をIMDS上で管理する責任があります。このユーザは組織を作成したり、ユーザを管理したりします。このユーザはあなたの企業の顧客ではなく、社員である必要があります。
社内管理者のEメールアドレスが正しいことを確認してください。登録した企業情報が送信されます

IMDSはグローバルなシステムのため、電話番号には国番号を含めてください。

姓 *

名 *

電話番号 *

FAX番号

Eメールアドレス *

Eメールアドレスの確認 *

コンタクトナンバー

図 1-企業登録画面

ユーザーは企業情報と 1 名のカンパニアドミニストレータの情報を入力します。

赤いアスタリスク*がついているフィールドは全て入力必須です。このフォームを送信すると、システムは同一名称の他の企業が既に登録されていないかどうかをチェックします。この処理は単純に文字を照合しているだけです。実際に対象の企業が登録されているかどうかを確認できるものではありません。企業としてコンプライアンス業務を 1 点に集中させたい場合、DXC で管理している「拒否リスト」に特定の文字を登録すると、その文字列を含む企業名は、オンラインで登録できないように設定することができます。

更に、企業登録するユーザーが 1 人目のカンパニアドミニストレータとなり、E メールでカンパニアドミニストレータのユーザーID 情報へのリンクを受け取れるようにすることを、強く推奨します。もしカンパニアドミニストレータと、実際に登録した人物が別だと、システムからの E メールを無視したり消してしまったりしてしまう可能性があります。

注意: E メールアドレスの欄に入力したアドレスには、システムからの確認メールが配信されるため、必ずそのユーザーID に関連する正しいアドレスを入力してください。ユーザーID は企業単位ではなく必ず個人単位に割り当ててください。許可されたユーザーの氏名、E メールアドレスだけが ID に関連付けられます。各担当者が自分のユーザーID で IMDS の業務を行うようにしてください。

同じページにコンタクトパーソンの情報も入力してください。コンタクトパーソンとカンパニーアドミニストレーターは違う人物でも構いません。コンタクトパーソンにはユーザーID は発行されず、逆にユーザー登録をただけではコンタクトパーソンにはなりません。コンタクトパーソンとは、自社のデータシートについて(法的に)責任を負う人物です。

コンタクトパーソンは社外から見て対面となる人物ですので、組織には紐づけされません。

入力が完了したら、「次へ」をクリックします。すると IMDS への登録についての確認画面が表示されます。この画面で承認すると、ユーザーID、パスワード、企業 ID、企業名といった IMDS の登録情報が表示されます。これらの登録情報をコピーして、安全な場所に保存してください。この画面は一度閉じてしまうと二度と表示されませんので、必ず正しくコピーされたことを確認してください。

図 2 – IMDS 登録情報

IMDS 登録情報を確認すると、ユーザーに対して新しい企業を IMDS 上で有効にするためのリンクが E メールで送られます。この URL を使って企業を有効化しなければ、ユーザーは IMDS にログインすることができません。その後には、ユーザーID とパスワードを使って IMDS アプリケーションにログインすることができます。以下の画面は、カンパニーアドミニストレーターが企業登録した際に送られる Eメールのサンプルです。この Eメールは IMDS システムから配信されるため、システムからのメールを正しく受信できるように、自社の IT 部門に設定を依頼してください。まれにファイアーウォールレベルでブロックされたり、迷惑メールやスパムメールのフォルダに振り分けられたりしてメールがユーザーに届かないケースがあります。このメールはコンピュータから配信されるため、メール上のリンクをクリックするようなリクエストに応じることはできませんし、Eメールを通すために文字を入力することもできません。

ユーザーの登録

以下の内容にて企業登録を受け付けました:

企業データ	
企業名	Irube Co., Ltd.
住所	Tokyo
郵便番号	123-4567
市町村名	Tokyo
州	-
メールボックス	-
国名	Japan
DUNS ナンバー	-

カンパニーアドミニストレーター	
姓	IMDS
名	USER
電話番号	123-4567
FAX 番号	-
E メールアドレス	y...@hp.com

コンタクトパーソン	
姓	Company
名	Administrator
部署	-
メールボックス	-
電話番号	123-4567
FAX 番号	-
E メールアドレス	...@hp.com

企業を有効化するために、以下のリンクをクリックして下さい。その後すぐに、企業登録プロセスで受け取ったユーザ ID とパスワードで IMDS にログインすることができます。あなたは最初のログイン時に、パスワードを変更し IMDS 使用条件に同意しなければなりません。

IMDS で企業を有効化させるには、ブラウザで以下のリンクをクリックしてください。
<http://199.42.248.73/imsnt/faces/login?op=req&l=ja&i=cx7uJ5bzEbKvms3NXhB7P33aVws3Bqh1z>

重要:
 この URL の有効期間は 14 日間です。一度だけ使用することが出来ます。14 日以内に有効化されなかった場合は、この URL は無効になります。

図 3 – IMDS 企業登録の E メール

注意:一部の Eメールのアプリケーションが、URL の途中にキャリッジリターン（改行）を挿入してしまう場合があります。もし URL が開かない場合は、URL より以下のライン上におそらく何か文字が入っている可能性があります。Windows のメモ帳のようなアプリケーションに、対象の行を編集しないようそのままコピーし、行と行の間の改行文字を削除してから、URL をクリックしてください。

この URL にアクセスすると、IMDS への登録を承認するかキャンセルするかを選択肢が表示されます。キャンセルをクリックすると再びこの URL に戻って承認をすることはできません。

注意:この URL はメールで送られてから 14 日間有効です。もしこの 14 日間の間に URL を開かなかった場合は、それ以降アクセスできません。

以下の図は、ある企業を有効化するページです。

ログイン

ユーザーID

パスワード

使用言語 日本語

- IDの確認
- 新しいパスワードの発行依頼
- 使用条件

登録

- 企業を登録する
- 企業登録の手順について (英語)

ヘルプ

- オンラインユーザーマニュアル

企業の有効化

以下の登録内容にてIMDS企業登録していただき、誠にありがとうございます:

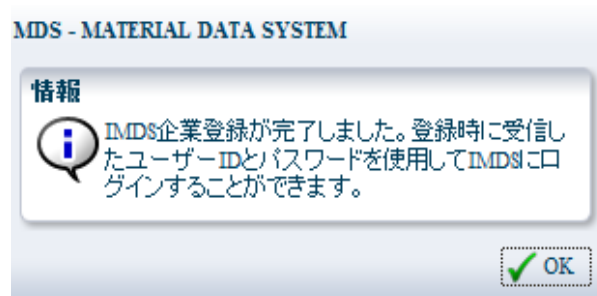
企業ID 32488
 企業名 Irube Co., Ltd.
 住所 Tokyo
 郵便番号 123-4567
 市町村名 Tokyo
 国名 Japan

企業を有効にするために、有効化ボタンを押して下さい。その後すぐに、企業登録プロセスで受け取ったユーザーIDとパスワードでIMDSにログインすることができます。あなたは最初のログイン時に、パスワードを変更しIMDS使用条件に同意しなければなりません。

IMDSへこの企業を登録しない、もしくはこの企業を有効化したくない場合は、キャンセルボタンを押して企業登録を破棄してください。

図 4 – 企業登録の有効化またはキャンセル画面

「有効化」をクリックすると、IMDS 登録が完了します。更にこの企業登録の過程で受け取ったユーザーID とパスワードを使って IMDS にログインすることができます。

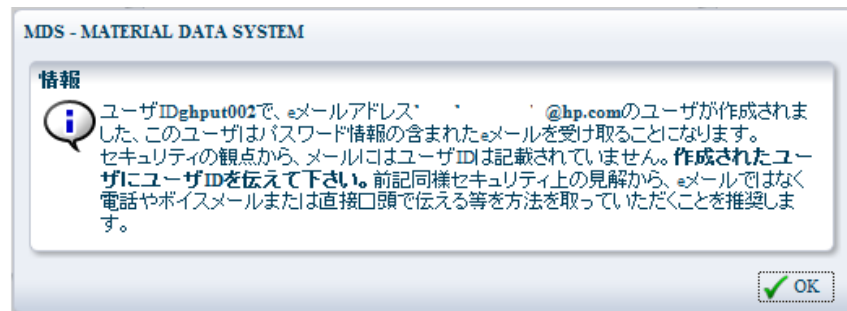


カンパニアドミニストレーターの権限と役割は以下の通りです:

- ・ 自社(だけに限る)のユーザーの作成
- ・ 自社のユーザー権限の変更
- ・ 自社のユーザーのパスワードリセット
- ・ 自社のユーザーの Multi-Factor Authentication (MFA) リセット
- ・ コンタクトパーソンの割り当て
- ・ 担当から外れたまたは退職したユーザーの無効化
- ・ 担当から外れたまたは退職したコンタクトパーソンの無効化
- ・ IMDS 企業に必要最低限のカンパニアドミニストレーターがいることを確認
- ・ IMDS 企業のデータシート統計へのアクセス

新しいユーザーを作成するときは毎回、ユーザーID と関連づけられている E メールアドレスの画面が表示されます。そして仮のパスワードが作成され、E メールで新しいユーザーに直接

送られます。このメールにはパスワードだけが含まれており、ユーザーID は含まれていません。このため、カンパニアドミニストレーターは対象のユーザーにユーザーID を伝達する必要があります。



新しいユーザーは全員、最初のログイン時に IMDS 使用条件を読み、承諾する必要があります。

注意: 全てのユーザーは登録されている E メールアドレスと電話番号を常に正しい状態にしておく責任があります。カンパニアドミニストレーターも同様です。システムのセキュリティの観点から、全てのユーザーは自分のユーザーID、氏名、E メールアドレスを使わなければなりません。パスワードリセットは、ID に紐づけられた E メールでしか行われません。

2.3 システムアクセス

IMDS を利用するには、IMDS インフォメーションページ: www.mdsystem.com からアクセスします。

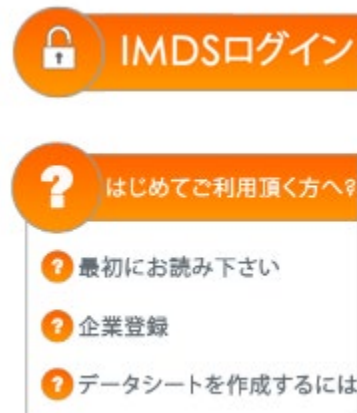
IMDS インフォメーションページに移動すると、ページ上部にいくつかのタブがあります。「ヘルプ」の中には、よくある質問に対する回答を掲載した「FAQ(よくあるご質問集)」があります。以下の画面は、IMDS のホームページです。



図 5 – IMDS インフォメーションページ

ログイン

IMDS インフォメーションページを開き、「IMDS ログイン」ボタンを押して IMDS システムにアクセスします。



以下の画面は IMDS ログインページの典型的な画面です。

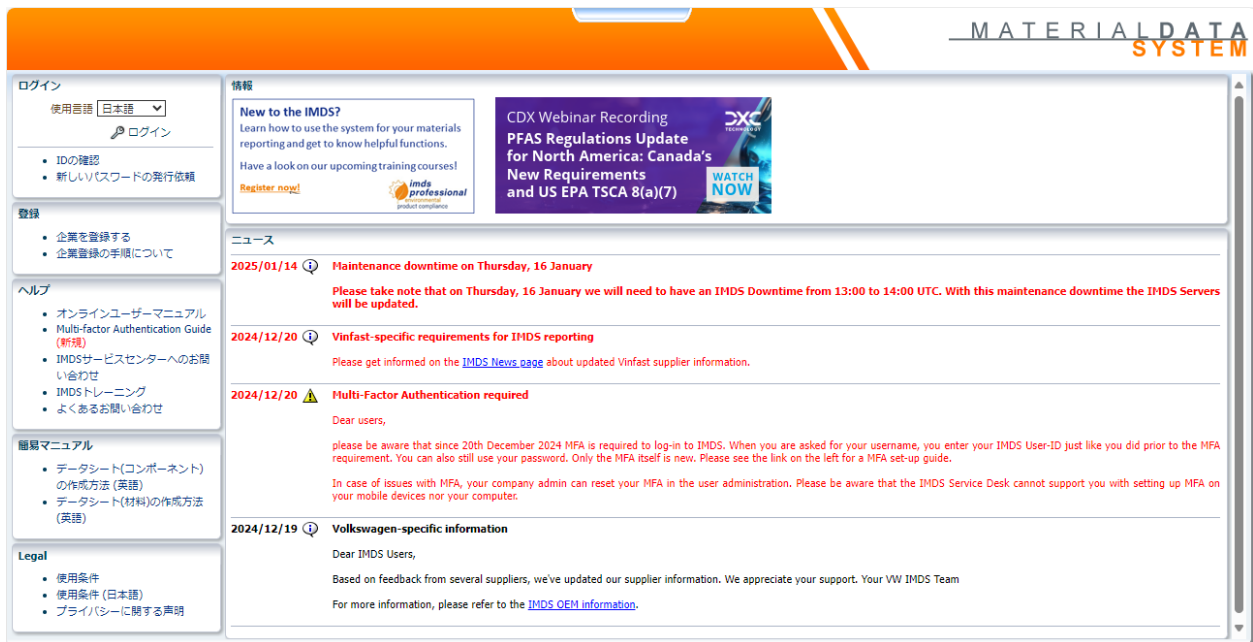


図 6 – IMDS アプリケーション画面(ログイン前)

この画面で、ユーザーは最初のステップでユーザーIDを入力し、続いて2番目のステップでパスワードを入力します。ユーザーIDは企業ID(数字)とは異なりますのでご注意ください。ユーザーIDは、企業名と、該当するユーザーの情報で構成されています。ユーザーIDは通常、5つのアルファベット(小文字)の後に3桁の数となっています。ユーザーIDとパスワードは大文字と小文字を区別します(例: "SPRING"と"Spring"は異なる文字列として識別されます)。ログインできなくなることを防ぐため、最初のログインの際に、ユーザーIDとパスワードを、システムからの自動配信メールからコピー(<CTRL><C>) & ペースト(<CTRL><V>)することをお勧めします。システムで自動作成するパスワードは、全て小文字のアルファベットと番号です。また、混乱を防ぐため"o"、"0"、"l"、"1"は使用していません。

ログインの前に、即座に表示させる言語を選択できます。現在は英語、ドイツ語、中国語、フランス語、イタリア語、日本語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語が利用可能です。ただし、多国語で表示ができていても、入力項目は全てIMDSで認められている英語しか対応しておりませんので十分ご注意ください。加えて、IMDSでは入力項目は各言語に翻訳されません。

2.3.1 ユーザーID の確認 /パスワードリセット

特にユーザーがシステムに頻繁にアクセスしない場合、誰でもユーザーID やパスワードを忘れることがあります。そういったよくあるケースに備え、IMDS にはユーザーID の再確認やパスワードの再発行の機能があります。しかし、最も重要な情報は、システム上で ID に関連付けられた E メールアドレスです。ユーザーは、システム内で自分の E メールアドレスを最新の状態に保つことが不可欠です。

ユーザーがユーザーID を忘れた場合、IMDS のログイン画面において、ログイン情報の入力欄のすぐ下にある「ID の確認」というリンクをクリックすることで、簡単にユーザーID(複数の場合もあります)を再確認できます。

最初のリンクをクリックすると、E メールアドレスを入力する画面が現れます。

入力した E メールアドレスに紐づくユーザーID の一覧が、システムから送信されます。さらに、パスワードが分からない場合は「新しいパスワードの発行依頼」というリンクからパスワードを再発行できます。

リンクをクリックすると、以下のような画面が表示されます。

図 7- 新しいパスワードの発行依頼の画面

新パスワードの発行を行う際には、そのユーザーID と紐づく正しい E メールアドレスの入力が必要となります。パスワードリセットを行うためには、入力する E メールアドレスは、あらかじめ IMDS のシステムに登録している E メールアドレスと同一でなければなりません。

システムは、許可された場合 (つまり、ユーザーID の有効期限が切れでなく、ユーザーが前回のパスワードリセット以降にログインに成功している場合) チェックを実行します。

パスワードのリセットが要求された場合 (ユーザーがログインページの「新しいパスワードの発行依頼」をクリックした場合、またはユーザーに代わってカンパニアドミニストレーターが行った場合)、ユーザーに送信される E メールには、新しいパスワードを設定できるパスワードリセットページへのリンクが含まれます。

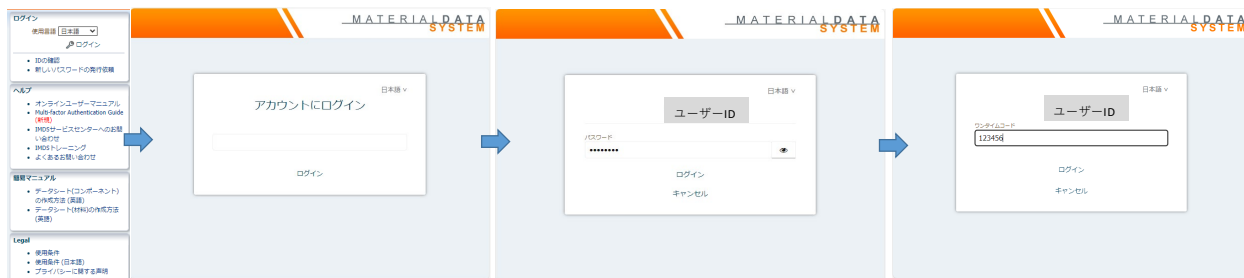
リンクは 24 時間有効で、以前のパスワードは新しいパスワードが定義されるまで有効です。

システムが生成するパスワードはランダムな文字列であるため、ユーザーは E メールからパスワードフィールドにコピー/ペーストすることを強くお勧めします。ユーザーは初回ログイン時にパスワードを変更する必要があります。(2.3.3 参照)

ユーザーID が間違っている、ID に紐づく正しい E メールアドレスではない、またはユーザーID が有効期限切れになっている場合は、エラーメッセージが表示されます。もし IMDS システムからの自動配信 E メールが受け取れないという問題が発生した場合は、社内の IT 部署の担当者にお問い合わせ頂き、「ID の確認」のリンクをたどってなぜ E メールが受け取れないのかを調査してもらうよう依頼してください。E メールを受け取れないとこれ以上 IMDS を使用することができません。

追加のセキュリティ層を提供するため、IMDSリリース14.5ではIMDSのログインプロセスに多要素認証(MFA)が導入されました。各ユーザーは、IMDSへの初回ログイン時に、認証用のモバイルアプリケーションまたはブラウザの拡張機能を設定する必要があります。その後、ログインの度にワンタイムコードが必要となり、認証機能で表示されます。モバイルデバイスまたはブラウザ拡張機能を使用してMFAを設定する方法の説明は、ログインページにリンクされます。こちらからも入手可能です：[MFA Setup Guide.pdf](#)

この変更の一環として、ログインのプロセスも変更されます。ユーザー名とパスワードの両方を入力してから「ログイン」をクリックするのではなく、「ログイン」をクリックすると、まずユーザー名を入力するダイアログが開き、続いてパスワードを入力するダイアログが開きます。



2.3.2 使用条件の承諾

初めてのログインした際、必ず使用条件(Terms of Use)に承諾し、パスワードを変更しなければ次に進めません。以下の図は使用条件の画面の例です。

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

使用条件

IMDSのシステムを使用するためには、以下に記載された使用条件を変更または追加することなく同意する必要があります。

IMDS Terms of Use V 3.0 (HP)

(0) The IMDS Purpose

IMDS (International Material Data System) was developed and is operated by EDS Operations Services GmbH (subsequently called "EDS") on behalf of various international car manufacturers with the purpose to enable the gathering of environmentally relevant information on parts and materials along the automotive supply chain by using the internet as the most cost efficient enabler for this process.

On November 1, 2009, the business operations of EDS were transferred to Hewlett-Packard GmbH (subsequently called "HP").

あなたは上記の使用条件に変更または追加をすることなく同意しますか？

✓ 承認 ✗ 辞退

図 8 – 使用条件の承諾

いくつかのブラウザもしくは画面の解像度によっては、画面をスクロールしないと「承認」または「辞退」ボタンが現れない場合があります。ユーザーは必ず使用条件を**読み、承認**しないと先に進めません。「辞退」を押すとスタートページに戻り、IMDSを使用することはできません。

2.3.3 仮パスワードの変更

次のステップとして、ユーザーは初期パスワードを変更する必要があります。ユーザーは「システム管理」>「パスワード変更」から変更することもできます。セキュリティ上の理由から、ユーザーはシステムパスワードリセット（IMDS ログイン画面の「新しいパスワードの発行依頼」、またはIMDSサービスデスクによる）の後にパスワードを変更する必要があります。

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

パスワード変更

セキュリティ上の理由から90日ごとにパスワードを変更する必要があります。
Your new password must not be the same as the old password and must not include parts of your name. It must be at least 12 characters long. We recommend to use a passphrase rather than a complex password with special characters, but all Latin-1 characters can be used.

現在のパスワード

新しいパスワード

パスワード再入力

はい

キャンセル

パスワード要件については、9.4 アプリケーションセキュリティをご参照ください。

2.3.4 デフォルトコンタクトの確認

「コンタクト: 編集」権限を持つユーザーにデフォルトコンタクトの情報を確認または更新するためのダイアログが表示されます。

デフォルトコンタクトを持つ企業のそのようなユーザーが、デフォルトコンタクトの確認日から 90 日以上経過してログインするたびに、確認/更新ダイアログが表示されます。

このダイアログでは、デフォルトコンタクトの情報がすべて表示され、そのユーザーにこの情報が正確かどうかを確認するよう求められます。

そのユーザーが「確認」を選択した場合、デフォルトコンタクトの確認日は現在時刻に設定されます。（今後 90 日間、このダイアログが表示されることはありません）

「更新」を選択した場合、システムは自動的にコンタクト管理ページに移動し、デフォルトコンタクトの詳細が編集モードで表示されます。

2.3.5 通知の確認と同意

IMDS に関する通知があると、ログイン直後に通知が表示され、既読として非表示にするか、次のログイン時にもう一度表示させるかを選ぶことができます。この通知画面は、パスワードを変更する必要がある時には表示されない場合があります(その次にログインするときに表示されます)。ユーザーは必ずメッセージを読んだという事を意思表示しないと、次に進むことができません。次の図は一般的な通知画面です。



図 9 – 通知画面

一度「OK」をクリックすると、IMDS の基本画面に切り替わります。以下の図は IMDS の初期画面です。



図 10 – IMDS アプリケーションの初期画面

2.3.6 IMDS のナビゲーション

IMDS にログインすると、以下のように、いくつかの領域に分かれた画面が現れます。下図は、各領域を示しています。

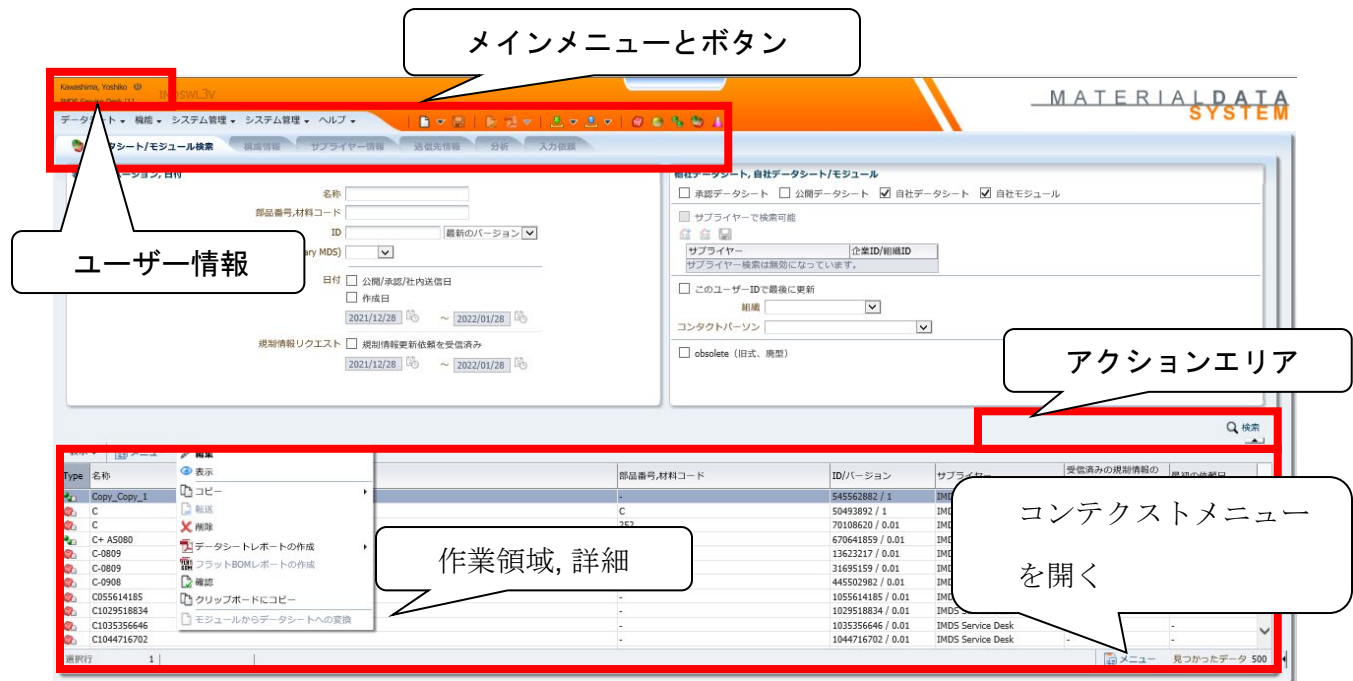


図 11 – IMDS の作業用の画面

ユーザー情報／ログオフ（左上）

このエリアでは、ユーザーの名前と企業名、企業IDが表示されます。サインアウトする場合は、ユーザー名の横に「ログオフ」ボタンがあります。

メインメニューとボタン

メインメニューとボタンは、ログインしているユーザーが使用できる全ての機能を表しています。このメニューはインタラクティブになっており、選択したメニューはハイライトで色が付きます。各メニューをクリックすると、作業画面がその機能に対応する画面に切り替わります。その時に利用できないメニューは文字が薄くなり選択できないようになっています。以下はメニューの画面です。

ビューボタン

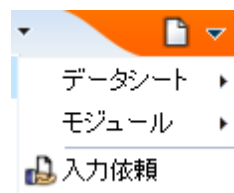
画面内に非表示の列がある場合は、「表示」ボタンで表示/非表示を切り替えることができる旨のメッセージが表示されます。

コンテキストメニュー

検索結果の一覧において、右クリック、または右下にある「メニュー」コマンドをクリックすると、各項目に応じた使用可能なすべての操作が、コンテキストメニューとして表示されます。

データシートメニュー/ツールバーのボタン

以下の機能が「データシート」メニューで利用可能です：



新規作成

「データシート」>「新規作成」を選択するか、ツールバーのボタンを押すことでこの機能を使用することができます。このボタンはメニューのデータシート>新規作成を選択したときと同じことになります。このボタンからは以下のことを行うことができます：

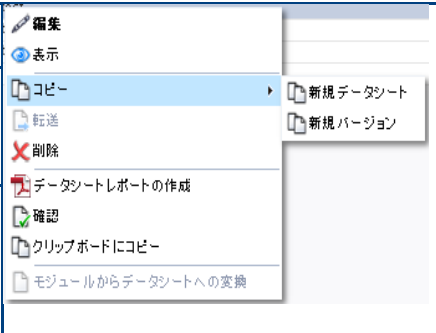
メニュー	内容	データシート > 機能 > システム管理 > ヘルプ >
コンポーネント	コンポーネントデータシートを新規作成し表示	新規作成
セミコンポーネント	セミコンポーネントデータシートを新規作成し表示	保存 (Ctrl+S)
材料	材料データシートを新規作成し表示	社内送信
モジュール	モジュール（コンポーネント、セミコンポーネント、または材料）を新規作成し表示	モジュールからデータシートへの変換
入力依頼	入力依頼を新規作成し表示	転送
		データシートレポートの作成
		確認
		承認
		拒否
		削除
		ログオフ

保存

この機能は「データシート」>「保存」メニューからでも、ツールバーのボタンからでも実行することができます。このボタンは、その画面でユーザーが保存する必要がないときには表示されません。この機能は、その時作業中の情報を IMDS システムに保存する機能です。例えばデータシートや入力依頼、企業内の組織の編集やユーザーデータなどの編集集中に使うことができます。

コピー

以下の表は「コピー」メニューで使用できるオプションの説明です:

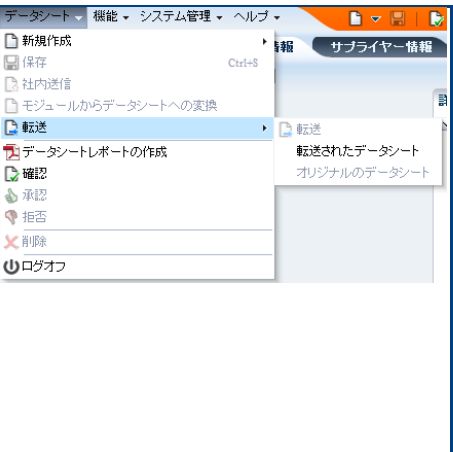
メニュー	内容	
新規データシート	データシートの編集集中のみ使用できます。データシートを新しい ID に変更し保存します。以前開いたデータシートは修正されません。	
新規バージョン	データシートの編集集中のみ使用できます。データシートを同じ ID の新しいバージョンに変更し保存します。以前開いたデータシートは修正されません。自社で作成されていないデータシートの新しいバージョンは作成できません。	

社内送信

データシートの編集集中のみ使用できます。データシートを社内送信し、自社で作成した他のデータシートやモジュールに参照できるようにします。

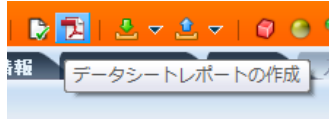
転送

以下の表は「転送」メニューで使用できるオプションの説明です:

メニュー	内容	
転送	承認済みで、かつ送信元が転送を許可しているデータシートを開いている時だけ利用できます。転送バージョンのコピーを作成し、送信先に送ることができます。ただし構成情報は編集できません。転送は、一つの承認済みデータシートにつき1回しか行えません。	
転送されたデータシート	転送された受信データシートを開いているときにしか使えません。選択したデータシートの転送バージョンを表示します。	
オリジナルのデータシート	承認データシートの転送バージョンを開いているときしか使えません。オリジナルのデータシートを表示します。	

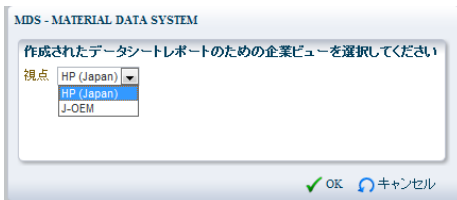
印刷

「データシート」>「データシートレポートの作成」もしくはツールバーのボタン



を使ってこの機能を利用できます。

このメニューでは、データシートの情報を「データシートレポート」として印刷することができます。この情報は自社から見た視点と送信先企業から見た視点のどちらかを選ぶことができます。



メニュー	内容	
データシートレポートの作成	データシートを表示しているか、編集時のみ利用できます。対象のデータシートのデータシートレポートを生成します。このレポートには、データシートに含まれるアセンブリや材料を構成する化学物質のリストが含まれます。	データシート ▾ 機能 ▾ システム管理 ▾ ヘルプ ▾ 新規作成 保存 Ctrl+S 社内送信 モジュールからデータシートへの変換 転送 データシートレポートの作成 確認 承認 拒否 削除 ログオフ

確認

データシートを表示しているか、編集時のみ利用できます。データシートのエラーチェックを行い、問題があった場合は一覧で表示します。このチェック機能は、ツールバーのボタンからも起動することができます。

承認

この機能は、承認、拒否または送信の取り消しを、まだしていない受信データシートを表示している時だけ有効です。次の画面で承認/拒否ボタンが表示され、承認することができます。

拒否

この機能は、承認、拒否または送信の取り消しを、まだしていない受信データシートを表示している時だけ有効です。次の画面で承認/拒否ボタンが表示され、拒否することができます。

削除

表示しているデータを削除します。削除できるのはデータシート、入力依頼、組織(カンパニーアドミニストレーターのみ)です。受信データシートは削除できません。加えて、自社以外のデータは削除できません。

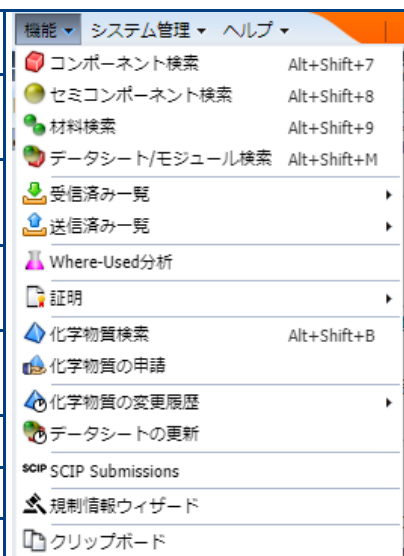
ログオフ

ユーザーを IMDS から退出(ログオフ)させ、ログイン/ニュースページを表示させます。ログオフのボタンは画面の左上にあります。

機能メニュー/ボタン

機能メニューには IMDS で利用できる各機能の一覧が含まれています。ほとんどの機能はツールバーにボタンで表示されています。各機能の詳細は以下の表の通りです:

メニュー	内容	機能メニュー/ボタン
コンポーネント検索	コンポーネントデータシート(自社、受信済み、公開済み)の検索画面を開きます。	機能メニュー/ボタン
セミコンポーネント検索	セミコンポーネントデータシート(自社、受信済み、公開済み)の検索画面を開きます。	機能メニュー/ボタン
材料検索	材料データシート(自社、受信済み、公開済み)の検索画面を開きます。	機能メニュー/ボタン
データシート/モジュール検索	全てのデータシートまたはモジュール(自社、受信済み、公開済み)の検索画面を開きます。	機能メニュー/ボタン
受信済み一覧	受信済みデータシートや入力依頼の検索画面を開きます。	機能メニュー/ボタン
送信済み一覧	送信済みデータシートや入力依頼の検索画面を開きます。	機能メニュー/ボタン
Where-Used 分析	特定の条件に合うデータシートを検索(分析)する画面を開きます。	機能メニュー/ボタン
証明	Ford Motor Company の認証画面を開きます。	機能メニュー/ボタン
化学物質検索	化学物質の検索画面を開きます。	機能メニュー/ボタン
化学物質の申請	化学物質の申請の検索画面を開きます。	機能メニュー/ボタン
化学物質の変更履歴	化学物質の変更履歴を検索する画面を開きます。	機能メニュー/ボタン



化学物質の申請	化学物質の申請画面を開きます。
データシート更新	データシート更新画面を開きます。
SCIP 提出	企業の SCIP 提出の検索画面を開きます。
規制ウィザード	規制ウィザード画面から IMDS ケミストリーマネージャー機能を開きます。(ユーザーがカンパニアドミニストレーターによって、この機能へのアクセスを許可された場合しか見られません。)
クリップボード	クリップボードを開きます。

システム管理メニュー

システム管理メニューでは、企業情報の管理を行います。ユーザー権限の種類によってはこのオプションは利用できません。各機能の詳細は以下の通りです:

メニュー	内容	
使用言語	ここで、ユーザーはアプリケーションの言語を変更できます。	システム管理 ▾ ヘルプ ▾
個人設定	ログインしているユーザーの E メールアドレスや電話番号といった全ての情報を表示し、個人情報を編集できます。	使用言語
パスワード変更	パスワードの変更ができます。	個人設定 Alt+Shift+P
通知	閲覧可能、まだ確認していないお知らせを表示します。	パスワード変更
企業	カンパニアドミニストレーターのみが利用できます。自社の組織を検索する画面を開きます。	通知
コンタクトパーソン	カンパニアドミニストレーターのみが利用できます。自社のコンタクトパーソンを検索する画面を開きます。	企業
規制コンタクト	カンパニアドミニストレーターのみが利用できます。規制コンタクトを検索する画面を開きます。	コンタクトパーソン
ユーザー	カンパニアドミニストレーターのみが利用できます。自社のユーザーを検索する画面を開きます。	規制コンタクト
トラストユーザー	カンパニアドミニストレーターのみが利用できます。他企業のトラストユーザー、またはそうでないユーザーを検索します。カンパニアドミニストレーターはこの画面からトラストユーザーもしくはそうでないユーザーを指定できます。	ユーザー
データシート管理	カンパニアドミニストレーターのみが利用できます。データシート管理画面を開き、複数のデータシートを別の組織に移動させることができます。	トラストユーザー
データシート統計	カンパニアドミニストレーターのみが利用できます。その企業に関連する統計情報を確認できます。	データシート管理
		データシート統計
		組織レポート

組織レポート	カンパニアドミニストレーターののみが利用できます。 ユーザーが割り振られていない組織がないかどうかを確認できます。	
--------	--	--

ヘルプメニュー

ヘルプメニューの各機能は以下の通りです:

メニュー	内容	
オンラインユーザーマニュアル	ユーザーマニュアル(PDF ファイル)を新規ウィンドウで開きます。	
ビデオチュートリアル	各機能の説明の動画(英語)を見ることができます。	
よくあるお問い合わせ	IMDS インフォメーションページの FAQを確認できます。	
リリース情報	IMDS の最新のリリースノートを確認できます。	
使用条件	使用条件(PDF ファイル)を新規ウィンドウで開きます。	
レコメンデーション	全てのレコメンデーションを過去のバージョンも含めてダウンロードできます。	
ネットワークテスト	ご自身のネットワーク/PCに関連する IMDS のパフォーマンスを測定することができます。	
このアプリケーションについて	IMDS の現バージョンの情報を表示します。	

情報/詳細

詳細画面は情報を入力したり、入力した情報を表示したりする領域です。

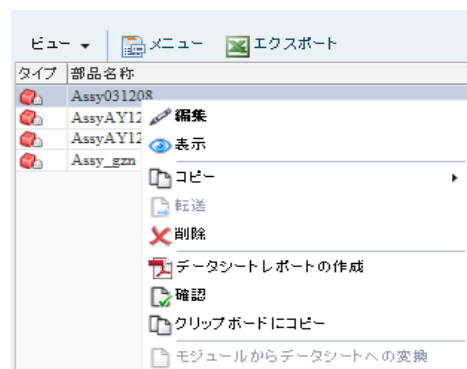
作業画面

この領域には、検索、キャンセル、作成機能を持つボタンが配置されています。これらのボタンをクリックすることで入力依頼、データシート、IMDS ユーザーの検索結果や詳細をこのエリアの下に一覧表示させます。

検索結果画面からのショートカット

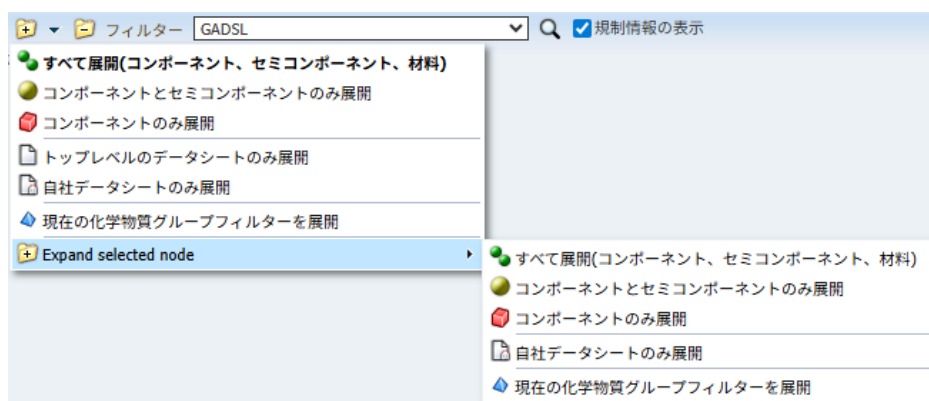
上記のボタンやメニューに加え、検索結果画面で特定のデータシートを選択した状態で右クリックすると、よく使われる機能のショートカットが部品検索の結果として表示される右にメニューとなって表示されます。

またメニューをクリックすることによって、カスタムメニューを開くこともできます。



2.3.7 ツリーをさまざまなレベルに展開

データシートのツリーを展開する  ボタンは、ドロップダウンメニュー(▼)によって拡張され、製品の構造ツリーを展開するための追加オプションを提供されます。



オプション	説明
すべて展開(コンポーネント、セミコンポーネント、材料)	すべてのノード／参照を完全に展開します。 これはリリース 15.1 以前の動作と同じです。
コンポーネントとセミコンポーネントのみ展開	コンポーネントとセミコンポーネントのみ展開します。 すべての材料は折りたたまれた状態になります。 このオプションはセミコンポーネントおよびコンポーネントに対してのみ利用可能です。
コンポーネントのみ展開	コンポーネントのみ展開します。 すべてのセミコンポーネントと材料は折りたたまれた状態になります。 このオプションはコンポーネントに対してのみ利用可能です。

トップレベルのデータシートのみ展開	ルートノードおよびその中に含まれるノードのみを展開します。 追加されたすべての参照は折りたたまれた状態になります。 このオプションは自社モジュール/データシートに対してのみ利用可能です。
自社データシートのみ展開	ルートノードのみを展開し、さらに自社モジュール/データシートへの参照(含まれるノードを含む)も展開します。 承認データシートまたは公開データシートへのすべての参照は折りたたまれた状態になります。 このオプションは自社モジュール/データシートに対してのみ利用可能です。
現在の化学物質グループフィルターを展開	選択された化学物質フィルターに含まれる少なくとも 1 つの化学物質を含む参照およびノードのみを展開します。フィルターとして GADSL が選択されている場合、少なくとも 1 つの要申告物質または禁止物質を含む材料が展開されます。 該当する化学物質を含まないすべての参照およびノードは折りたたまれた状態になります。

これらのオプションはすべてデータシート全体を対象としており、例えば「コンポーネントのみ展開」を選択すると、読み込まれているデータシート内のすべてのコンポーネントノードおよび参照が展開されます。また、サブメニューにより、選択した基準に基づいて選択ノードのみを展開することも可能です。

オプション	説明
すべて展開(コンポーネント、セミコンポーネント、材料)	選択したノード/参照を完全に展開します。
コンポーネントとセミコンポーネントのみ展開	コンポーネントとセミコンポーネントのみ展開します。 すべての材料は折りたたまれた状態になります。 このオプションは、選択したノード/参照がセミコンポーネントまたはコンポーネントである場合にのみ利用可能です。
コンポーネントのみ展開	選択したノード/参照と、その中に含まれるすべてのコンポーネントを展開します。すべてのセミコンポーネントおよび材料は折りたたまれた状態となります。 このオプションは、選択したノードがコンポーネントである場合にのみ利用可能です。
自社データシートのみ展開	選択したノード/参照と、その中に含まれる自社のモジュール/データシートへのすべてのノード参照を展開します。

	承認データシートまたは公開データシートへの参照はすべて折りたたまれた状態となります。 このオプションは、選択したノードが自社のモジュール/データシート、またはその内部のノードである場合にのみ利用可能です。
現在の化学物質グループフィルターを展開	該当する化学物質を含まないすべての参照およびノードは折りたたまれた状態になります。 選択したノード/参照と、その中で選択した化学物質フィルターに該当する化学物質を少なくとも1つ含むすべてのノード/参照を展開します。フィルターとして GADSL が選択されている場合、少なくとも1つの要申告物質または禁止物質を含む材料が展開されます。 関連する化学物質を含まないすべての参照およびノードは折りたたまれた状態となります。

ドロップダウンメニューを開かずにボタンを直接クリックすると、ツリー全体が展開されます。そのため、ドロップダウンメニューの使用は任意です。

2.3.8 ツリー検索条件に基づくツリーの展開

ツリー検索ダイアログには「ツリーを展開する」ボタンが用意されています。このボタンをクリックすると、入力された検索条件に一致するすべての箇所までツリーが展開され、その他のノードは折りたたまれます。このボタンは、すべてのツリー検索条件で利用できます：

プロセスケミカルの存在形態(意図的使用、反応残留物、不純物)に関する検索条件は、ツリー検索ダイアログで利用可能です。

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

ツリー検索

Type

プロセスケミカルが存在形態 *

化学物質の含有率 - % *

このダイアログでは、検索条件として「いずれか」または 3 つのプロセスケミカルが存在形態のいずれかを選択することもできます。これらの検索条件を使用して Where-Used 分析で見つかったデータシートを開くと、同じ条件でツリー検索が自動的に実行され、該当するプロセスケミカル参照の最初の一致箇所が選択されます。

3 データシート(MDS)

3.1 データシートのご紹介

3.1.1 データシートとは?

データシートはIMDSの核となる要素です。「マテリアルデータシート」の略で、英語など他言語ではMDSと表現します。データシートは実体としての材料を表現するために、特性を体系立ててリスト化したものです。日常的な表現に言い換えると、私たちが何かを作り出すときには必ず「作り方(レシピ)」が必要です。データシートはこのレシピの中の「材料と分量」に該当します。どの企業も、このデータシートを作成、編集、管理する目的でIMDSを利用しています。仮にサプライヤーから納入先にデータを「パス」するだけの為にIMDSを利用していたとしても、データシートを作成し、サプライヤーからのデータシートを参照して納入先に提出する、という作業が発生します。

MDS(データシート)とMSDS(Material Safety Data Sheet)は、別物であるという点を十分ご注意ください。言葉や略称が関連性があり類似しているため、しばしば混同されますが、それぞれは全く異なるツールです。一般的にMSDSのデータはMDSの作成に必要な情報を網羅していませんし、また逆も同じです。多くの部品(例外もあり)について、MSDSは製品の中に含まれている環境規制に違反、または有害な化学物質だけを記載し、最終的な材料情報は要求されていません。一方データシートは、最終的に100%の材料情報の登録が求められ、ユーザー自身は環境規制に違反している、または有害な物質かどうかという情報は入力しません。

データシートは、以下のような複数のデータの単位が、まとまって構成されているとご理解ください:



IMDS のデータシートは Microsoft Word のドキュメントに一部類似しているところがあります。Microsoft Word のドキュメントには文字列/表/図などが含まれ、フォーム/サイズ/フォントなどが決められ、ヘッダーとフッターおよび本文で構成されています。IMDS のデータシートは、複数のコンポーネント/材料/化学物質がツリーのような構造で構成され、それぞれに名称/部品番号/材料規格/重量といった属性が付加されています。

3.1.2 バージョン管理

一般的にデータシートは時間と共に更新されるため、全てのデータシートは「バージョン番号」で管理されています。このバージョン管理のルールについて、この章でご理解いただかないと、IMDS を実際にご利用頂くにあたり、非常に不便を感じられると思われます。データシートのバージョン管理のメカニズムは非常に複雑です。しかし基本となる考え方については基本ルールも少なく、容易にご理解いただけます:

データシートのバージョンは「編集可能」「リリース済み」「アーカイブ」の3種類に分けられます。

- 「編集可能」の場合、データシートのバージョン番号は変更ができます。ただしこのままの状態では他のデータシートに参照する、もしくは(通常)他社への開示ができません。
- 「リリース済み」の場合、データシートはこれ以上変更できません。ただし他のデータシートに参照したり、他社に開示することができます。
- 「アーカイブ」の場合、そのデータシートは有効ではありません。代わりに後続のバージョンを作成するために閲覧したり、コピーするという目的で利用されます。また古い車種の「サービスパーツ(補給品)」のデータとして必要なケースがあります。

データシートにはバージョン番号が割り当てられています。バージョン番号は“XX.YY”といった形式で表されます。

1. “XX”(整数)部分はデータシートのバージョンの“リリース”を表す部分です。この数字はそのデータシートが過去に何回リリースされた、もしくは編集不可の状態になったかを表しています。
2. “YY”の部分はデータシートのバージョンの“編集状況”を表す部分です。この数字は前回リリースされた後、何回編集されたのかを表しています。

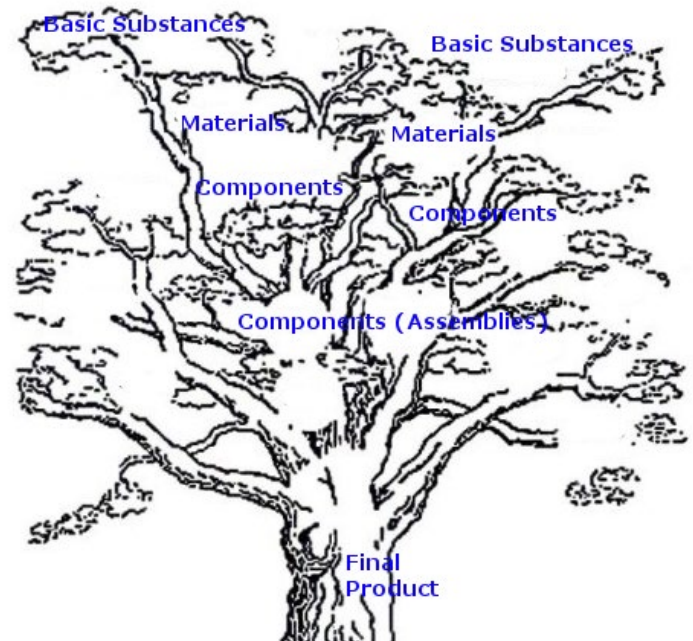
ユーザーはバージョン番号を見ることで、そのデータシートについて多くのことを把握することができます。以下に例を挙げます：

- バージョン 0.01 はデータシートが初期作成の状態で、編集可能です。
- バージョン 1 はデータシートが最初にリリースされた状態で、編集はできません。
- バージョン 3.05 はデータシートが過去に 3 回リリースされて、その後 5 回編集された状態です。

3.1.3 “ツリー構造”

IMDS は、自動車を構成する部品を、右図のようなツリーに似たモデルで表現します。詳細の説明は以下の通りです:

- 葉(末端)は化学物質を表しています。
- 葉がついている小枝は材料を表します。
- その小枝が伸びている元の小枝はコンポーネントを表します。
- 次にその枝が伸びている元の枝は構成部品(アセンブリ)を表します。
- 更に幹に近い枝は主要な構成部品(アセンブリ)を表します。
- 幹は最終製品(車両)を表します。



3.1.4 データシートの“参照”

自動車は何千もの材料、何万ものコンポーネントで構成されています。このような大きなアセンブリを作成するのに、たった 1 つのデータシートを作成することで対応するのは不可能に近いことです。そこで IMDS では、大きなデータシートに下位層のデータシートを「参照する」ことができます。

例を挙げてご説明します。これは架空のワークフローですが、代表的なケースです:

自動車メーカーがコンポーネントのアセンブリを 100 社の Tier1(1 次)サプライヤーから受信したとします。それらは一つ一つコンポーネントのアセンブリのデータシートで提出されています。これらの各データシートは、更に 100 個のコンポーネント(構成部品)で構成されています。

Tier1 サプライヤー各社は、この 100 個の構成部品のデータシートを Tier2 サプライヤーから受信して、それをまとめて自社データシートを作成しています。これらのデータが Tier1 サプライヤーによって親コンポーネントに「参照」され、車両全体に含まれるデータシートが出来上がります。

この例で出てきたのはたった 2 階層分(Tier n ~ Tier n+1 間)の企業だけで、かつ各取引先 1 件につき 1 データシートしか作成していない計算ですが、データシート数は 10,000 件に及びます。このように各階層を通したデータシートのやり取りが、全てのコンポーネント、コンポーネントを構成する材料、その材料の生成に必要な化学物質において発生します。

もちろん、「現実世界」においては、各企業が1つ以上の製品を納入していますし、かつ複数のデータシートを作成しています。しかし一つの企業単位で考えると、この例では、既存データシートを親ノードに「参照」することで最終製品全体の構成を表現できるため、各企業は必要最小限の工数で対応できるという事を示しています。

以上がデータシートについての紹介です。これ以降は、データシートの構成、IMDS で既存のデータシートのメンテナンスを行う方法についてご説明します。

3.1.5 データシートの更新

自社のデータシートから参照している他社データシート(サプライヤーから受信したもの)がサプライヤーによって更新されると、その事を知ることができます。この機能では、サプライヤーが更新したデータシート、及びそれらの古いバージョンを参照している自社または公開データシートの名称を一覧で表示します。この機能は Where-Used 分析機能と類似しています。ただし、IMDS システム側で結果を自動的に生成しているため、メニューを開くとすぐに結果を確認したり、検索を実行できるという点では異なります(初期設定は全てのサプライヤーのデータを表示させます)。

この新しい画面では、特定のデータシートの ID または名称を指定したり、データシートタイプ(自社/公開/承認済み)で絞り込んで検索をすることができます。検索結果は最大 500 件まで表示されます。

注意：このリストの更新は、Where-Used 分析と同様、完全なリアルタイムではありません。このため、実際に参照データシートの更新があってから、この機能の一覧に表示されるまでに時差が生じます。

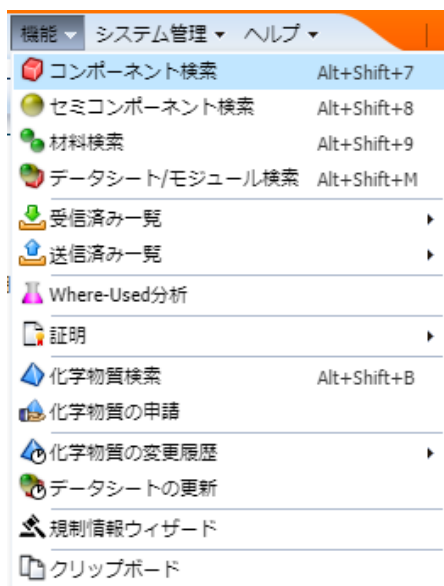
この新機能によって検出された、古いデータシートを参照しているデータシートを更新する機能は、次の2ステップで行われます。1ステップ目では、親データシートを更新し、古いデータシートを新しいバージョンに差し替えてエラーチェックが行われます。次の2ステップ目で、エラーが無いデータシートはリリースされますが、もしエラーが見つかった場合には、ユーザー自身でエラーを修正することができます。利便性を上げるため、この機能では複数のデータシートを一度に更新・リリースすることができます。

- ・ 公開または自社データシートの旧バージョンは、1つ前のバージョン番号です。
- ・ 承認済みデータシートの古いバージョンは、1つ前のバージョン番号です。

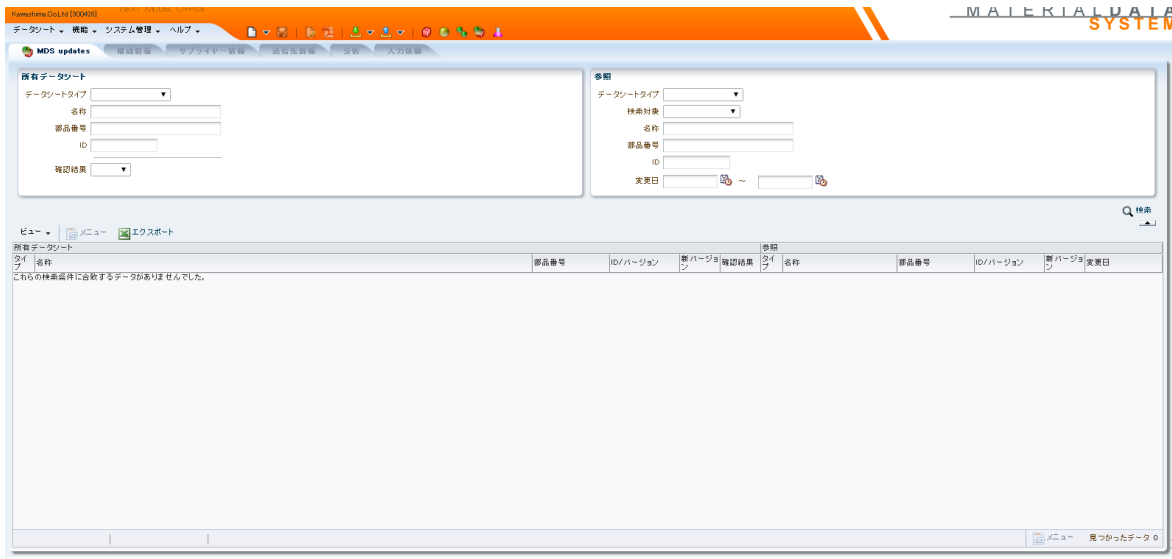
全ての企業は分析作業を行うことなく、更新の検索をすることができます。また、リストにある処理中の項目は、一度中断して後から処理を再開させることもできます。このリストは、新しい更新(IMDS9.0の新機能が実装された後に発生したもの)に対してのみ生成されます。つまり、この機能が実装される前に更新された既存のデータシートは影響を受けません。

データシート更新の機能を使ってデータシートの新バージョンを作成すると、参照されている古いバージョンのデータシートは自動で新しいバージョンに置き換わります。一方で、現在のIMDSリリース8.0でも、既存の機能によってデータシートの新バージョンを作成することができます。そこで、エラーチェックを行うときに、参照データシートの更新されたバージョンが自社に送られてきていて、参照できる状態かどうかを確認し、もし該当する場合は関連する参照データシートを警告メッセージに表示します。もしシステムが古いバージョンを検出して、ユーザーがそれを新バージョンに置き換えたいと思った場合、新しく導入される更新ボタンをクリックすると、自動で旧バージョンを検索して、新バージョンと置き換えます。

この新しい“データシートの更新”画面は、IMDSの“機能”メニューに追加されます。



IMDSのメニューの「機能」メニュー>「データシートの更新」を選択すると、新しい「データシートの更新」画面が表示され、自社データシートに参照されている新旧のデータシートの情報が確認できます。また他の検索画面などと同じように、このデータシートの一覧からデータシートを選択して表示や編集のタブに移ることができます。



複数のリリースが可能：

一度に複数のデータシートを更新する場合、リストで複数の行を選択(コントロールまたはシフトキーを押しながらクリック)すると、それらのデータシートに対して更新・リリース・削除といった操作を行うことができます。その他の作業(最新バージョンの表示・編集・参照データシートの新旧バージョンの表示など)は複数選択できません。複数のデータシートが選択されていた場合は、最初のデータシートに対してのみこれらの処理が行われます。

また、参照データシートの新旧バージョンの表示については、更新するかどうかの確認にも利用できます。仮に、参照データシートの更新が自社のデータシートに関係なく、新バージョンへの置き換えは行わない、と判断した場合は、その項目を一覧から削除することができます。

3.1.6 自社データシートを obsolete（旧式、廃型）としてマークする

各社が自社のデータシートを obsolete（旧式、廃型）としてマークすることができます。この機能により、自社の良質なデータシートのみを使用することができます。obsolete（旧式、廃型）としてマークされた自社データシートは、チェックボックスでデータシート検索画面と送信済み一覧で検索することができます。エラーチェックで自社の obsolete（旧式、廃型）データシートを使用している場合、警告メッセージが表示されます。それでユーザーがこのデータシートの使用を気づき、データシートを置き換えることができます。カンパニーアドミニストレーターは、社内のユーザーにアクセス権を付与することができます。またアクセス権を持つユーザーをユーザー検索画面で検索することができます。

3.1.7 自社データシートを「まだ有効」としてマークする

各社は自社の材料が5年以上経過している場合、「まだ有効」とであるとマークすることができます。この機能により、企業は材料の有効期限を5年延長することができ、その間に10年以上経過したデータシートのチェックが行われ、「まだ有効」ステータスを取り消すことが可能になります。

カンパニーアドミニストレーターは、このアクセス権を特定のユーザーに付与します。



3.2 IMDS での化学物質

3.2.1 全般

IMDS における化学物質は、データを構成する化学的な最小単位です。“ツリーのような”構成になっている IMDS では、化学物質は各材料(“小枝”)の末端についている“葉”に該当します。IMDS に登録されている化学物質のメンテナンスは、ユーザーではなく専門の企業が行っています。現時点で IMDS には 7,200 種類の有効な化学物質と 250 種類の無効化された化学物質が登録されています。各化学物質にはユニバーサルな文字であらわされた名称と CAS 番号、EINECS 番号がついています。

IMDS の材料は全て、突き詰めると  という記号で表される化学物質の集まりです。化学物質は化学元素(例: 鉄や銅)や、基本化合物(例: アクリル樹脂、酸化亜鉛)です。化学物質は個別の CAS No.(Chemical Abstract Number)もしくは一般的な機能で定義されます。基本的に以下の 3 種類のカテゴリに分けられます:

CAS No.で表される化学物質 – CAS No.が割り当てられている化学物質で、例えば鉄(CAS# 7439-89-6)のように、明確に定義がされている化学物質です。

擬似物質 – 擬似物質は、CAS No.を持たないが該当物質を正確に表すことができる化学物質または化学物質のグループを指します。例えば“アクリル樹脂”などです。これらの化学物質は実在の化学物質として認められており、以下に説明するワイルドカードとは異なるという事にご注意ください。

ジョーカーまたはワイルドカード – これらは特定の化学物質を示すものではありません。ワイルドカードの使用はごく少量に限られており、CAS No.の項目には“system”という文字列が登録されています。代表的な例は“Misc., not to declare”です。要申告または禁止物質をこのジョーカーまたはワイルドカードとして報告することは禁止されています。

3.2.2 法的フラグ

GADSL(Global Automotive Declarable Substance List)、REACH の SVHC(Substances of Very High Concern)、紛争鉱物、その規制物質に該当する化学物質にはフラグがつけられています。IMDS リリース 15.2 以降、SVHC 候補リストに掲載されている化学物質、または GADSL において禁止もしくは要申告とマークされている化学物質については、「残部」を含有率として選択することができなくなります。ただし、これらの化学物質がすでに「残部」として参照されている既存の材料については、引き続き有効です。

GADSL のフラグには要申告 (D) と禁止 (P) の 2 種類あります。データシートの構成情報タブのツリー構造では、両方のフラグに該当する化学物質に色が付けられて分かるようになっています。

GADSL 分類および REACH-SVHC のフラグは、いずれも IMDS 上に表示されます。構成情報画面では、選択しているフィルターに関係なく、REACH-SVHC に該当する化学物質の名称は常に製品のツリー構造上で下線付きで表示されます。また、画面上のいずれかの箇所に REACH SVHC という名称が表示される場合、その横にクエスチョンマークが表示されます。このマークをクリックすると、その略語の説明として「候補リストに掲載されている化学物質）」であることが表示されます。

ツリー構造では、要申告と禁止物質を色で区別しています。

- **要申告**(D)は構成ツリー中に青文字で表示されます。
- **禁止**(P)もしくは要申告と禁止(D/P)は赤文字で表示されます。

材料データシートを作成時に化学物質を追加する際、GADSL または REACH-SVHC (候補リストの高懸念物質)でない限りは「機密扱い」とすることができます。しかし、このように機密扱いとして材料データシートに参照された後で GADSL または REACH-SVHC になってしまうと、有害だと懸念される物質が隠されることになってしまい、その材料データシートを本来は送信したり、他のデータシートに参照したりするべきではありません。IMDS ではこのエラーチェックを全てのデータシートに対して行い、該当する場合はエラーを返します。

IMDS の化学物質に REACH-SVHC(これまで通り GADSL も同様)のフラグが追加された化学物質が、材料データシートで機密扱いになっていた場合は、関連するユーザーにお知らせのメールが届きます。この機能は IMDS の個人設定画面で E メールを受け取るかどうかを設定できます。(10.1 個人設定参照) GADSL または SVHC 候補リストに追加された物質に対する「機密扱い」参照は、フラグ付けされた次の夜に開示されます。

3.2.3 ステータス

化学物質には以下のステータスがあります：

- 有効(active)
- 無効(削除済み)(deactivated/deleted)
- 隠し属性(hidden)

無効になった化学物質がデータシートに参照されていると、エラーチェックで警告が発生します。またデータシートをコピーすると、無効化された化学物質が取り除かれた状態でコピーされます。多くの場合、化学物質が無効化されるという事は、IMDS で今後使用されることが正しくないと判断された場合です。

無効な化学物質が再提出されるケースを防ぐために、「隠し属性」という手段がとられることもあります。隠し属性の化学物質は、化学物質の検索結果に表示されません(同じ化学物質が重複登録されていて、片方が隠し属性になった場合は残りの1件が検索できます)。ただし、隠し属性の化学物質を含むデータシートがコピーされても、警告やエラーは発生せず、隠し属性の化学物質もそのままコピーされます。一般的に、(現在は間違いではないが)将来的に無効化される可能性がある化学物質が隠し属性になります。

言い換えると、隠し属性の化学物質はそれに代わる別の化学物質を探し始める段階にある物質で、無効化(削除)された化学物質はすぐにでも別の化学物質に置き換える段階にある物質だと言えます。無効化もしくは隠し属性の化学物質に対して推奨される新しい化学物質がある場合は、構成情報画面の詳細の欄にお勧めの化学物質が表示されます。もしその化学物質が適切な場合は、ユーザーは置換機能を使って置き換えることができます。また、化学物質の検索の際に化学物質グループを使い、目的の物質を選択する際のフィルターにすることができます。

機能>化学物質の変更履歴>IMDS 登録済み化学物質の変更履歴の検索 から、隠し属性、無効、有効な化学物質と変更履歴を検索することができます。この変更履歴画面では、変更が発生した期間を選択して検索することができます。検索結果には変更内容、以下のカテゴリが表示されます:

- 詳細(名称、別名、CAS No.など)
- GADSL/REACH SVHC
- ステータス(有効、隠し属性、無効)

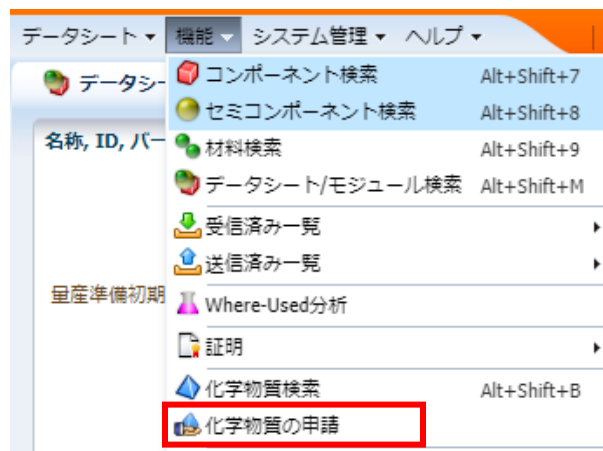
検索結果から特定の化学物質を選択することで、詳細を確認することができます。ただし、この機能で検索できる変更点は、この機能がリリースされた IMDS リリース 2.2(2004 年 12 月)以降の変更のみです。

004).

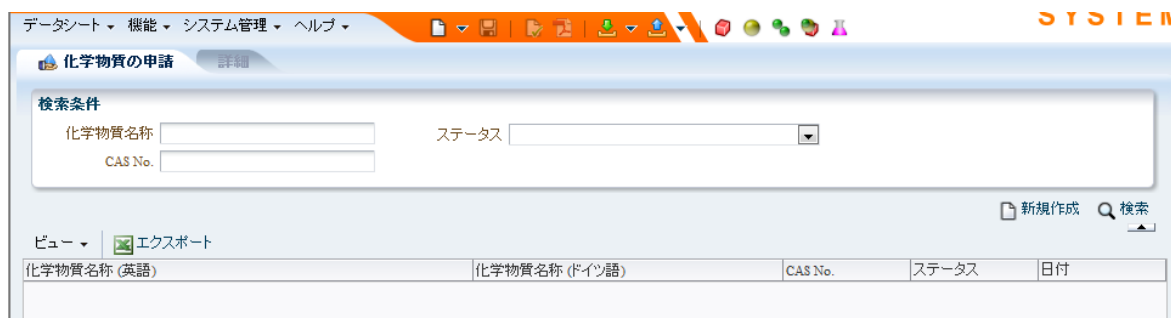
3.2.4 化学物質追加の申請

ユーザーは IMDS に登録されている化学物質を検索します。

もし目的の化学物質が見つからなかった場合は、ユーザーは化学物質の追加を依頼することができます。化学物質追加の申請は「機能」メニューの「化学物質の申請」から行うことができます。



化学物質の申請の検索画面からいくつかの操作を行うことができます。「検索」ボタンをクリックすると、ユーザーが申請した内容を条件を付けて検索することができます。検索結果には対象の化学物質の名称、CAS No.、申請日やステータス(新規、送信済み、確認中、編集中、完了など)が一覧で表示されます。既存の申請は編集ができ、過去の申請については全て閲覧できます。化学物質検索画面で、該当の物質がない場合には、この「化学物質の申請」画面へのリンクが表示されます。



ユーザーは申請フォームに必要事項を入力します。入力が完了し保存をすると、IMDSの化学物質管理会社にメールが配信されます。申請者と管理会社は以下のような画面を見ることができます。

データシート 機能 システム管理 ヘルプ

化学物質の申請 詳細 *

① 一般情報 FAQ(よくあるご質問集)

英語

化学物質名称 My new substance

別名 1 My new substance

別名 2

別名 3

ドイツ語

化学物質名称 My new substance

別名 1 My new substance

別名 2

別名 3

化学物質データ

CAS No. 12-345-67

EU-Index

EINECS/ELINCS No.

最終材料に含まれる状態 固体

アプリケーション

コメント

コメント履歴

コメント

X 削除

もし管理会社が更に情報が必要になった場合には、申請者に E メールで連絡します。申請が完了(登録される/されないに関わらず)した場合は、申請がクローズし、申請者にお知らせのメールが配信されます。一旦クローズとなった申請は編集することができません。

メニュー 見つかったデータ 0 化学物質を申請しますか? 化学物質の申請

3.3 材料とコンポーネントのデータシート

3.3.1 データシートタイプ

以下の表に、コンポーネント、セミコンポーネント、材料の特徴をまとめています:

データシートタイプ	説明	参照先の親ノード	参照できる子ノード	質量
材料 	均質な構造を表している。 - 仮にスライスして断面を見たとしても、層や成分の違いを確認することができない	他の材料、セミコンポーネント、コンポーネント	他の材料、化学物質	単体ではまだ質量は決まっていない
セミコンポーネント 	材料と類似しているが、アセンブリまたは最終製品になる前に加工を必要とするものを表している。例えば、鉄板や被覆線など。長さ、体積、面積単位で使用される。	他のセミコンポーネント、コンポーネント	他のセミコンポーネント、材料	単体ではまだ質量は決まっていない

データシートタイプ	説明	参照先の親ノード	参照できる子ノード	質量
コンポーネント 	アセンブリまたは質量が決まった部品を表し、数量で数えられるもの。例えばボルトやエンジン部、シートなど。コンポーネントのデータシートは質量が決まっておいて、構成上減らされることはない。	他のコンポーネント	他のコンポーネント、セミコンポーネント、材料	質量が決まっている

データシート管理を容易に進めるために、IMDS では上の表にある通り、材料、セミコンポーネント、コンポーネントを記号で表しています。これらの記号は構成のツリー中や検索画面などに表示されます。また特定の条件に当てはまる場合は記号が以下のように変化します:

   記号に家のマークがついている場合は、自社データシートであることを表します。(コンポーネント、セミコンポーネント、材料)

   地球マークがついている記号は、全ユーザーが利用できる公開データであることを表しています。(コンポーネント、セミコンポーネント、材料)

   封筒マークがついている記号は、サプライヤーから送信された受信データシートであることを表しています。(コンポーネント、セミコンポーネント、材料)

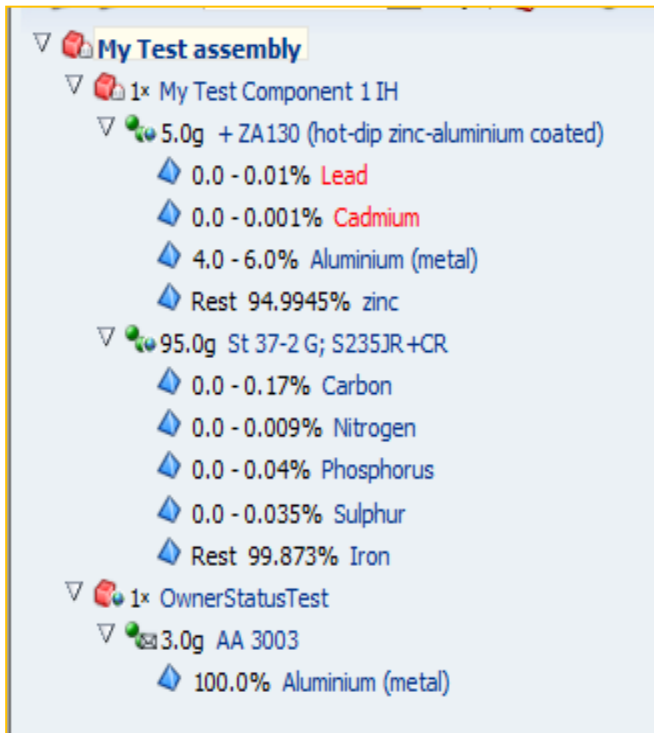
上で述べた通、全ての材料は最終的に  という記号で表される化学物質に細分化されます。

構成情報タブでは、各構成要素が親子の関係の「階層」になっているツリーの図でデータシートを表現します。階層はくぼみによって表現されています。一つの階層にたくさんの異なる構成要素が配置されます。システム上、同一の階層に異なるタイプの構成要素を配置することができますが、レコメンデーションでは同じ種類の構成要素のみを配置するよう推奨されています。また各タイプの要素の直下に配置することができる要素は、以下のように決められています:

- コンポーネントの直下には、他のコンポーネント/セミコンポーネント/材料のみ配置できます。
- マルチソースを持つコンポーネントは、代替のコンポーネント参照のみを子として持つことができます。
- セミコンポーネントの直下には、他のセミコンポーネント/材料のみを配置できます。
- 材料の直下には、他の材料か化学物質のみを配置できます。
- 化学物質の直下にはどの要素も配置できません。

以下の図は、自社データシートのコンポーネントの構成を IMDS 上で表したものです。

“My Test Assembly” は自社コンポーネントである“My Test Component 1 IH”と、公開データシートである“Owner Status Test”を子ノードとして持つアセンブリであることが分かります。



さらに、“My Test Component 1 IH”は公開材料である“+ZA130 (hot-dip zinc-aluminium coated)”と“St 37-2 G”を子ノードとして持つコンポーネントであることも分かります。

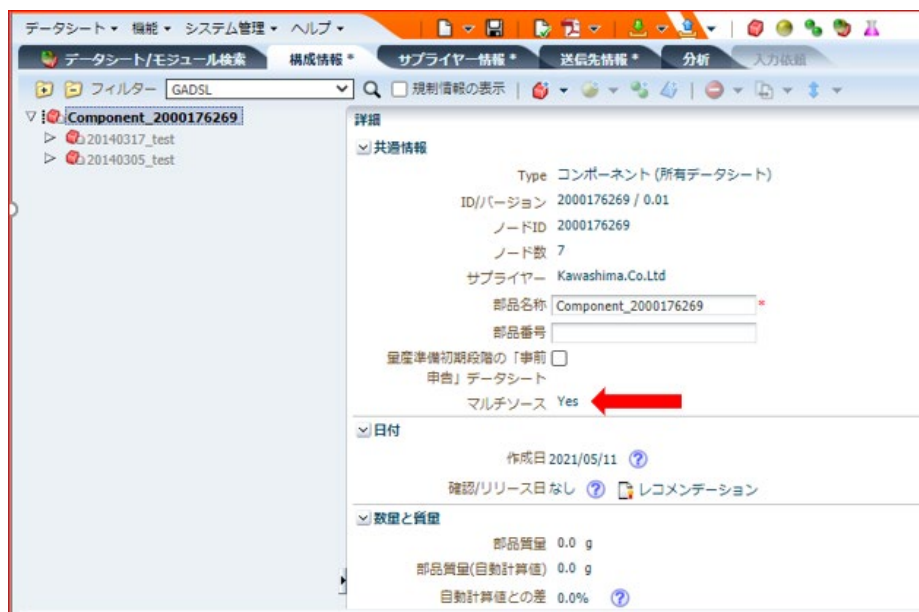
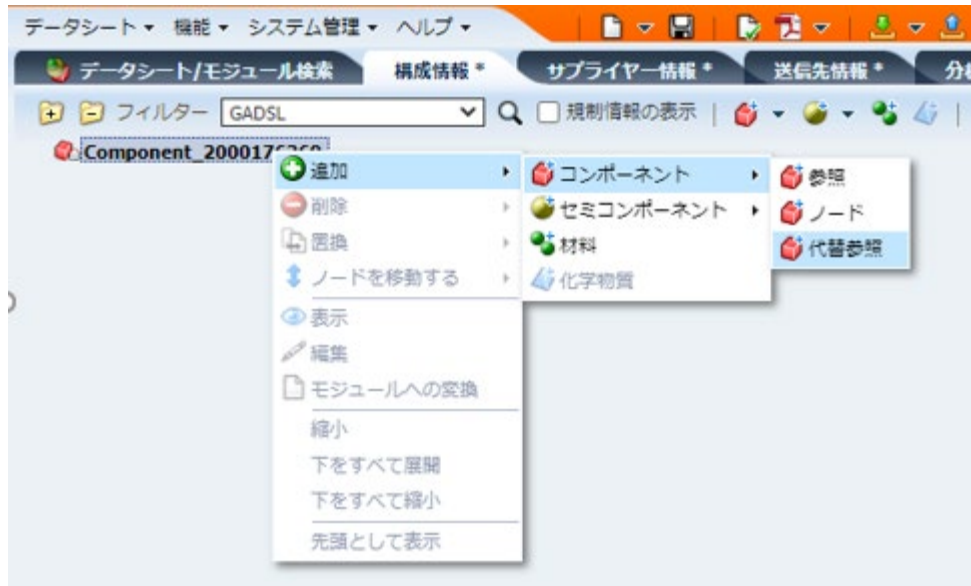
この例では、各「階層」には同じタイプの要素しか配置されていないという事に注目してください。第一と第二階層にはコンポーネント、第三階層には材料、第四階層(最下層)には化学物質が配置されています。また、化学物質は末端で、それ以上下の階層には何も配置されていません。

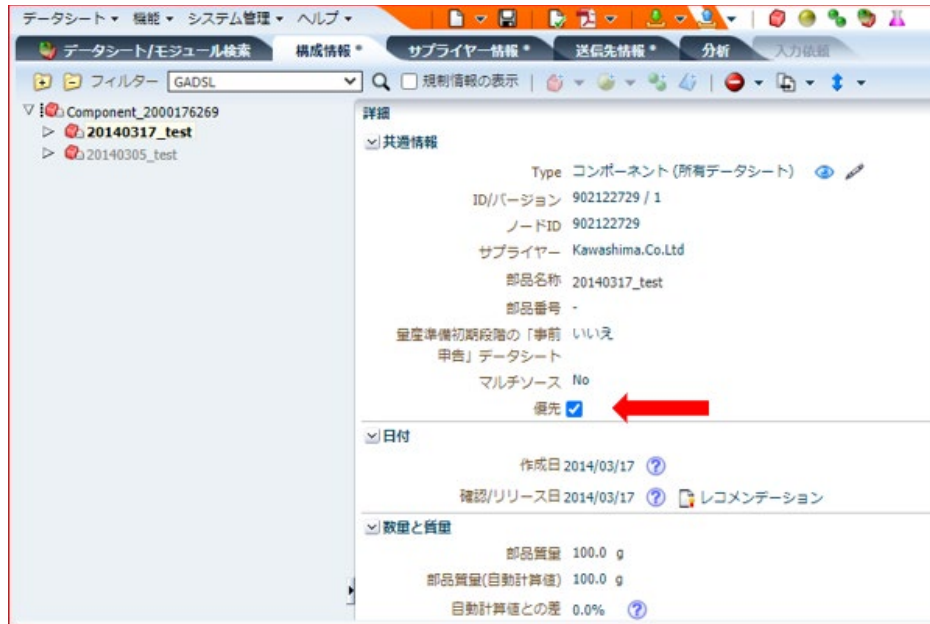
3.3.2 マルチソース部品の作成

3.3.2.1 作成プロセス

このタイプは、1つの部品番号に複数のソースの ID を割り当てるために使用できます。マルチソース部品は、データシート、モジュール、直接追加されたノードのいずれかです。マルチソース部品を持つことができるのは、コンポーネントタイプのデータシートのみです。マルチソース・コンポーネントの子として追加できるのは、コンポーネントタイプが「参照」のものだけで、「代替」として追加されます。トップのマルチソースノードにも同様の選択肢があります。これは、右クリックして「追加>コンポーネント>代替参照」を選択することで可能です。

マルチソースの部品を作成するには、最初のコンポーネントの子を「代替参照」として追加します。その結果、同じレベルで追加されたすべての子は、代替品としてのみ追加することができます。一度に使用/選択できるのは、代替の子のうちの1つだけで、その子を「優先」代替品（使用される可能性が最も高いもの）としてマークします。詳細パネルやツリーには、代替の子の質量は表示されません。トップのマルチソース・コンポーネントには、選択された優先的な代替品の部品質量と部品質量(自動計算値)が表示されます。

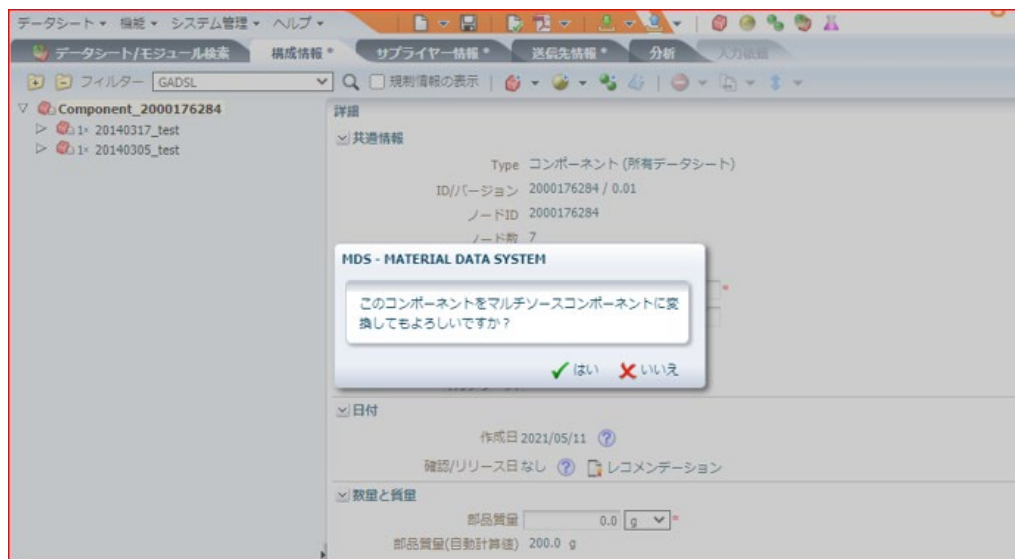
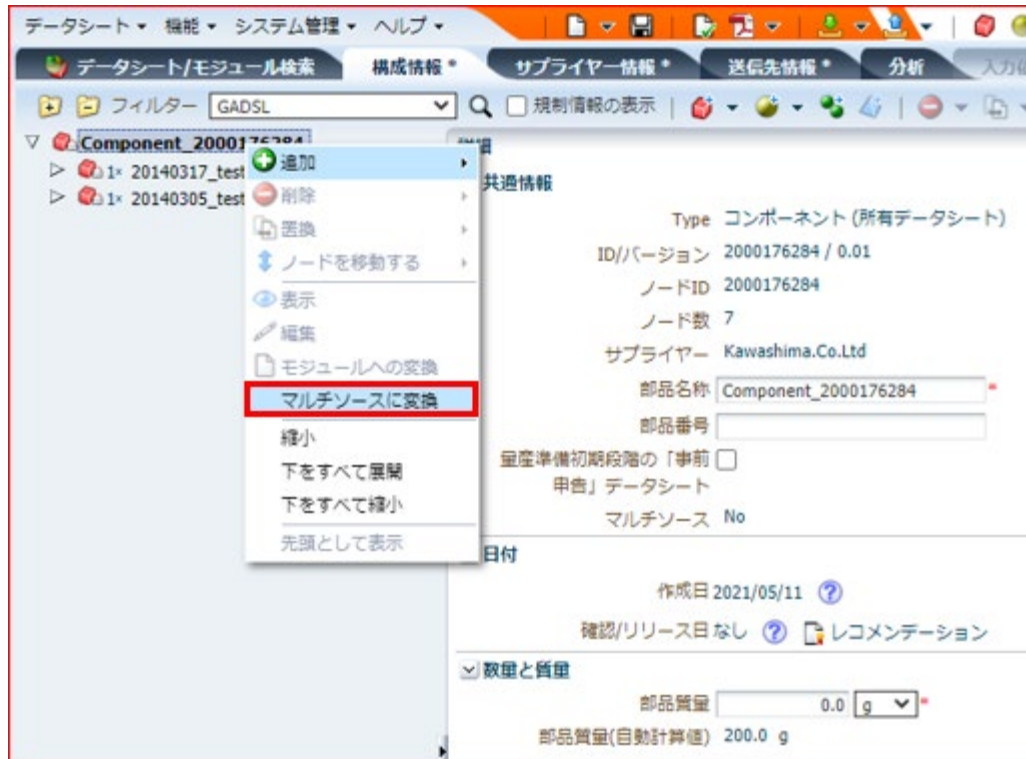




3.3.2.2 コンポーネントをマルチソース・コンポーネントに変換する

コンテキストメニューの「マルチソースに変換」を使って、コンポーネントをマルチソース・コンポーネントに変換することができます。変換されたノードの部品質量および部品質量(自動計算値)はゼロにリセットされます。これは変換時にコンポーネントの子の間にデフォルトの「優先」が選択されるためです。

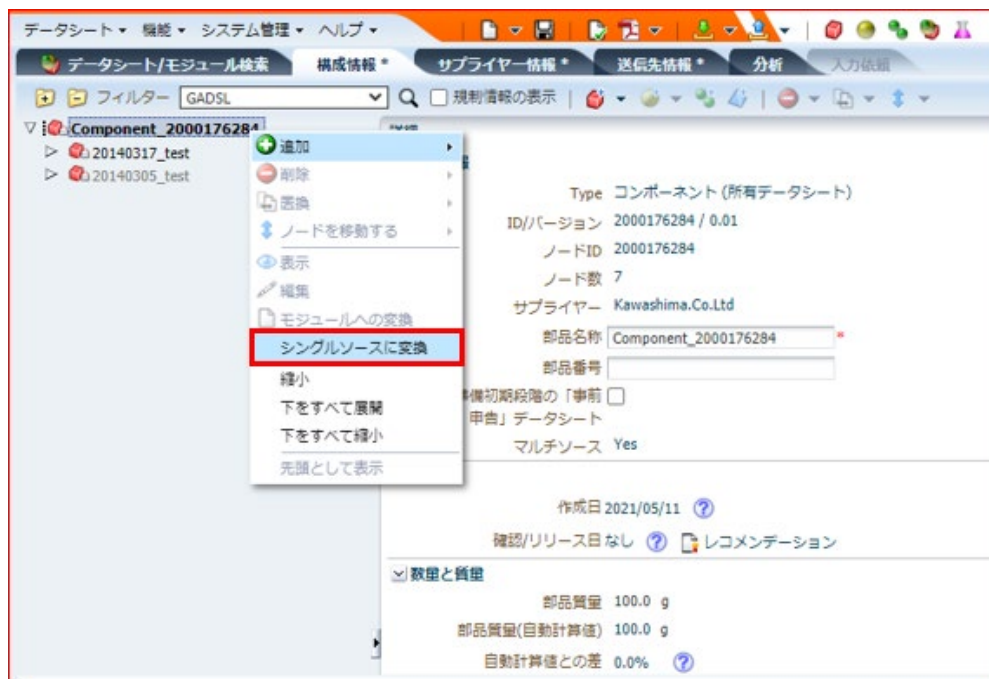
直接ノードの子コンポーネントを持つコンポーネントや、コンポーネントタイプでない子(材料やセミコンポーネント)を持つコンポーネントの変換はできず、エラーメッセージが表示されます。

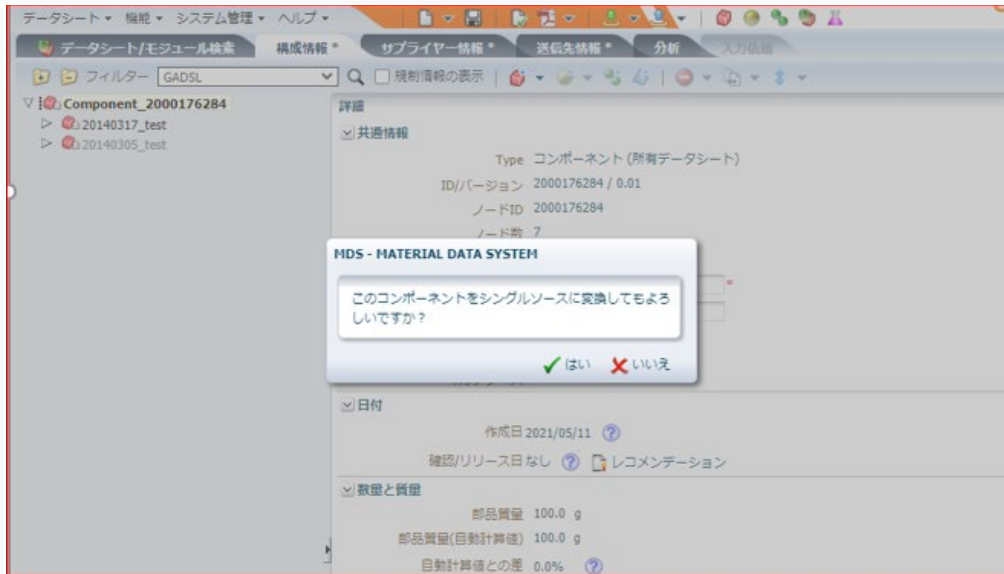




3.3.2.3 マルチソース・コンポーネントをシングルソース・コンポーネントに変換する

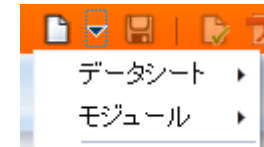
マルチソース・コンポーネントは、コンテキストメニューの「シングルソースに変換」を使用して、通常の（「シングルソース」）コンポーネントに変換することができます。含まれる子ノードのすべての質量がゼロにリセットされるため、変換されたノードの部品質量および部品質量(自動計算値)もゼロにリセットされます。





3.3.3 データシートの作成

ツールバーのアイコンまたはデータシートメニューの新規オプションから、材料データシートを作成することができます。メニューから作成する場合は、更に以下二つの種類から選ぶことができます:



- データシート
- モジュール

多くの場合はデータシートを選択することになると思われます。

モジュールというのは、データシートの構成情報のみで成り立っていて利用に制限があります。モジュールは自社データシートに参照することはできますが、単体で他社に送信や全送信、公開をしたり、組織に割り当てたりすることができません。モジュールは他のデータシートまたはモジュールに参照することができるため、納入部品によく使われる部品や材料をセットとして登録しておく便利です。例えば、自社の幅広い製品に、共通のボルトのセットなどを使っている場合、そのボルトのセットをモジュールとしてあらかじめ登録しておけば、複数の製品のデータシートに共通で使用することができます。もちろんデータシートの場合も、モジュールと同様に既存データを使いまわすことができますが、モジュールは送信先やサプライヤー情報が含まれていないため、データの作成や管理を素早く簡単に行うことができます。

リリースされておらず編集可能なモジュールは、データシートに変換することができます。ただし既に社内送信されていたり、他のバージョンが存在していたりするようなモジュールは変換できません。モジュールのさらに詳しい説明はこの資料の後の説明をご覧ください。(3.3.6 参照)

作成メニューでデータシートかモジュールを選択すると、更にサブメニューが現れてデータの種類を、コンポーネント、セミコンポーネント、材料の中から選択します。

一度タイプを選択すると、後から変更することはできません。よく使われるのはコンポーネントと材料です。まずは**材料の作成**から説明いたします。

3.3.4 IMDS コミッティー材料

標準材料は、さまざまな業界基準によって構成、サイズ、形状、などが規格化され、一般的に”すぐ使える”データシートシートです。このうち、一部の標準材料は一般的な材料のルールを満たしていないにもかかわらず、コンポーネントに使用されているものもあります。例えば亜鉛コーティングされた鉄は均質材料ではありません。ただし、亜鉛コーティングされた鉄が、一つまたはそれ以上の業界標準で正しい材料の構成だと定義されていれば、それがIMDSの標準材料として利用できるようにする良い機会となります。そういった材料は「IMDS コミッティー材料」として広く利用されています。

実際 IMDS には数千の IMDS コミッティー材料(特に共通の金属)が登録されています。もし IMDS コミッティー材料が標準材料として登録されていない場合は、新規登録を IMDS サービスセンターに依頼してください。その際には材料の詳細、規格、構成をご連絡ください。IMDS コミッティー材料は、その材料を調達する際に利用している標準材料規格を使って手動で作られた材料よりは、常に好ましいものです。一部のユーザーは IMDS コミッティー材料を標準材料として使用することを求めているケースもあります。もし自社で材料を製造していない場合は、標準材料規格でない材料データシートを使用しないでください。IMDS コミッティー材料に手を加えることや、業界標準でないような構成での使用はすべきではありません。このような場合はサプライヤーが作成したデータシートを使ってください。もしサプライヤーが作成したデータシートがない場合は新規で作成してください。

IMDS コミッティーの材料のみ(IMDS-Committee/ILI Metals(企業 ID : 18986)、Stahl und Eisen Liste(企業 ID : 313)、IMDS-Committee(企業 ID : 423)の材料)、“隠し属性”になり得ます。これはステアリングコミッティーの材料データシートが参照ノードとして使用されている場合に、警告/エラーメッセージを回避するために導入されました。ステアリングコミッティーの材料データシートにだけ適用されるため、IMDS では材料データシートの中で直接ユーザーを検索することは許可されていません。ただし、ユーザーは自社データの中にこれらが隠し属性だと識別するための分析をすることができます。(6.2 Where-used 分析 参照)

3.3.5 材料データシートの作成

材料はユーザーが直接作成するもっとも基本的なデータシートです。IMDS は材料報告のシステムであるため、材料の中にどの化学物質が含まれているかを顧客に報告することが、材料データシートを作成する目的となります。

MSDS(Material Safety Data Sheet)は、IMDS のデータシートを作成するのに十分な情報は含まれていない、という事に注意してください。データシートには最終製品に含まれる材料を構成する化学物質が 100%含まれていますが、MSDS にそこまでの情報が含まれていることはごくまれです。

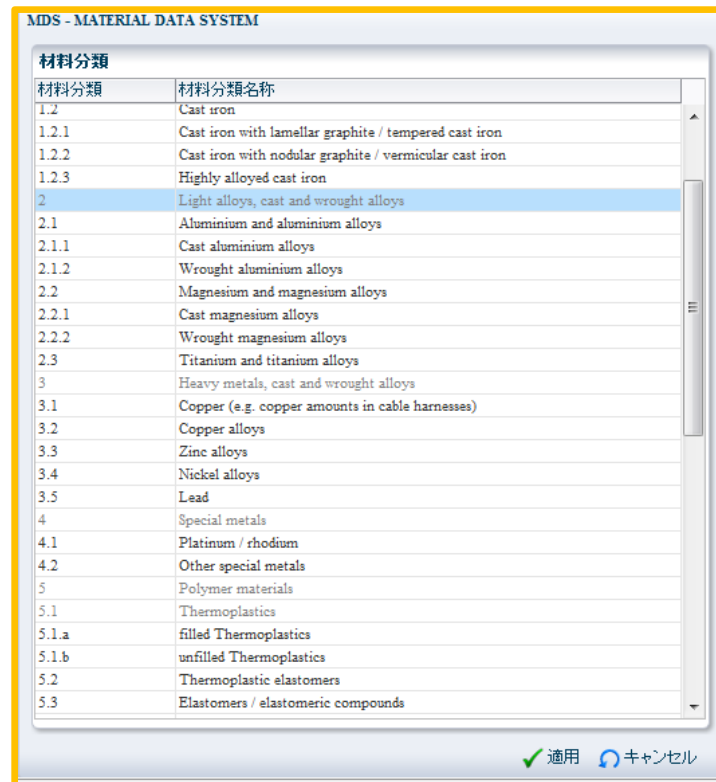
材料のデータには材料分類が必須です。この情報は以下の領域に保存されます。

The screenshot shows the 'Material Information' (材料情報) section of the IMDS form. It includes fields for 'Standard Material Code' (標準材料コード), 'Material Designation' (材料記号), and 'Material Classification' (材料分類) which is set to '2.2 Magnesium and magnesium alloys*'. Below this is a table for 'SCIP Material Category' with columns for 'Identifier', 'Type', and 'Descriptions Levels 1 - 3'. The table contains one row with the identifier '66399', type 'Material category', and description 'metal > magnesium (and alloys of)'. There are also fields for 'Additional Material Characteristics' (Additional Material Characteristics), 'Public Material Specification' (公的 material 規格), and 'Material Maker' (材料メーカー).

Identifier	Type	Descriptions Levels 1 - 3
66399	Material category	metal > magnesium (and alloys of)

材料のデータシートでは材料分類を選択します。

IMDS 材料分類は VDA 材料分類に基づいています。データシート作成時に材料を選択すると、以下の図のように全ての分類が一覧表示されます：



この画面から適切な分類を選択し、**適用**をクリックします。

一部の分類を選択すると「材料記号」が入力必須になります。材料記号は ISO の標準の省略記号で、材料を特定する手助けとなるものです。材料記号の入力が必須となる材料分類を選択し、次に進むと、ユーザーが適切な材料記号を入力できるような専用の画面が表示されます：

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

材料記号の指定

選択された材料分類につきましては、IMDS基本重合体(ポリマー)リストで作られるド롭ダウンメニューを利用して材料名称と材料記号を完成させることになります。材料に適した材料記号/略称を選択して下さい。

材料分類 filled Thermoplastics

基本重合体(ポリマー) ISO 1043-1 ACS

充てん材及び強化材 ISO 1043-2 CF 20 %

可塑剤 ISO 1043-3 (オプション) BOA: benzyl octyl adipate

難燃剤 ISO 1043-4 (オプション) 50: ammonium orthophosphates

最終的な材料記号 ACS-CF20 P(BOA) FR(50)

また、材料記号を手動で入力することも可能です(最下段の入力フィールド)。これは一つ以上の充てん材で構成される材料の場合に必要です(例: グラスファイバー-GFやミネラルパウダー-MD)。
例: PA6-(GF15+MD10); この場合には手動で"(...+MD10)"を必ずする必要があります。

はい

材料分類を選択した後、以下のような画面が表示されます。以下の例では画面右半分のエリア全体が詳細画面となっています。入力必須項目には*がついています。材料名は英語で入力する必要がありますが、IMDS リリース 12.0 より前に作成された多くの材料データシートにはドイツ語と英語の両方の名前があり、それらの名前はまだ有効です。これらの古いデータシートに対して英語またはドイツ語の名前を使用して検索を実行しても、データベースの英語とドイツ語の両方の名前フィールドで名前が検索されるため、同じ検索結果が得られます。

図 12 – 材料作成画面

材料検索 構成情報 * サプライヤー情報 * 送信先情報 * 分析 入力依頼

フィルター GADSL

Material1090990586

名称 Material1090990586 *

商品名

社内材料コード

生産準備初期段階の「事前申告」データシート

日付

作成日 2022/01/28

確認/リリース日 なし

レコメンデーション

材料情報

標準材料コード

材料記号

材料分類 2.2 Magnesium and magnesium alloys*

SCIP Material Category

Identifier	Type	Descriptions Levels 1 - 3
66399	Material category	metal > magnesium (and alloys of)

Additional Material Characteristics

公的材料規格

企業	材料規格	材料規格コード

材料メーカー

日付情報

時にはそのデータシートが作成された日や最後に更新された日の情報が重要になる場合があります。ここでは表示される日付情報について説明します:

▼ 日付

作成日 2009/04/17 ?

確認/リリース日 2009/04/17 ? レコメンデーション

有効期限 2028/05/09 ?

各項目の詳細は以下の通りです:

項目名	詳細
作成日	データシートが作成された日付(ドイツ時間)
リリース日	データシートがリリースされた(これ以上編集できない状態になった)日付(ドイツ時間)
確認日	データシートにエラーチェックが行われた日付(ドイツ時間) - いつのルールに沿ってチェックされたのかを知るために有効です。
有効期限	データシートの有効期限が切れる日 (作成企業によって延長された場合のみ表示されます) 表示されていない場合、データシートはリリースから 10 年後に失効します (3.1.7 参照)

材料情報

標準材料コード、材料記号、材料分類

材料データシートには以下 2 種類の材料コードがあります。一つ目は「社内材料コード」で、これは材料分類に関わらず入力できます。このコードは、サプライヤーが社内で材料を特定するために使っているコードです。この項目は任意で、送信先企業には通知されません。二つ目は「標準材料コード」で、金属材料の場合だけ入力することができるコードです。金属の場合、その材料が製造された際の基準を表すコードを入力します。通常は EN または UNS または VDA 番号を入力します。

項目名	詳細	入力必須かどうか
標準材料コード	金属の場合入力-一般的に UNS または他の番号体系で金属材料の構成を一意に表す記号を入力します。材料の構成の代わりに、多くの標準材料規格で詳細が定義されています。	材料分類による
材料記号	樹脂材料の場合入力-ISO で定められている記号を入力します。	材料分類による

SCIP Material Category, Additional Material Characteristics

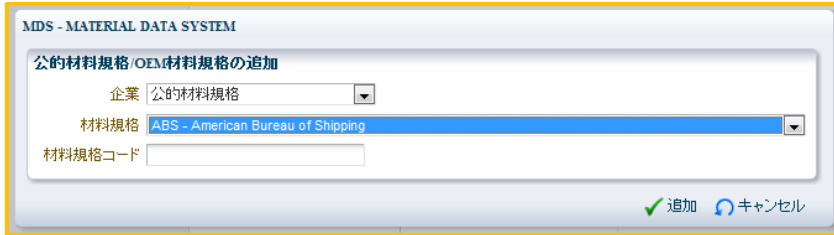
SCIP 属性に関するすべての記述は、11.1.2 材料 SCIP 情報にあります。

公的材料規格

IMDS では、特に金属について「標準」材料が含まれています。業界標準によって、さまざまな情報源に基づく標準的な材料が存在します。仮に金属材料が標準材料に基づいて製造されていて共通で使用されていた場合、IMDS コミッティーで材料を公開しています。自社で材料を製造していない場合は、自社で材料データシートを作成するべきではありません。材料製造業者がデータシートを作成するべきで、そうでない場合は IMDS コミッティーが公開している標準材料を使用して下さい。

公的材料規格を入力する場合は、上の画面に表示されている のボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます：

次に、表示される画面で規格を選択すると元の画面に戻り、コードを(必須)を入力します：



材料データシートには、公的材料規格、または OEM の社内材料規格を入力することができます。社内材料規格は、その規格を所有する特定の OEM しか見ることはできず、そのデータシートが送られてきた他のサプライヤーが見ても非表示になっています。送信先情報にオリジナルの材料データシートで選択された材料規格が表示されることで、Tier1 サプライヤーは送信先情報の材料規格を上書きすることができます。この上書きされたデータと作成者が入力したオリジナルのデータは、両方とも同じように保持されていますが、データシート自体の存在 (IMDS-ID/バージョンで定義) は単一です。一つの材料データシートに対して複数の材料規格が入力されていた場合は、カンマ区切りで“材料規格/材料規格コード (Norm/Norm Code)”として保存されます。オリジナルの材料データシートに材料規格が入力されていない場合も、Tier1 サプライヤーが追加できます。

材料規格はポップアップ画面で編集または追加できます。またリセット機能を使って、ツリーで参照されている材料データシートのオリジナルの値にリセットすることもできます。”送信先情報の全ての OEM に適用” 選択すると、全ての送信先 OEM の送信先情報に Tier1 サプライヤーが設定した固有の値を適用させることができます。

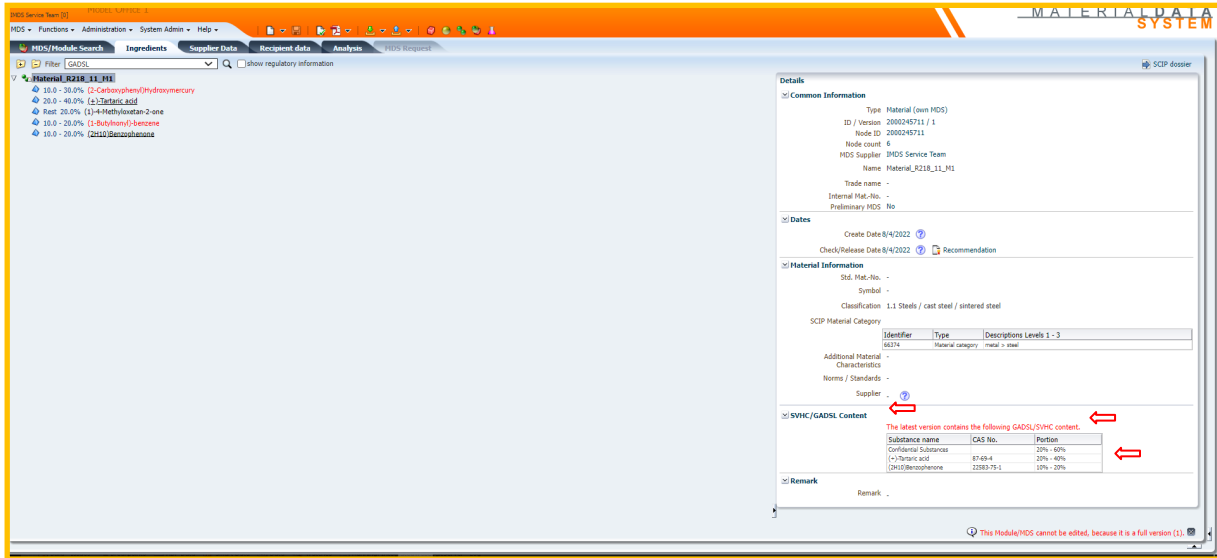
トヨタ固有のチェックで OEM 材料規格の警告がありますが、Tier1 サプライヤーが編集した材料規格に対しても、この固有チェックは行われます。

GADSL/SVHC 詳細

ツリー上で選択された材料の最新リリースバージョンに含まれる全ての GADSL/SVHC 物質をリスト化した表が含まれます。

機密扱いの物質は 1 つの項目として表示され、異なる機密扱いの物質の部分はこの 1 つの項目に対して加算され表示されます。

現在選択されている材料とその最新リリースバージョンの GADSL/SVHC の内容が異なる場合、「この材料の最新リリースバージョンでは、要申告物質の内容が変更されています」というヒントが表示されます。



備考

この項目には材料についての補足を自由な文字列(半角英数字)で入力することができます。
この項目は任意です



構成の追加

材料についての基本情報を入力したら、その材料の構成を追加します。左側のツリー構造で材料を選択して右クリックすると、材料または化学物質の追加オプションのみが表示されます(選択できるデータシートのタイプは 3.3.1 章をご参照ください)。材料については参照のみが有効です。言い換えると、登録済みの他の(材料)データシートまたは化学物質を検索画面で検索し、参照することしかできないという意味です。

IMDS リリース 10.0 では“クリーン”な公開材料データシートしか検索できません。(例：警告なしの材料データシート)“公開データシート”チェックボックスを選択した場合、“推奨材料データシート”チェックボックスはデフォルトでチェックされます。新しいツールチップ (?) で、このチェックボックスは、IMDS 標準材料データシート(SC Committee, Steel and Iron List, ILI Metals) かつリリース 10 以降の警告のない材料データシートを意味します。

警告が含まれた過去の公開材料データシートを見つけるためには、新しいチェックボックスのチェックを手動で外さなければなりません。(リリース 10.0 以前に) 公開材料データシートに警告がないことをチェックする新しいルールを遵守することはもちろん可能です。

IMDS リリース 14.0 以降、10 年以上前のデータシートが警告やエラーを表示するようになりました。多くのユーザーは、10 年以上経過した公開データシートを使用してデータシートを構築しており、データシートの準備が整ってリリース

する際にエラーが発生します。そこで、公開されているデータシートを検索する際に、有効なデータシートのみを検索することができる検索パラメータを設けました。このパラメータはデフォルトで設定されています。有効なデータシートを検索した場合、標準企業(IMDS ステアリングコミティ)が公開したデータシート、公開から 10 年以内のデータシート、またはまだ有効であるとマークされたデータシートのみが検索されます。

化学物質の追加

材料作成の場合、ツールバーの ボタンから化学物質を追加することができます。以下の画面は、ベーシックポリマーのグループから検索した画面です:

名称	CAS No.	EU-index	EINECS-No.	名称	GADSL SVHC
AAMS	-	-	-	Basic Polymer: AAMS	-
AASMS	-	-	-	Basic Polymer: AASMS	-
ABAK	-	-	-	Basic Polymer: ABAK	-
ABMAMOL	-	-	-	Basic Polymer: ABMAMOL	-
ABS	-	-	-	Basic polymer: ABS	-
ABS+ASA	-	-	-	Basic Polymer: ABS+ASA	-
ABS+PA6	-	-	-	Basic Polymer: ABS+PA6	-
ABS+PBT	-	-	-	Basic Polymer: ABS+PBT	-
ABS+PBT-I	-	-	-	Basic Polymer: ABS+PBT-I	-
ABS+PC	-	-	-	Basic Polymer: ABS+PC	-
ACS	-	-	-	Basic Polymer: ACS	-
AEPDS	-	-	-	Basic Polymer: AEPDS	-
AES	-	-	-	Basic Polymer: AES	-
AMMA	-	-	-	Basic Polymer: AMMA	-

適切な化学物質が見つかったら、行をクリックするとその行に色が付きます。その状態で

適用 をクリックします。

画面の左側では、追加された化学物質に色がついた状態になり、右側にはその詳細が表示されます。以下の図はそのサンプルです:

Details

☒ Common Information

Type Basic Substance
 Name(s) Aluminium hydroxide
 Alumina trihydrate
 CAS No. 21645-51-2
 EINECS-No. 244-492-7
 EU-Index -
 GADSL Category - [GADSL.org](#)
 REACH-SVHC No
 Confidential ☐
 Used as filler ☐

☒ Amounts and Weights

Portion from - to
 0.0 - 0.0 %
 Weighted mean 0.0%

☒ Basic substance groups

Basic substance groups Filler (Dual Use)
 Fillers/reinforcing materials

以下の表に各項目の詳細を説明します:

項目名	説明	入力必須かどうか
タイプ	そのノードのタイプを表します。化学物質、材料、セミコンポーネント、コンポーネントのいずれかです。	該当しない
名称	その化学物質の名称(別名)を表します。この名称は IMDS に登録されている化学物質リストと同じです。	該当しない
CAS No.	その化学物質の CAS.No(Chemical Abstract Number)です。IMDS に登録されている化学物質リストと同じです。	該当しない
Einecs-No.	その化学物質の Einecs-No.です。IMDS に登録されている化学物質リストと同じです。	該当しない
EU-Index	その化学物質の EU-Index 番号です。IMDS に登録されている化学物質リストと同じです。	該当しない
機密扱い	チェックを付けると、その化学物質の閲覧が制限されます。化学物質が何か(ID や名称など)を知ることができるのは、社内および社外のトラストユーザーに指定されたユーザーのみです。	任意
充填剤として使用	材料分類 5.1.a (filled thermoplastics)の材料が、Filler (Dual Use) グループの化学物質を含む場合、フラグが表示されます。	任意

項目名	説明	入力必須かどうか
含有率 / %	その化学物質が含まれている含有率で、「固定値」 / 「範囲値」 / 「残部」 (システムが自動計算) の 3 種類あります。ジョーカー/ワイルドカードには「残部」を指定しないようにしてください。	必須
化学物質グループ	その化学物質が、化学物質グループに含まれていた場合に、そのグループを表示させます。これは化学物質グループのビューです。	該当しない
プロセスケミカル	その化学物質が、プロセスケミカルかどうかを表示します。また、その場合は含有目的が表示されます。	化学物質による

3.3.6 モジュールの作成

モジュールの作成はほとんどデータシートの作成と同じです。ただし、モジュールは送信・全送信・公開ができません。加えてモジュールはサプライヤー情報を持たないので、組織に割り当てることができません。

モジュールの主な用途は、他のアセンブリに頻繁に使用される製品をあらかじめ登録しておき使いまわすという事です。同じことがデータシートでも可能ですが、モジュールはサプライヤー情報や送信先情報を持たず、構成情報タブから直接社内送信ができるため、データシートよりも素早く作業することができます。

元データとの違いがごくわずかな別のコンポーネントがある場合、一からデータシートを作成するのでは時間が無駄です。このような場合は自社用の「構成部品のセット」をモジュールとしてあらかじめ登録しておくことで便利です。例えばいくつかの部品に共通して使われている回路基板などがある場合は、その回路基板のモジュールを作成すると、使いまわすことができます。参照されたモジュールは、ツリー構造の中でコピーされたり、変更されたりすることはありません。

モジュールが編集モード(バージョンが*.01)の時に限り、モジュール検索を実行した後、“モジュールからデータシートへの変換”というボタンをクリックすることでデータシートに変換できます。ただし、社内送信済みであったり、新バージョンが作成されたりしている場合は変換できません。

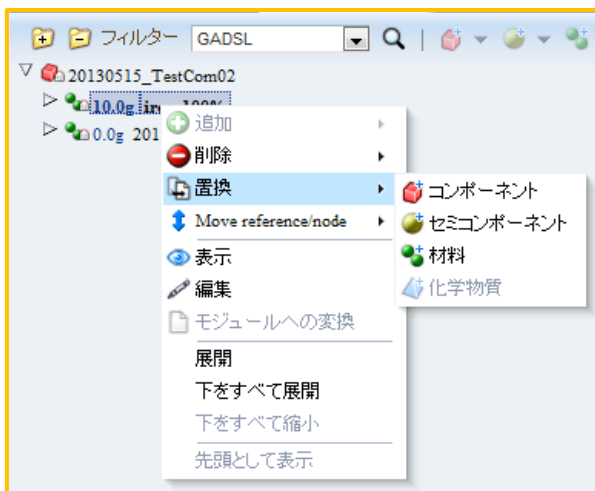
3.3.7 フィルター機能

構成情報のフィルター機能とは、複数の化学物質のフィルターを選んで表示させる機能です。構成情報に選択したリストに含まれる化学物質が含まれていた場合、ツリーの中に赤字で表示します(GADSL の場合だけ禁止物質を赤、要申告を青で表示します)。初期設定は GADSL リストです。ここでリストを選択したという設定は保存されないため、送信先企業や自社のユーザーには共有されません。また、本人であっても再度ログインしたときには初期値に戻ります。REACH-SVHC の情報は選択したフィルターに関係なく、常に下線が引かれた状態で表示されます。



3.3.8 置換機能

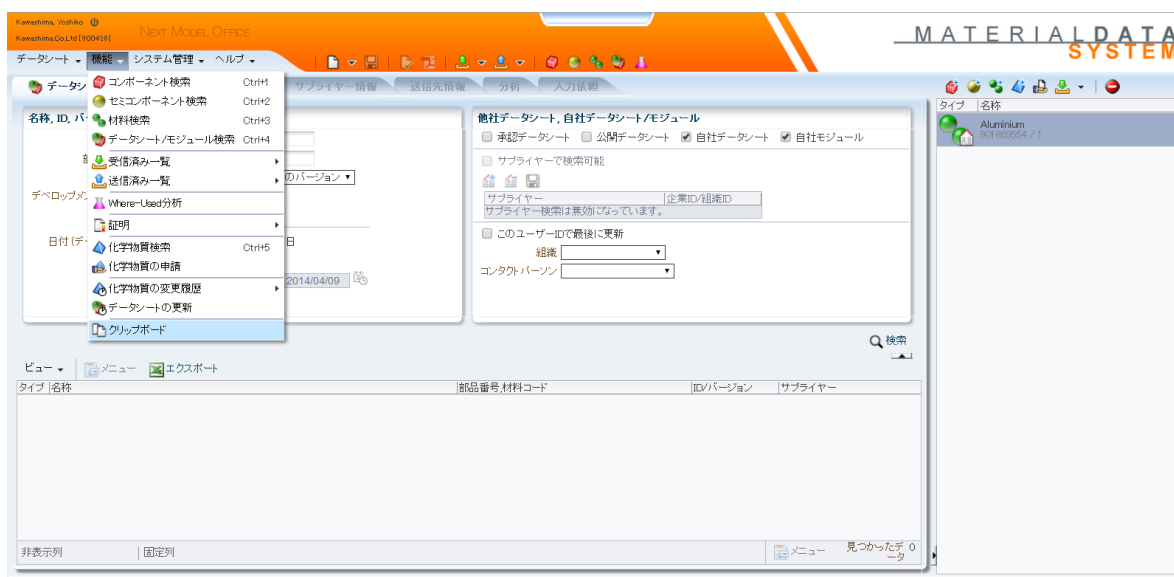
この機能は、編集中的数据シートのツリーに参照されたある特定のノードを選択して他の適切なノードに入れ替える機能です。置換できるのは参照データシート、モジュール、化学物質です。



更に、無効化や隠し属性になった化学物質が含まれる材料をコピーすると、それらを置換する機能があります。無効化や隠し属性の化学物質の代替物質が利用できる場合は、化学物質の詳細画面にヒントが表示されます。ユーザーは置換機能を使ってこの代替物質に置き換えることが可能です。

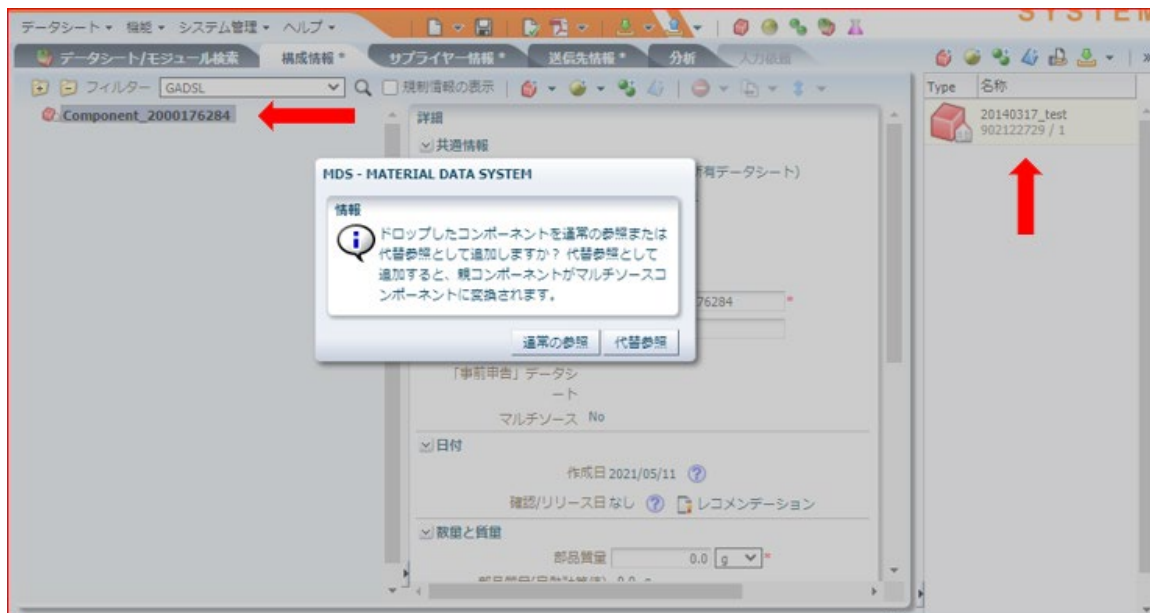
3.3.9 クリップボード

クリップボード機能は、データシート、化学物質、入力依頼を容易に操作できるよう、保持させることができる機能です。例えば、頻繁に使用する材料をクリップボードに保持させ、異なる複数のデータシートで再利用する際に、クリップボードから移動させることができます。クリップボード機能を使用するには、IMDS にログインした後、「機能」メニュー>「クリップボード」をクリックしてください。クリップボードはウィンドウの右側に表示されます。



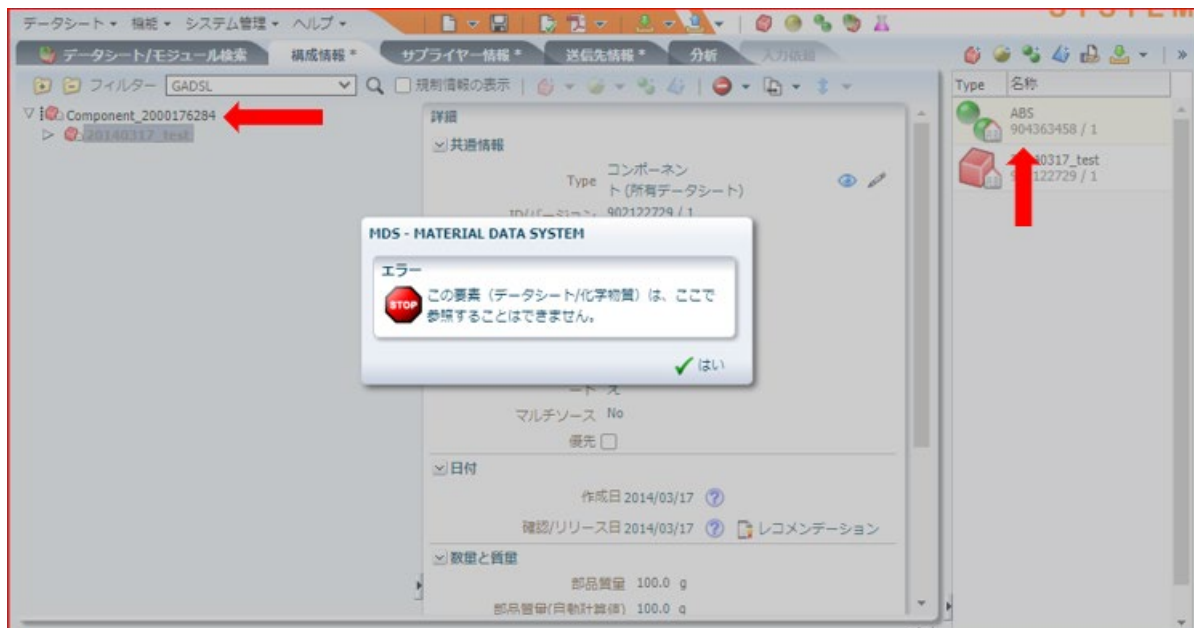
次回ログインした際のクリップボードには、前回ログインしていた際に保持していた全ての情報が残っています。再度検索することなく、クリップボードから自由にお気に入りのデータを再利用することができます。IMDS での作業中にクリップボードを表示しておく必要がない時は、クリップボード画面の左下隅にある小さな矢印をクリックすることで、画面を折り畳むことができます。クリップボードに保持したエントリーを削除するには、右クリックメニューから削除してください。また、すべてのエントリーを削除するには、クリップボードの上部にある"全て削除"アイコンを使用してください。

コンポーネントタイプのデータシートを親ノードの最初の子として追加する際、ユーザーはこのコンポーネントの参照を通常の参照として追加するか、代替の参照として追加するかを選択する必要があります。



「代替参照」ボタンを選択すると、親ノードがマルチソース・コンポーネントに切り替わり、ドロップしたコンポーネントが代替として追加されます。さらにドロップしたコンポーネントは、ユーザーの確認なしに代替参照として直接追加されます。「通常の参照」を選択すると、ドロップしたコンポーネントが通常の参照として追加され、親コンポーネントは「シングルソース」のままとなります。

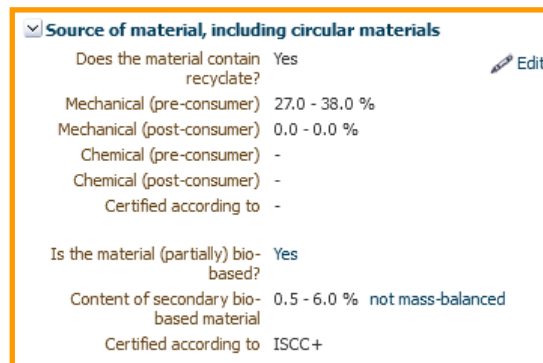
マルチソースの親ノードに初めてコンポーネント参照の子ノードを追加する場合、「コンポーネント」タイプのデータシートのみドロップが許可されます（代替参照として追加されます）。ユーザーがマルチソースの親ノードに材料またはセミコンポーネントタイプのデータシートをドロップしようとする、エラーが発生します。



3.3.10 循環材料を含む材料のソース

概要

材料のソース（バイオベースやリサイクル材料など）を表示します。詳細は、右上の「編集」または「表示」ボタンを押した後に表示されるダイアログで確認できます。



金属（材料分類 1～4）以外の材料を作成または変更する際に利用可能です。IMDS リリース 14（2023 年 5 月 10 日）以前にリリースされた金属やその他の材料分類の材料については、材料自体ではこの項目は利用できず、材料がセミコンポーネントやコンポーネント内で参照される場合にのみ表示されます。IMDS リリース 13（2021 年 5 月 19 日）以降にリリースされたポリマー材料（材料分類 5）は例外で、すでに材料自体にソース情報が付加されています。

ダイアログ

材料のソースに関する情報を変更するには、「編集」ボタンをクリックしてウィザードダイアログを開いてください。変更内容を保存するには、ダイアログの「適用」ボタンをクリックします。一度閉じると、入力された内容に基づいて、材料に表示されている値が自動的に計算されます。（下記参照）

ダイアログで利用できるフィールドは、材料分類によって異なります。情報を入力できる二次材料には、3つのタイプがあります：

ソース	材料分類
メカニカルリサイクル	1 – 5, 7.1, 7.2
ケミカルリサイクル	すべての材料分類
二次バイオベース材料	5 – 6, 9.1 – 9.4

利用可能なソースに応じて、以下のフィールドがダイアログに提供されます。フィールドは、その親フィールドが入力された場合にのみ表示されます。例えば、「二次バイオベース材料の割合」の欄は、「バイオベース材料の割合」の合計が0%より大きい場合にのみ表示され、「リサイクルの割合」は、「材料にリサイクル材が含まれますか？」の回答として「はい」が選択されている場合にのみ入力することができます。そのため、初めて開いたときのダイアログは、以下の概要よりもずっと小さく表示されます：

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

Source of material, including circular materials

Inorganic or fossil-based

0.0 * - 100.0 * % ?

Does the material contain recycle?

Yes

Content of primary inorganic or fossil-based material

0.0 * - 100.0 * %

Content of recycle

0.0 * - 100.0 * %

Content of mechanical recycle thereof

0.0 * - 100.0 * %

Content of pre-consumer recycle thereof

0.0 * - 100.0 * % ?

Content of post-consumer recycle thereof

0.0 * - 100.0 * % ?

Content of chemical recycle thereof

0.0 * - 100.0 * % ?

Content of pre-consumer recycle thereof

0.0 * - 100.0 * % mass-balanced No ?

Content of post-consumer recycle thereof

0.0 * - 100.0 * % mass-balanced No ?

Certified according to

Bio-based

0.0 * - 100.0 * % ?

Content of primary bio-based material

0.0 * - 100.0 * % ?

Content of secondary bio-based material

0.0 * - 100.0 * % mass-balanced No ?

Content of tertiary bio-based material

0.0 * - 100.0 * % mass-balanced No ?

Certified according to

Apply Close

含有率は常に最小値と最大値の両方が入力されています。固定値（例：100%）を入力する場合は、「100% - 100%」と入力する必要があります。

すべての値は、その親値に対して相対的な値です。つまり、同じレベルの2つの値の合計は、常に親の100%になる。例えば、メカニカルリサイクルの割合とケミカルリサイクルの割合の合計は、総リサイクル量の100%を構成します。

これらの値を入力する際の補助として、1つの値を変更すると、反対側の値も自動的に再計算されます。例えば、「プレコンシューマリサイクルの割合」を20%~30%に変更すると、「ポストコンシューマリサイクルの割合」は70%~80%に自動的に設定されます。

ダイアログを閉じると、材料全体における異なる材料の割合の合計が計算され、関連するすべての最小値と最大値を掛け合わせて材料の詳細で表示されます。例えば、材料全体に含まれるプレコンシューマメカニカルリサイクルの最小値は、以下のフィールドの最小値を掛け合わせることで算出されます：“無機または化石ベースの割合” x “リサイクルの割合” x “メカニカルリサイクルの割合” x “プレコンシューマリサイクルの割合”

エラーチェック

材料のソースに関する情報については、以下のようなチェックが行われています：

1. メカニカルリサイクルの下記項目の最小値と最大値が20%以上乖離している場合、チェックメッセージが表示されます：
 - a. ダイアログ項目
 - i. メカニカルリサイクルの割合
 - ii. プレコンシューマリサイクルの割合
 - iii. ポストコンシューマリサイクルの割合
 - b. 構成情報の計算された項目
 - i. メカニカル（プレコンシューマ）
 - ii. メカニカル（ポストコンシューマ）

材料がポリマーの場合、このメッセージはエラーメッセージとなります。それ以外の場合は警告となります。

ケミカルリサイクルや二次バイオベースの割合については、このようなチェックはありません。

2. ポリマーの場合、「材料にリサイクル材が含まれますか？」という質問にまだ回答されていない場合、エラーメッセージが表示されます。IMDS リリース13より前にリリースされたポリマーで、材料ソースに関する情報がそれ自体に付加されておらず、参照時に入力されるものについては、ポリマーがコンポーネントで参照され、5g 未満の質量が割り当てられる場合、このエラーは表示されません。

データシートの送信先が OEM である場合、送信先情報に「循環材料を含む材料ソースの変更」項目が用意されています。この項目の値は、送信者が変更することができない原材料に表示されているすべての値があらかじめ入力されています。Tier1 サプライヤーは送信先情報として情報を上書きするとき、ポップアップメニューで入力します。またリセット機能を使って、ツリーで参照されている材料データシートの元の値に戻すこともできます。”送信先情報の全ての OEM に適用”を選択すると、全ての送信先 OEM の送信先情報に Tier1 サプライヤーが設定した固有の値を適用させることができます。

3.3.11 樹脂・ゴム製部品への材質表示

材質表示とは、IMDS データの品質と利便性を向上させるための、ISO 1043-1/2、ISO 11469、ISO 18064 に基づいた項目です。

以下の条件に当てはまるデータシートが作成または編集の場合、材質表示の情報の入力が必要とされます。

- 最上位ノードがコンポーネント
- 1 つでも材料分類が 5.* の材料が参照されている

コンポーネントの質量によって、材質表示の回答が必須または任意に分かれます。上の条件に当てはまらないコンポーネントについては、材質表示の質問は表示されません。上の条件に当てはまるデータシートまたはモジュールが作成中または編集中的の場合、材質表示への質問が、その材料の直上のコンポーネントの詳細画面(下の画面の赤枠部分)に表示されます。質問への回答が必須の場合、社内送信/送信/全送信の前に必ず回答しなければなりません。回答が必須で回答が「いいえ」の場合には、エラーチェックで警告が発生します。

The screenshot shows the 'bolt' component details in the MATERIAL DATA SYSTEM. The '材質表示' (Material Display) section is highlighted with a red box. The dropdown menu shows three options: 'はい (依頼元OEMの規定通りに材質表示が行われている)' (Yes, material display is performed according to the OEM's specifications), 'いいえ (要求されているにもかかわらず材質表示が行われていない)' (No, material display is not performed despite the requirement), and '該当しない (質量、形状の制限、表面処理の仕様により部品に材質表示を行う必要がない)' (Does not apply, no need for material display due to mass, shape restrictions, or surface treatment specifications).

より正確な回答のため、ユーザーは図面や実際の製品を確認し、ツリー上で正しい回答がされているかどうかを評価しなければなりません。どの回答であっても間違いというわけではありません。対象の材料が含まれる構成部品が親の構成部品に参照されている場合、親のコンポーネントも材質表示の回答の対象となります。この情報は材料とその親ノードの関係で表されるため、この場合、最上位のコンポーネントに材質表示の回答をする必要があります。

実際の部品にマークがついている場合は、「はい」を選択します。図面上はマークがついていても実際にマークがついていない場合は、「いいえ」を選択します。質量、形状、寸法、表面の問題でマークが付けられない場合は、「該当しない」を選択します。

集する項目が表示されます。この値は、データ作成者によってデータシートのツリー構造の中であらかじめ設定されています。Tier1 サプライヤーは送信先情報画面でこの値を上書きすることができます。上書きした値とオリジナルの値は、(参照)材料データシートに同時に保持されています。また、各入力対象の材料データシートの存在一つ一つに対して上書き可能です。

材質表示の回答はポップアップメニューから変更可能です。また、リセット機能を使って、ツリーで参照されている MMDS のオリジナルの値にリセットすることもできます。”送信先情報の全ての OEM に適用”を選択すると、全ての送信先 OEM の送信先情報に Tier1 サプライヤーが設定した固有の値を適用させることができます。

既存のエラーチェックで材質表示の回答に関する項目がありますが、このチェックは送信先情報で Tier1 サプライヤーが上書きした値に対しても実施されます。エラーまたは警告が発生した場合は、送信先情報で上書きして修正することもできます。

3.3.12 ・ ・ として部品に使用

コンポーネントデータシート(参照/ノード)と同じレベルに、材料データシートやセミコンポーネントデータシートおよびセミコンポーネントデータシートノードを参照するために「・ ・ として部品に使用」リストというドロップダウンメニューが表示され、材料データシートとセミコンポーネントデータシートにその値が表示されます：

- ブランク (デフォルト)
- 接着剤
- コーティング
- グラスシール
- グリース/潤滑剤
- インク
- 作動油
- オーバーモールド
- メッキ
- はんだ
- 表面処理
- 溶接材料

このフィールドは、既存のコンポーネントデータシートに並べて材料データシートまたはセミコンポーネントデータシートを追加した場合、および既存の材料データシートまたはセミコンポーネントデータシートに並べてコンポーネントデータシートを追加した場合に、表示されます。

材料データシートやセミコンポーネントデータシートと同じレベルのコンポーネントデータシートが全て削除された場合、このフィールドは表示されなくなります。

Details

☒ **Common Information**

Type Material (own MDS)

ID / Version 2000219425 / 1

Node ID 2000219425

Node count 2

MDS Supplier IMDS Service Team

Name Material

Trade name -

Internal Mat.-No. -

Preliminary MDS No

Applied to article as Surface treatment ▾

Details

☒ **Common Information**

Type Semicomponent (Node) 

Article Name SemiComponent Node *

Item- /Mat.-No.

Applied to article as ▾

☒ **Amounts and Weights**

Weight Adhesive ▾ g ▾ *

- Coating
- Glass seal
- Grease/Lubricant
- Ink
- Operating fluids
- Overmold
- Plating
- Solder
- Surface treatment
- Weld material

3.3.13 IMDS 化学物質のアプリケーションコード

IMDSには多くの化学物質が登録されています。その中には「要申告」または「禁止」と記されている物質があります。「禁止」と記されている物質は、自動車業界の中で特定のアプリケーション（法的な必要条件に基づいて定義された期間で有効な用途）を除いては使用することができません。「禁止」と記されている全ての物質にアプリケーションが定義されているわけではありません。また、一部の「要申告」物質についてはアプリケーションが定義されています。アプリケーション情報は、OEMがAnnex IIや他の環境規制に従うために必要なものです。IMDSのリリース 3.0以降、規制された物質を使用する場合、それをどのように使うかを、アプリケーションコードを使って申告しなければなりません。鉛（とその全ての化合物）、六価クロム（とその全ての化合物）、水銀（とその全ての化合物）、カドミウム（とその全ての化合物）、およびニッケル、多環芳香族炭化水素類（PAH）に対してはアプリケーションコードが必須で

す。アプリケーションコードは、IMDSユーザーがログオンする言語に関係なく、常に英語で表示されます。

IMDSのデータは、常に実際に販売される製品の構造と同じである必要があります。もし製品に禁止物質が含まれていた場合、OEMがそのことを把握できるようにする必要があります。また、禁止物質を含まない製品の再設計を行うべきでしょう。もし製品中に申告されていない有害物質が含まれていることが後から判明した場合、法的または経済的にも悪影響が及ぶ可能性があります。

禁止物質を含んだ製品を売ることにより、責任が発生します。IMDSに正しく情報を登録することは、その責任にうまく対処したり、その責任を軽減したりすることに繋がります。

アプリケーション情報は**現在の Annex II** の規制、要求に基づきます。Annex II は公式ホームページの以下の場所で確認することができます。

公式ホームページ > FAQ 右上 欧州ELV指令および最新のAnnex IIの資料

なお、この資料は年次で更新されており、最新版が常に上記FAQに掲載されています。

ご自身の企業が自動車サプライチェーン内のどこに位置するかによって、また、参照しているデータシートが誰によっていつ作成されたものかによって、アプリケーションコードに関する要件は異なります。IMDSリリース3.0以降では、アプリケーションに該当する化学物質を含んだ材料が追加されている新規作成コンポーネントには、リリースする前に必ずアプリケーションコードを設定しなければなりません。しかし、リリース3.0より前に作成された旧来のデータの中には、本来なら必要であるはずのアプリケーションコードが設定されていないものが多く存在します。この問題がチェック機能においてどう扱われるかは、当該IMDS企業がサプライチェーン内のどこに位置するかによって異なります。T1サプライヤーに限り、全てのアプリケーションコードを指定せずにデータシートをOEMに送ることはできません。T2からTnサプライヤーは、受信したデータシートをアプリケーションコード未指定で送信すると、警告が表示されるだけで送信は可能である場合があります（該当する材料が追加されたコンポーネントを誰が作成したかによります）。以下の表はアプリケーションコードの扱いについてまとめたものです。

注: IMDSの必須項目と顧客の必須項目は同一ではありません。従って、顧客からアプリケーションコードが指定されていないことを理由にデータの再提出を求められるという可能性はあります。

2006 年 3 月 1 日以降のアプリケーションコードの扱い

	MDS/ モジュール	メッセージ	アプリケーションコード
サプライチェーン内	自社	エラー	新バージョンの作成が必須
	他社	警告	MDS は送信可能。ただし新バージョンの作成要求を出す必要あり
Tier1 から OEM への送信	自社	エラー	新バージョンの作成が必須
	他社	エラー	修正可能

アプリケーションコードは、コンポーネント内で材料が追加された時に割り当てられます。アプリケーションコードが設定されるのはコンポーネントに対してのみです。材料メーカーはアプリケーションコードを追加することが出来ませんので、材料メーカーにアプリケーションコードの追加を依頼しないでください。アプリケーションコードとは材料の用途に依存するものです。従ってコンポーネントに材料を追加する人が、材料の用途を決めるのに最も適切な人物です。

アプリケーションコードを要する材料がセミコンポーネントに追加されている場合は、そのセミコンポーネントをコンポーネントに追加する際に、アプリケーションコードが必要となります。材料またはセミコンポーネントではアプリケーションコードは割り当てられません。化学物質と化学物質が使われている材料の材料分類に応じて、システムは利用可能なアプリケーションコードのリストを提供します。アプリケーションコードが明らかな場合は、システムによって既定のアプリケーションコードが選択されています。

コンポーネントの中で対象の材料を選択すると、アプリケーションコードが表示されます。データシートが編集モード（バージョン番号が「.01」のような小数）になっている間はアプリケーションコードを変更できます。古い材料データシートを参照する際に、アプリケーションコードを入力する場合についても同じです。

エラーチェックにおいて、アプリケーションコードの入力漏れはエラーまたは警告になります。データシートの参照材料に（古いデータのため）アプリケーションコードが指定されていない場合、OEM に送信するまでの間に必ず指定しておかなければなりません。

各々の材料の詳細にアプリケーション情報が追加されます。ここではアプリケーションコードを必要とする、材料内全ての化学物質が表示されます。アプリケーションの項目をクリックすると材料に含まれる化学物質で選択できるすべてのアプリケーションコードが表示されます。アプリケーションコードのデフォルトの選択はありません。すべてのアプリケーションコードを能動的に選択する必要があります。

Application

Component Component_2000172633

Application	Basic Substance	% (MIN)	% (MAX)	Application [ID]
	(2-Ethylhexanoato-O) (Isodecanoato-O)Lead	0.1	0.2	-
	(Isodecanoato-O) (Isononanoato-O)Lead	0.01	0.05	-
	2-Butenedioic acid (E)-, lead(2+) salt, basic	99.82000...	99.82000...	-

それぞれの化学物質のアプリケーションは別ウィンドウで選択できます。

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

Application

Component AI-CHMGR01

Material AI-IMP0003

Basic Substance Dithalliumchromat

Portion 1.000000 % (MIN) - 1.000000 % (MAX)

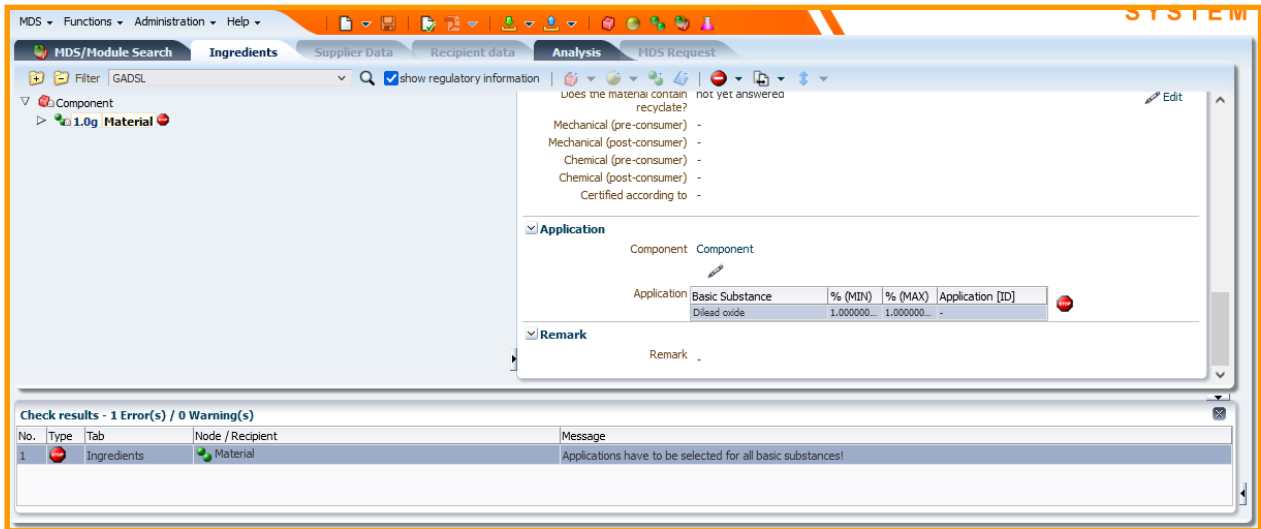
ID	Application
21	13(a) - Corrosion preventive coatings
22	14 - Absorption refrigerators in motorcaravans
23	Impurity (not intentionally added)
49	13(b) - Corrosion preventive coatings related to bolt and nut assemblies for chassis applications
80	14(i) - Hexavalent chromium as an anticorrosion agent of the carbon steel cooling system in absorption refrigerators up to 0.75% by weight in the cooling solution designed to operate fully or partly with electrical heater, having an average utilised electrical power input <75W at constant running conditions
81	14(ii) - Hexavalent chromium as an anticorrosion agent of the carbon steel cooling system in absorption refrigerators up to 0.75% by weight in the cooling solution designed to operate fully or partly with electrical heater, having an average utilised electrical power input <75W at constant running conditions

Apply Cancel

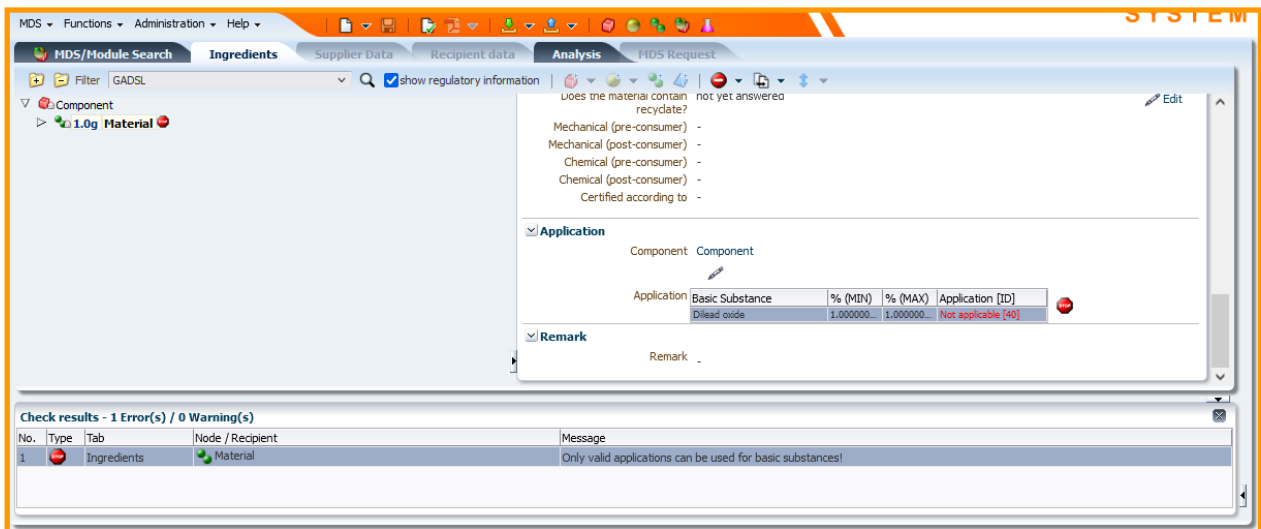
注: アプリケーションコードは常に表示可能です。しかし編集できるのは編集モードで、かつツリー先頭のコンポーネントに材料が組み込まれた時、またはツリー構造の中で直接コンポーネントが作成され、材料が参照された時のみです。

アプリケーションコードの入力が漏れているか、または選択されたアプリケーションコードが無効の場合、次のようにエラーチェックでエラーまたは警告のいずれかが出力されます。

アプリケーションコードの入力が漏れている自社/直接参照の子ノードデータシートの場合、エラーチェック、社内送信、送信または転送の際に、入力が漏れているアプリケーションコードに対してエラーが発生します。(すべての化学物質に対してアプリケーションを選択する必要があります。)



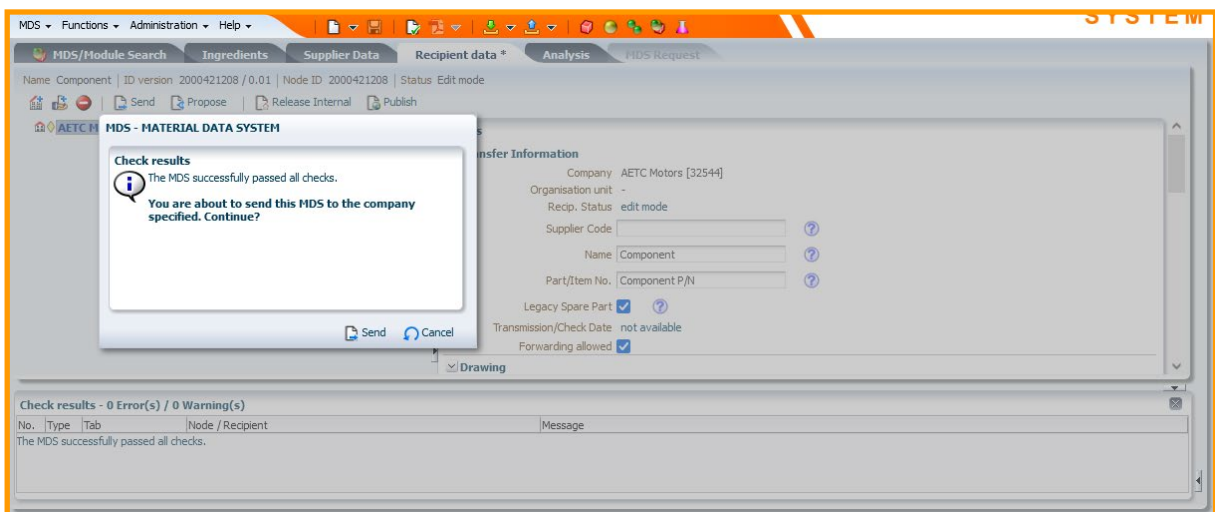
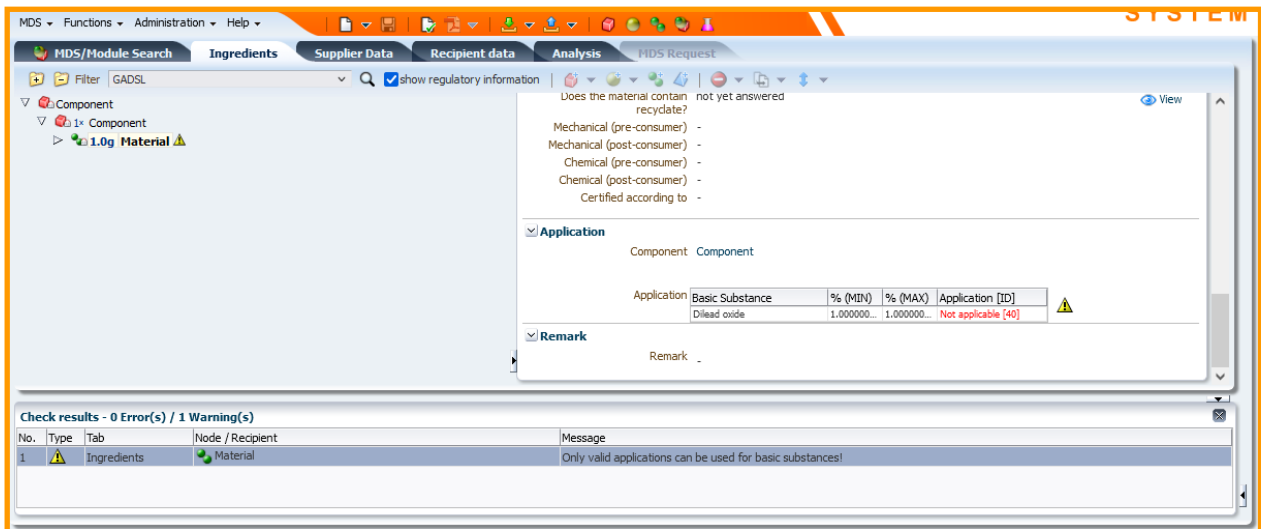
無効なアプリケーションコードを使用している自社/直接参照データシートの場合、エラーチェック、社内送信、送信または転送の際に、無効なアプリケーションコードの使用に対してエラーが出力されます。



アプリケーションコードの入力が漏れている直接参照される子コンポーネントデータシート（自社または他社）の場合、エラーチェック、社内送信、送信または転送の際に、入力が漏れているアプリケーションコードに対してエラーが出力されます。参照された無効なアプリケーションコードが入力されている受信した（自社データではない）コンポーネントデータシートに対しても、同じ動作が適用されます。

無効なアプリケーションコードを使用している間接的に参照される子コンポーネントのデータシート（自社または他社）の場合、エラーチェックまたは社内送信の際に、警告が出力されます。送信または全送信の場合、データシートが送信先リスト内のすべての送信先企業のスペ

アパーツとして使用されることを意図していない限り、警告が出力されます。（つまり、送信先リストのすべての送信先企業に対してスペアパーツフラグがチェックされます。）この場合、警告は出力されません。



チェックされたデータシートがスペアパーツとして使用されることを意図している場合（つまり、送信先情報タブのすべての送信先に旧式スペアパーツフラグが設定されている場合）にのみ、無効なアプリケーションコードは警告なしで送信または転送されます。

全ての ARS(Application relevant substance : アプリケーションコード入力対象の化学物質)、およびアプリケーションコードと関連するデータに対して、アプリケーションコードの隠し属性を付与することが可能です。そのため、過去に入力されたデータも引き続き表示されますが、その際には過去のデータである旨が表示されます。隠し属性のアプリケーションコードは新し

いデータシートでは選択できません。この過去のデータは有効であり、引き続き使用可能とみなされるため、エラーや警告は発生しません。

送信先が OEM である場合、送信先情報タブに、アプリケーションを編集する項目が表示されます。この値はデータシートのツリー構造の中であらかじめ設定されています。Tier1 サプライヤーは送信先情報画面でこの値を上書きすることができます。上書きした値とオリジナルの値は、材料データシートに同時に保持されています。また、材料データシートとアプリケーションコード入力対象の化学物質の組み合わせ一つ一つに対して上書き可能です。

各アプリケーションコードはポップアップメニューから変更可能です。リセット機能を使って、ツリーで参照されている MMDS のオリジナルの値にリセットすることもできます。(ただし画面には表示されません)。“全ての送信先 OEM に適用”を選択すると、全ての送信先 OEM の送信先情報に Tier1 サプライヤーが設定した固有の値を適用させることができます。

既存のエラーチェックでアプリケーションコードに関する項目がありますが、このチェックは送信先情報で Tier1 サプライヤーが上書きした値に対しても実施されます。エラーまたは警告が発生した場合は、送信先情報で上書きして修正することもできます。

3.3.14 サプライヤー情報

サプライヤー情報では、データシートに自社内の情報を登録し、自社内で組織を利用しているのであれば組織を選択します。IMDS の中においては、データシートを作成している会社が、そのデータシートのサプライヤーということになります。ドロップダウンメニューから選択できるコンタクトパーソンの情報は、自社のカンパニアドミニストレーターが「システム管理」>「コンタクトパーソン」メニューより管理しているものです。

コンタクトパーソンのリストはユーザーID のリストとは異なります。このため必ずしも IMDS のユーザーID を持つ必要はありません。正式なコンタクトパーソンが選択できない場合は、カンパニアドミニストレーターにコンタクトパーソンの登録を依頼してください。

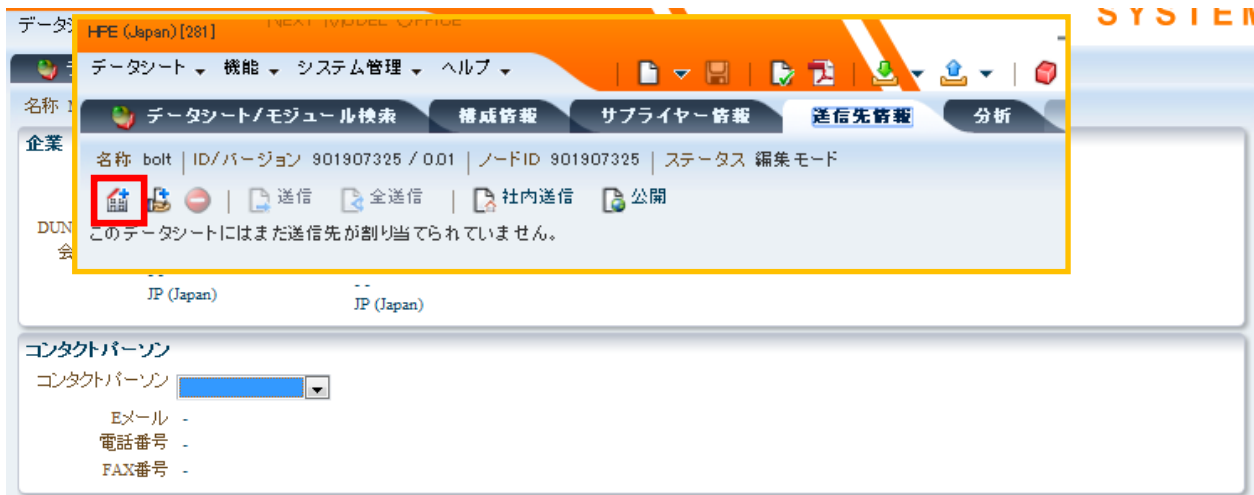
コンタクトパーソンは企業全体に共通で、組織毎にコンタクトパーソンを割り当てることはできません。

コンタクトパーソンが選択されると、関連する情報が画面下部に自動的に表示されます。情報が正しくない場合(E メールアドレスが誤っている、その人物が既に社内にはいない、など)は、自社内のカンパニアドミニストレーターに更新を依頼してください。企業内の組織にデータシートを割り振ることもできますが、選択できるのは、ユーザー自身の ID が所属している組織のみです。組織のデフォルトは、ユーザーが最後にリリース/送信/全送信/公開したデータシートで選択された組織です。選択できる組織がない場合は、自分のユーザーID を組織へ追加するように、自社のカンパニアドミニストレーターへ依頼してください。

データシートに組織が割り当てられている場合、顧客の「受信済み一覧」画面にはその組織が送信者として表示されます。組織から送信されたデータを「送信済み一覧」画面で確認できるのは、該当する組織に属するユーザーのみです。通常、IMDS の検索画面では、ユーザー自身が属する全組織のデータシートを確認できます。また「送信済み一覧」メニューからは、自社企業から送信されたデータシートへ全てのユーザーがアクセスできます。ある組織にアクセスできるユーザーは、その組織から送信されたデータシートを「送信済み一覧」画面で確認することもできます。例えば、企業そのものにしかアクセスできないユーザーと、何らかの組織にアクセスできるユーザーがいるとします。サプライヤー情報ページでデータシートにその組織が割り当てられていれば、「送信済み一覧」画面に表示される件数は 2 人目のユーザーのほうが多くなります。

サプライヤー情報画面は、受信者がその他社データシートについて誰にコンタクトするのか、という事を知ることができる画面です。

以下の図はその例です:



サプライヤー情報画面は変更できません。全ての情報はドロップダウンのリストから選択し、システムが関連情報を表示させます。もし表示される情報が足りていない又は間違っている場合、カンパニアドミニストレーターがシステム管理メニューで情報を更新しなければなりません。ユーザーは適切なコンタクト情報をドロップダウンのリストから選択します。IMDS システムは、選択されたコンタクトパーソンをリストから引き当てて、関連する E メールアドレス、電話番号、FAX 番号を表示させます。

コンタクトパーソンの連絡先が表示されると、サプライヤー情報画面への入力完了です。

3.3.15 送信先情報画面

データシートの送信先(顧客)は、この画面にて選択されます。「送信」および「全送信」のボタンをクリックする前に、最初に送信先を追加する必要があります。初期状態では、「社内

送信」と「公開」のみ実行できます。その2つのプロセスは、後でご説明するとおり、送信先と直接関連するものではありません。送信先名が無くとも、自社内のデータシートを社内向けに登録することができます。また一部のユーザーは、IMDSの全ユーザーに対して情報の公開を行うこともできます。

データシートをある IMDS ユーザー企業または複数の顧客に送信（全送信）したい場合、送信先の名前が指定されていなければなりません。まず「追加」ボタンをクリックします。すると、企業検索画面が表示されます。

「検索条件」の項目には、企業名や企業名の最初の文字といった検索文字列を設定します。例えば、「Vi」と入力すると、「Vi」で始まる全ての企業が表示されます。あるいは、「*tubos」と入力すると、企業名に「tubos」という文字列を含む全ての企業が表示されます。検索を開始するには、「検索」ボタンをクリックしてください。

企業を検索する際は、企業 ID または組織 ID または DUNS ナンバーを用いるのが最も正確な検索方法です。システム上重複した企業名を登録している場合がありますが、企業 ID は一意に管理されています。顧客からデータシートの提出を求められた場合、事前に顧客から送信先となる ID を知らせてもらうことは可能かと思われます。

検索結果が画面の下部分に表示されます。データシートの送信先である企業または組織を選択するには「適用」ボタンをクリックします。

注意: 組織という呼び方について

送信先企業の特定の組織、または傘下企業へデータシート送る場合、1社の企業について複数の登録があることがよくあるため、データシートの送信先、およびそれを証明するIMDS上の企業IDを確認しておくことは重要です(個別のOEMに送信する場合は、IMDSインフォメーションページの“FAQ(よくあるご質問集)”>“各自動車メーカー(OEM)からの情報”から個別の指示を確認してください)。組織に対して送る場合は、割り当てられた送信先の組織に所属するユーザーだけがデータシートを受信することができます。さらに、データシートが組織に割り当てられた場合、送られた組織に所属しているユーザーだけが、受信済み一覧の中でデータシートを見ることができます。

なお、1つの系列に属する送信先は1回しか指定できないため、1社の傘下にある複数の組織に送信する必要がある場合は、データをコピーして複数の異なるID宛てに送信する必要があります。また、自身のIMDS企業を送信先情報に追加することはできません。

送信先を選択し適用をクリックすると、その送信先企業向けの「企業データ」画面が表示されます。

送信先が一件追加された時点で「送信」、「全送信」のボタンが実行可能になります。データシートがまだリリースされていない場合、選択できるオプションは「送信」または「全送信」のいずれかです。またデータシートがリリース済みの場合、選択できるのは「全送信」のみです。「送信」は送信先が1社に対してのみ有効であるためリストに2つ以上の送信先が含まれている場合は、「送信」ボタンは実行できません。データシートを「社内送信」した場合も、「全送信」ボタンのみが実行可能です。

複数の顧客に送信したい場合は、上述のプロセスを繰り返します。まだ送信を実行していなければ、送信先情報画面に複数の送信先を追加できます。一つのデータシートはたとえ組織が異なっていたとしても企業そのものに対して一度しか送信できません。一つの企業に対して複数回データシートを送信したい場合は、「コピー」機能から「コピー」を作成してください。

送信先の削除を行うには、「削除」ボタンを使用します。同機能は、選択した送信先に対してのみ実行されます。送信先の削除が行えるのは、データシートが承認されていない場合のみです。一度でも承認されてしまうとデータシートを削除することはできません。(3.3.20をご参照ください)

送信先を追加した後、企業情報を入力するための別画面が表示されます。

「企業データ」画面に企業特有の情報を入力すると、データシートを一つ作成するだけで異なる企業に異なる部品番号をつけて送信することができます。部品名称や材料名称と共に、この画面で入力された部品番号や材料コードは、データシートが送信されると受信側の構成情報画面に表示されます。もし部品番号や部品名称を理由にデータシートが拒否された場合、データシートの送信者は送信先企業画面にて情報を修正しなければなりません(ただし、データシ

トが承認されていない場合のみ)。この場合、コピーや新バージョンを作成する必要はありません。データシートのコピー機能で新バージョンを作成すると、上述の情報を含め送信先の情報は全て、新しいデータシートにコピーされます。

企業データの情報は正しい形式で入力することが極めて重要です。送信先によっては、何らかのオフラインシステムでエラーチェックが実施されていることがあります。形式にミスがあると、目視なら許容される程度のわずかな違いであっても、ほとんどのコンピュータシステムでは許容されません。

サプライヤーID 番号としての DUNS ナンバー（GM、オペル、サブ、フォルクスワーゲン宛ての送信）

DUNS®ナンバー（Data Universal Numbering System）は、地理的な場所に基づいて個々の企業を識別するための仕組みです。Dun&Bradstreet（D&B）により 1962 年に策定され、世界中の企業に関する情報を管理する標準的な方法となっています。DUNS ナンバーは D&B が割り当てと管理を行う 9 桁の識別コードで、IMDS には、これを扱う固有の形式が用意されています。D&B により定められている形式は「XX-XXX-XXXX」です。もしあなたの会社が DUNS ナンバーを持っておらず、それが必要になるのであれば、Dun&Bradstreet (www.dnb.com)から入手をお願いします。

自社のカンパニアドミニストレーターが企業または組織情報の画面において DUNS ナンバーを入力した場合、サプライヤーコードの欄にもこの番号が自動的に入力されます。その DUNS ナンバーが有効でない場合、サプライヤーコードは空欄です。顧客によって別の番号体系が割り当てられている場合、または一つの企業 ID に対して複数の拠点がある場合を考慮して、このフィールドは編集可能となっています。

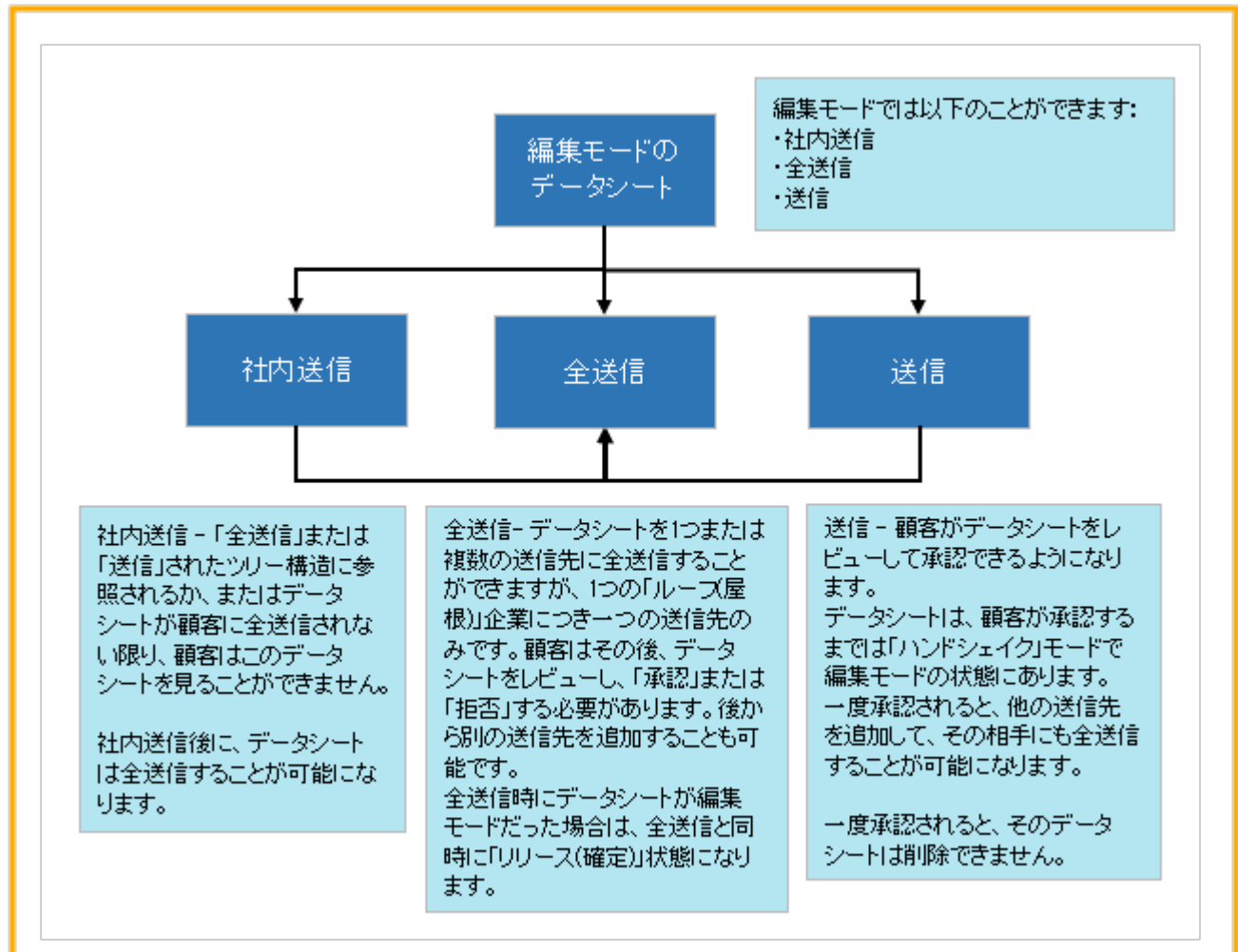
以下の表に送信先情報画面のアイコンについてまとめています：

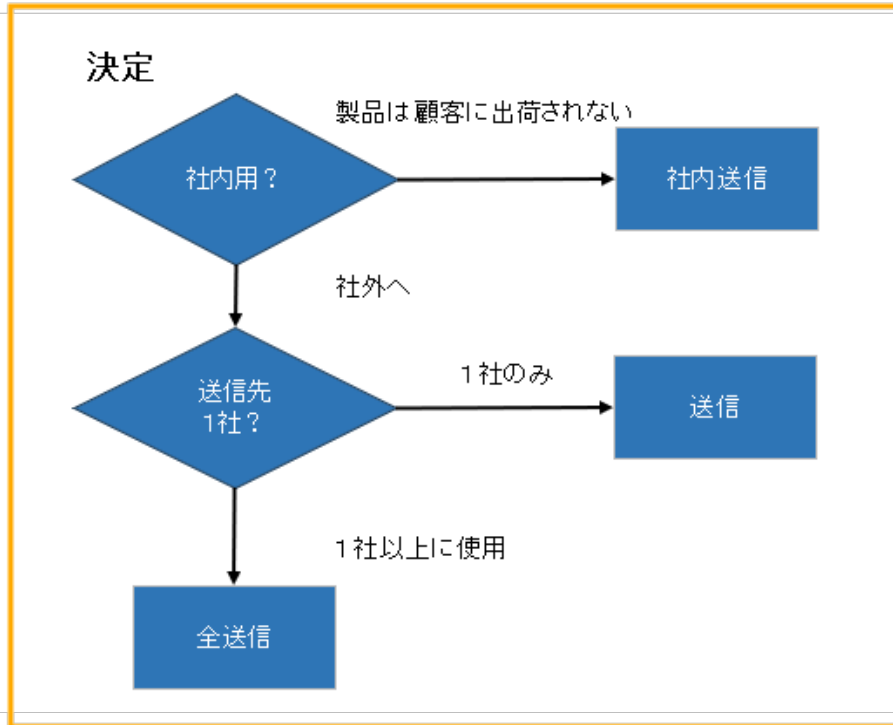
アイコン	操作	説明
	送信先の追加	このボタンを押すと、送信先企業を検索する画面が表示されます。IMDS に登録されている企業のみが検索結果に表示されます。
	送信先の削除	選択した送信先を、送信先として無効にする(グレーアウトになります)、または送信先から削除します。
	全送信	まだデータシートが送信されていない送信先企業が 1 件以上、送信先リストにある場合は使用することができます。このボタンを使用すると、全社に送信と同じようにデータシートがリリースされる 全送信 という操作を行うことができ、送信先の追加以外の変更をすることができなくなります。

3.3.16 データシートの社内送信/送信/全送信

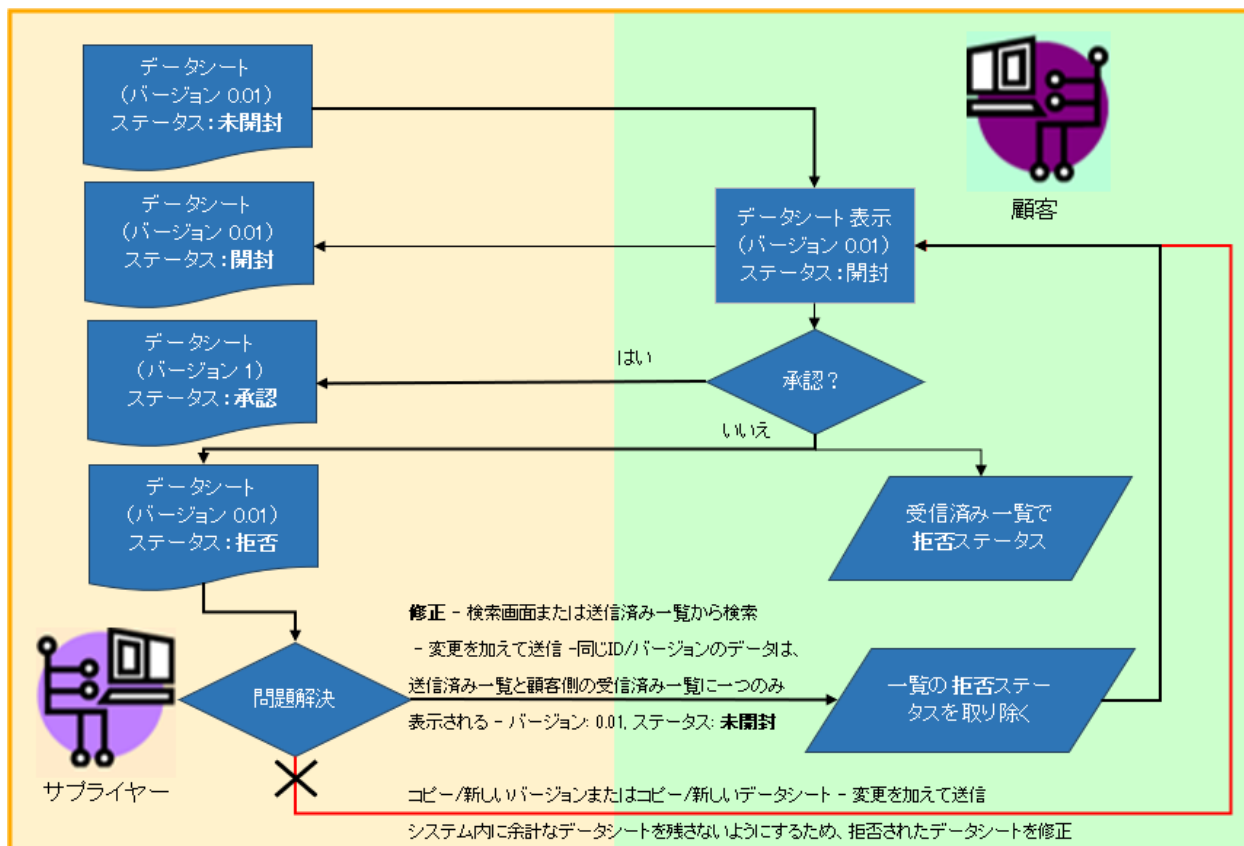
データシートは**送信**または**全送信**しないと、顧客はそのデータシートを見ることができません。以下の図は社内送信/送信/全送信の違いを説明したものです:

編集モードのデータシートで何をするのか？





送信/受信の仕組み



あるデータシートを送信する際に、送信元企業の組織が、過去に同じ部品番号とサプライヤーコードのデータシートをその送信先企業の組織に送信したことがあるかどうかを、IMDS で自動的にチェックします。もし、これから送るデータシートの部品番号とサプライヤーコード(送信先情報画面で入力した値)と同じデータシートを送信したことがあった場合、そのデータシートのモジュール ID (バージョンは違っていてもよい)は、過去に送った同一部品番号とサプライヤーコードのデータシートと同じでなければなりません。

データシートを顧客に送信または全送信

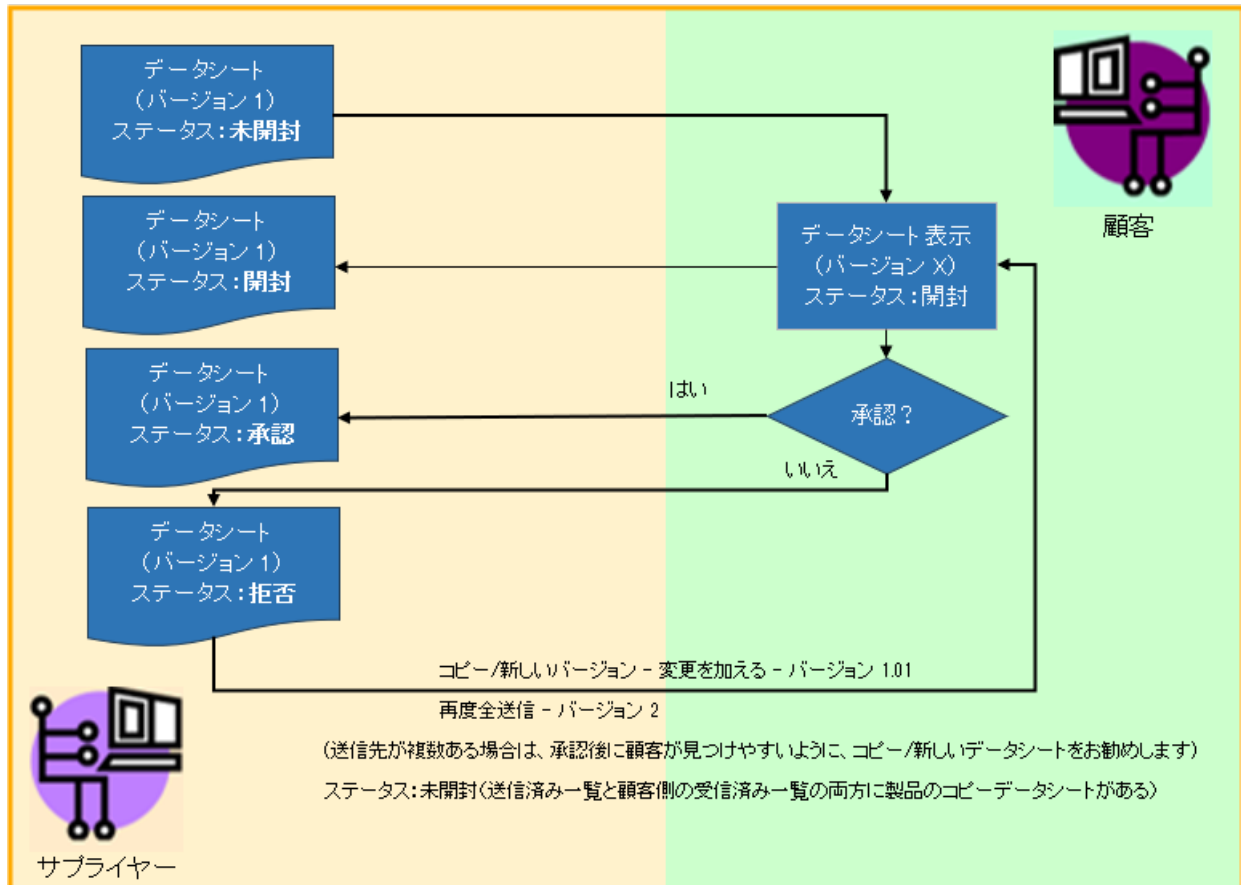
送信/全送信する際、IMDS では以下の項目をチェックします:

- ・ 送信しようとしているデータシートのタイプ、ID およびバージョン
- ・ データシートの全ての送信先企業
- ・ データシートの全ての送信先企業の「企業データ」画面に入力されている部品番号およびサプライヤーコード
- ・ 過去にその送信先企業の組織に送られた全てのデータシートのうち、同じ部品番号とサプライヤーコードで送られたデータシートの ID とバージョン

このチェックは、サプライヤーが過去に同じ部品番号のデータを同じ送信先に送ったことがあるかどうかを確認するものです。仮にこのチェックに当てはまった場合、レコメンデーション 001 の規則 3.2.2.B に違反しているという警告を表示します。加えて、過去に送信したデータシートの ID と部品番号もお知らせします。

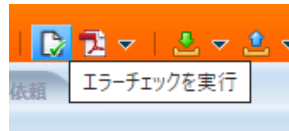
またこのチェックで、最新の承認したバージョンで“送信先企業の組織”、“部品番号”、“サプライヤーコード”が同じデータシートが見つからない場合は、規則 3.2.2.A に準拠するために新しい部品番号またはサプライヤーコードが必要であることを示す警告を表示します。

全送信/受信の仕組み



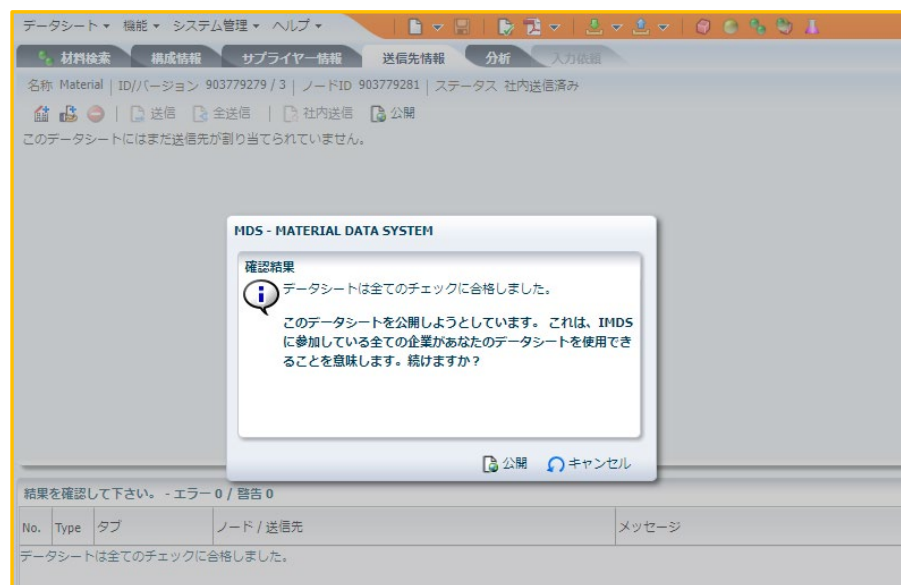
3.3.17 エラーチェック

ツールバーの「データシート」>「確認」オプションを選択すると、エラーチェックが行われます。データシートの内容を、基本的なルールおよび送信先固有のルールと照らし合わせて、エラーメッセージを出力します。結果は確認画面に表示します。



データシートを社内送信、送信、全送信するためには、エラーを全て修正しなければなりません。警告については無視して送信することはできますが、顧客によっては承認前に修正を求められることがあります。送信先企業では受信済み一覧からエラーチェックを実行して警告がないかどうかを確認することができます。IMDS-a2 または IMDS-AI を使用している送信先では、IMDS オンラインシステムに組み込まれている以外のチェックも可能です。

エラーや警告がなければ「データシートはすべてのチェックに合格しました。」というメッセージが表示されます。それによりユーザーは社内送信、送信、全送信、場合によって公開を行うことができます。



データシートに適用される規則に関しては、IMDS ステアリングコミッティーによって推奨する入力方法が定義されています。{注意: ユーザーの観点でいうと、レコメンデーションという言葉は「規則」と読み替える方が適切だと思われます。レコメンデーションに沿っていないデータシートが OEM に承認されるケースはごくまれです。}

レコメンデーションの中の1トピックでは、化学物質または材料の含有率の範囲値の差の許容値が定められています。条件によって、最大値と最小値の差について異なるルールが適用されています。

1. 別の材料やセミコンポーネントに追加された材料 別のセミコンポーネントに追加されたセミコンポーネント

当該の材料またはセミコンポーネントが、IMDS ステアリングコミッティーによって公開されているデータシートに記載されたものでない場合、次の値が適用されます。

最小値 (LL) から最大値 (UL) までの範囲	最大値 $M = UL\% - LL\%$
$0 < LL \leq 100$	$M \leq 20$

2. 材料に追加された化学物質

当該ノードが化学物質であり、直上の材料が IMDS ステアリングコミッティーまたは ILI によって公開されているデータシートでは無い場合、化学物質を材料(全ての材料分類)に追加する際に次の表が適用されます。:

最小値 (LL) から最大値 (UL) までの範囲	最大値 $M = UL\% - LL\%$
$0 \leq LL \leq 7.5$	$M \leq 3$
$7.5 < LL \leq 20$	$M \leq 5$
$20 < LL \leq 100$	$M \leq 10$

3. 化学物質

化学物質には次の3種類があります。

1. 特定のCAS (Chemical Abstract Service) ナンバーで登録されている物質
2. 擬似物質 - 該当する化学物質と完全に合致するCASナンバーがない物質 (CASナンバーのフィールドが「-」表示)
3. ジョーカー/ワイルドカード - CASナンバーのフィールドに「system」という語が含まれ、実在する化学物質名称を持たない物質。ジョーカー/ワイルドカードは、GADSLに含まれない化学物質の組成に関しての特許情報を秘匿するようなある特殊な状況で利用されます。

基本的に材料は90%の化学物質情報を含んでいなければなりません。つまり、未指定物質が10%を超えることはレコメンデーション 001 で認められていません。(名前に「not to declare」を含む化学物質は、IMDS のジョーカー/ワイルドカードです。) 含有率が範囲値で申告されて

いる化学物質については、範囲の上限値に規則が適用されます。ILI またはステアリングコミッティーによって公開されているデータシートを除き、データシート上で各々の材料内の未指定物質の含有率の合計が 10%を超えてはなりません。合計が 10%を超える場合は警告が表示されます。

なお、入力する化学物質は完成品で使用されている物質のみとしてください。全ての処理化学薬品を入力する必要はありません。（消費者に売られた最終製品内に残留物が残ったままにならない限り）

IMDS には“量産準備初期段階の「事前申告」データシート”という欄があります。その名の通り、この欄にチェックが入ったデータシートは、プロトタイプや試作品であり、使用上の制限が一部解除されています。ワイルドカード “not yet specified” は、量産準備初期段階の「事前申告」データシート用の材料データシートにのみ使用できます。最終版データシート (PPAP/イニシャルサンプルレポート) に使用してはいけません。「量産準備初期段階の「事前申告」データシート」欄にチェックがない最終版の材料データシートやモジュールに“not yet specified”が含まれていた場合、警告が発生します。

最終版のデータシートの中に自社か受信済みの“量産準備初期段階の「事前申告」データシート (Preliminary MDS)”を参照している場合、エラーメッセージが出ます。ユーザーは、自社か受信済みの“量産準備初期段階の「事前申告」データシート (Preliminary MDS)”を含む最終版のデータシートを送信することができません。また、“量産準備初期段階の「事前申告」データシート (Preliminary MDS)”のチェックボックスは、全てのデータシートの詳細情報に表示されます。

エラーチェックでは、最終的なデータシートツリー内の（すべてのレベルにおいて）量産準備初期段階の「事前申告」データシート (Preliminary MDS) へのすべての参照について警告が表示されます。新しく作成された最終的なデータシート内で量産準備初期段階の「事前申告」データシート (Preliminary MDS) を参照することはできません。この場合、既存のエラーチェックはエラーを示します。

4. 材料と化学物質を同じレベルに配置することについて

材料と同じレベルに化学物質に配置するとエラーが発生します。

5. 異なる種類のタイプを同じレベルに配置することについて

データシート内の同じレベルで異なるノードタイプが使用されている場合は、「異なるタイプのノード（コンポーネント、セミコンポーネント、材料）が同じレベルで使用されています。」という警告が表示されます。

「・・・として部品に使用」（3.3.12 参照）に空白でない値が設定されている場合は、このメッセージは表示されません。

6. 削除されたデータシートについて

データシートは、IMDS の中で削除されることがあります。このように削除されたデータシートやそれを参照しているデータを使用し続けることは、IMDS のデータ品質を落とすことにつながります。また、無効な化学物質を含むデータシートは今後利用されるべきではありません。他社データシートが削除されていた場合は、警告メッセージが表示されます。一方、自社データシートが削除されていた場合はエラーとなります。

7. セミコンポーネントに対するエラーチェックについて

リリース 7.0 以降、セミコンポーネント作成時に、使用される単位あたりの質量と種類 (kg/m、kg/m²、kg/m³のいずれか)の入力が必要となります。2010 年 2 月 16 日以降、セミコンポーネントのデータシート/モジュールを新規作成(ステータスが「編集モード」)する際、単位あたりの質量の種類が指定されていない、または単位あたりの質量が"0"の場合、エラーが発生します。

ZVEI-Rec019 (Company ID 102677)によって作成されたセミコンポーネントのデータシートについては、以下のチェックが除外されます:

- ワイルドカードや機密扱いのような未指定物質が 10%を超えた場合のチェック
- 材料と化学物質の組み合わせチェック(SC90 チェックとも呼ばれる)
- 化学物質の含有率の範囲値のチェック

受信済みデータシートに対しても、承認前に上記のチェックが全て実行されます。

ツールバーの「確認」ボタンが有効になっている場合は常に、自社のリリース済みのデータシートやモジュールを全送信または公開するために、上のチェックを実行することができます。データシートの中に参照されているデータに対しても同様にチェックを実行できます。

リリース 6.0 導入までは、データシートに含まれる部品の入力方法が最新のチェック基準に照らし合わせると既に無効になっている場合であっても、完成版となっている自社のデータシートをさらに全送信することができました。この仕様が変更され、全送信時点でのチェック基準が適用されます。

参照されているデータに対して以下のチェックが実施され、場合によっては警告が表示されます:

- a 化学物質の含有率の範囲値の差が定められた値を超えない
- b 未指定物質に対する 10%ルール
- c 同一階層での異なるノードタイプ

8. 材料作成時の特別チェック

IMDS で材料を新規作成する場合や既存の材料を参照する場合は、IMDS システムのエラーチェックで以下の項目がチェックされます:

1. MDS ステアリングコミッティー(companies IMDS-Committee (423)、IMDS-Committee/ILI Metals (18986)、Stahl und Eisenliste (313))が作成した標準材料は、材料のチェックから除外されます。
2. 選択された材料分類ごとに、含まれるべき 1 種類以上の化学物質の含有率の最小値または最大値が定義されており、新しく材料を作成する際はその条件を満たさなければなりません。そのほかの化学物質は、定義された化学物質の含有率の範囲値を超えてはなりません。材料分類に応じて、異なるチェックが適用されます。概要は、IMDS インフォメーションページの FAQ「IMDS でのエラーと警告」にある質問「IMDS のエラーの意味と修正方法を教えてください」で確認できます。
3. 材料内に特定の化学物質が特定の含有率(%)より多く含まれている場合には、その化学物質に沿った材料分類を選択する必要があります。また、材料分類が 7.3(Other compounds (e.g. friction linings))と 8.x(Electronics/Electrics)の場合は、どの化学物質の組み合わせが含まれていても警告は発生しません。
4. 材料に液体や気体の化学物質が 1%より多く含まれていて、なおかつ材料分類が 9.x でない場合、または、特定の化学物質（反応性物質、イオン、液体、気体の 3 つのグループに属する物質）が 1%より多く含まれている場合には、関連する警告が表示されます。材料分類 7.1(Modified organic natural materials)の材料に“water”を含めることができ、その場合の含有率に制限はありません(警告は表示されません)。
5. 材料が一つまたは複数の下位の材料から構成されている場合、最上位にある材料がチェック対象となり、材料に含まれる全ての化学物質の含有率の合計が計算されます。
6. 自社で作成した材料データシートの中に、無効な化学物質が含まれている場合は、エラーが発生します。一方、他社の材料データシートの中に無効な化学物質が含まれている場合は、警告となります。
7. 適切な材料分類を特定-IMDS ユーザーは材料データシートを作成する最初の段階で、材料分類を選択します。その後、構成情報を追加しますが、最初に選択した材料分類とは違う内容でその構成を作成することができてしまいます。そこで中身に合った、適切な材料分類を選択できるようにするために、構成情報を入力した後に IMDS のエラーチェックで SC90 チェックに沿った適切な分類を選べるようにします。この新しいチェックで、最初に選択したものと異なる材料分類が適切だと判断した場合、IMDS のエラーチェックで警告を表示し、選択できる材料分類を表示します。
8. 機密扱いのチェックを付ける化学物質は CAS ナンバーまたは EINECS ナンバーが必須-認識番号(CAS または EINECS ナンバー)を持たない化学物質は、機密扱いとして隠されるべきではありません。新しい IMDS のエラーチェックでは、機密扱いのチェックが

ついている化学物質に CAS ナンバーまたは EINECS ナンバーがついていない場合はエラーを表示させます。

9. 材料分類 5.x すべてに対して、10%ルールを最上位の材料に適用 - 未指定物質(ワイルドカード/機密扱い物質)の含有率が合計で 10%を超えると警告が発生するというエラーチェックについて、IMDS では材料分類 5.x すべてに対して、最上位の親材料をベースに計算されます。
10. GADSL / REACH-SVHC 化学物質が機密扱いとして参照されている材料データシートのチェック - 懸念物質が機密扱いの物質を含む全てのデータシートはエラーとなります。IMDS リリース 15.1 以降では、これらの物質はフラグ付けされた後、次の夜(UTC タイムゾーン)に自動的に開示されます。
11. 材料データシートを公開するプロセスについて、警告が許されなくなります。現在は単一の警告でもエラーにつながるため、このプロセスが終了となります。公開材料データシートの品質をあげるため、絶対に「クリーン」な材料しか公開されることができません。次の材料データシート作成者は、この厳格な取り扱いから除外されます。IMDS-Committee(企業 ID : 423), IMDS-Committee/ILI Metals(企業 ID : 18986)、Stahl und Eisen Liste(企業 ID : 313)。
12. 通常、材料は一つだけの物質で構成されてはいません。いくつかのケースでは、材料名は、顔料、充填剤、安定化剤を含有することを示しています。さらに、特定の材料分類、例えば材料分類 5.5.1 のように、複数以上の化学物質が含まれていることを示唆しています。それ以外の場合は、このカテゴリが選択されるべきではありません。添加剤は、REACH（例えば、可塑剤）および他の規則から特定の化学物質を含んでいます。したがって、材料分類が 5.x または 6.x で、一つだけの化学物質が 100%で構成されている材料データシートが新たに作成された場合、警告が発生します。このチェックは、新しく作成された材料および参照された材料に対して実行されます。
13. 材料分類 5.x（プラスチック材料）の材料データシートをチェックする際、リサイクル材について以下のチェックがあります：
 - リサイクルの質問が入力されている（はい/いいえ）
 - リサイクル材に関する詳細/ウィザードデータが存在する場合、メカニカルのプレコンシューマリサイクル材とポストコンシューマリサイクル材の合計の MIN と MAX の差が 20%を超えるかどうかのチェックはスキップされる
 - プレコンシューマリサイクル材が 20%を超えない範囲
 - ポストコンシューマリサイクル材が 20%を超えない範囲
14. 材料を参照するコンポーネント/セミコンポーネントのデータシートがトップノード（子ノードの可能性あり）で、プレコンシューマリサイクル材および/またはポストコンシューマリサイクル材の範囲が 20%を超える場合、編集中/リリース済み/送信済みのデータシートがチェックされると、リサイクル材の最大範囲 20%を超えるという

警告が表示されます。このデータシートの受信者にも、この警告が表示されます。

15. 転送許可 - チェック手順の間に、システムは「転送許可」チェックボックスが設定されているかどうかを確認します。そうでない場合、「この送信先には転送が許可されていません。」という警告が発生します。これはお客様の要求に合わない可能性があります。

作成企業側：チェックが入っていない送信先ごとに警告が表示されます。

受信側：現在ログインしている受信側企業のチェックが入っていない場合のみ、警告が表示されます。

No.	Type	タブ	ノード / 送信先	メッセージ	サプライヤー	サプライヤーデータ ID / Version
1	警告	送信先情報	Nishiyama Co.Ltd.	この送信先には転送が許可されていません。これは、お客様の要求に合わない可能性があります。	-	-

16. SC 90 チェックによると、「充填剤」とマークされた全てのデュアルユース物質は、充填剤/強化材としてもカウントされます。（材料分類 5.1.b の材料にはフラグがないため、材料分類 5.1.a にのみ関係します）

9. コンポーネントの質量に基づいて標準化された最大偏差

IMDS リリース 10.0 では、最大偏差に範囲ベースの初期値を導入します。質量公差の値は、過去のデータを含めて、Web アプリケーションでは表示されなくなります。

偏差の値はすべてのコンポーネントノードのレベルでチェックされ、定義された上限のパーセンテージを超えるべきではありません。

質量の範囲とそれに対応する制限は上記の表に示されています。例えば、100g のコンポーネントは計算値と比べて、5%以上の偏差をもつことはできません。

コンポーネントの質量 (X)	最大 偏差 (%)
$X < 1\text{ g}$	100
$1\text{ g} \leq X < 100\text{ g}$	10
$100\text{ g} \leq X < 1\text{ kg}$	5
$1\text{ kg} \leq X < 10\text{ kg}$	2
$10\text{ kg} \leq X < 100\text{ kg}$	1
$X \geq 100\text{ kg}$	0.5

偏差が定義された最大値を超えた場合、警告が表示されます。この警告は過去のデータにも適用されます。

10. obsolete（旧式、廃型）としてマークされている参照データシート/モジュールのチェック

自社の obsolete（旧式、廃型）データシートを利用するとエラーチェックの際に警告メッセージが表示されます。それでユーザーはこのデータシートかモジュールを入れ替えることができます。

11. 1 つ以上の子の代替品をもつこと

子の代替品が 1 つしか存在しない場合は、エラーチェックでエラーが発生します。

12- 子の代替品は、同じような質量でなければなりません

エラーチェックの中で、すべての子の代替品の質量は、優先的な代替品の質量と比較されます。いずれかの代替品の重量が、優先的な代替品の対応する質量から許容される偏差を超える場合、この代替品の質量フィールドにエラーが表示されます。許容される偏差は、質量の範囲ごとに定義されます。（部品質量と部品質量（自動計算値）のチェックと同じルールが、優先的ではない代替品の質量と優先的な代替品の質量の比較に適用されます）

優先的な代替品の質量範囲	優先的な代替品から許容される質量偏差の%
優先的な代替品の質量 >0 and <= 1g	100%
優先的な代替品の質量 >1 and <= 100g	10%
優先的な代替品の質量 >100 and <= 1kg	5%
優先的な代替品の質量 >1kg and <= 10kg	2%
優先的な代替品の質量 >10kg and <= 100kg	1%
優先的な代替品の質量 >100kg	0.5%

13- 優先的な代替品を 1 つだけ設定する必要があります

優先的な子の代替品が設定されていない場合、エラーとなります。

14- アプリケーションコード"Other application (Potentially prohibited)"

アプリケーションコード"Other application (Potentially prohibited)"を選択した場合、「アプリケーションコード"Other application (Potentially prohibited)"」が選択されました。」という警告が表示されます。送信先のチェックルールに準拠しているか確認してください。”

3.3.18 データシートの公開と転送

公開

データシートを公開すると、IMDS の全ユーザーがアクセスできるようになります。IMDS の全ユーザーが、データシートに含まれる化学物質まで知ることができるため、企業固有の情報が含まれるデータシートは決して公開しないでください。承認済みのデータシートを公開した場合、削除することはできません。

以下の理由により、多くのユーザーはステアリングコミッティーが公開した標準データシート以外の公開データシートを使用しないよう求めています:

1. 公開データシートは作成者以外、誰も承認していないデータシートであるため。システムが行うエラーチェックはあくまで標準のチェックのため、品質に疑問が残ります。
2. 公開データシート自体を「承認」または「拒否」することはできないため。
3. 公開材料はオフラインシステムからアクセスすることが難しいため。

カンパニアドミニストレーターは企業単位でデータシートの公開の可否を設定できます。公開をできる設定にすると、どのタイプ(コンポーネント、セミコンポーネント、材料)を公開できるかを設定します。また特定の組織単位の公開を制限することもできます。許可された場合、適切な権限(「データシート: コンポーネント/セミコンポーネントの公開」または「データシート: 材料の公開」)を持つユーザーのみがデータシートを公開できるようになります。

これらの注意点は、IMDS コミッティーが公開したデータシートには当てはまりません。コミッティーのデータシートとは、企業名(企業 ID)が IMDS-Committee (423)、IMDS-Committee/ILI Metals (18986)、Stahl und Eisenliste (313)の企業が公開したデータシートを指します。これらの材料は標準材料として利用できます。IMDS の専門家が広範囲にわたってデータシートの有効性をチェックし、「ゴールドスタンダード」な公開標準データシートとして認められたデータシートだからです。ZVEI-Rec019 が作成した材料を含む標準材料は多くの IMDS の材料チェックのルールから除外されます。

IMDS-Committee (423)、IMDS-Committee/ILI Metals (18986)、Stahl und Eisenliste (313)からの材料データシートは、厳しいハンドリングから除外されています。

材料データシートの公開は以下の場合のみ可能です:

1. 企業が材料データシートの公開を許可されている（「システム管理」>「企業」>「詳細」>「設定」>「データシートの公開：材料」）
2. ユーザーが、公開の権限を持っている
3. ユーザーが公開データシート認証フォームを確認して承認し、かつ「ユーザー：編集」の権限を持つユーザーに承認されていること

一般的にデータシートの公開には、4つの前提条件を満たす必要があります。

1. データシートの公開が企業レベル/組織レベルで許可されている。
2. 特定の権限を持つユーザーのみがデータシートを公開できる。
3. ユーザーは個人設定で、公開ルールに従うことを確認しなければなりません。
4. 「ユーザー：編集」の権限を持つユーザーは、各ユーザーの自己認証を確認します。

転送

データシートの転送は、製品の製造は行っていないが、データシートの提供は行っている流通業者などのサプライヤー向けに設計されています。転送機能により、サプライヤーからのデータシートを直接顧客に全送信することができます。受信データシート/転送データシートの構成情報に変更を加えることはできません。転送が許可されている場合、転送者はサプライヤー情報に自社の情報を入力する必要があり、送信先情報タブで一つの送信先または複数の送信先を選択して、この変更されていないデータシートを顧客に転送できます。

この転送機能を使用する場合は、以下の制約があります：

- サプライヤーは、データシートの送信先情報で「転送許可」チェックボックスを選択する必要があります。これが選択されていない場合、データシートは転送できません。
- 承認されたデータシートのみが転送可能です。
- 承認されたデータシートの転送バージョンは1つのみ作成されます。
- 転送バージョンのデータシートは全送信のみ行えます。送信や社内送信はできません。
- 転送バージョンのデータシートを編集することはできません。（ただし、サプライヤー情報および送信先情報は除く）
- 転送データシートは参照できません。（元の承認済みデータシートを参照してください）

異なる送信元からのデータシートを転送することができますが、送信先情報画面においては特定の部品番号を入力することができます。サプライヤーがデータシートを転送したいと思った時、IMDSのエラーチェックでは、送信済み一覧から過去に同じ送信先に送られたデータシートを検索し、送信先情報に入力されている部品番号、サプライヤーコード、データシートのID

を確認します。もしデータシートの ID は異なるが、それ以外の項目が合致していた場合は、その送信先に部品番号(およびサプライヤーコード)が同じで ID が異なるデータシートを、過去に送信したことがあるとお知らせします。

転送についてもバージョン管理をサポートするため、送信先向け部品番号が同じデータシートのリストをシステムで表示し、選択できるようにします(レコメンデーション 001 の規則 3.2.2.B に準拠)。メッセージによって表示されたデータシートを一つ選択すると、IMDS システムが自動でデータシートの ID とバージョンをルールに沿ったものに変更します。

部品番号、サプライヤーコード、データシートの ID が合致しなかった場合は、次に転送するデータシートのバージョン番号を確認します。もし 1.0 以下だった場合は、規則 3.2.2.A に準拠しているという事で、エラーや警告は発生しません。バージョン番号が 1.0 より大きい場合には、警告を表示し、新しい部品番号またはサプライヤーコードの場合は新しいデータシートの ID で送信するようお知らせします。

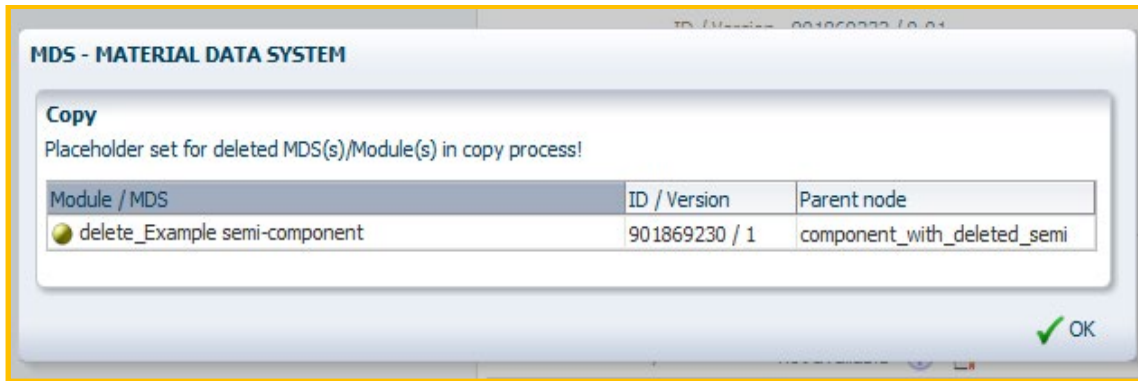
3.3.19 データシートのコピーと論理削除された参照データのコピー

自社で所有しているデータシートをコピーする場合、データシートを検索し、右クリックで「コピー」を選択します。さらに新しいコピーの作成(コピー/新規データシート)、または新しいバージョン(コピー/新規バージョン)を選択します。コピー(コピー/新規データシート)の場合、データシートは新しい IMDS ID を取得します。また、名称は **Copy_<コピーされたデータシートの名称>** としてはじめに作成されます。

他社が作成したデータシートをコピーする場合はコピー(コピー/新規データシート)のみ行えます。ただし受信して承認したデータシートで転送が許可されているものは例外です。この場合、ほかに転送のオプションが提供されます。

他のデータシートを参照しているデータシートをコピーする場合、オリジナルのデータシートと同じバージョン情報と共にそのままコピーされます。**新バージョンでもコピーでも参照データシートはオリジナルデータシートの状態から一切アップデートされません。**

参照データシートが削除されるケースもあります。よくあるケースはステアリングコミッティーが公開した標準材料の構成から要申告または禁止物質が取り除かれ、既存データが有効でなくなるケースです。一度削除されたデータシートは今後使用することができません。このため、削除されたデータシートを参照している親データシートをコピーしようとする、コピー後のデータシートから削除され、もともと削除済みデータシートが参照されていた場所は、削除された旨を示す「ダミーノード」に置き換えられます。



似たケースとして、機密扱いとされた化学物質を含む承認済みデータシートをコピーしようとすると、実際の化学物質をユーザーは知ることができないため、参照データシートは新しいモジュールとして編集できる状態でコピーされます。このような参照部分のモジュールを完成させた後、コピーしたデータシートに戻ります。

しかしながら、データシートのコピーは、オリジナルのデータシートの変更管理を難しくします。特に材料のデータシートはコピーされるべきではありません。ただし、材料メーカーだけはコピーの作成・編集が可能です。

IMDS リリース 9.0 では、コピーできる条件を以下の通り変更します：

- ・材料のコピーは、その材料データシートの所有者/作成者のみが可能。
- ・承認済みまたは公開済みの材料データシートはコピー不可。
- ・承認済みまたは公開済みのセミコンポーネントおよびコンポーネントのデータシートはコピー可能。
- ・承認済みまたは公開済みのコンポーネントまたはセミコンポーネントをコピーした後、コピーに参照されている全てのノードはそのまま保持される。
- ・コンポーネントおよびセミコンポーネントについては、そのユーザーが所有者ではない参照ノードもコピーでき、編集が可能。

3.3.20 データシートの削除/送信先情報の削除

実際にはシステムからはデータシートは削除されていません。削除とは今後そのデータシートを利用不可能にすることです。システムには削除データの復元機能がありませんので、データシートを削除する前に注意が必要です。適切な権限を持った誰もが自社のデータシートを削除することができます。自社で作成したデータシート/モジュールであれば、削除することができます。一方、受信済み一覧から検索できるデータシート(他社データシート)は削除することができません。受信済み一覧において表示させたくないデータシートがある場合は、検索条件を指定してください。

データシートを削除しても他のコンポーネント、セミコンポーネント材料に前から参照されていたデータシートは残り続けます。これらのデータシートは、参照データシートが削除される前にリリース済み(リリース済み、公開済み、送信済み、全送信済み)であった場合、今後もそのデータシートは他のデータシートに参照して使い続けることができます。ただし、削除した材料を参照しているデータシートのコピーを作成したり、新バージョンのコンポーネント、またはセミコンポーネントを作成する場合は、エラーメッセージが表示されます。また削除されたデータシートはツリー構造から除かれます。

データシートの削除を決定する場合、いくつかの問題を考慮しなければなりません。

- データシートは別のデータシートに参照されていないですか？
- データシートをどこかに送信していないですか？
- データシートのバージョンは複数ありますか？

データシートは別のデータシートに参照されていないですか？

データシートが参照されているかどうかに関わらず、論理的にのみ削除されます。すなわち、削除マークが付けられ、検索や参照が不可能になります。しかし、参照されているデータシート内では見ることができます。

データシートをどこかに送信していないですか？

既に受信側でデータシートを閲覧や承認していると、一社以上へ送信されたデータシートは物理的に削除することができません。削除しても受信側企業は「受信済み一覧」の中でこのデータシートを見ることができます。そのステータスは「送信者による取り消し」となります。そのデータシートは、もはや参照することはできません。

データシートのバージョンが複数ありますか？

データシートが1つ以上のバージョンを持っている場合、すべてのバージョンを削除することができます。例えば部品が交換された場合には、これは便利です。選択されたデータシートの削除を確認し、システムは選択されたデータシートを削除します。そしていくつかのバージョンがある場合、すべてのバージョンを削除しますか？という確認があります。

送信先企業の削除 (3.3.15 参照)

データシートを間違った企業に送信するというケースが頻繁に起こります。そのような場合は、データシートを削除する必要はなく(特に全送信した場合)単に送信先を削除することになります。データシートを検索し、その「送信先情報画面」で正しくない送信先を選択し、削除します。間違って送信してしまった受信先でのデータシートのステータスは「送信者による取り消し」に変わります。

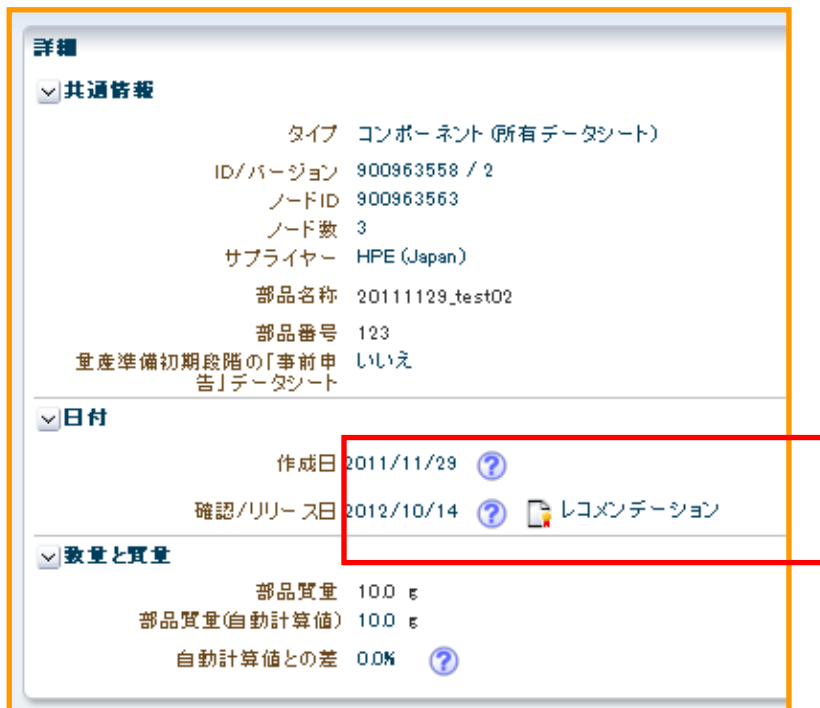
注：検索条件で「送信者による取り消し」を除く以外に、送信済みまたは受信済み一覧の検索結果から削除されたデータシートを除く方法はありません。

3.4 レコメンデーション

IMDSステアリングコミッティーはデータシートの作成方法についていくつかの推奨事項として公開しています。レコメンデーション001は全てのデータシートに当てはまる推奨事項が記載されており、さらに材料分類についても説明しています。レコメンデーションはヘルプメニューから開くことができます。



もしくは、各データシートの構成タブの右側、「詳細」画面からも開くことができます。



上でご説明した通り、「推奨」とは言っていますがレコメンデーションの規則に従っていないデータシートを OEM が承認することはごくまれです。このため、自社製品に関するレコメンデーションは事前にお読みいただくことを強くお勧めします。

注意：レコメンデーションは頻繁に追加・更新されますので、ログイン毎に確認することをお勧めいたします。

4 データシートの運用

4.1 サプライヤーから顧客へのデータ送信

IMDS をよく利用されるユーザーは、IMDS がどのように情報を安全に管理しているかご理解頂いていると思います。ユーザーがリリースしていないデータシートで作業している間は、その他の IMDS ユーザーは誰もそのデータにアクセスできません。

ユーザーが顧客にデータシートを送信したり、全送信したりする際には、送信するという表現を使ってはいるものの、実際に顧客にデータを送信（例えば E メールのように）するわけではありません。そのような時でも、データシートはサーバー内に物理的に留まったままです。データの送信側の企業と受信側の企業の間に、このデータシートのためのリンクが作成され、これにより、受信側の企業はそのバージョンのデータシートを見ることができます。

データシートを受け取った後、受信側の企業のユーザーは、そのデータシートの内容を確認し、それを承認したり、拒否したりすることができます。データシートの情報は、インターネット上の“情報ハイウエー”を物理的に移動しているわけではなく、DXC のサーバー上の安全なエリアに保存されたままになっています。データシートが送られる際には、IMDS では受信者として指定された企業のみがそのデータシートを確認できるようにします。指定されていない企業が、そのデータシートにアクセスすることはできません。

送信側企業が提出したデータシートを、受信側企業が自身が作っているデータシートの構成（子供）として参照し、それを受信側企業の顧客に対して提出した場合、受信側企業の顧客も、送信側企業が提出してデータシートを見ることになります。ただし、その顧客は上記送信企業の企業情報に関しては見ることはできません。殆どの部品は、まるで彼らの供給元（あなたにとっては顧客になります。上記の受信側企業に相当。）が、全ツリー構造を構築して提出したかのように現れます。唯一の例外は、構成の一部として参照されているデータシートが公開されたものである場合は、サプライチェーン上の誰もが、そのデータシートが誰により提供されているかを知ることができます。これは公開が安易に使われてはならない理由の一つで、公開は然るべき理由がある場合のみ使用されるべきです。

OEM や T1 サプライヤーの中には IMDS データや製品ライフサイクルを管理するために、社内システムを導入し、AI 契約をした上で、IMDS 上の情報を社内システムにダウンロードしている場合があります。ダウンロードの機能を使用したとしても、その企業は直接のサプライヤーの企業情報を見ることはできません（これは構成の一部のデータシートが公開されていない場合です）。ダウンロードを希望する企業は、IMDS データセキュリティを守ることが記載されているライセンス契約を、別途結ぶ必要があります。IMDS では 10 年以上に渡り、データが外

部に漏えいすることなく、このデータダウンロードを運用してきました。私どもはこのことを誇りに思い、今後もこのような運用を行っていきます。

4.2 データシートの機密性

4.2.1 自社における機密扱い物質の閲覧権限

材料データシートを作成している一部の企業は、自社の全ての従業員が機密扱いの化学物質の情報を確認できることを望んでいません。そこで、自社の材料データシートの機密扱い物質への閲覧権を、ユーザーレベルで管理できるようにする必要があります。

IMDS の「システム管理」>「ユーザー」メニューで、カンパニアドミニストレーターが各ユーザーID に対して、「機密扱いの化学物質の閲覧」というチェックボックスにチェックを入れることで、自社のユーザーに対して機密扱いの化学物質を検索できる権限を与えることができます。新規または既存ユーザーの初期設定は全て“オフ”です。機密扱い化学物質の閲覧設定は、ユーザー設定画面で確認できます。(編集は不可) (8.6.2 ユーザーの作成 参照)

加えてカンパニアドミニストレーターは、トラストユーザー画面から、自社ユーザーで機密扱いの化学物質を閲覧できる権限を付与することもできます。(4.2.2 送信先での自社機密扱い物質参照)

機密扱い化学物質の閲覧権限はこれ以降、企業レベルでは管理されません。閲覧権限のないユーザーは材料データシート作成時に、化学物質を機密扱いにすることはできなくなります。同じことが、コピー機能にも適用されます。閲覧権限を持っていないユーザーが機密扱い化学物質を含む材料データシートをコピーすると、機密扱い化学物質はコピーされず、その部分はプレースホルダー(ダミーノード)に置き換わります。

4.2.2 送信先での自社機密扱い物質

送信先によるデータの機密性の取り扱いをサプライヤーに対して保証するため、サプライヤーはデータシート内の化学物質に「機密扱い」のフラグを立てることもできます。送信または全送信された際に、このフラグを立てられた化学物質は“confidential substances”という名称に置き換えられます。この機能は、これらの物質を表示することを制限し、他社の“トラストユーザー”として指定されたユーザーにのみアクセス件を与えるものになります。これは“成分”とそのレシピを保護します。

しかしながら、要申告または禁止物質やジョーカー/ワイルドカード物質を機密扱いにすることはできません。また多くの提出先が未指定物質（機密扱いも含む）を材料内の10%以下と制限しています。IMDSではジョーカー/ワイルドカード物質を10%以上使用することに制限を加えることになる見込みです。

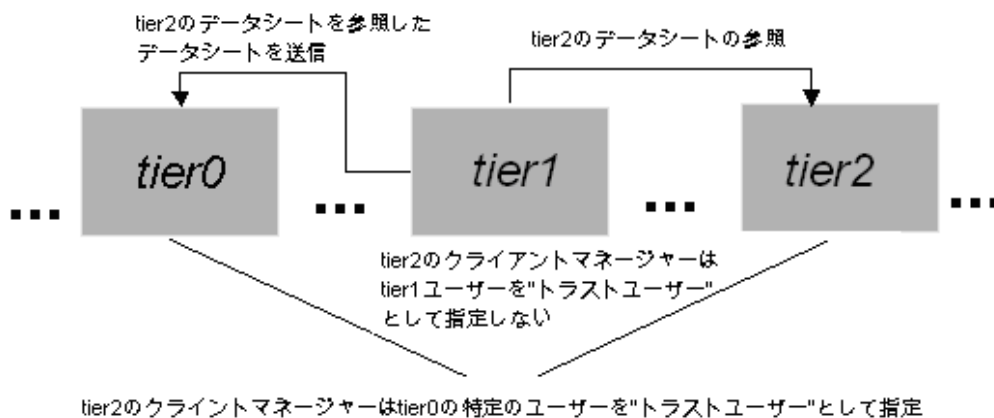
この機能は、化学物質の分析、またどこでその化学物質が使用されているかの分析には適用されません。それらの分析はデータシートの構造に関するいかなる情報も漏えいするものではありません。

他のIMDS企業内のあるユーザーに対して自社の機密扱い物質を開示したい場合は、そのデータシートの作成元である企業のカンパニアドミニストレーターが、他社の特定のユーザーをトラストユーザーとして指定します(「システム管理」>「トラストユーザー」メニュー)。IMDS外では、2社のビジネスパートナー（企業）は、IMDSの指定ユーザーが受信したデータシート上の機密扱いの化学物質を閲覧することができる旨を示す、機密に関するステートメントを交換することができます。個別に「トラストユーザー」権限を与えられたユーザーだけが、機密扱いとされている化学物質の情報を参照できます。

それに基づき、カンパニアドミニストレーターは指定されるべきユーザーを管理画面にて検索し、機密扱いとなっている化学物質への閲覧権を与えることができます。許可されていない場合、機密扱いの化学物質を見ることができません。

ここで具体的な例を提示します。

3社間で取引をしているサプライチェーンを、下記のシナリオで仮定してみましょう。



このシナリオでは、Tier0の指定されたユーザーは、Tier2から「トラストユーザー」として権限を与えられておりますが、Tier1の社内にはTier2から「トラストユーザー」は指定されていません。Tier2のデータシートには機密扱いの化学物質が含まれています。Tier1ユーザーが自社データシートを作成し、Tier2から受け取ったデータシートを参照する際、Tier1にはアクセス権が無いため、Tier2の機密扱いの化学物質をデータシート上で見ることはできません。Tier0がTier1のデータシートを受け取った場合、Tier2がTier0のユーザーに対してアクセス権を与えているため、Tier0はTier2のサブツリー（参照されたデータシート）上にある機密扱いの化学物質を閲覧することができます。

つまり、別の企業のユーザーに一度アクセス権を許可すると、そのユーザーは自社の全データシート上の機密扱いの化学物質を閲覧することになります。データシートが直接送信されてきたか、他のサプライヤーのデータシートの一部として間接的に送信されてきたかは関係ありません。これは、公開されたデータシートにもあてはまることです。

上述のシナリオはサプライチェーンにおいて、つまりチェーンの開始地点（原料製造メーカーなど）からチェーンの最終地点（自動車製造メーカーなど）までのプロセスの複数のビジネスパートナー（ここでは3社のみ）間において、典型的に見られるものです。

注：IMDS組織（カンパニアドミニストレーター）は、複数の企業のどのIMDSユーザーにデータシートの機密扱いの化学物質の閲覧を許可するのかを決定します。

4.3 入力依頼

IMDS のデータシートの送信および全送信のやりとりは、どちらも納入先にデータシートを送信するサプライヤー側から始まりますが、入力依頼は納入先がサプライヤーに対して、データシートの送信を依頼する仕組みです。入力依頼の機能を使用する前に、この機能の仕組みについて確認し、入力依頼を受け取るサプライヤーを明確にすることを合意するため、納入先とそのサプライヤーとの間で IMDS システム外でのやりとりを確立しておく必要があります。この章では、入力依頼の機能の使い方についてご説明します。

4.3.1 入力依頼の内容

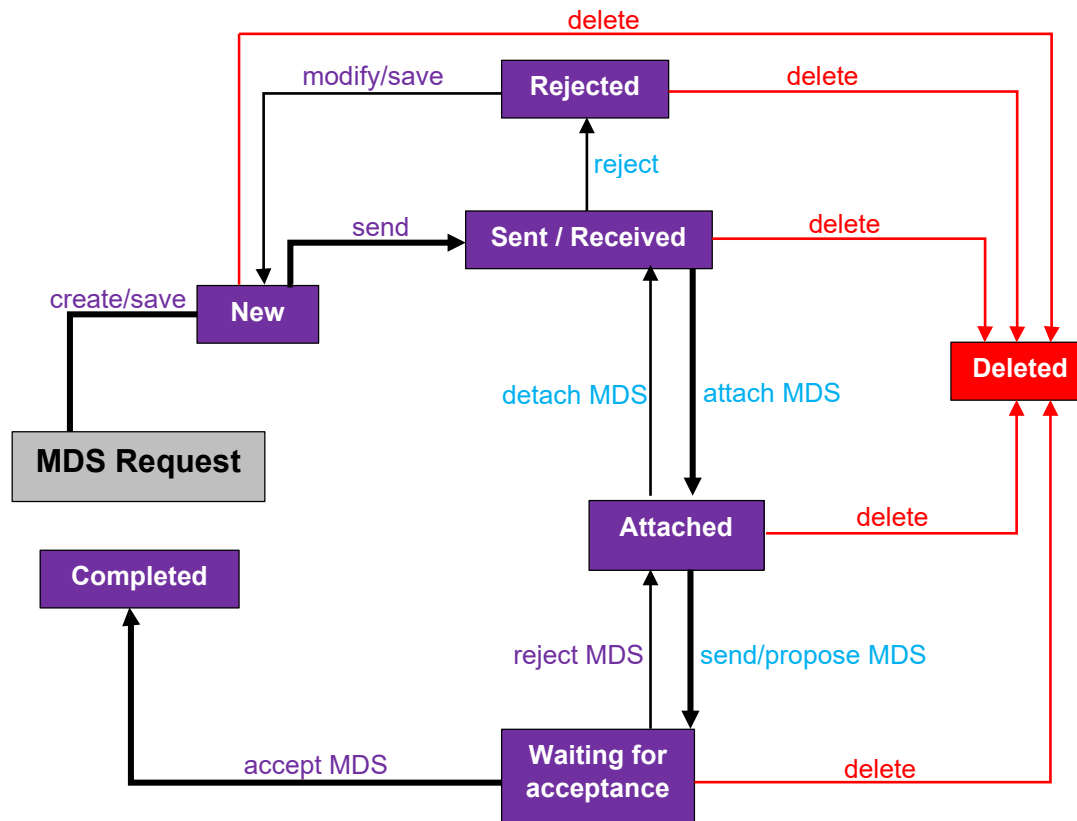
入力依頼では、そのデータシートでの入力が必要となる属性と、入力するかを選択できる属性とに区別されています。

入力依頼には以下の内容が含まれます：

- 入力必須のデータシート属性のセット(基本属性、送信先固有の属性)
- 入力依頼主の指定により入力必須のデータシート属性(送信先固有の属性のみ)
- 入力依頼固有の管理データ

次の図は、入力依頼に関連するワークフローを示しています：

MDS Request Process



Request Owner action

Request Receiver action

4.3.2 入力依頼に関する用語：送信先と送信元

データシート送信先は、データシート送信元への入力依頼を作成します。したがって、データシート送信先が入力依頼の所有者となり、データシート送信元が入力依頼の送信先となります。混乱を避けるために、**データシート送信先**と**データシート送信元**という用語を使用します。

したがって、入力依頼の受信済み一覧の中に、入力依頼元(顧客)はデータシート送信先、自社はデータシート送信元となります。一方、入力依頼の送信済み一覧の中に、自社はデータシート送信先、この入力依頼を受信したサプライヤー企業はデータシート送信元となります。

4.3.3 データシート属性

データシート属性は、**基本属性**および**データシート送信先固有の属性**の2種類に区分することができます。入力依頼主（データシート送信先）は、入力依頼の中で入力を求めるデータの項目を示します。ほとんどの項目はオプションですが、データシート属性の“部品番号”および“入力期限”は入力必須です。

基本属性は、直接データシートの情報を参照するため、全てのデータシート送信先に対して同じ情報となります。基本属性は以下のとおりです：

- データシートタイプ
- サプライヤー
- 入力期限（つまり提出日）
- コンタクトパーソン（必須）
- プロジェクト

データシート送信先固有の属性は[送信先情報]タブに関連付けられているデータ項目です：

- 部品番号（必須）
- 名称
- 図面番号
- 設計変更番号
- 発注書番号

入力依頼を作成するときに、項目欄に補足用のコメントを入れないでください。入力された値が自動的に入力依頼のデータフィールドに割り当てられ、それ以上上書きできなくなります。空欄にしておくことで、データシート送信元はその値を入力するかを選択できます。

4.3.4 管理用データ

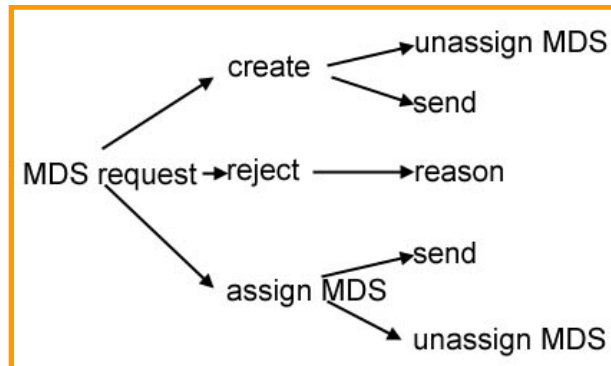
管理用データは、入力依頼を直接参照するデータです。これは、入力依頼主（データシート送信先）が、入力依頼を自社内で管理するために使用するデータで、以下のような項目を持っています：

1. プロジェクト： 複数の入力依頼を処理するために使用します。プロジェクトは、カンパニアドミニストレーターによって作成され、データシート送信先企業全体で有効です。
2. 企業 / 組織： データシート送信先企業/組織とコンタクトパーソンの ID
3. 入力期限： データシート送信先でデータシートを受領をしたい日付
4. 拒否の理由： 拒否する場合に入力必須の項目
5. コンタクトパーソン： 依頼元企業のコンタクトパーソンを特定するために使用

4.3.5 入力依頼のステータス

入力依頼には次のようなステータスがあります：

- 新規の入力依頼 (ステータス "new")
- 入力依頼がデータシート送信元へ送信済み (ステータス "sent"、データシート送信元では "received")
- データシート送信先が返信し、入力依頼を送付 (ステータス "sent"、データシート送信元では "received")
- データシート送信元がデータシートを割り当てたが、まだ未送信 (ステータス "working"),
- 割り当てられたデータシートが送信済み (ステータス "waiting for acceptance")
- 割り当てられたデータシートが承認済み (ステータス "completed")
- 入力依頼受領先 (データシート送信元) が入力依頼を拒否 (ステータス "rejected")
- 入力依頼がキャンセルされた (ステータス "deleted")



4.3.6 入力依頼の作成

上記で述べたように、プロジェクトは複数のデータシートに紐付いたデータシート送信先のための手段を提供します。プロジェクト使用の最初のステップは、プロジェクトを作成することです。この章での説明においては、未使用のプロジェクトがある（必須ではない）か、プロジェクトが既に作成されていると仮定します。

入力依頼を作成するためには「入力依頼: 作成/送信」権限が必要となります。属性は次のとおりです：

フィールド	説明
タイプ / プロジェクト	
コンタクトパーソン	依頼元企業の担当者です。これは必須項目です。

フィールド	説明
タイプ	データシートタイプ (コンポーネント、セミコンポーネント、材料のうちどれか)
サプライヤー	入力依頼を受領するデータシート送信元で、入力必須項目
入力期限	データシートの提出期限で、入力必須項目
プロジェクト	入力依頼に割り当てられたプロジェクト No.
ステータス	入力依頼の状態を表すステータス
ID	システムによって自動採番された入力依頼 ID
送信先情報	
企業	入力依頼を作成した企業、すなわちサプライヤーが入力依頼への返信を送付する企業の IMDS での企業名
組織	入力依頼への返信を受領する組織で、ドロップダウンリストから選択できます
サプライヤーコード	サプライヤーコードを入力する必要がある場合に入力します。作成時点で特定のコードを入力しておくこともできますが、その場合サプライヤーがコードを変更することはできません。
名称	特定の名前を入力できます。 サプライヤーは入力を変更できなくなります。
部品番号	この情報は必須です。 サプライヤーは入力を変更できなくなります。
図面番号	値を入力すると、サプライヤーは入力を変更できなくなります。
図面作成日	値を入力すると、サプライヤーは入力を変更できなくなります。
設計変更番号	値を入力すると、サプライヤーは入力を変更できなくなります。
発注番号	値を入力すると、サプライヤーは入力を変更できなくなります。
納品番号	値を入力すると、サプライヤーは入力を変更できなくなります。
レポート No.	値を入力すると、サプライヤーは入力を変更できなくなります。
レポート日	値を入力すると、サプライヤーは入力を変更できなくなります。

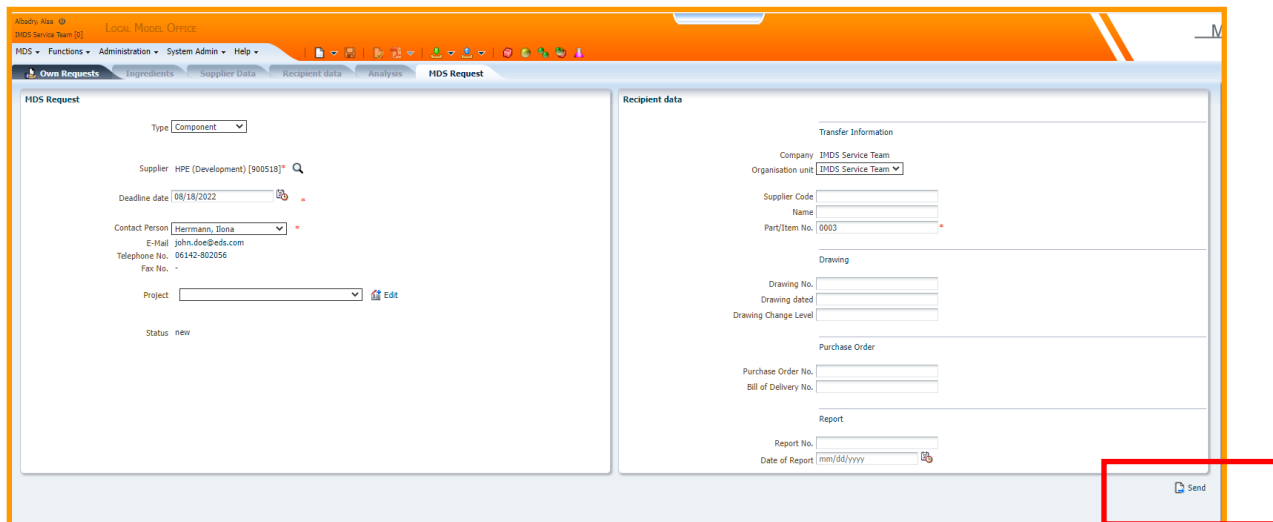
4.3.7 プロジェクトの作成

プロジェクトグループによる入力依頼は、全社的に有効です。プロジェクトは入力依頼作成画面上で作成することができます。[プロジェクト]フィールドの横にある[編集]をクリックして起動すると、新しいポップアップウィンドウが表示されます。プロジェクトを新規作成するには  **新規** をクリックします。

別の新しいポップアップウィンドウが表示されますので、そこにプロジェクト名称を入力します。このウィンドウを終了するには、[保存]をクリックします。新しいプロジェクトは、ウィンドウの下部にあるリストに表示されます。プロジェクトをクリックにより選択して、[適用]ボタンを押すと入力依頼画面に戻ります。

4.3.8 入力依頼の送信

全てのデータが入力された後、ツールバーのアイコン  を押すと、システムチェックが実行されます。入力依頼が正常に保存されると、[送信]ボタンが画面の右下に表示されます。この[送信]ボタンでサプライヤーへ入力依頼を送信します。



The screenshot shows the 'IMDS Request' form with two main sections: 'MDS Request' on the left and 'Recipient data' on the right. The 'MDS Request' section includes fields for Type (Component), Supplier (HPE (Development) [900518]), Deadline date (08/18/2022), Contact Person (Liermann, Ilona), E-Mail (john.doe@eds.com), Telephone No. (06142-802056), Project (dropdown), and Status (new). The 'Recipient data' section includes Transfer Information (Company: IMDS Service Team, Organisation unit: IMDS Service Team), Supplier Code, Name, Part/Item No. (0003), Drawing (Drawing No., Drawing dated, Drawing Change Level), Purchase Order (Purchase Order No., Bill of Delivery No.), and Report (Report No., Date of Report: mm/dd/yyyy). A red box highlights the 'Send' button in the bottom right corner of the form.

4.3.9 入力依頼の拒否

入力依頼またはデータシートを作成することができるユーザーであれば誰でも、入力依頼を拒否することができます。受信した入力依頼がデータシート送信元で取り扱えない場合、その入力依頼を拒否し、コメント付きで返信します。これによりデータシート送信元および送信先

の両方で入力依頼のステータスが“rejected”となります。入力依頼が拒否された場合は、データシート送信元での拒否の理由の入力が必須となります。

受信した入力依頼を表示した後、画面の右下には 3 つの選択肢が表示されます。

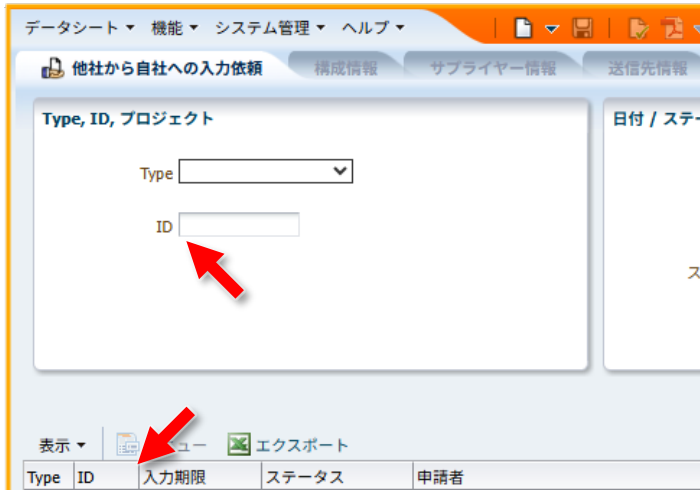
拒否 データシートの割り当て データシート割り当て解除 作成

入力依頼を拒否するためには、[拒否]ボタンをクリックします。入力依頼の拒否理由は、その後に入力する必要があります。

4.3.10 送信/受信した入力依頼の検索

「自社から他社への入力依頼」および「他社から自社への入力依頼」の両方の検索画面には、入力依頼の ID に関する検索条件フィールドが含まれています。この ID は検索結果にも表示されます。

この ID は入力依頼の ID であり、割り当てられたデータシートの ID とは異なります。



4.3.11 既存データシートの入力依頼への割り当て

入力依頼に対しては、新たにデータシートを作成するか、既存のデータシートを割り当てるかの2つの選択肢があります。この例では、既存のデータシートを割り当てる例を紹介します。[データシートの割り当て]を選択すると、適切な種類のデータシートの検索画面が表示されます。自社で作成した既存のデータシートのみを割り当てることができます。

割り当てが完了しデータを保存すると、入力依頼のステータスが"working"になります。

[作成]を選択すると、新規データシートが入力依頼に割り当てられた旨のメッセージが表示されます。データシート送信先が入力依頼で指定したデータは自動的に挿入されています。データシートは、前のセクションで説明したように作成する必要があります。データシートが完成したら、送信先情報の画面を開き、指定されているその他の入力必須項目を確認します。ユーザーは通常の方法で送信先データシートを送信もしくは全送信します。

4.3.12 未確認の入力依頼に関する週次メール通知

企業内で「他社から自社への入力依頼」または「受信した入力依頼の期日」に関するメール通知に登録しているユーザーがいない場合(10.1 個人設定を参照)、入力依頼の見落としを防ぐために、すべてのカンパニアドミニストレーター(ユーザー変更権限を持つユーザー)に対して週次サマリーが送信されます。

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

情報
ユーザーデータと設定をご確認下さい。

ユーザーデータ

企業ID

企業名

ユーザーID

ユーザー承認プリセット Company Administrator and User +

権限 [権限の表示](#)

公開データシート認証フォーム

姓

名

電話番号

FAX番号

Eメールアドレス

データ保護 ☐ トラストユーザー機能のために個人データを表示する [?](#)

☐ データシート拒否のための個人データを表示する [?](#)

以下の状況に該当した場合、Eメールの受信を希望する

入力依頼の拒否

送信した入力依頼の期日

日

データシートリクエスト ☒ 入力依頼の受信

☒ 受信した入力依頼の期日

日

☐ 入力依頼の削除

データシート ☐ データシートの拒否

☐ データシートの承認

☐ データシートの受信

☐ フォローアップの期限

☐ 機密扱い物質がGADSL記載物質として指定

☐ 機密扱い物質がSVHC物質として指定

☐ PCF更新

情報 ☐ IMDSの有効期限のお知らせ

☐ ニュースレター

カンパニーアドミニストレーター ☒ はい [キャンセル](#)

「入力依頼の受信」メール通知に登録している有効なユーザーがいない場合、そのメールには過去7日以内に受信した未処理のすべての入力依頼の一覧が含まれます。

「受信した入力依頼の期日」メール通知に登録している有効なユーザーがいない場合、そのメールには今後7日以内に期限を迎える未処理のすべての入力依頼の一覧が含まれます。

新規および期限到来の入力依頼の両方に関して、メールには以下の情報が含まれます：

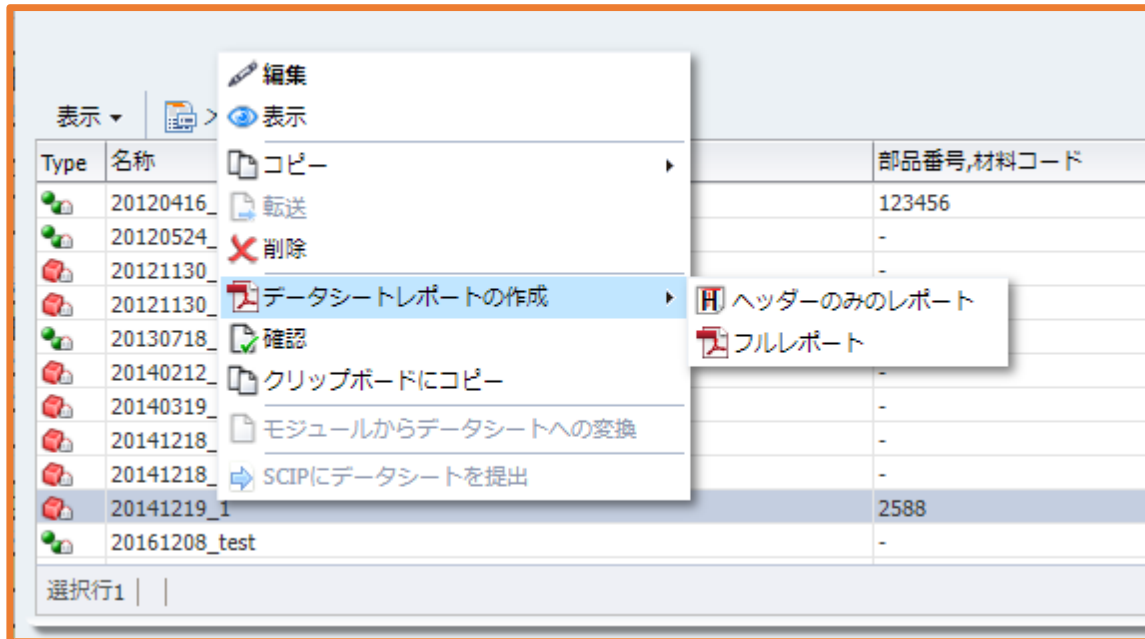
- 入力依頼日
- データシートタイプ
- 依頼者
- 部品番号、材料コード
- 名称
- 期限

両方の条件が該当する場合、各カンパニーアドミニストレーターには新規および期限到来の入力依頼のリストを含むメールが1通のみ送信されます。

企業に未処理の入力依頼がない場合(そもそも受信した入力依頼がない、またはすべて既に回答済みの場合)、ユーザーがいずれのメールにも登録していなくても、メールは送信されません。

4.4 データシートレポート

データシートレポート機能では、作成済み、受信済み、送信済みデータシートを PDF 形式で表示させることができます。作成するには、検索結果で「自社データシート」などのアイテムを右クリックします。

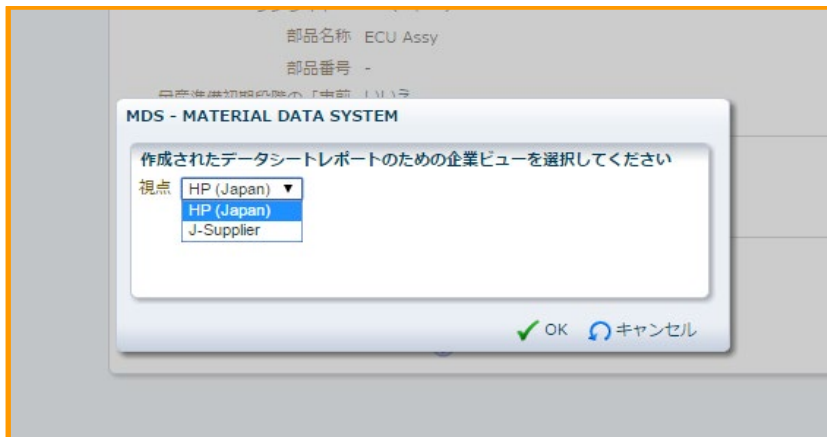


IMDS ユーザーは、完全なデータシートレポートを印刷するか、ヘッダーシートのみを印刷するかを選択できます。既存の「データシートレポートの作成」メニュー項目とアイコンは、さらに、「フルレポート」と「ヘッダーのみのレポート」を選択することができます。「フルレポート」オプションを選択すると、標準データシートレポートの処理が開始されます。「ヘッダーのみのレポート」オプションを選択すると、データシートレポートのヘッダーページ（1.会社と製品名）のみが生成されます。「ヘッダーのみのレポート」は、データシートのサイズ（ノード数）に制限されません。

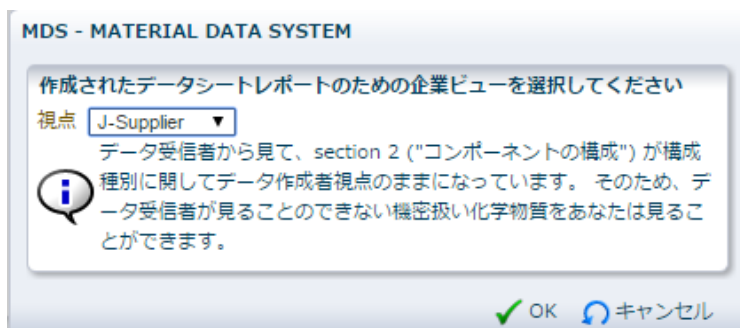
レポートが作成されると、以下のようなメッセージが表示されます：



一般的なレポートの形式は送信するデータシートです。ただし、一部のデータシートでは、受信側(顧客側)の視点で表示したレポートを出力することができます。送信済み一覧からデータシートレポートを作成すると、ユーザーは送信者と受信者どちらの立場から見たレポートを出力するかを選ぶことができます。



- ・ 受信側を選択した場合



受信側の視点を選ぶと、送信先のユーザーが見ることのできる情報のみがレポートに出力されます。またメッセージが表示され、この視点の制限についても説明があります。

以下の図は受信側の視点で作成したレポートの例です:

例外として、「2. コンポーネントの構成」は作成者と同じ情報が表示されています。したがって、受信側が見ることができない機密扱いの化学物質がレポートに出力されます。

IMDS ID /バージョン: 902029315 /1
ユーザー名: Kawashima, Yoshiko

ページ: 1 / 4
日付: 15/09/16 10:00:13

データシートレポート

アセンブリ /材料内の化学物質

1. 会社と製品名

1.1 サプライヤー情報

名称 [ID]: HP (Japan) [281]
DUNSナンバ: -
住所/郵便番号: JP --
国名/郵便番号/市町村名: -
サブライマーコード: -
コンタクト パーソン: Jiro Suzuki
電話: 0000-0000
FAX 番号: 1111-1111
Eメールアドレス: jiro.suzuki@eds.com

1.2 プロダクト ID

部品番号: 1111
部品名称: ECU Assy
レポート No.: -
レポート 日: -
発注番号: -
納品番号: -
Preliminary MDS: いいえ
IMDS ID /バージョン: 902029315 /1
ノード ID: 902029315
データシート ステータス: 社内送達済み (2013/12/11)
(変更日):
送信先企業 (組織) ID: J-Supplier [900043]
送信先ステータス (変更日): 承認 (2013/12/11)
承認したユーザー: Shiahou Li

IMDS ID /バージョン: 902029315 /1
ユーザー名: Kawashima, Yoshiko

ページ: 2 / 4
日付: 15/09/16 10:00:13

データシートレポート

アセンブリ /材料内の化学物質

法律で禁止されている材料を含めることはできません。
使用段階で生成または放出される有害な化学物質も両側に申告しなければなりません。
注意: 申告を必要とする化学物質はGADSLリストに記載されています

2. コンポーネントの構成

部品番号: 1111
部品名称: ECU Assy

レポート No.: -
IMDS ID /バージョン: 902029315 /1
ノード ID: 902029315

ツリーレベル	部品名称 部品名称 部品名称 化学物質名称	部品番号 材料コード 材料コード CAS No.	IMDS ID /バージョン	数量	質量	含有率 [g]	含有率 [%]	含有率 (重量%) [%]	材料分類 GADSL SVNO	材質表示 リサイクル情報 (国内/市電部和) アプリケーション ID]
1	ECU Assy	1111	902029315 /1	222						
1-2	Bolt		902029042 /1	3	23					はい
1-3	PA6		902029041 /1		0.005				5.1.a	はい (10.0 - 20.0 / 0 - 0)
1-4	PA6	-					91	90 - 92		
1-4	Carbon black	1333-68-4					5			
1-4	Misc., not to declare	system					4			

Hewlett-Packard GmbH

IMDS ID /バージョン: 902029315 /1
ユーザー名: Kawashima, Yoshiko

ページ: 3 / 4
日付: 15/09/16 10:00:13

ツリーレベル	部品名称 部品名称 部品名称 化学物質名称	部品番号 材料コード 材料コード CAS No.	IMDS ID /バージョン	数量	質量	含有率 [g]	含有率 [%]	含有率 (重量%) [%]	材料分類 GADSL SVNO	材質表示 リサイクル情報 (国内/市電部和) アプリケーション ID]
1	ECU Assy	1111	902029315 /1	222						

5 MDS – 送信済み&受信済み一覧

5.1 送信済み一覧

送信済み一覧(📄)は、他社に送信したデータシートのステータス情報を確認したり管理する画面です。自社の入力依頼も同様です。

検索条件および検索結果は、一つの画面の中でエリアを分けて表示しています。上部は検索条件で、下部が検索結果の一覧です。

以下の表に検索条件をまとめています：

項目名	説明
送信データシート	
名称	データシートの名称
部品番号/材料コード(社内)	部品番号/材料コードー 構成情報画面の値です。送信先情報の値ではありません。
部品番号/材料コード(社外)	部品番号/材料コードー 送信先情報画面の値です。
データシート ID / バージョン	最新バージョン、もしくは全てのバージョンを選択することができます。
量産準備初期段階の「事前申告」データシート(Preliminary MDS)	Preliminary MDS を検索するか、他のすべてのデータシートを検索するかをフィルタリングできます。
送受信日	送信先に送信された日で検索します。
最終ステータス更新日	最後に更新した日付を期間で指定して検索します。
全て	送信したデータシートを全てのステータスで検索します。
未処理のデータシート	クリックすると「未処理のデータシート」に該当するステータス(送信者による取り消しと編集中、承認済みデータ以外の全てのステータス)から検索できます。
ステータス:未開封	送信済みデータシートで、受信者が開封していないデータシートを検索

項目名	説明
ステータス:開封	送信済みデータシートで、受信者が開封したが、まだ処理されていないデータシートを検索
ステータス:承認済みデータ	送信済みデータシートで、受信者が承認したデータシートを検索
ステータス:拒否	送信済みデータシートで、受信者が拒否したデータシートを検索
ステータス:編集集中	送信済みデータシートで、自社が編集または修正中のデータシートを検索
ステータス:送信者による取り消し	送信済みデータシートで、送信者が取り消したデータシートを検索
ステータス:送信先での処理中	受信者の社内システムで現在処理されているデータシートを検索
転送データシートのみ	転送バージョンのデータシートに限定して検索
obsolete（旧式、廃型）	結果リストに obsolete（旧式、廃型）としてマークされたデータシートが含まれます
組織	特定の組織(そのユーザーがその組織に割り当てられている、またはそのユーザーがカンパニアドミニストレータの場合のみ)から送信されたデータシートのみを検索
送信先で検索可能	特定の送信先企業に送られたデータシートを検索
送信先	送信先を 1 つまたは複数指定して検索(ただし「送信先で検索可能」にチェックが入っている場合に限る)
全ての組織を含める	組織に関わらず、全ての送信先に送信されたデータシートを検索(ただしそのユーザーがその組織に割り当てられている、またはそのユーザーがカンパニアドミニストレータの場合のみ)
自社の入力依頼	
タイプ	データシートのタイプ（コンポーネント、セミコンポーネント、材料から選択）
プロジェクト	入力依頼が割り当てられたプロジェクトの名称/番号で検索

項目名	説明
入力期限	入力期限で検索。指定する場合は右の項目(From)の日付は左の項目(To)よりも前の日付にする必要があります。
ステータス	入力依頼のステータス(新規、送信済み、拒否、承認待ち、完了)で絞り込むことができます。一回の検索で一種類のステータスしか選ぶことができません。「未処理の入力依頼」にチェックを付けると、拒否と完了以外のステータスで検索できます。
企業で検索可能	このボックスをオンにすると、サプライヤー企業（＝入力依頼の受信者）で検索できます。
送信先	入力依頼の送信先ごとに検索できます。(ただし「企業から検索可能」にチェックが入っている必要があります。)
申請者	入力依頼の作成者ごとに検索できます。
割り当てられたデータシート / 名称 / 番号	自社の入力依頼に割り当てられたデータシートで検索できます。データシートを名称または番号で選択します。

サプライヤー/送信先を選択する時、企業/組織を検索する画面がポップアップで表示されます。

図 13 – 送信済み一覧

検索結果は  を使用して、結果を MS Excel にエクスポートできます。

加えて、検索結果の列は表示メニューで表示/非表示を選択できます。全てのアイテムはダブルクリックすることで構成情報タブが開きます。

5.2 受信済み一覧画面での承認/拒否

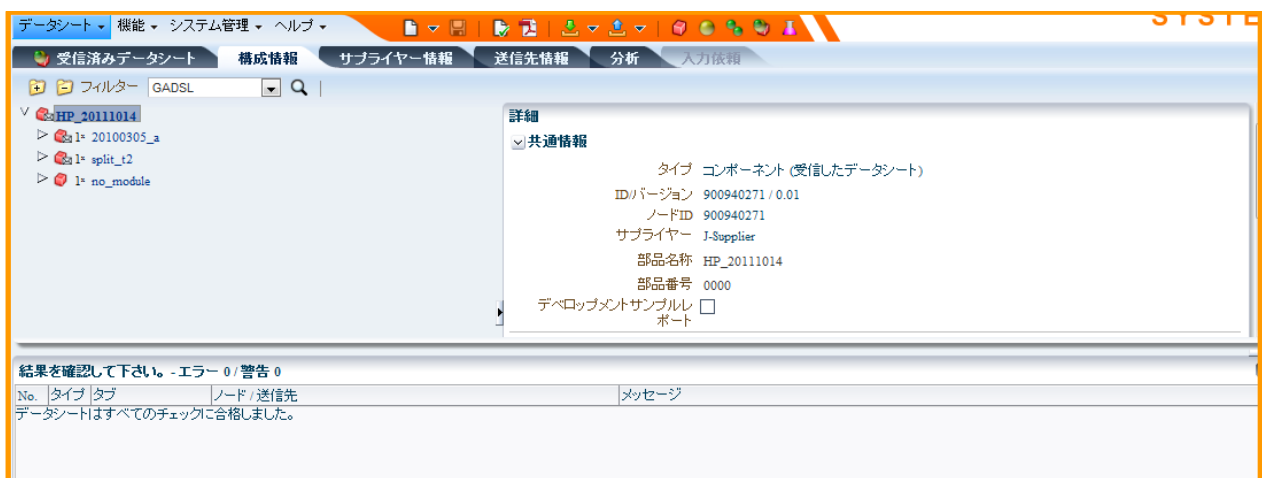
受信済み一覧()では、自社に送られてきた全てのデータシートや入力依頼を確認できます。企業で組織を使っている場合、組織に送られてきたアイテムは、そのユーザーID が組織に割り当てられていないと検索できません。検索条件は送信済み一覧と同じです。送信済み一覧との違いは、データシートを他のデータシートに参照するためには、閲覧して承認しなければならないことです。

データシートまたは入力依頼を選択してダブルクリックすると、そのアイテムの構成情報または詳細が開きます。

検索できる構成と全ての情報は、その企業のルールに基づきます([データシートの運用](#)を参照)。また、送信先情報タブもレビューされる必要があります。

データシートのレビューが完了したら、データシートメニューから「承認」または「拒否」を選択します。

「確認」を選択すると、システムでは基本的な基準を満たしているかどうかをチェックします。チェックの結果は以下のような画面になります：



ユーザーは   ボタンから「承認」か「拒否」のどちらかを選ぶことができます。またデータシートメニューからも同じオプションを選ぶことができます。

データシートの承認

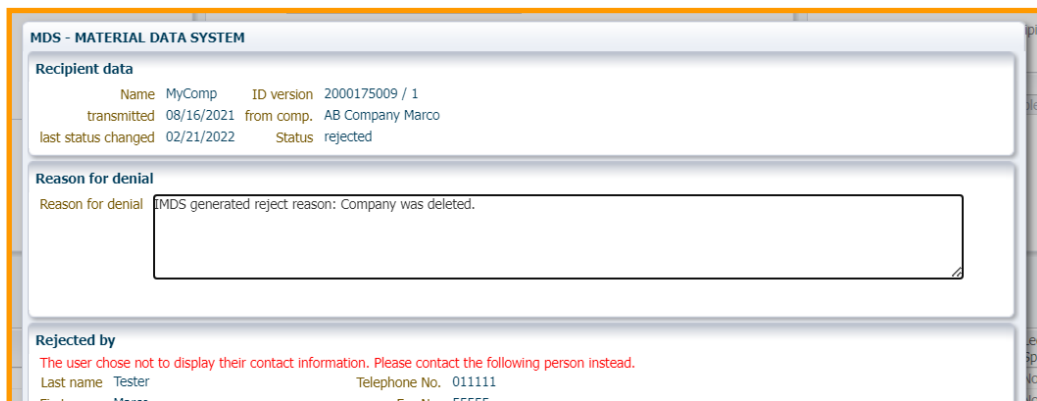
システムのエラーチェックに合格して  を選択すると、検索結果一覧のステータスがデータシートのステータスは**承認済み**に変化します。そうすることで自社の他のデータシートに参照することが可能になります。

データシートの拒否

データシートを**拒否**した場合、拒否の理由を入力する必要があります。ここには、直接理由を説明するか、サプライヤーから疑問点を質問してもらうよう伝えるかのどちらかにする必要があります。

拒否の理由を入力したら、  をクリックします。すると検索結果のステータスが**拒否**に変更になります。

データシートの検索を容易にし、複数の IMDS 企業のアカウントを持つユーザーが探しているデータシートを見つけることを可能にするために、送信者と受信者の企業 ID とサプライヤーコードの両方が電子メール本文に追加されます。



MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

Recipient data

Name	MyComp	ID version	2000175009 / 1
transmitted	08/16/2021	from comp.	AB Company Marco
last status changed	02/21/2022	Status	rejected

Reason for denial

Reason for denial: IMDS generated reject reason: Company was deleted.

Rejected by

The user chose not to display their contact information. Please contact the following person instead.

Last name	Tester	Telephone No.	011111
First name	Marco	Company No.	555555

拒否されたデータシートを右クリックして「拒否理由を表示する」を選択すると、ユーザーが個人的な連絡先を表示しないことを選択した場合、デフォルトコンタクトが表示されます。赤色のメッセージが表示されます：「ユーザーは連絡先を表示しないことを選択しました。代わりに、以下の担当者にご連絡ください。」というメッセージが赤字で表示されます。企業のデフォルトコンタクトが設定されていない場合、連絡先情報は「不明」と表示されます。

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

フォローアップ

名称

tes20110111

部品番号,材料コード

ID/バージョン

900610024 / 0.01

フォローアップ日

コメント

保存

削除

キャンセル

フォローアップの詳細画面では、フォローアップ日(mm/dd/yyyy)は入力必須で、任意でコメントを入力できます。

保存ボタンをクリックすると、フォローアップの情報が保存されます。キャンセルをクリックすると入力値は削除され、前の画面に戻ります。入力したフォローアップの情報は、フォローアップリストの画面から削除することができます。過去の期日を入力することもできますが、データシートは次のログイン時に表示されます。

検索画面の条件で「フォローアップ」のチェックボックスにチェックを付けると、フォローアップの情報が入力されているデータシートを検索することができます。

データシート

機能

システム管理

ヘルプ

受信済みデータシート

構成情報

サプライヤー情報

送信先情報

分析

入力依頼

一般 / 日付

名称

部品番号,材料コード

ID

全てのバージョン

量産準備初期段階の「事前申告」データシート(Preliminary MDS)

日付

送達日(送信/全送信)

最終ステータス変更日

ステータス

場合型

全て

未処理のデータシート

なし

シングル

未確認

開封

承認済み

拒否

編集済

送信者による取り消し

送信先での処理中

フォローアップ

サプライヤー

組織

サプライヤー

サプライヤーで検索可能

サプライヤー

企業ID/組織ID

サプライヤー検索は無効になっています。

全ての組織を含める

表示

メニュー

エクスポート

CSVファイル(.csv)としてエクスポート...

検索

タイプ	名称	ID/バージョン	部品番号,材料コード	送信日	送信元 [ID-No.]	サプライヤーコード	旧式スベア/バージョン	ステータス	最終ステータス変更日	フォローアップ日	拒否の理由
	IMDS R14.0 Check for old MDSs Test still v...	2000363494 / 1	IMDS R14.0 Check for ...	2023/01/25	IMDS Service Team [0]		-	未確認	2023/01/25	2023/08/08	
	IMDS R14.0 Check for old MDSs Test still v...	2000363494 / 1	IMDS R14.0 Check for ...	2023/01/25	IMDS Service Team [0]		-	未確認	2023/01/25	2023/08/08	
	IMDS R14.0 Check for old MDSs Test still v...	2000363494 / 1	IMDS R14.0 Check for ...	2023/01/25	IMDS Service Team [0]		-	未確認	2023/01/25	2023/08/08	
	IMDS R14.0 Check for old MDSs Test still v...	2000363494 / 1	IMDS R14.0 Check for ...	2023/01/25	IMDS Service Team [0]		-	未確認	2023/01/25	2023/08/08	

フォローアップの情報が付加されているデータシートを右クリックすると、フォローアップの情報を編集することができます。フォローアップ日とコメントは後から変更できます。また

「削除」ボタンをクリックすると、フォローアップ一覧から削除することができます。関連づけられているデータシートは削除されません。「キャンセル」ボタンをクリックすると、全ての変更は元に戻り、前の画面に戻ります。

データシート 機能 システム管理 ヘルプ

受信済みデータシート 構成情報 サプライヤー情報 送信先情報 分析 入力依頼

一般/日付

名称:

部品番号/材料コード:

ID: 全てのバージョン

デベロップメントサンプルレポート:

日付: ☐ 送受信日(送信全送信) ☐ 最終ステータス変更日

2013/05/25 ~ 2013/05/30

ステータス

結合した: ☒ 全て ☐ 未処理のデータシート ☐ なし

シングル: ☒ 未開封 ☒ 開封 ☒ 承認済みデータ ☒ 拒否 ☒ 編集 ☒ 送信者による取り消し ☒ 送信先での処理中 ☒ 表示 ☒ フォロ

データシートレポートの作成
確認
承認
拒否
拒否理由を表示する
フォローアップ

サプライヤー

組織:

サブライヤー: ☐ サプライヤーで検索可能

サブライヤー: 企業ID 組織ID

サブライヤー検索は無効になっています。
☒ 全ての組織を含める

CSVファイルでのエクスポート... 検索

ビュー: ☒ エクスポート

タイプ	名称	ID/バージョン	部品番号/材料コード	送信日	送信先	ステータス	最終ステータス変更日	フォローアップ日
32	SUS304	900000673 / 0.01	test	2008/10/30	J-OEM[900042]	開封	2008/10/30	2011/09/28

見つかったデータシート総数 1

6 IMDS –分析

分析機能は非常に強力なツールです。あるデータシートが規制物質リストにある化学物質を含んでいるかどうかを調べたり、特定の化学物質やデータシート(削除されていない化学物質およびデータシート)について"where used(どこで使われているか)"を探したりすることができます。

分析機能の最も一般的な利用法は、1つまたは複数のデータシートの GADSL または化学物質グループについてのコンプライアンスをチェックすることです。

ユーザーはツールバーのアイコン()から、または Ctrl+4 を押して"機能"メニューのデータシート検索機能を使って、データシートの分析を始めることができます。選択されたデータシートは[分析]タブをクリックすることで全ての物質、材料、材料分類について分析することができ、2つの単位(割合[%]または重量[g])から選択したいいずれかで表示できます。

ユーザーは複数のデータシートを分析することができます。これは絞り込み選択(検索オプションを使用)から、データシート検索から選択したデータシートのリストからのどちらからでも選択することができます。

データシートのリストは、以下の観点から分析することができます。

化学物質

化学物質リスト

材料分類

データシート

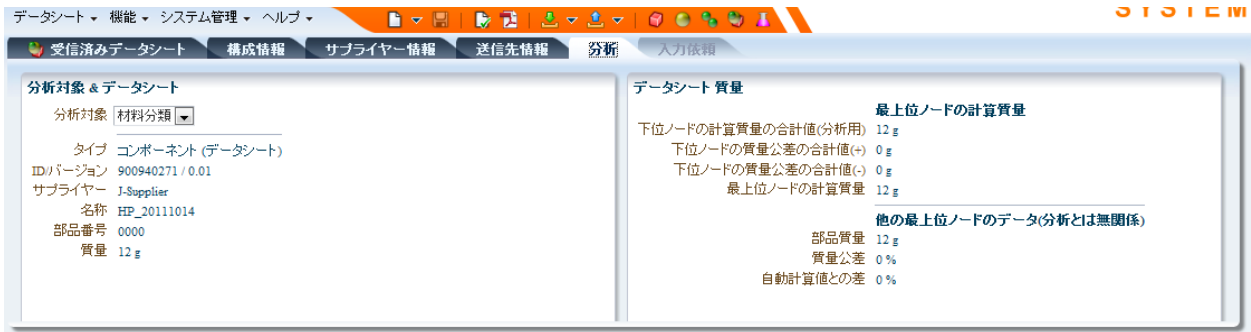
GADSL 分類/REACH SVHC

機密化学物質

6.1 データシート分析の詳細

ユーザーはデータシートを材料、材料分類および化学物質の切り口で分析した結果を部品質量、割合、部品質量(計算値¹で確認することができます。ユーザーはラジオボタンから目的の分析タイプを選択できます。

¹計算値は実測値ではなく、含まれるデータシートを参照することで計算されます。従って、実測値は計算の基準ではありません



6.1.1 材料分類での分析

このオプションでは、ユーザーはデータシートに含まれる全ての材料分類を割合[%]または重量[g]のいずれかで内訳を分析します。異なる材料で材料分類が同じある場合、材料分類毎に値が合算されます。

6.1.2 材料での分析

このオプションでは、ユーザーはデータシートに含まれる全ての材料(データシート単位)を割合[%]または重量[g]のいずれかで内訳を分析します。ツリー内の複数の場所に同じ IMDS ID の材料が使用されている場合は、IMDS ID 毎に値が合算されます。同じ内容の材料でも ID が異なる場合は、それらがそれぞれ表示されます。IMDS では名称ではなく IMDS ID を基準に分析します。

6.1.3 化学物質での分析

このオプションでは、ユーザーはデータシートに含まれる化学物質を割合[%]または重量[g]のいずれかで内訳を分析します。この分析は、化学物質のインデックスを使用して行われるため、同じ種類（例えば、鉛を含む化学物質群など）に分類されるいくつかの化学物質は、それぞれに合算されて分析されます。

6.2 Where-used 分析

分析機能の中の"where used"分析は、データシートのメンテナンスおよびレポートのために適用された強力なツールです。

この機能は、ツールバーのアイコン()または"機能"メニューのいずれかから起動することができます。

メニューを起動すると、次の画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Where-Used' analysis screen in the MATERIAL DATA SYSTEM. The interface is divided into three main sections:

- Section 1 (Top Left):** Analysis Object. It includes a dropdown for 'Analysis Target' (currently 'Material Classification'), a dropdown for 'Data Sheet Type' (currently 'Component'), and a 'Selection Type' section with radio buttons for 'Selection by Name' and 'Selection by Detail'.
- Section 2 (Top Right):** Analysis Parameters. It includes a search bar for 'Code' and 'Name'.
- Section 3 (Bottom):** Data Sheet Analysis. It includes a 'Name, ID, Version, Date' section with input fields for 'Part Name', 'Part Number', 'ID', and 'Date' (with a 'Latest Version' dropdown). It also includes a 'Development Sample Report' dropdown, a 'Date (Data Sheet Only)' section with checkboxes for 'Public/Approved Internal Date' and 'Work Date (Company Data)', and a 'Company Data Sheet, Company Data Sheet Module' section with checkboxes for 'Single Data Sheet', 'Public Data Sheet', 'Company Data Sheet', and 'Company Module'. There are also checkboxes for 'Supplier Search Possible' and 'Update Frequency'.

画面左上のエリア(スクリーンショット内 "1" のエリア)では、分析タイプ、データシートの種類と選択形式を指定します。

画面左上のエリア ("2" のエリア) において、ユーザーは分析条件を指定します。このエリアは、左上の分析タイプのエリアでの選択結果に依存して、表示内容が変化します。

中央のエリア ("3" のエリア) において、追加の条件を指定することができます。このエリアも、左上の分析タイプのエリアでの選択結果に依存して、表示内容が変化します。

分析対象

材料分類	選択された材料分類がどこで使われているのかを調べる。
データシート	選択されたモジュールやデータシートがどこで使われているのかを調べる。
化学物質	選択された化学物質がどこで使われているのかを調べる。
化学物質リスト	物質リストに載っている物質がどこで使われているかを調べる。
化学物質グループ	物質グループに属している物質がどこで使われているかを調べる。
GADSL 分類/ REACH-SVHC	GADSL 分類がついている物質がどこで使われているか/REACH-SVHC がどこで使われているかを調べる。
機密化学物質	機密扱いで、GADSL リストに掲載されている物質を分析する。

アプリケーションコード	アプリケーションコードが紐づけられている材料に含まれる物質を分析する。
含有リサイクル	リサイクル情報を持つ材料データシートを含むデータシートを検索します。リサイクルに関する質問に答えたかどうか（はい、いいえ、未回答）プレコンシューマとポストコンシューマのどの割合の範囲で探るか、リサイクル情報を持つ材料の分類を指定することができます。

ユーザーは、絞り込み選択もしくはデータシートの詳細選択のどちらかをラジオボタンで選ぶことができます。その他の分析は、前段階での選択結果を元にしたデータシートのセットをチェックします。ユーザーが一度に分析できるのは、1種類の分析タイプのみです。

分析処理のリクエスト（右下の**分析**ボタンをクリックする）を実行すると、その処理状況に関する情報が次のように表示されます。

分析ボタンをクリックすることで分析処理が開始されます。分析処理のリクエストの内容とその時のシステム負荷によっては、分析処理にかなりの時間が掛かるかもしれません。この間ユーザーはIMDSでの他の作業を続け、後で分析結果を確認することができます。分析処理は1ユーザーにつき1つの分析しか実行できません。またIMDSからログオフしてしまうと、分析結果は使用できなくなります。

Where-used 分析では、分析結果の一覧をいつでも xls ファイルにエクスポートすることができます。

6.2.1 絞り込み選択

ユーザーは、特定の組織に紐づく全てのデータシートや、特定の期間中に作成されたデータシートなど、様々な条件から分析対象のデータシートを選択することができます。非常に多く

のデータシートが分析対象に指定された場合、分析処理時間の許可範囲を超える場合があります。この場合、中央エリアにある日付指定オプションを使用して複数回の検索を行うことで、1回の検索の結果一覧数を減らすことをお勧めします。

分析条件の選択エリアで検索ボタンをクリックすると、いくつかの検索条件を指定することができ、最終的な分析結果でのデータシート数を減らすことができます。

6.2.2 詳細選択

いくつかの特定のデータシートを検索したい場合は、ユーザーは詳細選択オプションを使用して分析するデータシートのリストを作成することができます。追加ボタンを使用して、ユーザーは、コンポーネント、セミコンポーネント、材料またはデータシートを分析対象にすることができます。ユーザーが一度に一つのデータシートのみを分析することができる詳細選択での分析と違い、where-used 分析はデータシートのグループをまとめて分析することができます。

6.2.3 化学物質による where-used 分析

ユーザーが[検索]アイコンを押すと化学物質の検索画面が表示され、化学物質を選択することができます。特定の化学物質が削除されたことが原因でデータシートを再提出しなければならないような場合、削除された化学物質が存在する材料がどこにあるかを特定することができる機能として、このオプションは有効です。

分析パラメータ

化学物質 

CAS No.

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

検索条件

名称 / 別名

CAS No.

EU-Index

EINECS-No.

GADSL: 要申告

GADSL: 禁止物質

REACH-SVHC

グループ

ステータス

 検索

ビュー  エクスポート

名称	CAS No.	EU-Index	EINECS-No.	別名	GADSL / SVHC

非表示列

固定列

見つかったデータ 0

 適用  キャンセル

この検索では、中央エリアの検索条件を使用して結果を絞り込むことができます。化学物質と適切な条件を選択してから、[適用]ボタンをクリックします。

指定された化学物質が含まれている全てのデータシートが、結果一覧に表示されます。ユーザーは、下部の結果一覧のエリアからダブルクリックで選択することで、データシート分析の詳細に進むことができます。詳細な分析では、分析の単位（割合[%]または重量[g]）を選択して、データシートに含まれる全ての化学物質、材料、材料分類をチェックすることができます。

6.2.4 化学物質リストによる where-used 分析

ユーザーは、特定のリストにある物質のデータシートを分析することができます。2 つ目のエリアでは、化学物質リストをプルダウンメニューから選択できます。アプリケーションコードが必要な物質、ルノーリストの物質などが選択できます。また、化学物質の含有率(%)を指定することもできます。

最小/最大フィールドはオプションで、最小のデフォルト値は 0.0%、最大のデフォルト値は 100%で、選択された化学物質リストに従った全てのデータシートを含みます。指定されたパーセンテージは、材料内の単一の化学物質に対してのみチェックされます。

ユーザーは中央のエリアにあるオプションを使って、期間やデータシートを指定して検索結果をフィルタリングすることができます。分析ボタンをクリックすると、選択された化学物質リストに含まれる化学物質を含む材料データシートで、最小値または最大値のいずれかが指定された範囲内であれば、範囲部分を含む材料データシートの分析が開始されます。（例：範囲が 30%-50%の化学物質は、35%-45%、20%-35%、40%-60%または 10%-60%で検索すると見つかります）

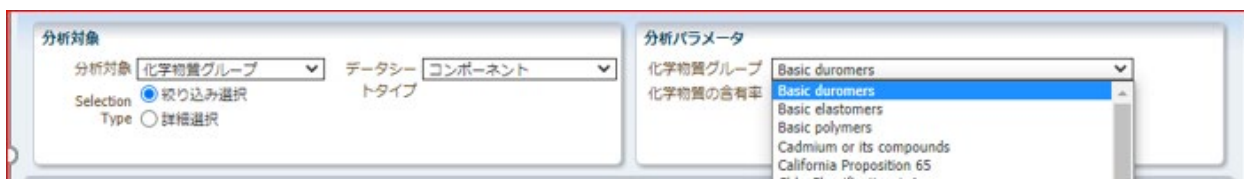


選択したデータシートの上で右クリックすると、上のスクリーンショットのようなオプションが表示されます。結果リストには、選択されたデータシートに含まれる化学物質のうち、選択された化学物質リストの一部であり、かつ範囲指定された部分が表示されます。

6.2.5 化学物質グループによる where-used 分析

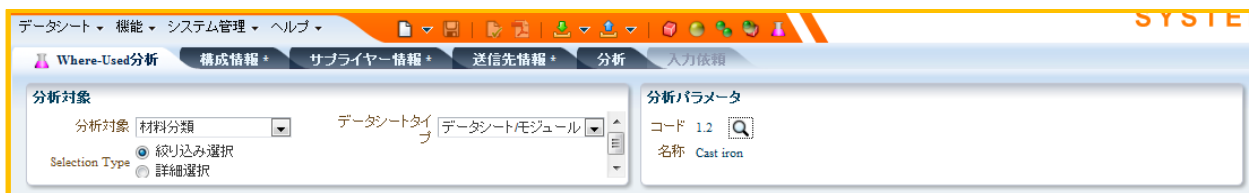
ユーザーは、分析のための化学物質グループを選択することができます。2番目のエリアでは、化学物質グループを選択することができます。また化学物質の含有率(%)を指定することもできます。真ん中のエリアでは、フィルターオプションを選択できます。分析ボタンをクリックすると、分析が開始され、結果リストには、選択されたグループの物質を含むすべての材料データシートが表示され、最小値または最大値のいずれかが指定された範囲内にある場合は、範囲部分が表示されます。(例：範囲が 30%-50%の化学物質は、35%-45%、20%-35%、40%-60%または 10%-60%を検索すると見つかります)

最小/最大フィールドはオプションで、最小のデフォルト値は 0.0%、最大のデフォルト値は 100%で、選択された化学物質グループに従った全てのデータシートを含みます。提示されたパーセンテージは材料内の単一化学物質のみをチェックします。

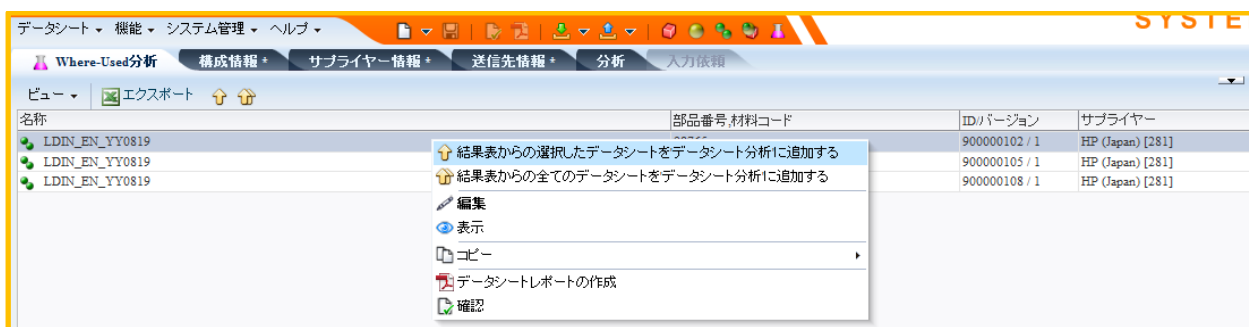


6.2.6 材料分類による where-used 分析

ユーザーは分析の際、材料分類を選択することができます。分析パラメータのエリアで[検索]アイコンをクリックするだけで材料分類を選択することができます。分析条件は中央エリアに選択できます。[分析]ボタンをクリックすると分析が開始され、選択している材料分類に属する全てのデータシートが表示されます。



下のスクリーンショットに示すように、選択したデータシート上で右クリックすることで、作業を進めることができます。

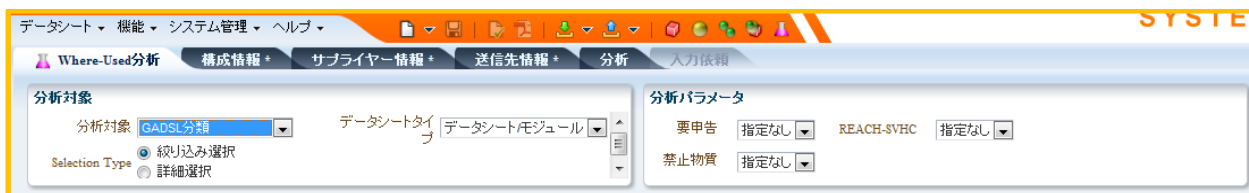


6.2.7 データシートによる where-used 分析

ユーザーは選択したデータシートまたはモジュールが、どのデータシートまたはモジュールに使用されているかを分析することができます。分析パラメータのエリア、および中央エリアで、さらに分析条件を入力することができます。[分析]ボタンをクリックすると、選択したデータシート/モジュールを含む、全てのデータシート/モジュールが表示されます。

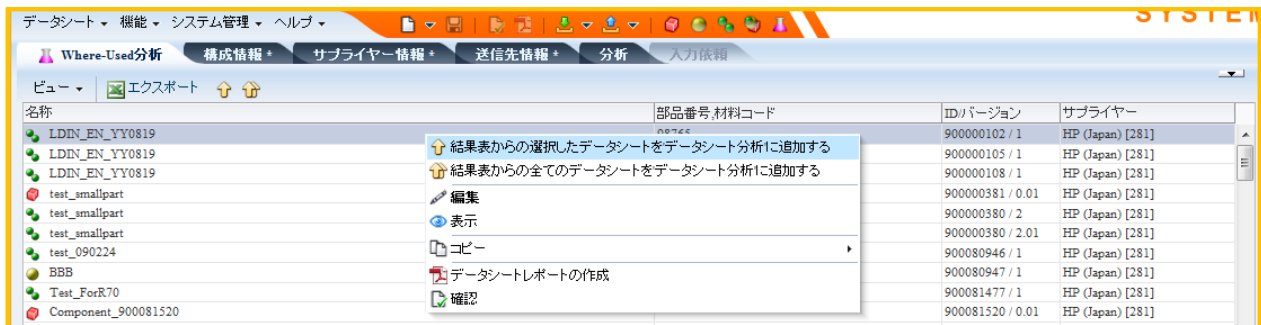
6.2.8 GADSL / REACH-SVHC による where-used 分析

ユーザーは GADSL リストで要申告、禁止あるいはその両方を求められている化学物質を含むデータシートを、分析することができます。また、REACH-SVHC についても分析することができます。中央エリアの分析条件は適切な条件を提供するために、分析するデータシートの種類によって表示する選択肢を調整します。[分析]ボタンをクリックすると、分析条件に一致するデータシートが表示されます。



ダブルクリックすることによって、分析条件(禁止、要申告)に従ってデータシート内の全ての化学物質を表示し、可能であればデータシートを編集できます。選択したデータシートを右

クリックすることによって、ユーザーは以下のようにいくつかのメニューを表示することができます。



6.2.9 アプリケーションコードによる where-used 分析

この分析により、特定のアプリケーションコード（例：ベアリングシェル中の鉛）を持つすべてのデータシートを、データシートのグループ内で検索することができます。アプリケーションに関連する化学物質の含有率(%)を指定することもできます。中央のエリアではフィルターオプションを選択できます。分析ボタンをクリックすると、分析が開始され、結果リストには、選択されたアプリケーションコードを含むすべての材料データシートが表示されます。また、最小値または最大値のいずれかが指定された範囲内にある場合は、範囲部分が表示されます。（例：35%-45%、20%-35%、40%-60%または 10%-60%で検索すると、範囲が 30%-50%の化学物質が見つかります）

最小/最大フィールドはオプションで、アプリケーションコードに従った全てのデータシートを含むように、最小のデフォルト値は 0.0%、最大のデフォルト値は 100%となっています。

記入されたパーセンテージは、材料内の単一の化学物質に対してのみチェックされます。

The screenshot shows the 'Where-Used' analysis configuration window. It is divided into two main sections: '分析対象' (Analysis Target) and '分析パラメータ' (Analysis Parameters). In the '分析対象' section, '分析対象' (Analysis Target) is set to 'アプリケーションコード' (Application Code) and 'データシートタイプ' (Data Sheet Type) is set to 'コンポーネント' (Component). The 'Selection Type' is set to '絞り込み選択' (Filter Selection). In the '分析パラメータ' section, 'アプリケーション' (Application) is set to '化学物質の含有率' (Chemical substance content rate) with a search icon. The '化学物質の含有率' (Chemical substance content rate) is set to '0.0' to '100.0 %'.

6.2.10 含有リサイクルによる where-used 分析

ユーザーは、このリサイクル材を含む材料が使用されている場所を分析するために、「含有リサイクル」を選択することができます。左側の分析パラメータでは、リサイクルの分析パラメータフィールドを設定できます。

1-材料にリサイクル材が含まれますか? : 「はい」「いいえ」「未回答」を含むドロップダウンリストから 1 つの値を選択できます。

2-リサイクル含有量：プレコンシューマまたはポストコンシューマの割合の範囲は、ドロップボックスから(>=または<=)を選択し、割合の値を挿入することで定義できます。

3- 材料分類 No.：この分析では、リサイクル材料の分類を定義することができます。この材料分類は、材料分類検索画面で選択することができ、この材料分類のリサイクル材料を含むデータシートのみを検索することができます。

The screenshot shows the '分析対象' (Analysis Target) section with '含有リサイクル' (Contains Recycled) selected. The 'データシートタイプ' (Data Sheet Type) is set to 'コンポーネント' (Component). The '分析パラメータ' (Analysis Parameter) section shows 'Recycle content' set to '0.0 %'. The '材料分類No.' (Material Classification No.) is set to '未回答' (No answer). The 'データシート分析' (Data Sheet Analysis) section shows '名称, ID, バージョン, 日付' (Name, ID, Version, Date) as search criteria. The '他社データシート, 自社データシート/モジュール' (Other company data sheet, In-house data sheet/module) section shows '承認データシート' (Approved data sheet) and '公開データシート' (Public data sheet) as search criteria. The 'サプライヤー' (Supplier) section shows '企業ID/組織ID' (Company ID/Organization ID) as search criteria.

6.2.11 プロセスケミカルの存在形態による where-used 分析

参照されている「プロセスケミカルの存在形態」に関する新しい分析オプションが、where-used 分析画面に導入されます：

The screenshot shows the 'Where-Used 分析' (Where-Used Analysis) section. The '分析対象' (Analysis Target) is set to 'プロセスケミカルの存在形態' (Process chemical existence form). The 'データシートタイプ' (Data Sheet Type) is set to 'コンポーネント' (Component). The '分析パラメータ' (Analysis Parameter) section shows 'プロセスケミカルの存在形態' (Process chemical existence form) and '化学物質の含有率' (Chemical substance content rate) set to '0.0 ~ 100.0 %'.

プロセスケミカルの存在形態をデフォルト選択(いずれか)のままにした場合、指定された含有率に該当するプロセスケミカルについて、存在形態が空白でないものが選択されているすべてのデータシートが検索されます。

代わりに、3つの利用可能なプロセスケミカルの存在形態(意図的使用、反応残留物、不純物)のいずれかを選択した場合、指定された含有率に該当する物質について、その選択された化学物質の存在形態が設定されているプロセスケミカルを少なくとも1つ含むデータシートのみが検索されます。

これらの新しい検索条件を使用して Where-Used 分析で見つかったデータシートを開くと、同じ条件でツリー検索(2.3.8 ツリー検索条件に基づくツリーの展開を参照)が自動的に実行され、該当するプロセスケミカルの参照の最初の一致箇所が選択されます。

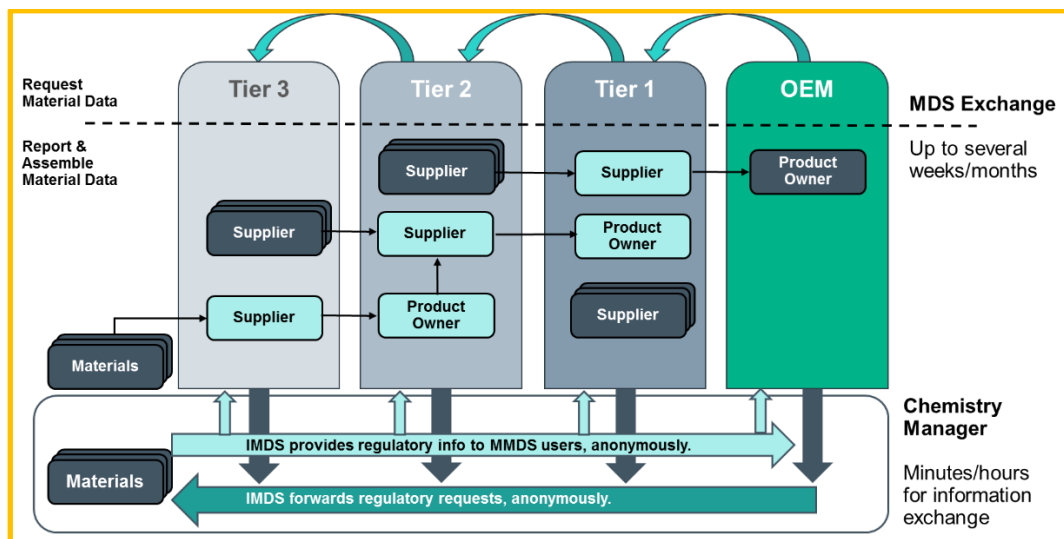
7 IMDS ケミストリーマネージャー

7.1 概要

"Chemistry Manager"と呼ばれる新しい IMDS の機能は、REACH Annex XIV 規制情報、バイオサイド製品規則(BPR)、中鎖塩素化パラフィン(MCCP)をサプライチェーン内でより早く企業に提供することを可能にします。またそれは既存のデータシートの交換プロセスに影響せず、追加の規制情報と関連データシートを紐付けたまま提供できます。

次の図は、入力されリリースされた規制情報が、既存のデータシートレポーティングがサプライチェーンプロセスに紐付いている間は、すぐに関連データシートのあらゆる使用に利用できるようになることを示しています。

欧州経済領域(EEA)のために必要な規制情報の入力を依頼することは、欧州連合(EU)内のサプライチェーンで、材料や製品が使用されている企業には必要になります。材料や製品が EU で使用されていない場合、あなたの企業はこれらの EEA 規則に関連した規制情報の入力依頼を受けることはありません。



7.2 ユーザーの取り扱い

ユーザーがデータシートの内容を見ることができ、適切な権限を持っている場合は、添付されている全ての規制情報も見ることができます。既存の"機密扱い化学物質の閲覧可"のフラグと同様の新しいフラグが導入されます。このフラグが設定されたユーザーだけが、データシー

トの規制情報を見たり、編集したり、作成したりすることができます。フラグはカンパニーアドミニストレーターがシステム管理のユーザー画面で設定することができます。(自身のユーザーIDにフラグを設定することもできます) 権限のないユーザーは材料データシートの公開権限をリクエストできるのと同様の方法で権限をリクエストすることができます。EEA 外のサプライチェーンで働く IMDS 登録企業はケミストリーマネージャー拡張機能の影響を受けません。そのため、これらの企業は Chemistry Manager フラグがついたユーザーは必要ありません。また標準のエラーチェックでも影響を受けません。

化学物質の検索やデータシート構成情報画面で化学物質の閲覧をする時、規制情報はユーザーがケミストリーマネージャー 権限を持っている場合のみ表示されます。

7.3 規制情報の入力

規制情報は常にツリー構造の最下位に提供されます。一般的には、全ての規制情報は、モジュールか、データシートに入力することができ、子ノードも同じです。また規制情報はモジュール ID または MDS ID に保存されます。子ノードの場合は親ノードのモジュール ID または MDS の ID が使用されることになります。材料分類 1~4(金属)、7.2(セラミックス/ガラス) および 7.3(他の複合材(例えば、摩擦ライニング))に該当する材料は、BPR 規制の対象外です。

化学物質が BPR 関連の規制データを必要とする場合、この情報は(材料分類が BPR 規制に関連している場合) 化学物質を直接参照している材料に提供されます。親材料を持った子材料に規制情報が添付されている場合、親材料に対する規制情報は必要ありません。

コンポーネント/セミコンポーネントに提供された REACH 情報に対しても同じです: この材料が他の材料に参照されていても、REACH 関連材料の参照を含んだ最下位のコンポーネント/セミコンポーネントに入力します。

ある化学物質が MCCP に関する規制情報を必要とする場合、この情報はその化学物質を直接参照する材料に提供されます。親材料の子材料に規制情報が添付されている場合、親材料の規制情報は必要ありません。

全ての規制情報は MDS ID に保存されます。これは同じデータシートの異なるバージョン全てが、それらに割り当てられた常に同じ規制情報を持つことを意味します。ユーザーが現在のバージョンと同じ規制関連の参照が含まれていない古いバージョンを見ている場合、不一致とその理由を通知します。

全ての規制情報は、影響のあるデータシートを作成した企業によってのみ入力できます。

受信データシートのコピーについては、必要な規制情報を入力する責任はコピーした企業にあることを意味します。(他社データシートの参照データを維持するのではなく、それ

ぞれ含まれた参照データに新しいモジュールが作られた) リリース 9.0 より古いコピーについては、これもまた作成されたモジュールに暗に適用されます。データシートが(新しい MDS ID で) 新規データシートとしてコピーされた場合は、最新バージョンの利用可能な規制情報も同様にコピーされます。この規制情報がすでにリリースされていた場合、新しく作成されたデータシートでは再び編集できるようになります。すでに編集可能なバージョンの場合はこのステータスのままです。規制情報の以前のバージョンはコピーされません。新しいデータシートが作成されると、コピーされた規制情報は、(編集可能なバージョンであっても) 読み取り専用モードで表示されます。なぜなら少なくとも一つのリリース済みバージョンがあれば、データシートは規制情報だけは持つことができるからです。新しいデータシートのバージョンがリリースされた(例えば、化学物質が追加や削除された) 時、規制情報は更新され編集可能になります。

転送データシートはそのルールを免除されています。なぜなら、IMDS は転送データシートにオリジナルデータシートへのマッピングを保持するからです。したがって、コピーであっても転送データシートにオリジナルデータシートの所有者が提供した規制情報を複製することが可能です。

材料の最新バージョンに機密扱いの GADSL 物質がある場合、規制情報の新規バージョンはリリースできません。全ての GADSL 物質の機密指定を解除するために、ユーザーはまず材料の新規バージョンを作成しリリースする必要があります。REACH Annex XIV、BPR、MCCP の物質が GADSL に含まれていない場合、規制情報は必要なく、機密扱いにすることができます。

最新バージョンのデータシートに選択された規制タイプに関連する参照が含まれていない場合(たとえば、BPR 規制情報の編集時に BPR 物質が含まれていない場合)、これは詳細に表示され、この規制情報について回答されるべき質問はありません。そのような空の規制情報は、データシートがもはや特定の規制タイプに適格ではないとマークするためにリリースされることがあります。(下記参照)

IMDS Release 12.0 より前に作成された、BPR に適格と見なされない材料分類を持つ材料データシートの BPR 規制情報にも同じことが当てはまります。たとえそのようなデータシートがまだ BPR 物質を含んでいても、新しいバージョンの規制情報を作成するときに質問に回答する必要はありません。ケミストリーマネージャーウィザードは材料分類が適格ではないというヒントを表示し、空の規制情報は上記のようにリリースされます。

7.4 バージョン

規制情報は、規制が添付されているデータシートのバージョンとは別のバージョンを持っています。各 MDS ID において、各々の異なる規制(REACH, BPR, MCCP)のために複数のバージョンが存在し得ますが、編集可能なバージョンは一つだけです。

新しいデータシートを作成するとき、規制情報のバージョンはデフォルトでは作成されません。データシートは規制情報が入力される前にリリースされなければなりません。この情報を編集した後、全ての入力データまたは欠落したデータを検証するためにチェックが実行されます。エラーがない場合、ユーザーは進めることができ、バージョンはリリースされます。

リリースされると、新しい規制情報はサプライチェーン全体ですぐに有効になります。（皆が利用可能であるために拒否することができない公開データシートと同じように）膨大な数の関係者がいる可能性があることから、承認や拒否のプロセスはありません。

規制情報のバージョンは常に、有効なリリース済み最新バージョンのデータシートを参照しているため、データシートに少なくとも一つの有効なリリース済みバージョンがある場合に、規制情報をリリースすることができます。

7.5 IMDS 標準データシートの特別な取り扱い

BPR 規制情報

標準材料データシートを参照する際には、材料分類がBPR 規制に関連している限り、該当BPR の規制情報を提供する必要があります。

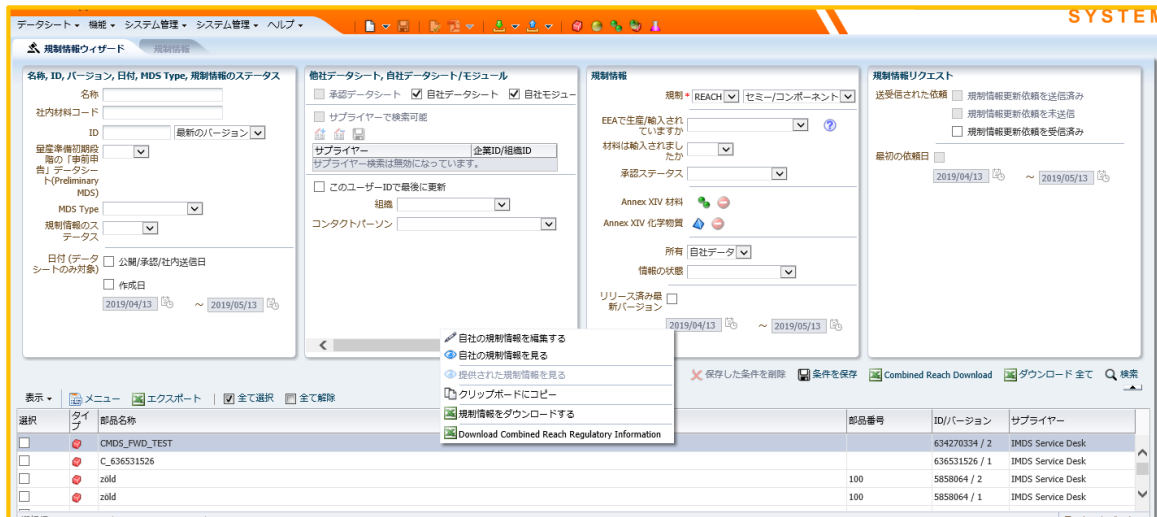
REACH Annex XIV 規制情報

標準材料データシートを参照する際には、該当 REACH Annex XIV の規制情報を提供する必要があります。

7.6 ウィザード

この拡張の中核機能はケミストリーマネージャーウィザードです。ウィザードを使用して、ユーザーは規制関連データを含んだデータシートを検索することができ、データシートをロードせずに直接修正することができます。ユーザーは、全ての関連する参照を含んだ規制情報を修正するために、一度に複数のデータシートを表示することができます。

このウィザードは新しい画面で、一般的なデータシート/モジュール検索と同様の検索画面を提供している、機能メニューにて利用可能です。ユーザーは規制情報を入力したい特定のデータシートを検索することができ、また規制情報の更新を依頼することができます。検索結果には、規制情報が入力できる、有効なリリース済み最新バージョンのみが表示されます。規制情報が子ノードで入力できる場合は、親のデータシートはこのリストでも利用可能です。



以下の検索条件が利用できるようになります。（規制情報の古いバージョン内のデータを検索することはできません）：

- "名称, ID, バージョン, 日付"は他のデータシート検索と同じような見た目と同じように動作します。（構成情報のツリーのどこにでも）規制情報を含んだデータシートへの参照を含んだ、ユーザーに見えるデータシートを検索するのに使用します。

- "他社データシート, 自社データシート/モジュール" 条件ボックス

- ・ユーザーが[承認データシート]をチェックした場合、所有権は[提供された]に設定され、[自社データシート]または[自社モジュール]がチェックされている場合、所有権は[自社データ]に設定されます。

- ・"MDS Type"：ユーザーがいずれの MDS タイプも選択せず、デフォルト（空白の入力フィールド）を選択したままにした場合、検索結果にはすべての MDS タイプ（材料、コンポーネント、およびセミコンポーネント）が含まれます。ユーザーが「材料、コンポーネント、セミコンポーネント」のいずれかを選択した場合、検索結果には選択したタイプのデータシートのみが含まれます。

- ・「規制情報ステータス」：ユーザーが「完了」を選択すると、検索は完全な規制情報を提出した（下位階層のすべての規制情報が完成した）データシートだけを検索し、それから「一部提出」を選択した場合、検索は一部の規制情報が提出されたデータシートを検索します。また、ユーザーがデフォルトの「空白値」を選択したままにしていると、検索結果にはすべてのデータシートが含まれます。

- "規制情報"ボックス は、構成情報ツリー内に参照されたデータシートに含まれた規制情報を検索条件に定義するために使用します。ユーザーは検索する規制を選択できます。選択

に応じて、利用できる検索フィールドの一部は変化します。常に表示されるフィールドは以下になります：

The image displays three screenshots of the MATERIAL DATA SYSTEM interface, illustrating the regulatory information forms available.

Top Left Screenshot: Shows the '規制情報' (Regulatory Information) form for REACH. It includes fields for '規制' (Regulation) set to REACH, 'セミ/コンポーネント' (Semi/Component), and '材料' (Material). It also has checkboxes for 'EEAで生産/輸入されていますか' (Produced/Imported in EEA), '材料は輸入されましたか' (Material imported), and '承認ステータス' (Approval status). There are also fields for 'Annex XIV 材料' (Annex XIV Material) and 'Annex XIV 化学物質' (Annex XIV Chemical substance), and a '所有' (Ownership) dropdown set to '自社データ' (Company data). A date range filter is shown at the bottom: 2019/04/13 ~ 2019/05/13.

Top Middle Screenshot: Shows the '規制情報' (Regulatory Information) form for REACH, similar to the first one, but with a different set of options.

Top Right Screenshot: Shows the '規制情報' (Regulatory Information) form for BPR. It includes fields for '規制' (Regulation) set to BPR, 'まだ生産されていますか' (Still produced), 'バイオサイド目的で追加されましたか' (Added for bioicide purpose), '望ましい殺菌特性' (Desired fungicidal properties), 'プロダクトタイプ' (Product type), and 'BPR 化学物質' (BPR Chemical substance). It also has a '所有' (Ownership) dropdown set to '自社データ' (Company data). A date range filter is shown at the bottom: 2019/04/13 ~ 2019/05/13.

Bottom Screenshot: Shows a detailed view of the '規制情報' (Regulatory Information) form for BPR. It includes a '規制' (Regulation) dropdown set to BPR, and a 'まだ生産されていますか' (Still produced) dropdown. It also has a 'バイオサイド目的で追加されましたか' (Added for bioicide purpose) dropdown, '望ましい殺菌特性' (Desired fungicidal properties), 'プロダクトタイプ' (Product type), and a 'BPR 化学物質' (BPR Chemical substance) dropdown. A '所有' (Ownership) dropdown is set to '自社データ' (Company data). A date range filter is shown at the bottom: 2019/04/13 ~ 2019/05/13. The form also includes a '規制情報リクエスト' (Regulatory information request) section with checkboxes for '送受信された依頼' (Received request), '規制情報更新依頼を送信済み' (Sent request for regulatory information update), '規制情報更新依頼を不送信' (Did not send request for regulatory information update), and '規制情報更新依頼を受信済み' (Received request for regulatory information update). A date range filter is shown at the bottom: 2019/04/13 ~ 2019/05/13.

共通	選択肢	説明
規制	REACH BPR	検索する規制 "REACH"の場合、"コンポーネント"と"材料"を選択するための 2 つ目のドロップダウンフィールドがあります。 "BPR"の場合、検索する 1 つ以上のプロダクトタイプを選択するためのドロップダウンフィールドがあります。ドロップダウンリストには、BPR 材料分類に関連するプロダクトタイプが含まれています。
所有	自社（デフォルト） サプライヤー	検索するものが、自社データシートの規制情報か、サプライヤーからの参照の規制情報かの定義 例えば、"自社"の規制情報の検索では、自社データシートの参照の規制情報（ユーザーが新しいバージョンを作成できる規制情報）のみが表示されます。
情報のステータス	全て（デフォルト） まだ提供されていない 不完全 完全	規制情報の状態です。 アイコン (🔴, 🟡, 🟢) に対応した、後の 3 つのオプションはこのドキュメントの 7.7.1 で後述します。
リリース済み最新バージョン	-	リリース済み最新バージョンに対して、“日付検索を有効にする”というボックスにチェックを入れることができます。 有効にした場合、リリース済み最新バージョンがこの時間枠内にリリースされた規制情報だけを検索することができます。

REACH コンポーネント	選択肢	説明
EEA で生産/輸入されていますか	はい いいえ 既に製造されていませんが、在庫から入手できます	7.6.7 の記載と同じ名称の規制情報フィールドに対応しています。
材料は輸入されましたか	はい いいえ	7.6.7 の記載と同じ名称の規制情報フィールドに対応しています。
承認ステータス	完成 進行中 ? 意図がない 材料メーカーにより	7.6.7 の記載と同じ名称の規制情報フィールドに対応しています。
Annex XIV 材料	-	コンポーネントに含まれる特定の材料を選択することができます。 "材料"ボタンをクリックすると、検索画面が開きます。 システムは Annex XIV 化学物質を含まない材料を選択しないようにすることができません。この場合、単純に検索は失敗します。
Annex XIV 化学物質	-	ユーザーはセミ-/コンポーネントに含まれる特定の物質を選択することができます。 "化学物質検索"ボタンをクリックすると、REACH Annex XIV の化学物質グループが検索条件として定義されている検索画面が開きます。

REACH 材料	選択肢	説明
まだ生産をされていますか	はい いいえ	7.6.6 の記載と同じ名称の規制情報フィールドに対応しています。
EEA で生産	はい いいえ	7.6.6 の記載と同じ名称の規制情報フィールドに対応しています。
承認ステータス	完成 進行中（最終申請日より後に申請された） ？ 意図がない 進行中（最終申請日より前に申請された）	7.6.6 の記載と同じ名称の規制情報フィールドに対応しています。
Annex XIV 化学物質	-	材料に含まれる特定の化学物質を選択することができます。 "化学物質"ボタンをクリックすると、検索条件として Annex XIV 化学物質グループが設定された検索画面が開きます。
Annex XIV ステータス	使用停止日 最終申請日	使用停止日または最終申請日を検索するかどうかの選択を可能にします。 "使用停止日"または"最終申請日"を選択した場合、2 つ目のドロップダウンメニューで一つまたは複数の日付を選択することができます。 ドロップダウンから選択できる日付のリストは、データベースからの実際の使用停止日/最終申請日だけが表示されます。 化学物質が特定されていない場合、このオプションは無効です。

BPR 材料	選択肢	説明
まだ生産されていますか	はい いいえ	7.6.5 の記載と同じ名称の規制情報フィールドに対応しています。
バイオサイド目的で追加されましたか	はい いいえ	7.6.5 の記載と同じ名称の規制情報フィールドに対応しています。
バイオサイド目的が望まれますか	はい いいえ	7.6.5 の記載と同じ名称の規制情報フィールドに対応しています。 （"完成品や製品にバイオサイド目的は望まれていますか" というフルの長さの質問は、この検索オプションによって占められるスペースを削減するためにツールチップで表示されます。
プロダクトタイプ	全ての利用可能なプロダクトタイプから複数選択 （7.6.5 に記載されているものと同様）	右側のフィールドで「すべて選択」を選択すると、選択されたすべてのプロダクトタイプが同じ物質に使用されている規制情報のみが表示されます。 「1 つ以上」を選択すると、1 つの物質に対して 1 つまたはすべての選択されたプロダクトタイプが使用されているすべての規制情報が表示されます。
BPR 化学物質	-	材料に含まれる特定の化学物質を選択することができます。 "化学物質"ボタンをクリックすると、検索条件として BPR 化学物質グループが設定された検索画面が開きます。

"規制依頼"条件ボックス では、送受信した更新依頼の規制情報検索をさらに絞り込むことができます。

規制依頼	選択肢	説明
送受信された依頼	規制更新依頼を送信済み 規制更新依頼を未送信 規制更新依頼を受信済み	これらのチェックボックスを使用して、ユーザーは自社がすでに依頼を送信または受信したが、まだ回答していない規制情報を検索することができます。 所有を変更すると、「送受信された依頼」のすべての選択がリセットされます。 [送信済み...]オプションは、規制情報ボックスの所有権が "提供された" の場合にのみ使用できます。 [Received...]オプションは、規制情報ボックスの所有権が "自社データ" の場合にのみ使用できます。
最初の依頼日	-	最初の依頼が送信/受信された時間枠を指定することができます。 このオプションは上述したチェックボックスの一つが選択されたときだけ、利用可能です。

7.6.1 データシートの規制情報の読み込み

検索結果は各行の左にあるチェックボックスをチェックすることで、複数選択ができます。ユーザーがより迅速に適切な行を選択できるように、"全てを選択"と"全てを選択解除"ボタンが利用可能です。

コンテキストメニュー ("メニュー"または右クリックからアクセス可能) より、ユーザーは"自社の規制情報を編集"または"自社の規制情報を表示"オプションを選択することができます。これらのオプションの一つを選択すると2つ目のタブ ("規制情報") が開きます。そこには選択されたデータシートにて、規制情報を入力したり修正したりできる自社データシートと子ノードへの全ての参照が表示されます。ユーザーが「所有」で"提供された"を選択した場合、"規制情報"タブには他社データシートへの参照とその中にある参照だけが表示されます。

7.6.2 レポートニング

データタブ内に見える規制情報は、全てエクセル形式(XLSX)のレポートとしてダウンロードすることもできます。

このようなレポートを作成するには2つの方法があります:

1. ユーザーはウィザード検索のコンテキストメニューにある"規制情報のダウンロード"オプションを使用して、特定のデータシートのレポートを作成することができます。

2. "検索"ボタンの横の"全てをダウンロード"ボタンで、現在の検索条件で見つかった全てのデータシートの規制情報をダウンロードすることができます。

エクセル形式のレポートは、各々の子の規制情報毎に一行あります。(例えば、材料内のBPR化学物質毎、またはコンポーネント内のREACH材料毎) 親情報を含んだカラムには、これらの行それぞれに同じ情報が入っています。レポートは(ウィザードで検索することができる) トップデータシートについての情報も含んでいます。各トップデータシートは複数の親データシートを含めることができるので、その情報も複製されます。

7.6.3 検索条件の保存

検索画面には、カスタマイズしたデフォルトの検索設定を保存するためのオプションがあります。検索ウィザード画面を再度開いたときにデフォルトの検索条件になるようにフィールドを保存するためには

1. 入力した検索条件を保存するには、[条件を保存]をクリックします。 ボタンをクリックすると確認のためのポップアップメッセージが[はい]と [いいえ]ボタンで表示されます。ユーザーが "はい"を押すとデフォルトの検索条件が保存され、すでに保存されている場合は更新されます。 検索ウィザード画面を開くたびに、保存されている条件が表示されます。

2. [保存した条件を削除]をクリックして、保存した検索条件を削除します。 このボタンをクリックすると、確認のためのポップアップメッセージが[はい]ボタンと[いいえ]ボタンで表示されます。ユーザーが[はい]を押すと、保存された検索条件が削除され、検索ウィザード画面が現在のシステムデフォルトの検索条件にリセットされます。



7.6.4 自社の規制情報の編集 – データタブ

このタブでは、ユーザーはデータを入力したい規制を選択できます。その後全てのデータシートの概要と関連した子ノードと参照が提示されます。規制情報を入力する必要がないノードや参照は、このビューでは表示されません。いま規制情報が必要とされているノードや参照が表示されます。（例えば、化学物質が規制化学物質グループに追加されたなどの理由）

関連データを含んだ各データシート（例えば、BPR 関連物質を含んだ材料データシート）では単一の行がテーブルに表示され、含まれた参照を表示するために拡大することができます。規制に応じて、親データシートと子参照では異なるフィールドが入力可能になります。

テーブルは（選択したデータシートの数やサイズに応じて）大量のデータを含むことができるので、ユーザーは検索条件にフィルターをかけることができます。フィルターを選択すると、フィルター条件に合う行だけが表示されます。しかしながら、フィルターが広いカテゴリのサブアイテムである場合、広いカテゴリアイテムも表示されます。（例えば、化学物質に対するフィルターを入力すると、親材料も見えます）

次のフィルターが利用可能です：

CAS No.

化学物質グループ

最新更新日

プロダクトタイプ（利用可能なバイオサイドのデータシートのみ）

7.6.5 自社の規制情報の編集- BPR

各カラムのヘッダーには、より詳細に質問の意味を説明するツールチップテキストが含まれています。説明は次のとおりです：

カラムヘッダー	ツールチップ
まだ生産されていますか	この材料はまだ生産されていますか
バイオサイド目的で追加されましたか	この有効物質はバイオサイド目的で追加されていますか
完成品/製品にバイオサイド目的は望まれていますか	完成品や製品にバイオサイド目的は望まれていますか
プロダクトタイプ	この材料の中の有効物質にはどのプロダクトタイプが適用されますか

最初の 3 つの質問は、"はい"と"いいえ"（まだ質問に回答していない場合は空欄）の選択肢のみが提供されていますが、プロダクトタイプは複数のオプションが提供されています。

プロダクトタイプで最も可能性の高い選択肢はドロップダウンリスト(PT 2, 6, 7, 8, 9)の上位にあります。

ユーザーは一度に複数のプロダクトタイプを選択することができます。選択可能なプロダクトタイプは、現在の材料分類に有効なものだけです。

最初の質問（この材料はまだ生産されていますか）は他のフィールドの状態に影響がありません。

2 番目の質問（バイオサイド目的で追加されましたか）が未回答または"いいえ"と回答した場合、3 番目と 4 番目の質問のフィールドが無効になり、これらの質問に回答することができません。

3 番目の質問（完成品/製品に殺生性が必要ですか）が未回答または"いいえ"と回答した場合、4 番目の質問のフィールドが無効になり、この質問に回答することができません。

7.6.6 自社の規制情報の編集- REACH (材料)

各カラムのヘッダーにはより詳細に質問の意味を説明するツールチップテキストが含まれています。説明は次のとおりです:

カラムヘッダー	ツールチップ
まだ生産されていますか	この材料はまだ生産されていますか
EEA で生産	少なくとも一つの生産拠点は EEA にありますか。またはこの材料は EEA に輸入されますか
承認ステータス	承認のステータスは何ですか。

最初の 2 つの質問は、"はい"と"いいえ"（まだ質問に回答していない場合は空欄）の選択肢のみが提供されていますが、承認ステータスは複数のオプションが提供されています。ツールチップテキストで、それぞれの意味のより詳細な説明があります:

承認ステータス	ツールチップ
完成	意図された用途について認可されている
進行中（最終申請日より後に申請された）	最終申請日より後に認可申請されています。- ECHA（欧州化学物質庁）にて審査中
?	認可申請されたかどうか、または認可申請を行うかどうか不明な状態
意図がない	認可申請を行う意図がない

進行中（最終申請日より前に申請された）	最終申請日より前に認可申請されています。 - ECHA（欧州化学物質庁）にて審査中
---------------------	---

最初の質問（まだ生産されていますか）が未回答または"いいえ"と回答した場合、2 番目と 3 番目の質問のフィールドが無効になり、これらの質問に回答することができません。

2 番目の質問（EEA 生産）が未回答または"いいえ"と回答した場合、3 番目の質問のフィールドが無効になり、この質問に回答することができません。

7.6.7 自社の規制情報の編集- REACH (コンポーネント)

各カラムのヘッダーにはより詳細に質問の意味を説明するツールチップテキストが含まれています。説明は次のとおりです:

カラムヘッダー	ツールチップ
EEA で生産/輸入されていますか	製品が EEA で生産されているか、または EEA に輸入されている場合にのみ、答えは「はい」になるはずで
材料は輸入されましたか	この材料は EEA に輸入されましたか
承認ステータス	承認のステータスは何ですか

2 番目の質問は、"はい"と"いいえ"（まだ質問に回答していない場合は空欄）の選択肢のみが提供されていますが、他の質問は複数のオプションが提供されています:

EEA で生産/輸入されていますか
はい
いいえ
既に製造されていませんが、在庫から入手できます

利用可能な承認ステータスも、ツールチップテキストで、それぞれの意味のより詳細な説明があります:

承認ステータス	ツールチップ
完成	意図された用途について認可されている
進行中 (最終申請日より後に申請された)	最終申請日より前に認可申請されています。 - ECHA（欧州化学物質庁）にて審査中
?	認可申請されたかどうか、または認可申請を行うかどうか不明な状態
意図がない	認可申請を行う意図がない
材料メーカーにより	最終申請日より前に材料メーカーによって意図された用途について認可申請されています。 - ECHA（欧州化学物質庁）にて審査中

最初の質問（EEA で生産/輸入されていますか）が未回答、または"いいえ"か"すでに製造されていません"と回答した場合、2 番目と 3 番目の質問のフィールドが無効になり、これらの質問に回答することができません。

2 番目の質問（材料は輸入されましたか）が未回答、または"いいえ"と回答した場合、3 番目の質問のフィールドが無効になり、この質問に回答することができません。

7.6.8 自社の規制情報の編集-MCCP(材料)

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

規制情報ウィザード

表示 | + | - | フィルター

名称	ID/バージョン	部品番号	CAS No.	EINECS/ELINCS No.	物質は以下を含む	危険有害性情報	編集可能なバージョンを作成します。	リリース
Material MCCP	2000745866 / 1							
Alkanes, C12-14, chloro			85536-22-7		≥80% - line	H204 - Fire		

なし
☒ ≥80% - linear chloroalkanes with carbon chain lengths within the range from C14 to C17
☒ ≥45% - by weight of chlorine in chloroalkanes with carbon chain lengths within the range from C14 to C17

前へ 次へ | すべてリリース

閉じる

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

規制情報ウィザード

表示 | + | - | フィルター

名称	ID/バージョン	部品番号	CAS No.	EINECS/ELINCS No.	物質は以下を含む	危険有害性情報	編集可能なバージョンを作成します。	リリース
Material MCCP	2000745866 / 1							
Alkanes, C12-14, chloro			85536-22-7		≥80% - line	H204 - Fire		

分類対象外
☒ H204 - Fire or projection hazard
☒ H206 - Fire, blast or projection hazard; increased risk of explosion if desensitizing agent is reduced
☐ H207 - Fire or projection hazard; increased risk of explosion if desensitizing agent is reduced
☐ H208 - Fire hazard; increased risk of explosion if desensitizing agent is reduced
☐ H209 - Explosive
☐ H210 - Very sensitive
☐ H211 - May be sensitive

前へ 次へ | すべてリリース

閉じる

各カラムのヘッダーにはより詳細に質問の意味を説明するツールチップテキストが含まれています。説明は次のとおりです:

カラムヘッダー	ツールチップ
物質は以下を含む	炭素鎖長が C14 から C17 の範囲にある直鎖状クロロアルカンの含有率の範囲は何ですか(2 つの範囲値が複数選択可能なドロップダウンで提供され、そこから選択することも、「なし」オプションのみを選択することもできます)
危険有害性情報	特定された危険有害性情報の分類コード/ 説明は何ですか (可能性のある危険有害性の記述の分類コードはすべて、複数選択可能なドロップダウンにリストアップされており、そこから選択できるようになっています)

7.6.9 MCCP を SVHC として扱う

MCCP 物質は、以下の場合に SVHC 物質として扱われます:

1. MCCP 物質が材料データシートに追加され、規制情報が入力されていない場合
2. MCCP 物質が材料データシートに追加され、規制情報が入力されているが、"物質は以下を含む"の質問で" $\geq 80\%$ linear chloroalkanes with carbon chain lengths within the range from C14 to C17"の回答のみが選択されている場合
3. MCCP 物質がデータシートの最新バージョンから削除され、規制情報の新しいバージョン (またはクリーンな規制バージョン) がリリースされ、最新リリースされた規制バージョンでこの MCCP 物質に関する規制情報の参照が存在しなくなった場合でも、この MCCP 物質は以前のデータシートバージョンでの SVHC フラグを保持します。

その場合、データシートツリー上では下線付きで表示され、構成情報画面では SVHC フラグが"はい"と表示されます。また、SCIP 提出 dossier に表示され、分析検索でも SVHC 物質として取得されます。

7.6.10 自社の規制情報の編集-森林破壊防止規則(EUDR)

IMDS リリース 15.1 で、EU 森林破壊防止規則 (EUDR) のための化学物質グループが導入されました。さらに、規制ウィザード内で EUDR に対応する規制タイプも利用可能になっています。この規制タイプは、一般的に BPR や REACH などの他の規制タイプと同様に動作します。

▼ 規制情報

▼ EU Deforestation Regulation 規制情報ウィザード

履歴 なし

化学物質	100% 合成	天然成分の100%がリサイクル
Amides, soya, N,N-bis(hydroxyethyl) *	-	-

*) この規制情報のこのバージョンには参照が含まれていないので、利用可能な規制情報はありません。

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

規制情報ウィザード

表示 ▼ | フィルター ▼ -

名称	ID/バージョン	部品番号	CAS No.	EINECS/ELINCS No.	100% 合成	天然成分の100%がリサイクル	編集可能なバージョンを作成します。	リリース
▼ Material 20251020	2000606216 / 1							
Amides, soya, N,N-bis(hydroxyethyl)			68425-47-8		いいえ	はい		

◀ 前へ 次へ ▶ | すべてのリリース

閉じる

リリースされた材料に含まれる EUDR 物質ごとに、規制ウィザードで 2 つの項目に情報を入力できます。

- 100% 合成
- 天然成分の 100%がリサイクル

それぞれの質問には「はい」か「いいえ」で回答できますが、天然成分の由来に関する質問は、その物質が 100%合成ではない場合、つまり最初の質問に「いいえ」と回答した場合にのみ表示されます。EUDR の規制情報を入力する際、利用可能な場合は両方の項目が必須となります。

他の規制データタイプの提供が必須であるのとは対照的に、EUDR の規制情報の入力には必須ではありません。

7.6.11 自社の規制情報の編集

データセット（例えば、バイオサイドのために、材料に加えてそれに含まれた化学物質を含んだデータセット）が規制の編集可能なバージョンではない場合、フィールドは読み取り専用モードで表示されます。

この場合、"編集可能なバージョンを作成"ボタンが親データシートの行に表示されます。このボタンをクリックすると、ユーザーはリリース済み最新バージョンのコピーデータを含んだ新しい編集可能なバージョンを作成することができます。

作成された編集可能な規制バージョンは最新のデータシートに自動的に適合されます：最新バージョンには含まれていない追加の参照（例えば化学物質）を含んだデータシートバージョンのために、オリジナルの規制情報がリリースされると、これらの参照は規制情報から自動的に削除されます。新しい参照がある場合、それに応じて追加されます。これがなされたあと、このデータの全てのフィールドが有効になります。

7.6.12 規制情報のリリース

編集可能な規制情報テーブルの下では、"全てをリリース"ボタンが利用可能です。これにより、入力された全ての情報を確認するチェックを行います。データシートをリリースするときの確認ダイアログと同様に、その後ユーザーはリリースを確認するよう要求されます。誤ったデータが設定されたデータに一つでもあると、ユーザーは"エラーのない規制情報のみリリース"を選択することができ、誤ったデータは影響のない設定のままにします。

REACH 関連コンポーネントテーブルの材料を右クリックすることによって、ユーザーはコンテキストメニューにアクセスすることができます。これにより別のダイアログで、この材料に入力された REACH 規制情報を見ることができます。

7.6.13 チェック

上記のように、規制の編集バージョンをリリースするとき、チェックが実行されます。チェック結果は、データシートチェックの結果と同様に、画面下部にテーブルとして表示されます：

Name	ID / Version	Part/Item No.	Produced in / Imported into (EAC)	Material imported?	Authorization status	Create editable version	Release
comp_test	905130812 / 4		Yes				
NHS-Material				No	Done		
SB_ChMgR_REACH Component 002	905488250 / 1		Yes				
Reach Schmiermittel all SVHC				No	In Progress		
REACH Steel 001			Yes	Yes			
Test_Small Part Demo	905308918 / 1	12343	Yes				
Reach Schmiermittel all SVHC				Yes			
SB_ChMgR_REACH Component 003	905488251 / 1		Yes				
Reach Schmiermittel all SVHC				No			
REACH Steel 001				No	By material manufactu		
Component_Enhanced_Warnings	905908345 / 1	13_4444_1	Yes				
TPV-(ACH+PP)_MATERIAL_R							
NHS-defect925	905508351 / 1		Yes				
NHS-Material				Yes			

Previous Next Release all

Semi-/Component	Material	Message
SB_ChMgR_REACH Component 003	Reach Schmiermittel all SVHC	Not all required answers have been provided for this regulatory information.
Component_Enhanced_Warnings_test_rasha	TPV-(ACH+PP)_MATERIAL_RASHA_Test_R12_6_remove_Biocides	Not all required answers have been provided for this regulatory information.

このテーブルに記載されているデータシート毎または化学物質毎に、エラーアイコン(🔴)がウィザードテーブルの対応する行に表示されます。チェック結果テーブルで一行をダブル

クリックすると、ウィザードが適切な行に自動的にスクロールします。

次の異なるチェックが実行されます:

A - 全ての質問に回答しなければなりません

規制情報が有効とみなされるためには、回答することができる全ての質問に回答しなければなりません。(一部の回答により、回答する必要がないものもあります)

例外は含有率 0.1% (最大値) 以下の REACH 化学物質です。これらの化学物質については、データ入力 は任意です。BPR 化学物質については、このような例外はありません。

B - "まだ生産されていますか"の回答は BPR / REACH 材料と同じでなければなりません

材料に REACH と BPR 関連化学物質の両方が含まれている場合、"材料はまだ生産されていますか" という質問の回答は両方の規制で同一である必要があります。

一つの規制情報の回答が他の規制情報の最新バージョンの回答と異なる場合 (編集可能なバージョンであっても) 規制情報は無効とみなされます。さもなければ、回答は変更できません。

7.6.14 他社の規制情報を見る - データタブ

ユーザーが"他社の規制情報を表示"を選択した場合、全てのフィールドが読み取り専用で、"リリース"や"全てをリリース"のボタンがないことを除くと、データタブは上述したものととても似ているように見えます。

代わりに、各データシート行の横に、"規制情報の更新依頼"ボタンがあります。これにより選択したデータシートの更新依頼を始めます。データシートの最新バージョンに規制情報が完全に記入されている場合、またはユーザーの企業が既にこのデータシートの規制情報の更新依頼をしている場合は、このボタンは無効になります。

さらに構成情報タブで表示されるものと同じ情報 (例えば、他のいくつかの企業がすでにこの規制情報の更新依頼をしているか) が、各データシート行に表示されます。

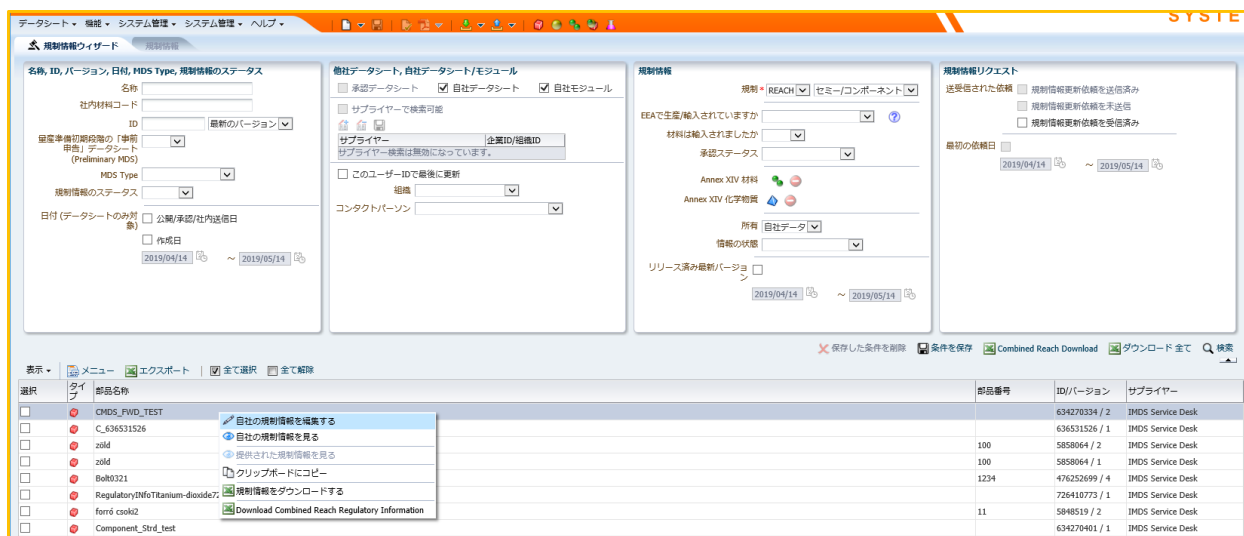
"全てのデータシートの規制情報の更新依頼"ボタンもあります。これにより、ユーザーの企業がまだ更新依頼をしていないデータシートや、規制情報が何らかの形で不完全なデータシート全ての更新依頼をはじめます。

テーブル内でデータシートが複数行出てきた場合、全ての"更新依頼"ボタンは同期されます。これは、ユーザーがどれか一つのボタンを押した場合、依頼は 2 回できないので、全てのボタンが自動的に無効になるということを意味します。

7.6.15 Combined result for download

Combined result リストには、コンポーネント、材料、化学物質の回答を含む REACH セミ-/コンポーネントの完全な規制情報が表示されます。Combined result をダウンロードするために、新しいボタン「Combined Reach Download」が「条件を保存」ボタンと「ダウンロード全て」ボタンの間に追加されます。これにより、行を選択することなく、テーブル内のすべての結果に関する完全な規制情報がダウンロードされます。

オプション「Download Combined REACH Regulatory Information」も結果テーブルのコンテキストメニューに追加されています。これも完全な規制情報もダウンロードしますが、選択された行のみです。

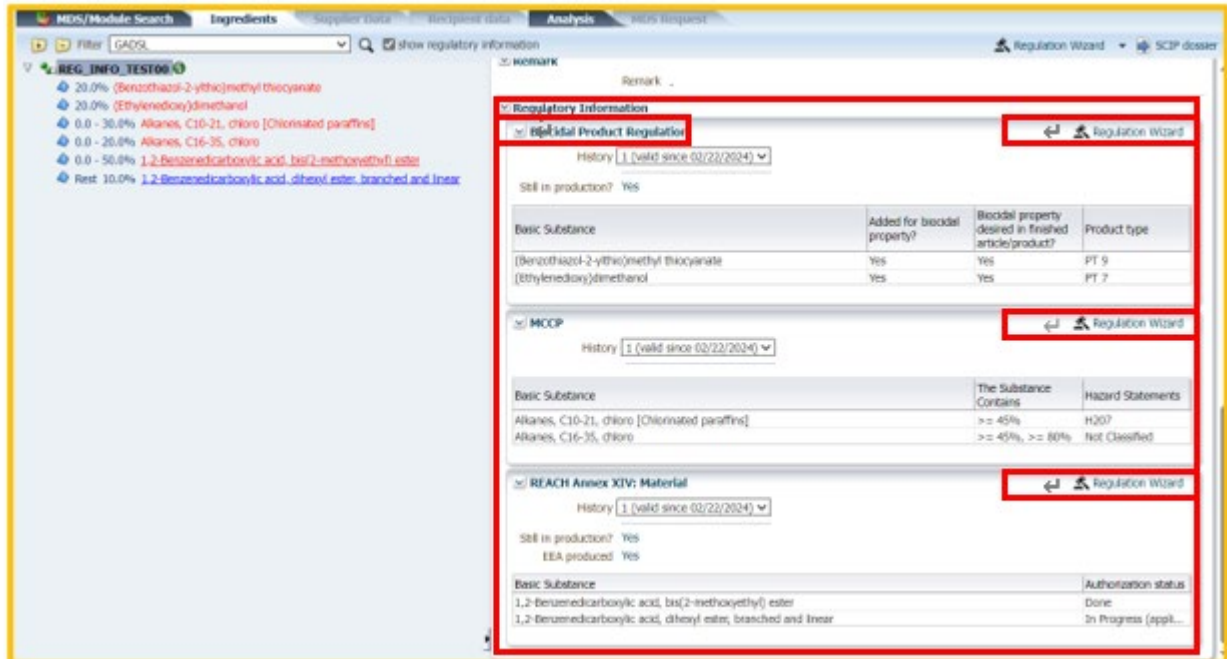


7.7 構成情報画面

7.7.1 規制情報を読み取り専用でツリーに表示

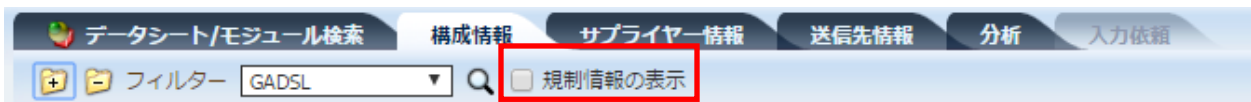
現在データシートのデータが表示されるのと同様に、規制情報は表示されます。構成情報タブでは全ての規制情報が新しい折りたたみ式のボックスに表示されます。将来ケミストリーマネージャーに、さらなる規制が追加された場合、構成情報タブのこのセクションに追加されます。

規制情報の新しいバージョンは、含まれた化学物質リストの参照として、常にデータシートの有効なリリース済み最新バージョンを使用しているので、規制情報は構成情報の中から編集できません。規制情報の編集はウィザードを使用してのみ可能です。新しいボタンがツリーツールバーに追加され、ポップアップウィンドウでウィザードを開くことができます。開いたウィザードには、ユーザーが規制情報を入力できる、参照された全てのデータシートが含まれています。全ての変更が適用された後、それによってデータシートビューが更新されます。

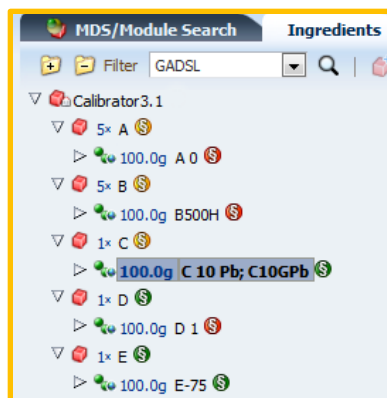


規制情報ボックス内には、ユーザーがポップアップウィンドウでウィザードを開くことができるもう一つのボタンがあります。現在選択されているデータシートが、規制情報を修正することができるユーザーの企業に属している場合のみ、ボタンは利用可能になります。開いたウィザードには（有効な最新バージョンで）現在選択されたデータシートのみが表示されます。全ての変更が適用された後、それに従ってデータシートビューが更新されます。

"規制情報の表示"というチェックボックスがツリーツールバーに表示されます：



このチェックボックスにチェックを入れると、規制情報の状態を示すアイコンがデータシートツリーに表示されます。ログオフしたとき、このチェックボックスの状態は保存されるので、ユーザーはシステムにログインするたびにチェックボックスをクリックする必要はありません。規制情報が利用できるツリー上の各ノードまたは参照の横には、別のアイコンが表示されます。全ての規制情報が提供され有効な場合のアイコンは\$で、規制情報が提供されていない場合は\$です。



規制情報が割り当てられているが完全ではないノードや参照を強調表示するために使用される黄色のアイコン(💰)もあります。例えば、含まれた化学物質が規制の化学物質グループに追加され、規制情報が必要となった場合、これが起こります。ツリーを修正する時（例えばロードされた材料に化学物質を追加する時）、アイコンは更新されます。

7.7.2 規制の更新依頼を見つける – 構成情報タブ

データシートの構成情報タブ内のツリー検索  に新しいオプションがあります。これによりユーザーはツリー上でオープンしている規制情報の更新依頼を見つけることができます。

データシートが規制関連データを含んでいる場合、ツリー上にあるこのデータシートの全ての参照では、ユーザーが構成情報画面右側の詳細パネルにある新しい折りたたみ式のボックスを使用して、入力された規制情報（データシートとして直接表示されているのか、下位階層にあるので子ノードとして表示されているのか）を見ることができます。

自社データシートの規制情報更新依頼の検索:

この機能を使用すると、ユーザーは更新依頼のある全ての自社データをすぐに見つけることができます。

自社の規制情報更新依頼の検索:

ユーザーの企業が依頼を送信した全ての参照を見つけることができます。

7.7.3 規制情報画面の表示

“規制情報”ボックス内に、各規制のための追加ボックスがあります。これらのボックスのレイアウトは常に同じ原理に従います: 上部では、ユーザーが見たい規制情報のバージョンを選択することができます。この選択の下にデータシートに関連するデータ（例えば、

REACH Annex XIV の“まだ生産されていますか”のフラグ）が表示されます。ボックスの下部には、規制に関連するデータシート内の全ての参照がテーブルに表示されます。この参照のために入力された各フィールドについては、テーブル内に 1 カラムあります：

材料(BPR):

規制情報

バイオサイド製品規則

履歴 1 (2017/05/08 より有効)

規制情報ウィザード

まだ生産されていますか はい

化学物質	バイオサイド目的で追加されましたか	完成品/製品に発生性質は望まれていますか	プロダクトタイプ
Zinc oxide	はい	はい	PT 7

材料(REACH Annex XIV):

規制情報

REACH Annex XIV : 材料

履歴 1 (2017/05/08 より有効)

規制情報ウィザード

まだ生産されていますか はい

EEAで生産/輸入されます はい

化学物質	承認ステータス
Strontium-chromate	進行中 (最終申請...

材料(MCCP):

規制情報

MCCP

履歴 1 (2025/07/24 より有効)

規制情報ウィザード

化学物質	物質は以下を含む	危険有害性情報
Alkanes, C12-14, chloro	≥80%, ≥45%	H204, H206

コンポーネント(REACH Annex XIV):

規制情報

REACH Annex XIV : セミ/コンポーネント

履歴 1 (2017/05/08 より有効)

規制情報ウィザード

Produced in or imported into EEA? はい

材料	材料は輸入されましたか	承認ステータス
Chromate	いいえ	材料メーカーにより

バージョンの表示

規制情報

バイオサイド製品規則

履歴: 2 (2017/05/09 より有効)

まだ生産されていますか: 1 (2017/05/08 - 2017/05/08)

化学物質	バイオサイド目的で追加されましたか	完成品/製品に殺生性は望まれていますか	プロダクトタイプ
Zinc oxide	いいえ	-	-

このバイオサイド規制の例に見られるように、ユーザーは入力された情報を見るためにリリース済みバージョンのいずれか一つを選択することができます。バージョンは数字によってではなく、日付によって表示されます。新しいバージョンがリリースされるとすぐに、一つ前の最新バージョンは終了日（新しいリリース日）を受け取り、新しくリリースされたバージョンは使用停止日以降の日で"（リリース日）より有効"として表示されます。

7.7.4 特殊なユースケース

データシートの最新バージョンに参照が含まれなくなった

最新バージョンには含まれていないので、規制情報が表示された部分がない参照（例えば化学物質）を含んだデータシートを選択した場合、この化学物質の規制情報は表示できません。この理由をユーザーに通知するために、"このデータシートの現在のバージョンにはその化学物質が存在しないので、規制情報は利用できません"というヒントが表示されます。

規制情報の最新バージョンに参照が含まれていない

選択されたデータシートが、最新の規制情報が提供されたものよりも新しいデータシートのバージョンである場合、規制データが提供されていない新しい参照（例えば化学物質）を含んでいるかもしれません。ユーザーに通知するために、"その化学物質は規制情報の最新バージョンに含まれていないので、規制情報は利用できません"というヒントが表示されます。

ノードが削除された

データシートの最新バージョンでは削除された子ノードの規制情報を見ようとすると、（MDS ID に割り当てられた規制情報ではなくなるので）規制情報は表示されません。代わりに、この子ノードは最新のデータシートバージョンの一部ではないので、添付された規制情報はありませぬというヒントが表示されます。

7.8 依頼コミュニケーション

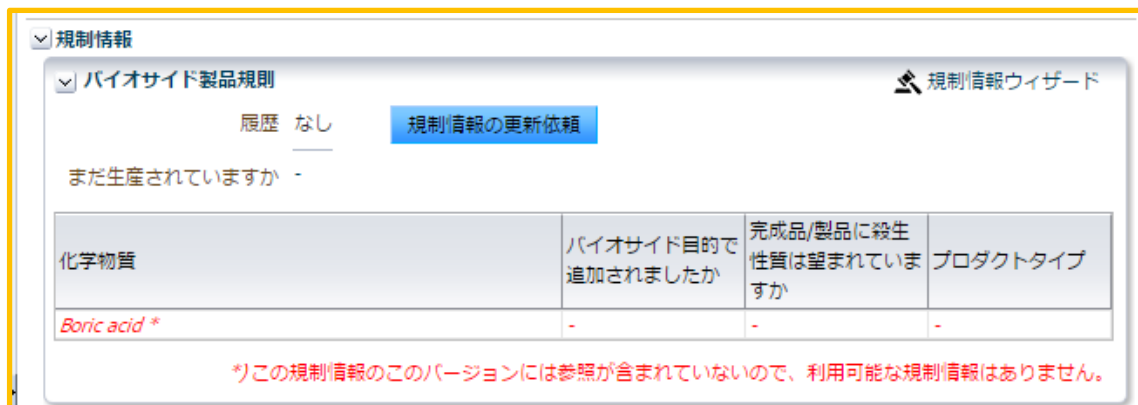
7.8.1 規制情報の更新依頼

ユーザーは特定のデータシートの規制情報の更新を依頼することができます。これらの依頼は、ユーザーがツリー上の参照の詳細を見るとき、その参照がツリーの深い階層にあっても、データシートの構成情報画面詳細から直接送信することができます。

唯一の制限は、ユーザーが参照を含んだデータシートを実際に使用できる状態でなければならないということです。承認していない受信データシートに含まれた参照の場合、ユーザーは規制情報の更新を依頼できません。

依頼は匿名で発行されますが、データシートを所有している企業は、何人のユーザーがそのデータシートの新しい規制情報を依頼しているか見ることができます。最も早く依頼された日も表示されます。この情報はデータ入力のパrior順位を決定するのに役立ちます。

ユーザーが他社データシートへの参照や、このような参照の中のノード/参照を選択した場合、入力された全ての規制情報を見ることができます。各規制情報ボックス（BPR, REACH, MCCP）には、「規制情報の更新依頼」ボタンがあります。これは規制情報が完全ではないか、無効である（ツリー上で\$または\$）場合のみ表示されます。



化学物質	バイオサイド目的で追加されましたか	完成品/製品に発生する性質は望まれていますか	プロダクトタイプ
Boric acid *	-	-	-

*この規制情報のこのバージョンには参照が含まれていないので、利用可能な規制情報はありません。

規制情報更新依頼のボタンをクリックすると、更新依頼の決定を確認するためのダイアログが表示されます。このダイアログでは、この依頼が選択されたノードの作成元に行くことと、どちらの連絡先も表示されないことをユーザーに通知します。

同じデータシートに複数の依頼を受信するとき、作成する企業は矛盾した情報に直面する可能性があるため、依頼には追加のテキスト情報を含んでいません。

ユーザー（またはその企業の他のユーザー）がすでに同じノードの更新依頼をしていた場合、依頼は発行できません。代わりに、この状況を確認するヒントが表示されます：

規制情報

バイオサイド製品規則

履歴 なし

あなたの企業はすでに2017/05/08のこの規制情報の更新を依頼されています。

規制情報ウィザード

まだ生産されていますか -

化学物質	バイオサイド目的で追加されましたか	完成品/製品に殺生性質は望まれていますか	プロダクトタイプ
Boric acid *	-	-	-

*)この規制情報のこのバージョンには参照が含まれていないので、利用可能な規制情報はありません。

7.8.2 削除された企業の場合の更新依頼

選択されたデータシートを所有している企業が削除された、またはインアクティブになった場合、企業がインアクティブになっているので、この規制情報の更新依頼は受信できない可能性があるというヒントが、依頼ボタンの横に表示されます。機密性の理由から、この件についてそれ以上の情報は提供されません。しかし更新ボタン自体は有効なままなので、再度アクティブにするよう依頼した企業は、その間に受信した全ての依頼を見ることができます。

7.8.3 規制情報の更新の依頼の受信- 通知メール

規制情報を入力する権限をもつ各ユーザーに対する、オープンされた回答依頼がある場合、そのユーザーには週に 1 通だけメールが届きます。メールでは今週受信した依頼が強調表示され、また全ての古いクローズされていない依頼も含んでいます。サプライチェーンを通して、多くの企業がすでに依頼されたということを知らずに、同じデータシートの規制情報の更新依頼ができるため、自動配信メッセージは実装されていません。

企業に適切な権限をもつ有効なユーザーが一人もいない場合、「規制情報: 編集」の権限を持つすべてのユーザーにメールが届きます。メールには、ユーザーの一人に適切な「規制情報: 編集」の権限を割り当てる必要があるという情報が含まれており、必要な理由を説明しています。

7.8.4 データシート検索画面で依頼を検索

規制情報を入力する権限を持った各ユーザーは、更新が依頼されたデータシートを検索するために、データシート検索で“更新依頼された規制情報”条件を選択することができます。

規制情報は子ノードレベルでも入力でき、子ノードは直接検索できないので、この条件で検索することは、更新が依頼された子ノードを含んだデータシートを検索することにもなります。適切な権限を持つユーザーは検索結果で対応するカラムを参照します。また、規制情報の更新が依頼された子ノードを含んだデータシートが強調表示されます。

このカラムは、最初に更新依頼を受信したとき、それまで何件の更新依頼があったかということも表示します。更新依頼のあったデータシートの中に一つ以上のノードがある場合、このカウントは全ての有効な依頼の合計であり、日付は全てのノードで最も早い日付です。

The screenshot shows the 'Material Search' interface. In the search criteria section, the checkbox for 'Update Requested Regulation Information' is checked and highlighted with a red box. The search results table below shows a single entry for 'Biocides'. The column 'Update Requested Regulation Information' is highlighted with a red box and contains the value '1'. The 'Initial Request Date' column shows '2017/05/08'.

タイプ	名称	材料記号	商品名	標準材料コード	社内材料コード	ID/バージョン	サプライヤー	受信済みの規制情報依頼	最初の依頼日
	Biocides	-	-	-	-	905502244 / 1	Kawashima Co.Ltd	1	2017/05/08

7.8.5 構成情報画面で受信した依頼の表示

データシート内の個々の規制情報のセクションを見るとき、これまで出された更新依頼の数がどれだけ多くても利用可能です：

規制情報

バイオサイド製品規則

履歴

なし

あなたの企業はこの規制情報の更新の依頼7を受信しています。最も早い依頼は2017/05/08に送信されました。

まだ生産されていますか

-

規制情報ウィザード

化学物質	バイオサイド目的で追加されましたか	完成品/製品に殺生性質は望まれていますか	プロダクトタイプ
Boric acid *	-	-	-

*)この規制情報のこのバージョンには参照が含まれていないので、利用可能な規制情報はありません。

7.8.6 規制情報の更新依頼をクローズ

データシートを作成した企業が規制情報の新しいバージョンをリリースするとすぐに、全ての更新依頼がクローズされたとみなされます。規制のチェック手順は、依頼がエラーのない情報を提供することによってのみクローズされることを保証します。

7.8.7 使用停止日または最終使用期限に達する化学物質に関する自動通知メール

化学物質が使用停止日または最終使用期限に達する4週間前に、このまま日付に達してしまうと規制情報のリリース済み最新バージョンが無効な承認ステータスを含んだ状態になってしまう自社材料をもつ企業の全ての「規制情報: 編集」の権限を持つユーザーに対してシステムから自動通知メールが送信されます。このメールは材料に影響を与えている化学物質についての詳細情報を含みます。

8 カーボンフットプリント(PCF)

8.1 概要

IMDS の全てのモジュール/データシートについて、カーボンフットプリント情報を入力できるようになりました。カーボンフットプリント情報は2つのセクションに分かれています：

- 製品カーボンフットプリント：構成情報タブに入力され、製品が製造された生産拠点に基づいて表します。
- 輸送カーボンフットプリント：データシートの送信先ごとに入力され、生産拠点から特定の顧客拠点までの製品の輸送を表します。

コンポーネントのカーボンフットプリント情報は「kg-CO2e/コンポーネント」として入力され、セミコンポーネントと材料の単位は「kg-CO2e/材料 kg」となります。

規制情報同様、製品カーボンフットプリント情報および輸送カーボンフットプリント情報の新規バージョンは、モジュール/データシートの新規バージョンを必要とせずに作成できます。ただし、規制情報とは異なり、カーボンフットプリント情報はモジュール/データシートの個々のバージョンに割り当てられます。モジュール/データシートの新規バージョンを作成する際に情報は受け渡されますが、同じモジュール/データシートの異なるバージョンで同じカーボンフットプリント情報が共有されることはありません。

標準材料については、カーボンフットプリント情報は提供されず、また規制情報とは異なり、そのようなデータシートを参照する際にカーボンフットプリントを入力することはできません。

8.2 PCF コンタクトパーソン

このタイプのコンタクト先は、製品カーボンフットプリント情報の入力ごとに必要となります。データシートのコンタクト先と同様に、企業には「デフォルト PCF コンタクト」があり、当初割り当てられたコンタクト先が有効でなくなった場合に表示されます。

8.3 製品カーボンフットプリント/生産拠点

生産拠点はノード/モジュール/データシートの詳細パネルの表に表示されます。生産拠点はいくつでも追加することができます。ある生産拠点の製品カーボンフットプリント情報がリリースされると、それを中止することはできませんが削除することはできません。(下記参照)

製品カーボンフットプリント

参照データシートのPCF - ?

生産拠点ごとのPCF + - ☐ 中止された生産拠点の表示

リージョン	国名	郵便番号	総PCF(生物起源を含む)	期間	TeR	TiR

PCF 生産拠点一覧

この表は、生産拠点の追加と編集にも使用されるダイアログで表示できる詳細の概要を示しています：

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

バージョン 編集可能

生産拠点

リージョン: Global

国名:

郵便番号: Subdivision:

DUNS No.:

PCFコンタクト

PCFコンタクト:

Eメール:

電話番号:

基準と検証

基準 / ルールブック:

指定されたサードパーティによる認証/検証:

詳細 / リンク:

製品カーボンフットプリント

参照データシートのPCF - ?

総PCF(生物起源を除く): kg CO2e / コンポーネント

総PCF(生物起源を含む): kg CO2e / コンポーネント

期間: yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd

適用除外排出量: %

適用除外排出量の説明:

PDS / DQR

PDS: %

DQR

技術 (TeR):

時間 (TiR):

地理 (GeR):

GHG排出量の詳細

炭素含有量

リリース 適用 キャンセル

生産拠点の編集

生産拠点の主な識別子は、このダイアログの左上セクションに入力されたロケーション情報です。追加情報(例えば、郵便番号が以前のバージョンで定義されていない場合、郵便番号を指定する)を追加する以外は、生産拠点の後のバージョンでこの情報を変更することはできません。

詳細を追加することなく、デフォルトの「グローバル」を生産拠点の場所として選択したままにすることは可能ですが、同じモジュール/データシートの2つの生産拠点エントリーが同じロケーション情報を持つことはできません。

読み取り専用のフィールド「参照データシートの PCF」は、割り当てられた生産拠点の表の上にもあります。これは、選択されたノード/モジュール/データシート内で直接参照されているすべてのノード/モジュール/データシートの PCF の合計を、各参照に対してすべての有効な生産拠点の中で最も低い総 PCF を加算することによって表示します。カッコ内の部分は、参照

されたノード/モジュール/データシートのどの部分の PCF 情報が利用可能であることを示します。コンポーネントでは、この部分は質量に基づいて計算されます。

数値は以下のように計算されます：

Calculation of PCF_{MDS} (PCF of referenced MDSs)

- a. For each reference: $PCF_{min} = \min(\text{Total PCF incl. biogenic})$ of active production sites
- b. For component MDSs:
 - i. For each reference by quantity: $PCF_{ref} = PCF_{min} \times \text{quantity}$
 - ii. For each reference by weight: $PCF_{ref} = PCF_{min} \times \text{weight in kg}$
- c. For semi-component and material MDSs:
 - i. For each reference: $PCF_{ref} = PCF_{min} \times \text{portion}$ (weighted mean or fix value)
- d. $PCF_{MDS} = \sum(PCF_{ref})$

Calculation of POR_{MDS} (portion of references with PCF information)

- e. For component MDSs:
 - i. For each reference by quantity: $POR_{ref} = \text{measured weight} \times \text{quantity}$
 - ii. For each reference by weight: $POR_{ref} = \text{weight}$
 - iii. $POR_{MDS} = \frac{\sum(POR_{ref})}{\text{calculated weight}}$
- f. For semi-component and material MDSs:
 - i. For each reference: $POR_{ref} = \text{portion}$ (weighted mean or fix value)
 - ii. $POR_{MDS} = \sum(POR_{ref})$

これらの値は、選択した製品の製造時の排出を考慮しておらず、各参照の生産拠点の中で最も低い総 PCF のみを考慮しているため、PCF の正確な計算を表すものではありません。むしろ、この値は入力された総 PCF と比較するための基準点として見るべきです。入力された値がここに表示された計算値より低い場合、警告が表示されるチェック（下記参照）があります。

PDS（プライマリー・データ・シェア）と DQR（データ品質評価、技術、時間、地域に分割）は、直接の顧客を除き、川下企業が見ることができる唯一のフィールドです。（「川下企業への可視性」を参照）

ダイアログ下部の「詳細 GHG 排出量」と「炭素含有量」ボックスの中には、デフォルトで「0」に設定されている追加オプションフィールドが隠されています。これらのフィールドの値が「0」以外に変更された場合、これらのフィールドが変更されたことをユーザーに認識させるために、ダイアログを表示する際にボックスが自動的に開かれます。

無効化されたフィールドと「適用除外排出量の説明」を除けば、このダイアログの全てのフィールドは必須です。PCF 情報の新規バージョンをリリースする前に、すべてが正しく入力されているかチェックが行われます。FAQ にリンクされている warnings_errors_in_imds.xlsx ファ

イルに、PCF 関連チェックのための新しいシートが追加され、PCF 情報を保存またはリリースする際に適用されるすべてのチェックが示されています。

生産拠点を「中止」することも可能です。中止された生産拠点は、輸送カーボンフットプリントの入力時に選択することができず（下記参照）、生産拠点のリストと詳細ダイアログの両方で強調表示されます。中止された生産拠点を参照する輸送カーボンフットプリントがすでに入力されている場合、システムは関連するすべての輸送カーボンフットプリント情報も自動的に中止に変更されます。中止された生産拠点は、新規バージョンを作成することで再び有効にすることができます。

8.4 輸送カーボンフットプリント/輸送ルート

アウトバウンド輸送のカーボンフットプリント情報は、データシートの送信先の詳細パネルの表に表示されます。生産拠点と顧客拠点の組み合わせで表される輸送ルートは、いくつでも追加することができます。輸送ルートのカーボンフットプリント情報は、一度リリースされると、それを中止することはできますが削除することはできません。

この表は、輸送ルートの追加と編集にも使用されるダイアログで表示できる詳細の概要を示しています：

輸送ルートの子な識別子は、生産拠点（データシートの構成情報タブで定義されている、全ての有効な生産拠点を含みリストから選択可能）と顧客拠点の組み合わせです。輸送ルートについては後のバージョンでは情報を変更することはできません。

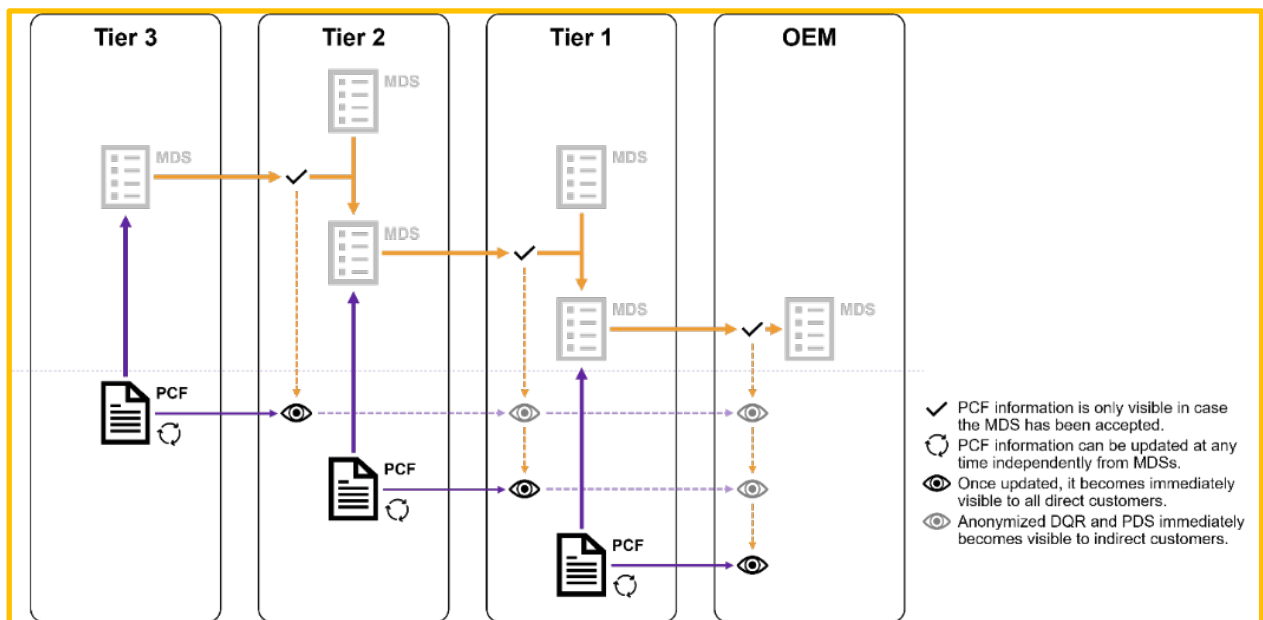
顧客拠点フィールドを空欄にすることは可能ですが、同じ送信先に対する 2 つの輸送カーボンフットプリントのエントリで、生産拠点と顧客拠点の組み合わせが同じになることはありません。

無効なフィールドと「顧客拠点」を除き、このダイアログのフィールドはすべて必須です。輸送カーボンフットプリント情報の新規バージョンをリリースする前に、すべてが正しく入力されていることをチェックします。

上述の warnings_errors_in_imds.xlsx の更新版には、輸送カーボンフットプリントに適用されるチェックリストも含まれています。

輸送カーボンフットプリント情報を「中止」することが可能です。中止された生産拠点と顧客拠点の組み合わせは、輸送カーボンフットプリント情報のリストと詳細ダイアログの両方でハイライトされます。中止された輸送ルートは、新規バージョンを作成することで再び有効にすることができます。

8.5 川下企業への可視性



カーボンフットプリント情報とその欠如は、データシートを拒否する理由にはなりません。そのため、カーボンフットプリント情報は、受信したデータシートの承認後にのみ表示されます。

承認されたデータシートでは、送信先は自分の送信先情報に割り当てられたすべての輸送カーボンフットプリント情報を見ることができます。また、輸送カーボンフットプリントのセクションで少なくとも一度参照されているすべての生産拠点をみることができます。その他の生産拠点は表示されません。

承認済みまたは公開済みのデータシート内で参照されているデータシートについては、部分的な情報のみが表示されます。表示されている各生産拠点（川上企業の輸送カーボンフットプリント情報において、どの拠点が送信先として参照されているかによる）については、DQR と PDS の値のみが表示されます。拠点の正確な位置も、実際のカーボンフットプリント値も表示されません。

輸送カーボンフットプリント情報がない場合は、すべての生産拠点が表示されます。輸送カーボンフットプリント情報が提供されておらず、かつ承認データシートまたは公開データシートの中に参照されているデータシート、および承認データシートまたは公開データシートの中に直接参照されているデータシートの場合は、一部の情報のみが表示されます。公開データシートの場合、全ての生産拠点が全ての企業に表示されます。

新しいカーボンフットプリント情報がリリースされると、影響を受けるすべての企業がすぐにその情報を見ることができます。これには、輸送カーボンフットプリントのエントリーで初めて参照された後、新しい生産拠点の DQR と PDS の値が川下企業に表示されることも含まれます。

8.6 モジュール/データシートのコピー/バージョン管理

モジュール/データシートをコピーする場合、または新規バージョンを作成する場合、構成情報タブにある全ての生産拠点、および送信先情報タブにある生産拠点と顧客拠点の全ての組み合わせが、新しいモジュール/データシートにコピーされます。

カーボンフットプリント情報の最新バージョンのみがコピーされ、新しいモジュール/データシートの最初の（編集可能な）バージョンとなります。

最新のカーボンフットプリント情報が「中止」とマークされている場合、それはコピーされません。

8.7 PCF 更新メール

新しいタイプの通知メールが追加されました：“PCF 更新”

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

情報
ユーザーデータと設定をご確認下さい。

ユーザーデータ

企業ID [REDACTED]
企業名 [REDACTED]

ユーザー ID [REDACTED]
ユーザー承認プリセット Company Administrator and User +
権限 [権限の表示](#)

姓 *
名 *
電話番号
FAX番号
Eメールアドレス *

データ保護 ☒ トラストユーザー機能のために個人データを表示する ?
☒ データシート拒否のための個人データを表示する ?

以下の状況に該当した場合、Eメールの受信を希望する

入力依頼の拒否
送信した入力依頼の期日
日

データシートリクエスト ☐ 入力依頼の受信
☐ 受信した入力依頼の期日
日
☐ 入力依頼の削除

データシート ☐ データシートの拒否
☐ データシートの承認
☐ データシートの受信
☐ フォローアップの期限
☐ 機密扱い物質がGADSL記載物質として指定
☐ 機密扱い物質がSVHC物質として指定
☒ PCF更新

情報 ☐ IMDSの有効期限のお知らせ
☐ ニュースレター

カンパニーアドミニストレーター ☒ はい ☐ キャンセル

この項目をチェックしているユーザーは、サプライヤーによって過去 1 週間の間に製品カーボンフットプリントまたは輸送カーボンフットプリントのデータを更新された受信データシートに関する E メールを毎週受け取ります。

カーボンフットプリントの全情報は、複数のデータシートに含まれる複数の生産拠点や輸送ルート情報を 1 通の E メールに記載するには複雑すぎるため、データが更新された情報のみを記載しています。詳細はオンラインシステムをご覧ください：

Dear user,

Suppliers of your company Test Company [0] have released new Product Carbon Footprint and/or Transport Carbon Footprint information since 03/01/2025:

MDS ID/Version	Name	Part/Item No.	Supplier	Production Site Updated	Production Site Discontinued	Transport CF Updated	Transport CF Discontinued
2000370603 / 1	First MDS	P/N-A	Supplier A [12345]	X		X	
2000359413 / 1	Second MDS	P/N-B	Supplier A [12345]		X		X
2000359021 / 1	Third MDS	P/N-C	Supplier B [67890]			X	
2000369401 / 1	Forth MDS	P/N-D	Supplier B [67890]	X			

MATERIAL DATA SYSTEM This e-mail is generated automatically. Please do not answer this e-mail.
If you have questions, please contact one of our IMDS service centers under www.mdsystem.com. DXC TECHNOLOGY

9 IMDS セキュリティ

自動車メーカーからの要件の一つに、送信された全ての材料データシート(MDS)を閲覧/分析可能にするというものがありません。できるだけ多くの情報を表示すると同時に、サプライヤーを守るためにデータセキュリティも確保することが重要となります。データシートはオンラインシステムで利用可能になっている必要があります。また、オフラインの場合の「データダウンロード」インターフェースも同様です。不正なアクセスからデータシートを守るため、データシートへのアクセスはシステム内で制限されており、かつシステム自体も不正アクセスから守られています。

以下の章では、外部からシステムへの不正加工対策や、データアクセス権の制限をアプリケーション内でどう担保するか、という点についてご説明します。

9.1 物理的セキュリティ

IMDS コンピュータは DXC のサービスマネジメントセンター (SMC) 内で管理されます。DXC の SMC はサーバーの物理的な安全性を保証し、適切なインフラ（ネットワーク可用性、システム障害対策）を提供します。許可されている人員（オペレーティング管理者およびシステム管理者）のみが同機器へのアクセス権を有し、オペレーティングシステムの物理的な操作や機能的な障害を不可能なものとしています。

9.2 オペレーティングシステムセキュリティ

IMDS システムは UNIX オペレーティングシステムを使用しており、オペレーティングシステムレベルにおけるアクセスは DXC の管理者にのみ許可されます。DXC の標準的プロセスにより、システムへの外部アクセスに対する防御は確実です。

9.3 データベースセキュリティ

IMDS システムは Oracle データベースを使用しており、同データベースへのアクセスは、システム管理者およびデータベース管理者にのみ許可されます。

9.4 アプリケーションセキュリティ

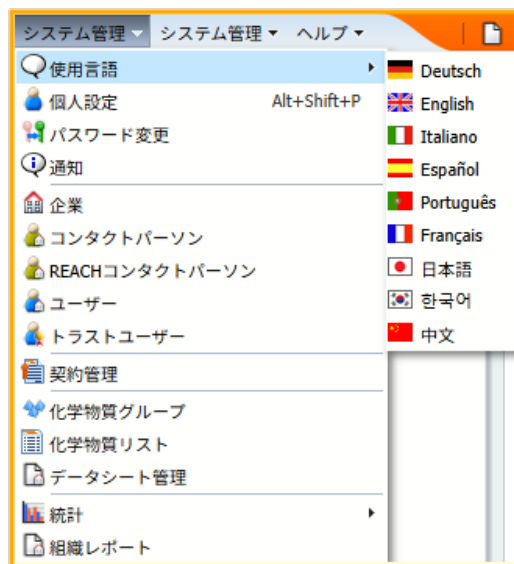
IMDS を利用するサプライヤー各社は、IMDS 内でユーザー登録を行う必要があります。ユーザー登録を行うと、個別のユーザーID およびそれに紐づくパスワードを取得できます。パスワード/パスフレーズは、12 文字以上である必要があり、最大 20 文字(上限なし)まで設定可能です。Latin-1/ISO 8859-1 のすべての文字が使用可能ですが、パスワードの複雑性チェックは行われません。パスワードは直前のパスワードと同一であってはならず、また登録ユーザーの姓または名を含んではなりません。(大文字・小文字を区別せず、完全一致でチェックされます。複合姓・複合名の場合も同様です) 短くて推測しやすいパスワードではなく、長く安全なパスフレーズの使用を強く推奨します。パスワード変更時のメッセージは以下のとおりです：

新しいパスワードは旧パスワードと同一であってはならず、また氏名の一部を含めることはできません。12 文字以上である必要があります。特殊文字を含む複雑なパスワードよりもパスフレーズの使用を推奨しますが、Latin-1 のすべての文字を使用することが可能です。

これらの方法を用いて、ユーザーID およびパスワードを取得しているユーザーのみによる IMDS アクセスが保証されます。個々に設定されたユーザーの権限により、アクセスできる Web のエリアや/またはデータが設定されています。特定の権限を有するユーザーのみ、同アプリケーションにおいて一定の機能を実行することができます。(プリセットをご参照下さい。)

10 システム管理メニュー

システム管理メニューには、以下の画面のように、ユーザーおよび IMDS 企業の管理機能が含まれます。いくつかのメニューは適切な権限を持つユーザーのみ利用できます。



10.1 個人設定

言語を切り替えることができます。IMDS 上で連絡先情報を正しく管理することはとても重要です。全てのユーザーは「システム管理」>「個人設定」から行うことができます。このメニューから、IMDS で特定のイベントが起こった場合に E メールを受け取る設定をすることもできます。

ユーザーの連絡先情報は以下のような画面で表示されます。(プライバシーの観点から、ユーザー情報は非表示にしています)

IMDS はグローバルなシステムで、海外のユーザーは国コードまで把握できるとは限らないため、電話および FAX 番号は国コードも指定することが重要です。

「データシート: 材料の公開」権限に関して

ユーザーは公開データシート認証フォームに記載された公開ルールを確認する必要があります。( をクリックすると表示されます。) 次にすべての有効な「ユーザー: 編集」の権限を持つユーザーに対して、この依頼を確認する方法の説明とともに、ユーザーが材料データシートを公開する権限を依頼していることを知らせるメールが届きます。

Dear John Doe

An IMDS user Doe, Jane (gihdj002) in your Company IH Company 002 [32584] requests your approval for his right to publish material.

The user already confirmed the "Certification Form Publish MDS" and if you want him to get the right to publish Material MDS you as his Company Administrator have to approve his request in his User Details.
(Administration - User - User Detail - May publish Material MDS)

Your IMDS Team

This e-mail is generated automatically. Please do not answer this e-mail. If you have questions, please contact one of our service centers under <http://public.mdsystem.com/web/imds-public-pages/imds-service-centers>.

カンパニアドミニストレーターがユーザーの依頼(10.6 ユーザーに記載)を確認したあと、ユーザーは材料データシートを公開することが許可されます。公開データシート認証フォームによる確認は毎年更新する必要があります。認証テキストはバージョン管理され、承認されたバージョンはユーザー毎に文書化されます。そのためテキストが変更された場合は、ユーザーに再度認証テキストを確認するよう求められる可能性があります。

下部では、「トラストユーザー」機能において、また送信先情報タブの通信情報のデータシート拒否において、個人データを他のユーザーに表示するかどうかを確認する必要があります。連絡先情報の使用は必須ではありません。連絡先情報の公開を拒否した場合でも、IMDS は使用可能です。連絡先情報を表示しないことを選択した場合、データシートを拒否する際に、企業のデフォルトコンタクトがサプライヤーに表示されます。デフォルトコンタクトが存在しない場合、連絡先情報は「不明」と表示されます。

「トラストユーザー」機能において、またデータシート拒否において、個人データを他のユーザーに表示するかどうかを確認する必要があります。ユーザーはデータの使用を承諾する必要はなく、連絡先情報の公開を拒否した場合でも IMDS を使用できます。

更に右側では、特定のイベントが起こった場合にシステムからのお知らせを受け取るかどうかの設定を行うことができます。

以下の状況に該当した場合、Eメールの受信を希望する

入力依頼の拒否

送信した入力依頼の期日

日

データシートリクエスト ☐ 入力依頼の受信
☐ 受信した入力依頼の期日
 日
☐ 入力依頼の削除

データシート ☒ データシートの拒否
☒ データシートの承認
☒ データシートの受信
☐ フォローアップの期限
☒ 機密扱い物質がGADSL記載物質として指定
☒ 機密扱い物質がSVHC物質として指定
☐ PCF更新

情報 ☐ IMDSの有効期限のお知らせ
☒ ニュースレター

以下の表に各イベントの詳細をまとめました。これらの選択肢の中から E メールでのお知らせを受け取りたいイベントを選択します：

イベント	お知らせ内容
入力依頼の拒否	選択形式: 自社またはログインしているユーザーが作成した入力依頼が拒否されたタイミングでメールが届きます。
自社入力依頼期日	選択形式: 自社またはログインしているユーザーが作成した入力依頼の期日に関するメールが届きます。 選択形式: 下の欄で日数を指定すると、期日の何日前にお知らせを受け取るかを指定することができます。
入力依頼の受信	入力依頼を受信するとメールが届きます。
受信した入力依頼の期日	受信したデータシートの期日に関するメールが届きます。 下の欄で日数を指定すると期日の何日前にお知らせを受け取るかを指定することができます。

入力依頼の削除	入力依頼が削除されるとメールが届きます。
データシートの拒否	自社から送信したデータシートが拒否されるとメールが届きます。
データシートの承認	自社から送信したデータシートが承認されるとメールが届きます。
データシートの受信	データシートが受信されるとメールが届きます。
フォローアップの期限	フォローアップの期限にメールが届きます。
機密扱い物質が GADSL 記載物質として指定	機密扱いにしていた化学物質が、新規に GADSL に追加されるとメールが届きます。
機密扱い物質が SVHC 物質として指定	機密扱いにしていた化学物質が、新規に REACH SVHC に追加されるとメールが届きます。
PCF 更新	PCF 情報が更新されるとメールが届きます。
IMDS の有効期限のお知らせ（カンパニアドミニストレーター）	ユーザーID の「有効期限」に達し、期限切れになりそうになるとメールが届きます。
ニュースレター	重要なお知らせが含まれる IMDS ニュースレター(定期発行)が新しく発行されると、メールが届きます。
IMDS 製品関連情報	IMDS アドバンスド・ソリューションズ、イベント、オンラインセミナーの情報を見ることができます。

10.2 パスワード変更

現行のパスワードを、自身で考えた新しいパスワードに変更できます。この機能は全ユーザー対象です。パスワード要件については、9.4 アプリケーションセキュリティを参照してください。

10.3 通知

システムからのお知らせを表示します。次のログインにお知らせを表示させるか、既読にするか、適切なボタンをクリックします。最後に「OK」ボタンをクリックすることで設定を保存することができます。

10.4 企業

システムからのお知らせを表示します。次回のログインにお知らせを表示させるか、既読にするか、適切なボタンをクリックします。最後に「OK」ボタンをクリックすることで設定を保存することができます。

10.4.1 企業情報の変更

このメニューでは企業名、住所、DUNS ナンバー、組織といった企業情報を表示させたり編集できたりします。この機能はカンパニアドミニストレーターのみ利用できます。カンパニアドミニストレーターは自社企業の全ての情報を管理する権利と責任があります。組織の利用は任意です(次章で説明します)。以下は企業画面のサンプルです:

企業名	組織	ID	郵便番号	市町村名
HP (Japan)	2	900436	-	-

検索結果で選択した企業を編集したり、詳細を確認できます。編集/閲覧ボタンをクリックするか、右クリックでメニューを選択すると、詳細タブが開きます。画面右側は企業の登録情報です。企業 ID はシステムが自動で割り振った番号で、ユニークです。このため、変更することはできません(企業を再登録する場合は除く)。

The screenshot shows the 'Details' page for an organization unit named 'IH Automotive'. The interface includes a sidebar with navigation options like 'Search', 'Add Org Unit', and 'Delete'. The main content area is divided into sections: 'Org Unit', 'SCIP', 'Company Address', 'Settings', and 'User'.

Org Unit Details:

- Name: IH Automotive
- Company ID: 900344
- DUNS Number: 12-345-6789
- Corporation: [Empty field]
- Authorization Class: Supplier

SCIP Section:

- Upload S2S Key: [Import button] [Red minus button]
- Legal Entity: [Empty field]
- Last Uploaded Time: [Empty field]

Company Address Section:

- Street: [Empty field]
- Mailbox: [Empty field]
- * Zip Code: 99999
- * City: Bad Homburg
- * Country: Germany (dropdown)

Settings Section:

- Publish MDS:
 - ☒ Component
 - ☒ Semicomponent
 - ☒ Material
- Expiry Range: 365 (dropdown)

SCIP S2SKey は、SCIP 項目にある「S2S Key を追加」ボタンを使って、SCIP S2SKey ファイルを選択することでアップロードすることができます。ファイルがアップロードされると、ECHA 企業名と最新のアップロード時刻が下表に表示されます。

SCIP	
Upload S2S Key  	
Legal Entity	Last Uploaded Time
DXC.Technology - EntServ Deutschland GmbH	03/31/2021 07:50:16

複数の S2S キーをアップロードすることができます。また、「S2S Key を削除」ボタンを使って、任意の S2S キーを選択して削除することができます。削除を確認するメッセージが表示されます。

The dialog box is titled 'MDS - MATERIAL DATA SYSTEM' and contains the text: 'Do you really want to remove the S2Skey with Legal entity name DXC.Technology - EntServ Deutschland GmbH?'. At the bottom right, there are two buttons: 'Yes' (with a green checkmark icon) and 'Cancel' (with a blue circular arrow icon).

Below the dialog box, a table shows the current state of the S2S keys:

Legal Entity	Last Uploaded Time
DXC.Technology - EntServ Deutschland GmbH	03/31/2021 07:50:16

セキュリティの観点から、**企業名**はユーザー(カンパニアドミニストレーターを含む)が自由に変更することができません。しかしカンパニアドミニストレーターだけは、企業名の変更をサービスデスクに依頼することができます。企業名変更に伴う費用負担はありません。ただし、「企業再構成」サービスによるデータ移行の一環で、企業名が変更になるようなケースは有料です(企業再構成サービスが有料のため)。企業名変更についての手順は以下の通りです。:

1. 自社に登録されている組織の名称が、希望する新しい(変更後の)企業名と同一、または含まれていないことを確認します。
2. 可能であれば、Eメールのドメインすべてが新しい(変更後の)企業名と同一で、古い企業名でないことを確認します。
3. 新しい(変更後の)企業名と同じまたはよく似た企業が他に無いかどうかを確認します。
4. 新しい(変更後の)企業名は、標準的な英字のみで構成されていなければなりません。英語でない文字(á, ñ, ü など)が入っていないことを確認します。
5. 文字数は、80 文字以内に収まるようにします。
6. カンパニアドミニストレーターが、IMDS に登録している E メールアドレスから、IMDS サービスデスクに連絡します。メールには、簡単に企業名の変更を依頼する旨と、企業 ID、現行の企業名、変更したい新しい企業名を記載してください。

多くの場合、上の条件を満たしていれば 1~2 営業日で変更できます(ただし、サービスデスクの混雑状況やその他要因によって差がありますのでご了承ください)。

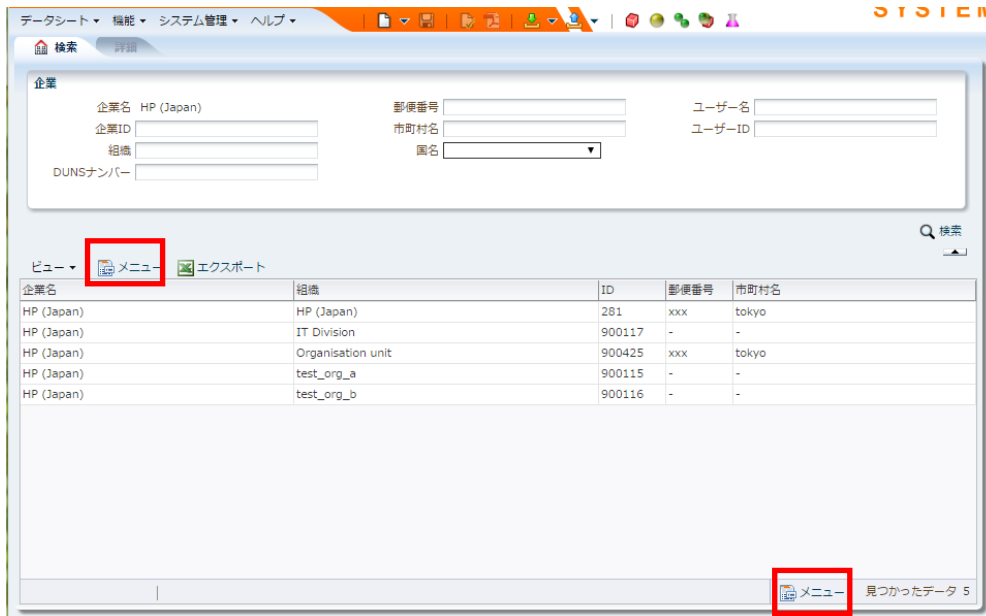
企業メニューの「設定」>「有効期限の初期設定」では、ユーザーID を新規作成する際にあらかじめ設定される有効期限を、ここで決めておくことができます。選択肢は 90、180、365、730 日です。

ユーザーID の管理のため、ユーザーID のリストをエクスポートできます。エクスポートしたリストには、ユーザーが最後にログインした日付などの情報も含まれています。セキュリティの観点から、カンパニアドミニストレーターは、必要のないユーザーID は無効にしておくことを強く推奨します。前にご説明した通り、各ユーザーは自分の E メールアドレスを変更することができます。カンパニアドミニストレーターがアカウントを無効化しなかった場合、これらのユーザーは E メールアドレスを変更して保有し続け、退職した後でも、企業の IMDS データにアクセス可能な状態になってしまう危険性があります。ユーザーID を無効化する方法については、[「システム管理」>「ユーザー」](#)の説明をご参照ください。

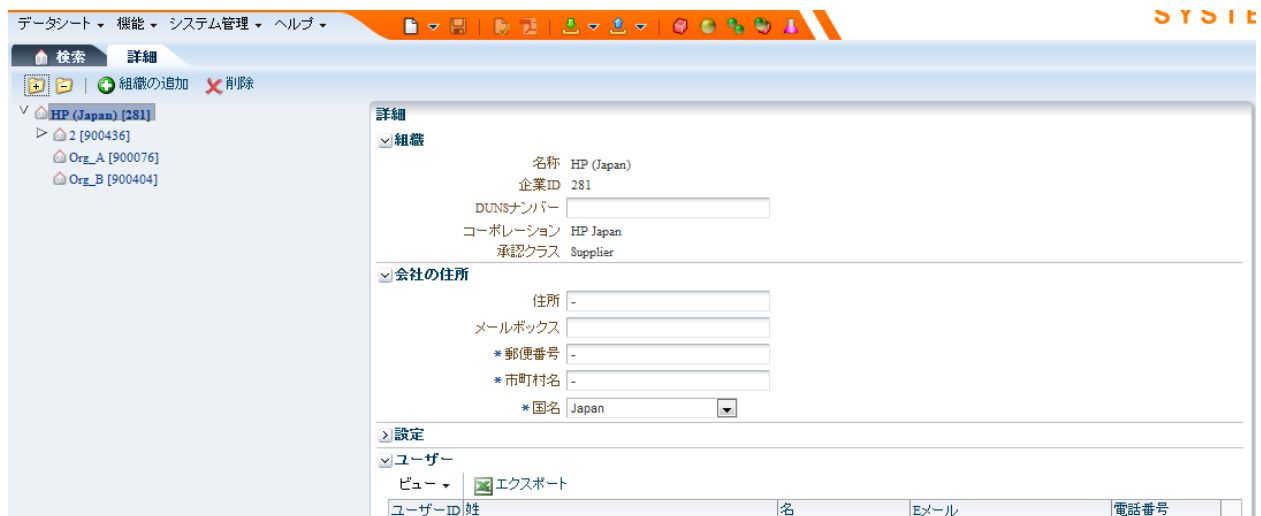
10.4.2 組織の追加

組織(Org Units)を使う事で、企業情報を組織ごとに管理したり分けたりすることができます。組織は、ユーザーが使いやすい構成で利用することができます。一般的な使い方としては、地域別の組織編制(地域、国、州、工場別など)もしくは、機能別の組織編制(電子機器、流体力学、機構など)が考えられます。

組織は「システム管理」>「企業」メニューから追加できます。



企業検索画面の検索結果で企業か組織の上を右クリックすることで詳細を編集することができます。また、検索画面の左上と右下にあるメニューオプションでも編集することができます。



画面の左側は企業構成です。組織は、企業構成の上の「組織の追加」をクリックすることによって追加できます。「組織の追加」を選択すると、画面右側が以下のように変わります。

組織の詳細に名称(何の組織か分かるもの)、を記入し保存したら、組織の追加作業が完了します。

各組織には、企業 ID と同様の固有の ID が割り当てられ、その ID を使って企業 ID で行う送受信と同じように、サプライヤーからデータシートを受信したり、顧客に送信したりすることができます。ただし、組織にユーザーが割り振られていないと、組織にデータシートが送信されても誰も見ることはできません。IMDS では、組織に最低でも 1 名以上のユーザーが割り当てられていないと、データシートを送信することができません。組織にユーザーを割り振る方法については、[「システム管理」>「ユーザー」](#)の章をご参照ください。

10.4.3 組織の削除

組織を削除するには、企業画面で削除したい組織を右クリックします。そして、現れたメニューの中の「削除」を選択します。

注意:「削除」メニューが表示されない場合、企業の構成が保存されていない可能性があります。まず「保存」を行うと削除メニューが表示されます。

10.5 コンタクトパーソン/規制情報コンタクト/PCF コンタクト

コンタクトパーソンとして IMDS に登録されると、データシートのサプライヤー情報タブに問い合わせ先として表示されます。

データシート ▾ 機能 ▾ システム管理 ▾ ヘルプ ▾

コンタクトパーソン 詳細 *

コンタクトパーソン

企業名 []

姓 [] *

名 [] *

部署 []

メールボックス []

Eメール [] *

電話 []

FAX番号 []

有効 ☒ ?

役割分類 ☒ IMDS ☒ デフォルトIMDSコンタクト ?

☒ PCF ☒ デフォルトPCFコンタクト ?

☒ REACH

☒ EUDR

項目	内容
IMDS	この項目にチェックをつけると、サプライヤー情報タブにこの人がコンタクトパーソンとして表示されます。
PCF	この項目にチェックをつけると、この人がPCF コンタクトとして登録されます。
REACH	この項目にチェックをつけると、この人が REACH コンタクトとして登録されます。
EUDR	この項目にチェックをつけると、この人が EUDR コンタクトとして登録されます。
有効	このコンタクトパーソンが有効かどうかを表します。

REACH/EUDR コンタクトとして登録されると、他社のユーザーが規制情報コンタクトメニューから検索できるようになります。少なくとも 1 企業につき 1 名以上の特定の REACH/EUDR コンタクトパーソンを登録することをお勧めします。

規制情報コンタクト 詳細

検索条件

企業名 * 🔍

役割分類 ☐ REACH ☐ EUDR

🔍 検索

データシート ▾ 機能 ▾ システム管理 ▾ ヘルプ ▾

規制情報コンタクト 詳細

検索条件

企業名 IMDS Service Team 🔍

役割分類 ☒ REACH ☒ EUDR

表示 ▾ 📄 メニュー 📄 エクスポート

企業名
IMDS Service Team

該当するコンタクトパーソンをダブルクリックすると、その規制情報コンタクトパーソンの詳細タブが開きます：

規制情報コンタクト 詳細

規制情報コンタクト

企業名 IH Automotive

姓 Doe

名 Jane

部署

メールボックス

Eメール ilona.herrmann@dx.com

電話

FAX番号

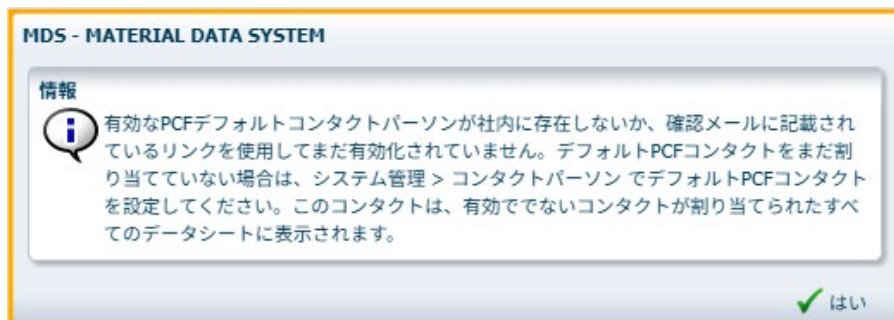
役割分類 ☒ REACH ☒ EUDR

GDPR の要件に準拠するため、コンタクトパーソンは、IMDS の連絡先として機能することを望んで、連絡先データが公開されていることを確認する必要があります。コンタクトパーソンはIMDS のユーザーではないため、コンタクトパーソンに確認のための電子メールが届きます。

コンタクトパーソンがデータシートの連絡先として機能することを確認した場合にのみ、IMDSで選択することができます。それ以外の場合は、削除された連絡先として扱われます。

カンパニアドミニストレーターには、企業のコンタクトパーソンの 1 人を「デフォルトの連絡先」として定義するオプションがあります。このコンタクトパーソンのデータは、元々 MDS に割り当てられていたコンタクトパーソンがアクティブでなくなった場合に備えて、サプライヤー情報と PDF レポートに表示されます。1 企業につき 1 人のみをデフォルトのコンタクトパーソンに指定できます。デフォルトのコンタクトパーソンになると、このコンタクトパーソンを無効にすることはできなくなります。代わりに、別のアクティブなコンタクトパーソンを新しいデフォルトのコンタクトパーソンとして定義する必要があります。同様に、デフォルトの連絡先を無効にするには、最初に別の連絡先担当者を新しいデフォルトの連絡先として定義する必要があります。

企業に PCF デフォルトコンタクトが割り当てられていない場合、ログイン時に「ユーザー：編集」権限を持つユーザーに対して、システム管理＞コンタクトパーソンでそのコンタクトを設定するよう案内するメッセージが表示されます。



10.6 ユーザー

ユーザー管理オプションは、「ユーザー：編集」権限を持つユーザーのみが利用できます。バックアップとして、一企業につき最低 2 名のカンパニアドミニストレーターを登録することを強くお勧めします。パスワードのリセットを含め、ユーザーと権限を管理するのはカンパニアドミニストレーターの責任です。

10.6.1 ユーザー権限

以下のリストは、「ユーザー：編集」権限を持つユーザーがユーザーアカウントに割り当てることができるすべての権限を示しています：

グループ	権限	説明
データシート	入力依頼: 作成/送信	入力依頼の編集および送信することができる
	入力依頼: 拒否/データシートの割り当て	受信した入力依頼のステータスの変更およびデータシートの割り当て/割り当て解除することができる
	入力依頼: 受信済み一覧の検索	入力依頼の受信済み一覧の検索画面を表示することができる
	入力依頼: 送信済み一覧の検索	入力依頼の送信済み一覧の検索画面を表示することができる
	データシート: 承認/拒否/フォローアップ	受信データシートのステータスを変更することができる(開封、承認、拒否)
	データシート: 承認/公開データシートのコピー	提供されたモジュールまたはデータシートを、新規モジュールまたは新規データシートとしてコピーすることができる
	データシート: 自社モジュール/データシートのコピー	自社モジュールまたは自社データシートを新規モジュールまたは新規データシートとしてコピーすることができる
	データシート: レポートの作成	PDF レポートを作成することができる
	データシート: コンポーネント/セミコンポーネントの編集	コンポーネントおよびセミコンポーネントのモジュールおよびデータシートを編集することができる
	データシート: 材料の編集	材料のモジュールおよびデータシートを編集することができる
	データシート: 転送	受信データシートを転送することができる
	データシート: obsolete(旧式、廃型)としてマークする	obsolete(旧式、廃型)としてマーク/マーク解除することができる
	データシート: まだ有効としてマークする	まだ有効としてマーク/マーク解除することができる

グループ	権限	説明
	データシート: コンポーネント/セミコンポーネントの公開	データシートを公開することができる
	データシート: 材料の公開	材料データシートを公開することができる
	データシート: 受信済み一覧の検索	データシートの受信済み一覧の検索画面を表示することができる
	データシート: 送信済み一覧の検索	データシートの送信済み一覧の検索画面を表示することができる
	データシート: where-used 分析の検索	Where Used 分析画面を表示することができる
	データシート: 検索/表示	データシートの検索画面を表示し、モジュールおよびデータシートを開くことができる
	データシート: obsolete(旧式、廃型)の検索/表示	obsolete(旧式、廃型)としてマークされたデータシートを検索することができる
	データシート: 送信/全送信	データシートの送信先を管理し、送信/全送信することができる
	データシート: 機密扱い物質の表示/マーク	自社の機密扱い物質を確認し、自社の参照されている化学物質の機密扱いのフラグを変更することができる
	化学物質: 作成依頼	化学物質の追加依頼をすることができる
	化学物質: 検索/表示	化学物質検索および詳細を表示することができる
規制ウィザード	規制情報: 編集	規制情報を編集することができる
	規制情報: 表示/回答依頼	規制情報を表示することができる
SCIP	SCIP 提出: 検索	SCIP 提出画面を表示することができる
	SCIP 提出: 送信	SCIP 提出をすることができる

グループ	権限	説明
PCF	PCF: 編集	PCF 情報を編集することができる
	PCF: 表示	PCF 情報を表示することができる
システム 管理	管理: 証明	証明書を提出することができる（例： フォード用）
	管理: トラストユーザー	トラストユーザーを管理することができる
	企業: 編集	企業と組織を編集することができる
	コンタクト: 編集	コンタクトを編集することができる
	コンタクト: REACH コンタクトの検索/ 表示	すべての企業の Reach コンタクトを検 索することができる
	データシート: 組織間でのデータシー トの移動	組織間でデータシートを移動するた めのデータシート管理画面を表示す ることができる
	統計: 表示	自社の統計をダウンロードすることが できる
	ユーザー: 編集	ユーザーを編集することができる

10.6.2 プリセット

権限の割り当てを容易にするため、適切な権限を持つ 4 つのプリセットが定義されています。特定のプリセットを選択し、個々の権限を追加または削除することができます。

ユーザー管理でプリセットが表示されている場合、IMDS は利用可能な権限に最も近いプリセットを自動的に表示し、ユーザーの権限がプリセットと異なる場合はインジケータを追加します。「+」は、そのユーザーがプリセットよりも高い権限を有していることを示します。また、「-」はそのユーザーがプリセットよりも少ない権限しか持っていないことを示し、「*」はそのユーザーが追加の権限を持ち、同時にプリセットの権限が不足していることを示します。

以下はプリセットとその権限の説明です：

Company Administrator only

このプリセットには、基本的な管理権限がすべて含まれており、ユーザーは企業の組織単位、ユーザー、コンタクトパーソン、および certification(証明)を管理することができます。このプリセットには、企業の統計情報を閲覧する権限も含まれています。

グループ	権限
システム管理	管理: 証明
	企業: 編集
	コンタクト: 編集
	統計: 表示
	ユーザー: 編集

Company Administrator and User

このプリセットは、Company Administrator(上記参照)の権限と通常の User(下記参照)の権限を組み合わせたものです。またデータシートに関連するいくつかの追加管理機能にもアクセスすることができます。

グループ	権限
データシート	入力依頼: 作成/送信
	入力依頼: 拒否/データシートの割り当て
	入力依頼: 受信済み一覧の検索
	入力依頼: 送信済み一覧の検索
	データシート: 承認/拒否/フォローアップ
	データシート: 承認/公開データシートのコピー
	データシート: 自社モジュール/データシートのコピー
	データシート: レポートの作成
	データシート: コンポーネント/セミコンポーネントの編集
	データシート: 材料の編集
	データシート: 転送
	データシート: コンポーネント/セミコンポーネントの公開
	データシート: 受信済み一覧の検索

グループ	権限
	データシート: 送信済み一覧の検索
	データシート: where-used 分析の検索
	データシート: 検索/表示
	データシート: 送信/全送信
	化学物質: 作成依頼
	化学物質: 検索/表示
規制ウィザード	規制情報: 表示/回答依頼
SCIP	SCIP 提出: 検索
	SCIP 提出: 送信
PCF	PCF: 表示
システム管理	管理: 証明
	管理: トラストユーザー
	企業: 編集
	コンタクト: 編集
	コンタクト: REACH コンタクトの検索/表示
	データシート: 組織間でのデータシートの移動
	統計: 表示
	ユーザー: 編集

User

ほとんどの企業では、個々のユーザーアカウントに追加の権限を割り当てる必要がありますが(例えば「PCF: 編集」や「規制情報: 編集」)このプリセットは、企業内の一般ユーザーのための推奨ベースラインを表しています。これは「Company Administrator and User」プリセットと同じ権限を含みますが、管理機能はありません。

グループ	権限
データシート	入力依頼: 作成/送信
	入力依頼: 拒否/データシートの割り当て
	入力依頼: 受信済み一覧の検索
	入力依頼: 送信済み一覧の検索
	データシート: 承認/拒否/フォローアップ
	データシート: 承認/公開データシートのコピー
	データシート: 自社モジュール/データシートのコピー
	データシート: レポートの作成
	データシート: コンポーネント/セミコンポーネントの編集
	データシート: 材料の編集
	データシート: 転送
	データシート: コンポーネント/セミコンポーネントの公開
	データシート: 受信済み一覧の検索
	データシート: 送信済み一覧の検索
	データシート: where-used 分析の検索
	データシート: 検索/表示
	データシート: 送信/全送信
	化学物質: 作成依頼
	化学物質: 検索/表示
規制ウィザード	規制情報: 表示/回答依頼
SCIP	SCIP 提出: 検索
	SCIP 提出: 送信
PCF	PCF: 表示

User (read-only)

このプリセットには、通常の User(上記参照)がアクセスできるすべてのデータへのアクセスが含まれますが、企業のデータに変更を加える権限はありません。

グループ	権限
データシート	入力依頼: 受信済み一覧の検索
	入力依頼: 送信済み一覧の検索
	データシート: レポートの作成
	データシート: 受信済み一覧の検索
	データシート: 送信済み一覧の検索
	データシート: where-used 分析の検索
	データシート: 検索/表示
	化学物質: 検索/表示
	規制情報: 表示/回答依頼
	SCIP 提出: 検索
	PCF: 表示

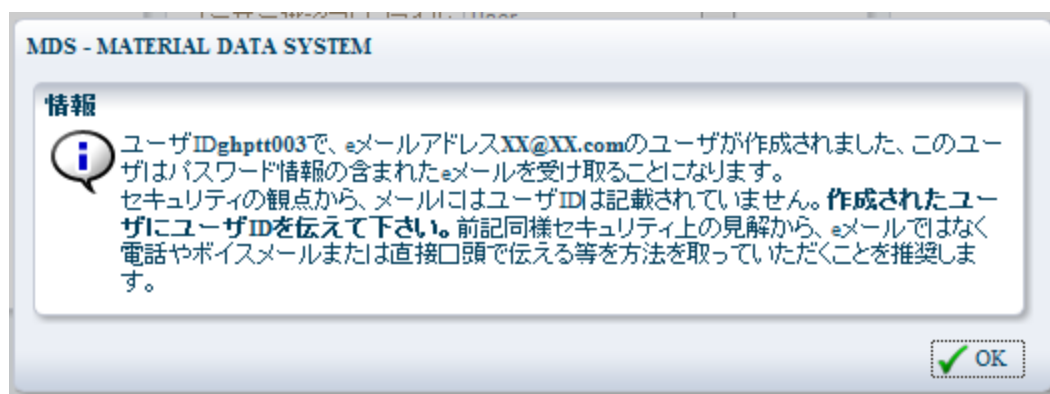
10.6.3 ユーザーの作成

各ユーザーが IMDS システムを使用するためには、自分の氏名が登録された、自分だけの ID が必要です。ユーザーの作成を行うには、システム管理>ユーザーメニューの「作成」ボタンを使います。すると、以下のような画面が表示されます。

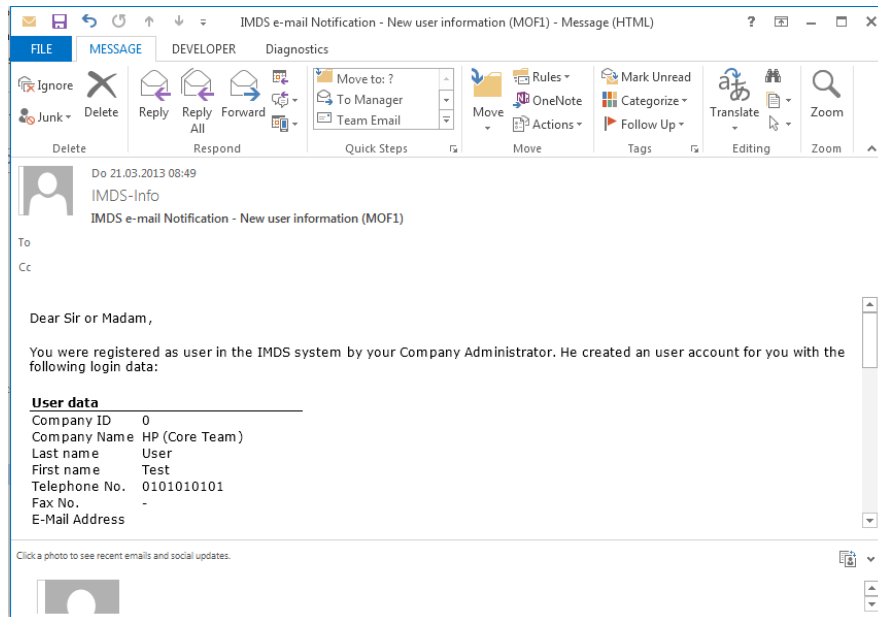
以下の表に示す情報が最初に表示されます:

項目	内容
ユーザーID	システムによる自動設定 –作成が完了していない段階では割り当てられていません。
企業 ID	システムによる自動設定
企業名	企業名(変更不可)
組織	そのユーザーID が所属する組織
姓	ユーザーの苗字(必須)
名	ユーザーの名前(必須)
ユーザー承認プリセット	プリセットの詳細については、前の章を参照してください。 「権限の追加/削除」 ボタンをクリックすると、プリセットを変更したり、ユーザーの個々の権限を保持したりする画面になります。
電話番号	国コードを含む電話番号
Fax 番号	国コードを含む FAX 番号(任意)
E メールアドレス	E メールアドレス(必須)
有効開始日	ユーザーがこのユーザーID を利用する開始日
有効期限	ユーザーがこの ID でシステムにログインできる最終日

必要情報を入力したら、保存()ボタンをクリックします。そうすることで、ユーザーIDを作成することができます。

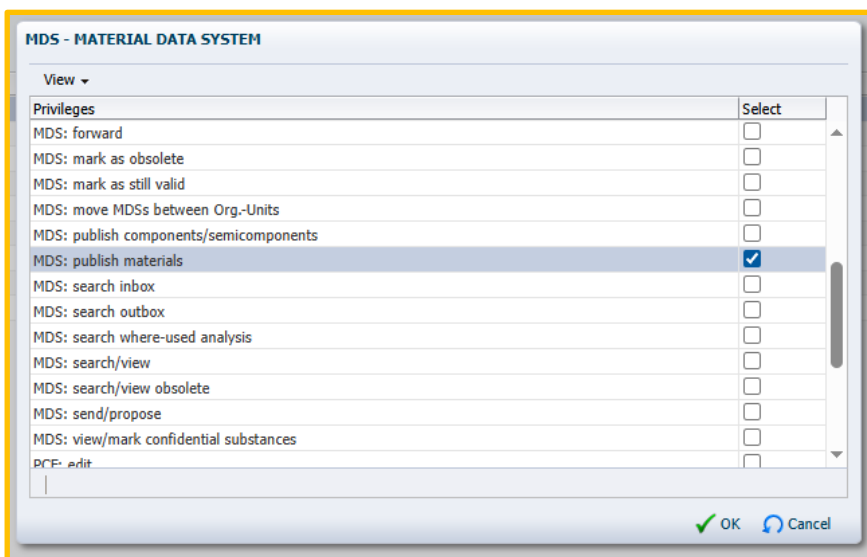


ここで、ユーザーID を必ず書き留めておいてください!! セキュリティの観点から、E メールがアドミニストレーターとユーザー本人に届きますが、ユーザーID は含まれていません。アドミニストレーターは、ユーザーID を本人に安全な方法で、IMDS とは違う方法で伝達しなければなりません。アドミニストレーターとユーザーは以下のようなパスワードが含まれたメールを受信します:



この E メールにはユーザーID が含まれていないという点ご注意ください。また、最初のログイン時にパスワードを入力するときには、この E メールからコピー&ペーストすることを強くお勧めします。もし「ユーザー:編集」権限を持ったユーザーがユーザーID を控えていなかった場合は、ユーザーはログイン画面で「ID の確認」ボタンを使って IMDS からユーザーID を含むメールを安全に受け取ることができます。

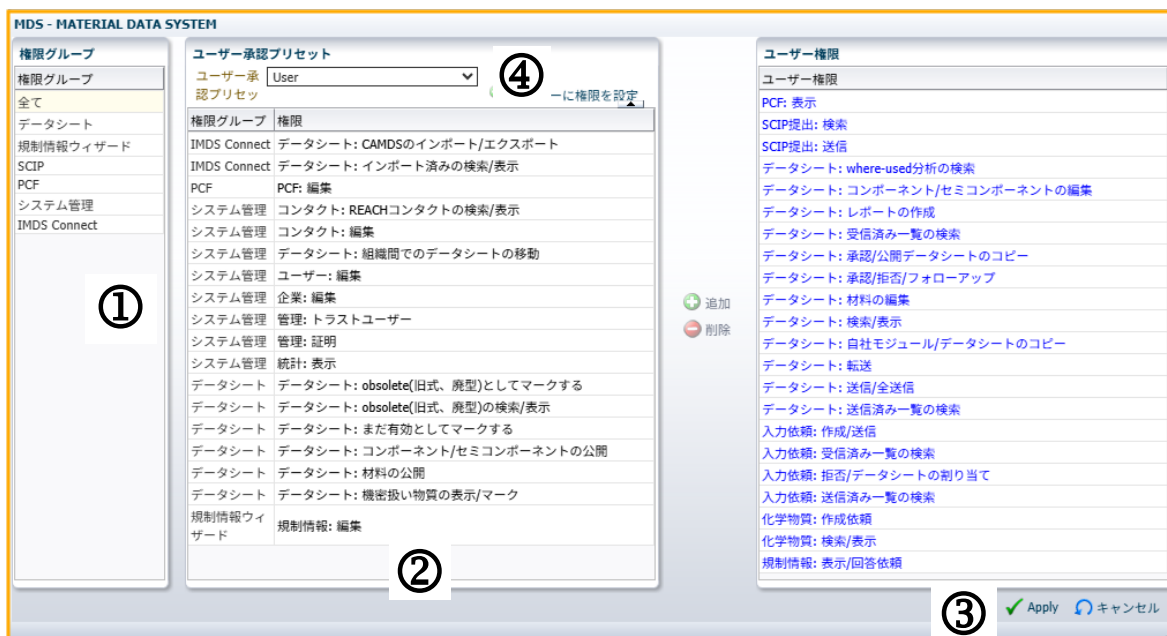
新しいユーザーID が作成され、初めてログインした後、材料データシートを公開するための依頼ができます。(公開データシート認証、個人設定参照)



その後、「ユーザー: 編集」権限を持つユーザーが、この権限を依頼したユーザーに付与することができます。

10.6.4 ユーザーID に権限とプリセットを割り当てる

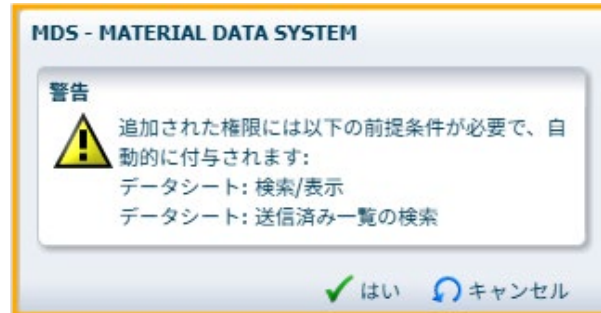
ユーザー詳細画面の「権限の追加/削除」ボタンをクリックすると、以下のダイアログが開きます：



左側の「権限グループ」リスト①では、中央の権限テーブルをフィルタリングすることができます。デフォルトでは「全て」の特権が表示されます。

中央の権限テーブル②には、選択したグループの権限のうち、まだユーザーに付与されていないものがすべて表示され、右側の「ユーザー権限」リスト③には、すでに付与されている権限がすべて表示されます。

中央の表で 1 つ以上のエントリーを選択し、「追加」をクリックすると、そのユーザーに権限が付与されます。右側のリストで 1 つまたは複数のエントリーを選択し、「削除」をクリックすると、その権限が取り消されます。ある権限が他の特権に依存している場合、システムは自動的に対応する権限を付与または取り消し、それに応じてメッセージを表示します：



ダイアログ④ の上部中央でプリセットの選択には、2 つの目的があります。1 つ目は選択したプリセットに関連するすべての権限を青くハイライトします。2 つ目に「ユーザーに権限を設定」ボタンをクリックすることで、ユーザーに付与された権限のリストが選択されたプリセットに設定されます。以前に付与された他の全ての権限は取り消されますが、その後も手動で付与することができます。

10.6.5 ユーザーID を組織に割り振る

組織に送られた入力依頼やデータシートを閲覧したり、自社データの「サプライヤー情報」で送信元組織を選択したりするためには、そのユーザーID が組織に割り当てられている必要があります。カンパニアドミニストレーターはユーザーID の詳細画面にある企業データの部分の「このリストに組織を追加します。」をクリックし、表示された画面でさらに検索をクリックすると、その企業に含まれる組織の一覧が表示されます。割り当てたい組織すべてにチェックを付けて「適用」または「全て適用」をクリックします。

データシート ▾ 機能 ▾ システム管理 ▾ ヘルプ ▾

検索 詳細 *

企業

ユーザーID 不明
企業ID 900428
企業 Kawashima.Co.Ltd

Organisation unit  

Organisation unit   このリストに組織を追加します。

No data to display.

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

企業

企業名 Kawashima.Co.Ltd 郵便番号
企業ID 900428 市町村名
組織 国名
DUNSナンバー

検索

ビュー ▾  メニュー  エクスポート

企業名	組織	ID	郵便番号	市町村名
Kawashima.Co.Ltd	Osaka	900672	123	Osaka
Kawashima.Co.Ltd	Tokyo	900671	123	Tokyo

選択行 1 | | | |

メニュー 見つかったデータ 2

 表示  適用  全て適用  キャンセル

この画面では、新しいユーザーを割り当てる組織を1つ以上選択できます。

10.6.6 ユーザーの無効化

ユーザーが退職する、もしくは IMDS にログインをする必要がなくなった場合は、必ずそのユーザーID を無効化する必要があります。推奨される手順は以下の通りです：

- 1) 対象のユーザーID を検索し、詳細を表示する。
- 2) 「有効期限」を今日の日付にする。さらに、右側の下部にある[無効化]をクリックします。
- 3) 保存する。
- 4) ユーザーの検索画面で、自社の無効のユーザーを検索するために「有効」のチェックボックスを外して検索する。

10.6.7 パスワードリセット

自社のユーザーのパスワードを再発行するのも、「ユーザー: 編集」の権限を持つユーザーの役割です。実施するには、「システム管理」>「ユーザー」から対象のユーザーを検索して詳細を表示させます。ユーザーの E メールアドレスが正しいことを確認してください。詳細画面の右下に「PW リセット」というボタンがあります。ボタンをクリックすると、システムから新しいパスワードを含む E メールが、対象のユーザーの E メールアドレスに配信されます。

10.6.8 トラストユーザー

トラストユーザーメニューは「管理: トラストユーザー」の権限を持つユーザーだけが利用できる機能になります。トラストユーザーの用途は 2 種類あります。一つは他社のトラストユーザー(サプライチェーン内の全てのユーザーが対象。直接取引があるかどうかは関係ありません)で、自社から送ったデータシートに含まれる全ての化学物質(「機密扱い」の化学物質を含む)情報を見ることができる権限を持っています。これはデータシート内のどの階層にあったとしても同じです。この権限は特定のユーザーにしか与えられず、自社のユーザーには付与できません。トラストユーザーは画面で見ることができますが、IMDS から情報をダウンロードできるわけではありません。

トラストユーザーは自社のユーザーだけでなく、他社のユーザーにも適用されます。自社および他社ユーザーの機密性が考慮される場合、システム管理>ユーザーメニューにおいて「データシート: 機密扱い物質の表示/マーク」の権限を設定する必要があります。

図 14- トラストユーザー画面

企業名フィールドは必須です。企業検索で特定の企業を検索し、その中から該当ユーザーを検索することができます。画面右下の検索ボタンを押すと、結果としてのその企業のすべてのユーザーのリストが表示されます(検索結果は上限 500 件までとなります)。この代わりに、企業を特定したり、ユーザー情報を設定したりしたあと、検索ボタンをクリックしてください。検索結果が表示された後で該当ユーザーを右クリックして「トラストユーザー」をクリックする

と、チェックボックスにチェックがつき、そのユーザーをトラストユーザーとすることができます。

姓	名	企業名	組織	電話番号	Eメールアドレス	Trusted User
test	user	J-Supplier		1234	kayoko.yamada@hp.com	☒
test	user	J-Supplier	Org_a	1234	kayoko.yamada@hp.com	☐

10.7 データシート管理

この機能は「データシート: 組織間でのデータシートの移動」の権限を持つユーザーのみ利用でき、データシート(自社および受信)を組織間で移動させることができます。例えばサプライヤーが違う組織に誤ってデータシートを送ってしまったり、自社のユーザーが誤って自社データシートの送信元に別の組織を割り当てたり、または組織を追加しなかった場合などに有効です。加えてその企業が買収などで IMDS の企業 ID の再編成が必要になったときなどにも利用できます。

データシート管理画面のサンプルは以下の通りです:

「自社のデータシートの検索」ボタンをクリックすると、通常の検索メニューと同じ画面が表示され、自社データシートを検索できます。この時「承認データシート」のチェックボック

スはオフになっています。対象のデータシートをクリックして選択し(複数のデータシートを一度に選択したい場合は、CTRL キーを押したままデータシートをクリックします)、「適用」ボタンをクリックします。すると画面上部に選択したデータシートが表示されます。さらにその中から移動させたいデータシートをクリックしてハイライト(行に色がついた状態)にします。次に画面下部の「データシートの移動先」の「組織」の横のプルダウンメニューから、移動させたい先の組織を選択し、「移動」ボタンをクリックします。

10.8 データシート統計

データシート統計メニューでは、「統計: 表示」権限を持ったユーザーが、特定の期間など、以下の表にある条件に沿ったデータシート数を調べることができます:

項目	内容
全ての組織	このチェックボックスにチェックをいれると、自社の全ての組織のデータシート統計を見ることができます。
組織	「全ての組織」にチェックが入っていない場合に限り、特定の組織を選択でき、選択した組織に割り当てられたデータシート数を調べることができます。
期間	期間でデータシート数を区切って結果を表示させます。
検索対象	受信、送信、自社データシートのうち、どのデータシート数を調べたいかを選択することができます。

検索結果の表には、選択した組織に割り当てられたデータシート数を、以下のステータスに分けて表示します: 受信済み / 未開封 / 編集 / 拒否 / 送信者による取り消し

データシート統計

このテーブルには、あなたが登録した全ての有効化された企業が含まれている。

全ての組織 ☒ 期間 検索対象

組織 ~

ビュー

組織名	承認済みデータ	開封	未開封	編集	拒否	送信者による取り消し

10.9 組織レポート(ユーザーが割り振られていない組織のレポート)

組織を正しく利用するには、各組織にユーザーが割り振られている必要があります。組織に送信されたデータシートを開封して承認や拒否をすることができるのは、組織に割り振られているユーザーだけです。このため、組織レポート画面には、ユーザーが割り振られていないが、作成または受信したデータシートがあるすべての組織が表示されます。

「システム管理」>「組織レポート」を選択すると、ユーザーが割り振られていない組織を確認できます。

HP (Japan) [281]

データシート 機能 システム管理 ヘルプ

組織レポート

企業

企業名 HP (Japan) ID 281

郵便番号 - 市町村名 -

国名 Japan

データシートが割り振られユーザーの割り振られていない組織

ビュー

組織名	ID	郵便番号	市町村名	国名

データシートが保存されている全ての組織には、少なくとも1名以上のユーザーが割り当てられています。

見つかったデータ: 0

カンパニアドミニストレーターは定期的にこのレポートを確認し、組織に送られたデータシートが滞らないようにする必要があります。ユーザーが割り振られていない組織にサプライヤーがデータシートを送ると、誰もデータシートが送られたことを知ることはできません。組織に割り振られたユーザーだけが確認できます。必要に応じてこのレポートは印刷することができます。

11 IMDS CAMDS MDS データ転送

IMDS は、IMDS ユーザーが MDS データを CAMDS と交換するためのシンプルで直感的な方法で MDS データ転送機能(インポート/エクスポート)を提供することにより、CAMDS (China Automotive Material Data System) との通信を可能にします。これには、公開データシート、社内送信されたデータシート/モジュール、および受信データシートが含まれます。エクスポート機能により、企業はデータシート/モジュールを外部 XML ファイルにエクスポートして CAMDS にインポートでき、CAMDS からエクスポートされた既存の XML ファイルをインポートすることで、企業は IMDS でデータシート/モジュールを作成できます。

既存の要件に応じて、この IMDS CAMDS-MDS データ転送拡張機能は、有効な IMDS Connect ライセンスを持つ IMDS 企業が利用できます。

IMDS の MDS データ転送タスク(インポート/エクスポート)は、手動の同期ブロックプロセスです。

CAMDS と通信するには、まず有効な IMDS Connect ライセンスを所有している企業のユーザーが、カンパニアドミニストレーターによって、特定のアクセス権を割り当てられる必要があります。これらの権限により、画面内の関連要素が使用可能になり、各ユーザーは CAMDS との間でデータのインポート/エクスポートを開始できます。

11.1 アクセス割り当て

既存の IMDS ユーザーに CAMDS でのデータ転送のためのアクセス権限を付与するために、「User: edit」権限を持つユーザーは以下の権限を付与することができます：

グループ	権限	説明
IMDS Connect	データシート: インポート済みの 検索/表示	CAMDS インターフェース経由でインポートされたデータシートを検索することができる
	データシート: CAMDS のインポート/エクスポート	CAMDS インターフェース経由でインポートとエクスポートをすることができる

11.2 データシート/モジュールのエクスポート

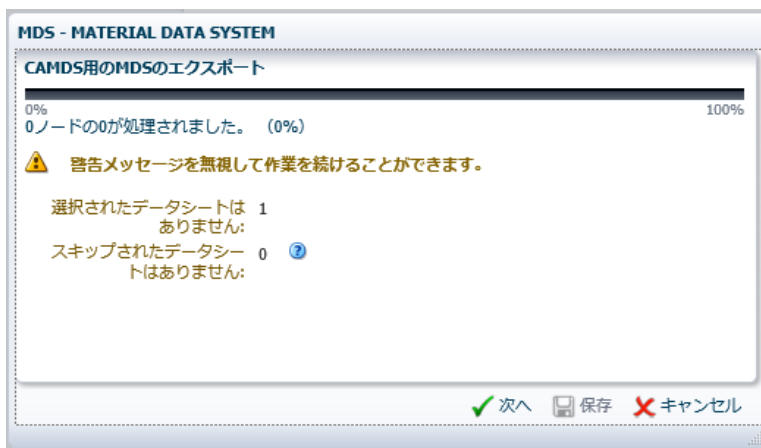
一般に、リリースされたデータシート/モジュールのみをエクスポートできます。IMDS から CAMDS にデータを転送するには、最初にデータシート/モジュールを IMDS 内から XML ファイルにエクスポートする必要があります。

ユーザーがデータのエクスポートを開始できる画面は 2 つあります。1. データシート構成情報画面と 2. データシート検索画面です。

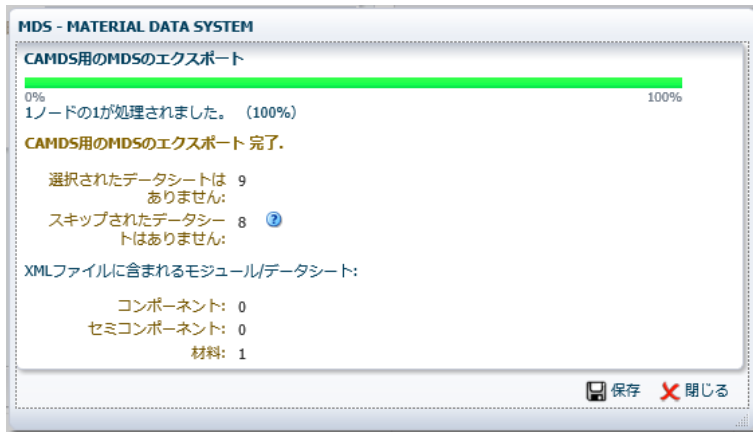
データシート構成情報画面: 単一のデータシート/モジュールをエクスポート

データシート構成情報画面でデータシート/モジュールを開き、「データシート」メニューから「CAMDS 用の MDS のエクスポート」を選択すると、エクスポートが開始されます。エラーを含むデータシートまたはモジュールはエクスポートできません。これらを最初に修正する必要があります。

データシート/モジュールで警告/情報が検出された場合、エクスポートの開始を確認する必要があります。



[次へ]ボタンをクリックすると、選択したデータシート/モジュールのエクスポートが開始されます。データシート/モジュールに警告/情報が含まれていない場合、エクスポートが自動的に開始されます。ダイアログにエクスポートプロセスの進行状況が表示されます。エクスポートが正常に完了すると、エクスポートの概要が表示されます。



[保存]ボタンをクリックすると、エクスポートされたデータシート/モジュールが、使用する Web ブラウザで事前に構成されたダウンロード場所にある外部 XML ファイルに保存されます。

データシート検索画面: 複数/単一のデータシート/モジュールをエクスポート

データシート/モジュールおよび/またはコンポーネント/セミコンポーネント/材料検索画面で、検索結果テーブルの事前選択項目のコンテキストメニュー内から、複数の事前選択データシート/モジュールを外部 xml ファイルにエクスポートできます。まだ社内送信されていないデータシート/モジュールは、エクスポートの選択から除外されます。

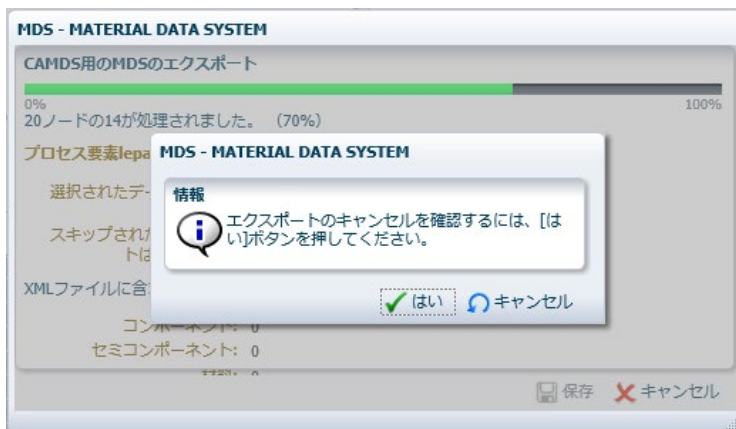


ポップアップメニューから[CAMDS 用の MDS のエクスポート]を選択すると、[エクスポート]ダイアログが表示され、選択したデータシート/モジュールのエクスポートが自動的に開始されます。

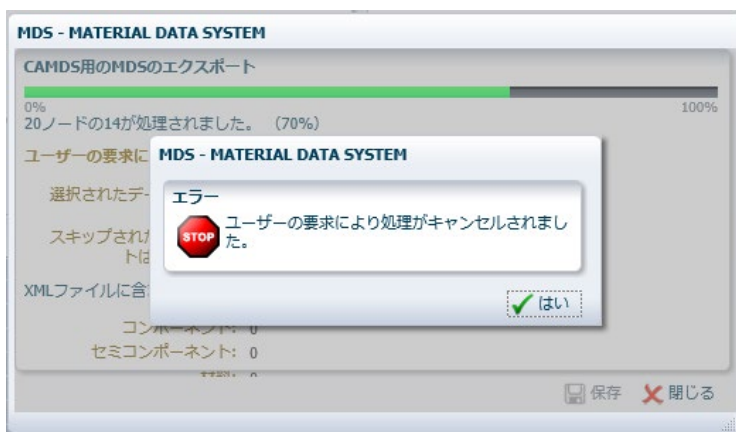
ダイアログにエクスポートプロセスの進行状況が表示されます。



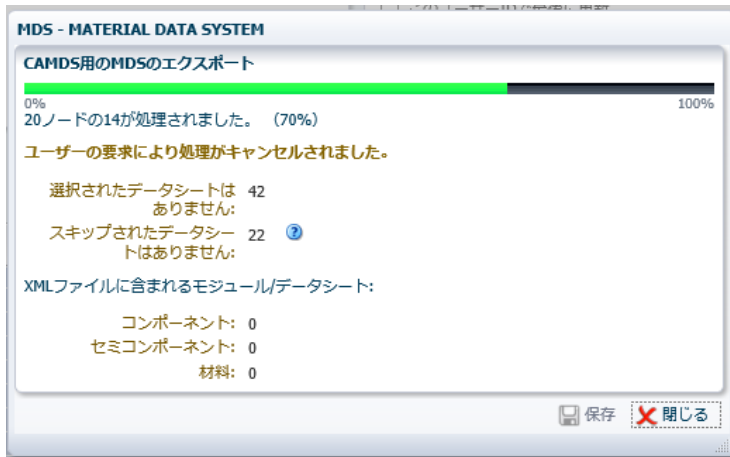
エクスポートの実行中、ユーザーは[キャンセル]ボタンをクリックしてエクスポートプロセスをキャンセルできます。ユーザーは、表示されたメッセージボックスの[はい]ボタンをクリックして、エクスポートのキャンセルを確認する必要があります。



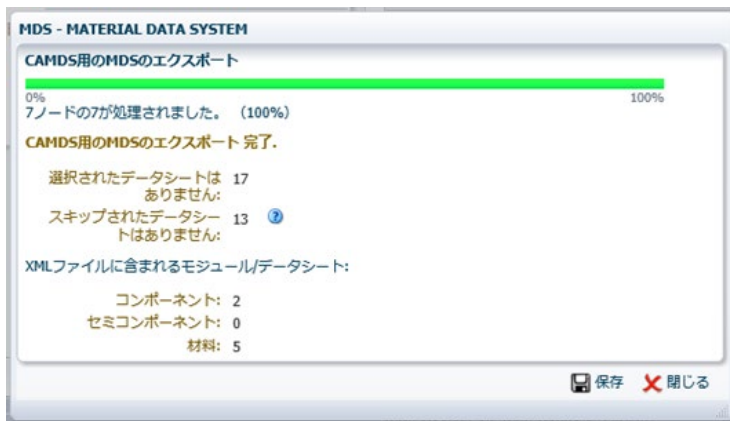
確認後、メッセージボックスが表示され、エクスポートプロセスのキャンセルについてユーザーに通知します。



エクスポートプロセスをキャンセルした後、[閉じる]ボタンをクリックして[エクスポート]ダイアログを閉じることができます。



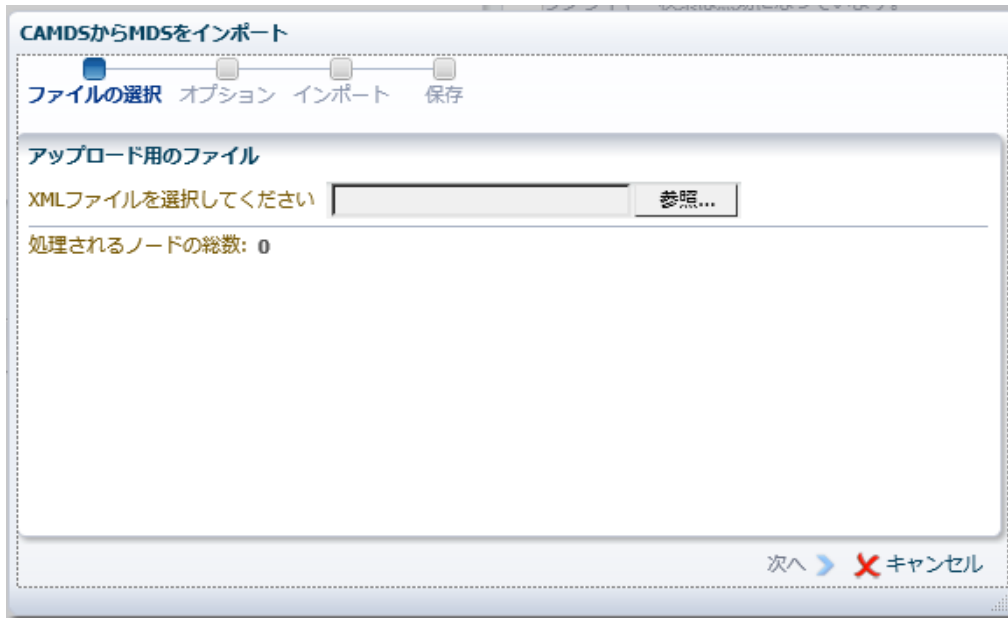
エクスポートが正常に完了すると、エクスポートの概要が表示されます。



アイコンをクリックすると、次の情報が表示されます。「データシートがリリースまたは公開されていないか、エクスポート可能なデータシートの最大数に達しています。」[保存]ボタンをクリックすると、エクスポートされたデータシート/モジュールが、使用する Web ブラウザで事前に構成されたダウンロード場所にある外部 XML ファイルに保存されます。[閉じる]ボタンをクリックすると、[エクスポート]ダイアログが閉じます。

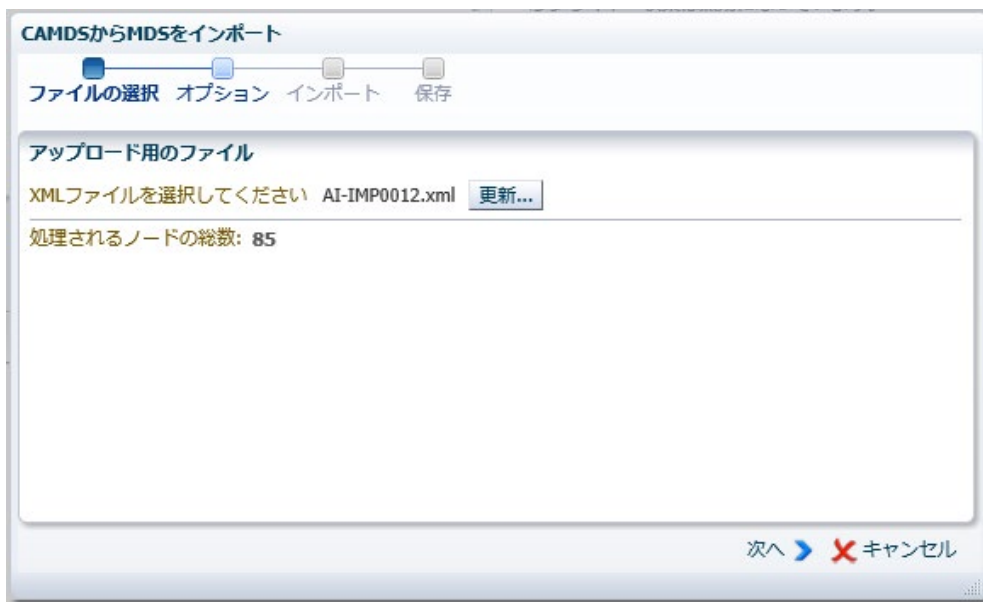
11.3 外部 XML ファイルからのデータシート/モジュールのインポート

CAMDS からエクスポートされた外部 XML ファイルから IMDS にデータシート/モジュールをインポートするには、データシート検索画面から「データシート」メニューを選択し、「CAMDS から MDS をインポート」( CAMDSからMDSをインポート)を選択します。次に「インポート」ダイアログが開き、インポートをガイドします。



最初に、インポート用のファイルを選択する必要があります。[参照]ボタンを押すと、ユーザーはローカルディスクから XML ファイルを選択できます。末尾が「.xml」の XML ファイルのみが許可され、ファイル名には ASCII または Latin 1(ISO-8859-1)文字のみを含める必要があります。さらに、インポートするファイルには、関連するスキーマ定義に準拠した有効な構造が必要です。

ファイルが選択されると、インポートに含まれるノードの数とともにファイル名が表示されます。



「次へ」ボタンを押すと、必要に応じて特定のインポート動作を指定するように構成できるさまざまなオプションが表示されます。

CAMDSからMDSをインポート

ファイルの選択 オプション インポート 保存

Import Options

XMLファイル(.xml) AI-IMP0012.xml

材料の検索順序 標準材料 公開材料 自社データ

材料を検索して使用する順番を定義してください。

材料：自動 社内送信 はい

正常に(エラー/警告メッセージなしで)インポートされた材料モジュールを保存することによって、自動的に社内送信するかどうかを定義してください。

材料：見つかりません 常に新規としてインポート

対応する材料が削除された場合、存在しない場合、または機密扱い物質が含まれている場合のインポートの対応を定義してください。

化学物質：見つかりません インポートをスキップ

対応する化学物質が削除されたか、存在しない場合のインポートの対応を定義してください。

アプリケーションコード：見つかりません インポートをスキップ

対応するアプリケーションコードが存在しない場合、または対応するアプリケーションコードが現在存在する場合のインポートの対応を定義してください。

公的材料規格：見つかりません インポートをスキップ

対応する公的材料規格が存在しない場合、または対応する公的材料規格が現在存在する場合のインポートの対応を定義してください。

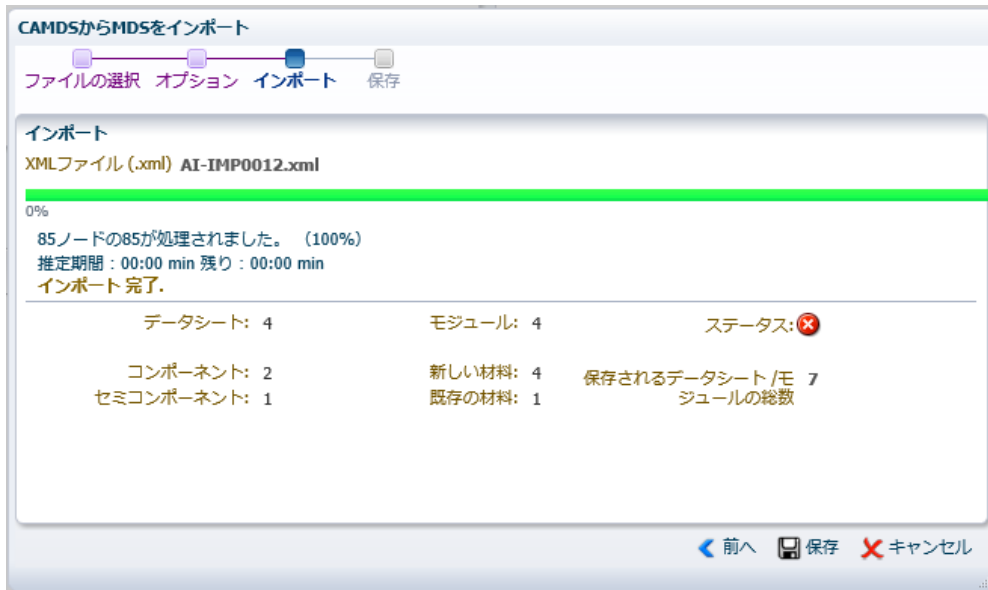
前へ インポート キャンセル

現在、2つのオプションが利用可能です。

1. 「材料の検索順序」：初期設定では、標準材料が最初に検索され、次に公開材料が検索され、最後にユーザー自身の材料が、インポートされた XML ファイルで指定された材料と比較されます。
2. 「材料：自動 社内送信」：材料がモジュールとして正常にインポートされた場合（関連するステータスアイコンは🟢または📘）、ユーザーは保存によって自動的に社内送信するかどうかを選択できます。初期設定では、社内送信されるので、後で社内送信するために手動で作業する必要はありません。

他のオプションを個別に構成することはできませんが、各オプションのコメントは、各オプションの背後にあるロジックをユーザーがよりよく理解できるように、それぞれのインポート動作を説明しています。

インポートを開始するには、「インポート」ボタンをクリックすると、ウィンドウの内容が変わり、インポートの3番目のステップが表示されます。



インポートファイルのサイズとネットワークパフォーマンスによっては、インポートに数分以上かかる場合があります。この場合、ダイアログの進行状況バーは、インポートの進行状況と推定残り時間をユーザーに通知します。

インポートが完了すると、インポートされたデータシート/モジュールの数、認識されたコンポーネント/セミコンポーネント/材料の数、IMDS に存在する材料の数を示す「既存の材料」の数字のように、インポートに関するいくつかの重要なデータが表示されます。

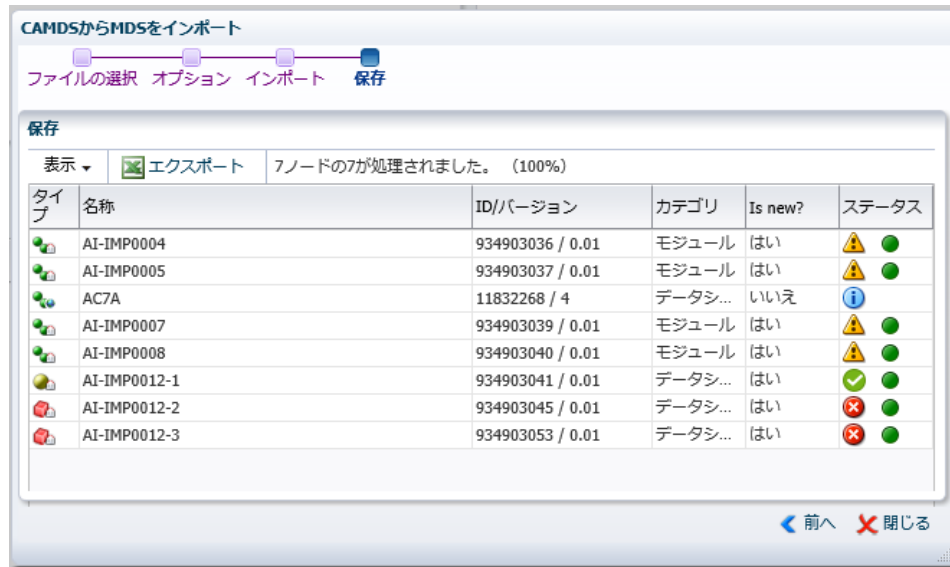
ステータスアイコンは、インポートの一般的なステータスをユーザーに通知します。スクリーンショットでは、(X)がインポート中に少なくとも 1 つのエラーが検出されたことを示します。その他のステータスアイコンは、⚠ 警告、ℹ 情報、および✅ 問題なく成功した場合です。

「キャンセル」ボタンをクリックすると、インポートがキャンセルされます。

インポートプロセスの最後に、[保存]ボタンを押すと、インポートされたすべてのデータシート/モジュールが IMDS に保存されます。保存プロセス中、「キャンセル」ボタンは保存をキャンセルします。

正常に完了すると、インポートされた各項目に関する詳細情報が、インポートダイアログの最後のステップの表にリストされます。

- マークは新規作成の場合に関連アイテムが IMDS に正常に保存されたかどうかをユーザーに知らせます。IMDS で見つかったアイテム（「Is new？」列の値は「No」です）を保存する必要はありません。ステータスアイコンの意味は上記と同じです。



ユーザーは、表の上の **エクスポート** ボタンをクリックして、インポートの要約データを* .xls ファイルにエクスポートできます。

このダイアログを閉じるには、「キャンセル」ボタンを押します。

CAMDS からインポートされたデータシート/モジュールを検索する

データシート/モジュールまたはコンポーネント/セミコンポーネント/材料の検索画面で、「インポート済み」チェックボックスをオンにして、CAMDS からインポートしたデータシート/モジュールを検索できるようにし、「検索」ボタンをクリックします。

他社データシート, 自社データシート/モジュール

☐ 承認データシート
 ☐ 公開データシート
 ☒ 自社データシート
 ☒ 自社モジュール

☐ サプライヤーで検索可能

サプライヤー
 企業ID/組織ID

サプライヤー検索は無効になっています。

☐ このユーザーIDで最後に更新

組織

コンタクトパーソン

☐ obsolete (旧式、廃型)
 ☒ インポート済み

インポートされたデータシート/モジュールのプロトコルを表示

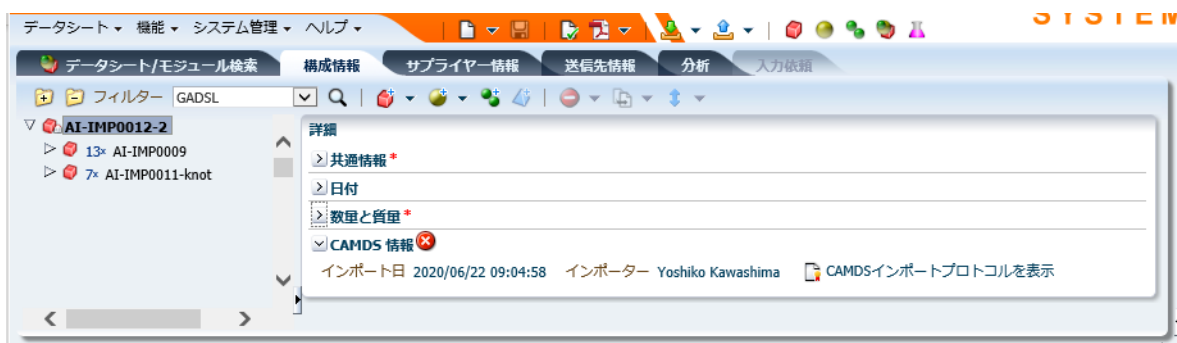
インポートプロトコルは、データシート/モジュールのインポート中に行われたアクション/変換を記録します。その内容を確認することにより、ユーザーはインポート中に関連するデー

データシート/モジュールに何が起きたかの詳細な説明を取得します。インポート中にエラーまたは警告が検出された場合、プロトコルには詳細が含まれており、インポートされたデータシート/モジュールを IMDS で使用するには修正が必要であることを示しています。

そのようなエラーまたは警告の例は次のとおりです：

1. ファイル内の物質が IMDS で見つかりません。プロトコルのエラーを示します。ユーザーは IMDS で置換物質を見つけて、インポート後にインポートしたデータシート/モジュールに手動で追加するか、CAMDS で元のデータシート/モジュールを更新し、更新したファイルを再インポートする必要があります。
2. ファイル内の指定された物質に対して、IMDS 内の複数の物質が見つかりました。プロトコルの警告を示します。ユーザーは、インポートされたデータシート/モジュールで物質が正しく参照されているかどうかを確認できます。間違った参照がある場合は、プロトコルで提案されている正しいものに置き換えます。

インポートされたデータシート/モジュールのプロトコルを表示するには、構成情報画面内からそれを開きます。



右側の「CAMDS 情報」パネルの❌アイコンは、この例では、インポート中にエラーが検出されたことを示しています。詳細については、「CAMDS インポートプロトコルを表示」ボタンをクリックすると、protocol-pdf が、使用されている Web ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に自動的にダウンロードされます。

ユーザーは、Web ブラウザで直接開くことを選択できます。詳細な説明は 2 ページから始まります。

IMDS ID / バージョン:	934903045 / 0.01	ページ:	2 / 4
ユーザー名:	Kawashima, Yoshiko	日付:	2020/06/22 9:12

IMDS MDSインポートプロトコル インポート中にMDSで適用された変換のドキュメント

2. インポートされたコンポーネントの特性

部品番号:	AI-IMP0012-2-partNo	IMDS ID / バージョン:	934903045 / 0.01
部品名称:	AI-IMP0012-2	ノードID:	934903045
インポートター:	Yoshiko Kawashima	インポート日:	2020-06-22 09:04:58.0

ツリーレベル	部品名称 部品名称 名称 CAS No.	部品番号 材料コード 材料コード EINECS-No.	IMDS ID / バージョン	インポートプロトコル 影響を受ける各ノードまたは参照の変換
1	AI-IMP0012-2	AI-IMP0012-2-partNo	934903045 / 0.01	
I-2	AI-IMP0009			
I-3	AI-IMP0007		934903039 / 0.01	材料Id: "MjExNjM1NTkyMA=="の材料AI-IMP0007に既存の材料が見つかりません。 モジュールIDのあるマテリアル: 934903039, バージョン: 0.01, 名前: "AI-IMP0007"は、インポートまたは エラーチェックのため、自動的に社内送信されませんでした。
I-3	AI-IMP0008		934903040 / 0.01	材料Id: "MjExNjM1NTkxMw=="の材料AI-IMP0008に既存の材料が見つかりません。 モジュールIDのあるマテリアル: 934903040, バージョン: 0.01, 名前: "AI-IMP0008"は、インポートまたは エラーチェックのため、自動的に社内送信されませんでした。
I-2	AI-IMP0011-knot			
I-3	AI-IMP0006	AI-IMP0006		
I-4	AI-IMP0004	AI-IMP0004- Internal	934903036 / 0.01	材料Id: "MjExNjM1NTkxOAA=="の材料AI-IMP0004に既存の材料が見つかりません。 モジュールIDのあるマテリアル: 934903036, バージョン: 0.01, 名前: "AI-IMP0004"は、インポートまたは エラーチェックのため、自動的に社内送信されませんでした。

EntServ Deutschland GmbH

DXC technology

12 SCIP インターフェース

12.1 構成情報画面の SCIP 情報

12.1.1 コンポーネント SCIP 情報

企業が EU の SCIP データベースへのデータ提出に関する義務を果たすために、IMDS では SCIP に必要なデータを収集する可能性を提供しています。

この目的のために、以下のフィールドが導入されています。

- **SCIP Number**
- **SCIP Submission Number**

SCIP Number および SCIP Submission Number は、SCIP にアップロードされたデータを指します。これらのフィールドは、SCIP にデータシートを提出する際に自動的に入力されるため、手動での入力は任意です。（11.2 参照）

コンポーネントデータシートを新しいバージョンとしてコピーすると、SCIP Submission No. のフィールドがリセットされ、新しいデータシートとしてコピーすると SCIP No. と SCIP Submission No. の両方のフィールドがリセットされます。また、「名前を付けて保存」機能を使用した場合も同様です。

- **Production in European Union**

ユーザーは、EU Produced,、EU Imported、EU Produced and Imported または No Data（デフォルト値）の 4 つのオプションから選択できます。

- **Taric Code (TARif Intégré Communautaire; Integrated Tariff of the European Communities, Article Category 参照)**

コンポーネントデータシートの新しいバージョンが作成され、そのコンポーネントに以前から Taric Code が割り当てられていなかった場合、デフォルトの Taric コードがこの新しいコンポーネントバージョンに割り当てられ、コンポーネントデータと共に保存することができます。コンポーネントに割り当てられた各 Taric Code には、割り当てられた Article Category の説明を示すアイコン「？」が Taric code 表の中に表示されます。

SCIP No. S123
 SCIP Submission No. SS123
 Production in European Union EU Imported

Taric Code

Taric Code	Description Level 1	Description Level 2	Description Level 3	Descriptions Levels 4 - 10	
8708999790	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Parts and acc...	Other parts and accessories > Other > Othe...	?
87120070	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Bicycles and...	Other	?

Safe Use Instructions Required

Create Date 10/26/2020
 Check/Release Date not available
 Recommendation

Amounts and Weights
 Measured weight per item 0.0 g
 Calculated weight per item 0.0 g
 Deviation 0.0%

SCIP
 SCIP No. S123
 SCIP Submission No. SS123
 Production in European Union EU Imported

Taric Code

Taric Code	Description Level 1	Description Level 2	Description Level 3	Descriptions Levels 4 - 10	
8708999790	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Parts and acc...	Other parts and accessories > Other > Othe...	?
87120070	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Bicycles and...	Other	?

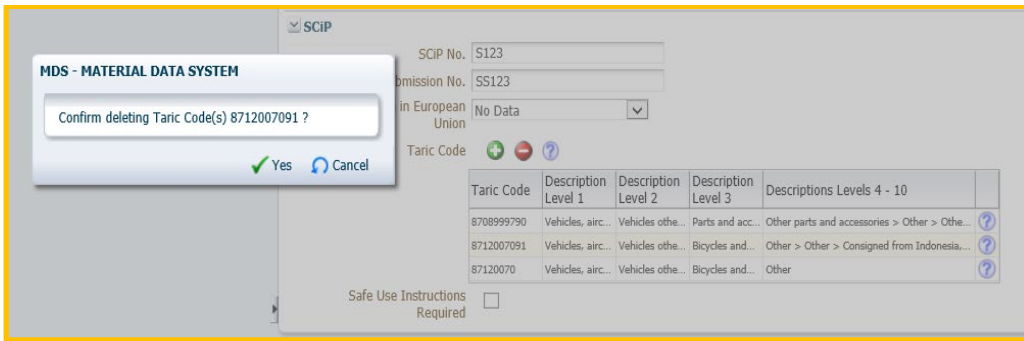
Safe Use Instructions Required

SCIP No. S123
 SCIP Submission No. Remove
 Production in European Union

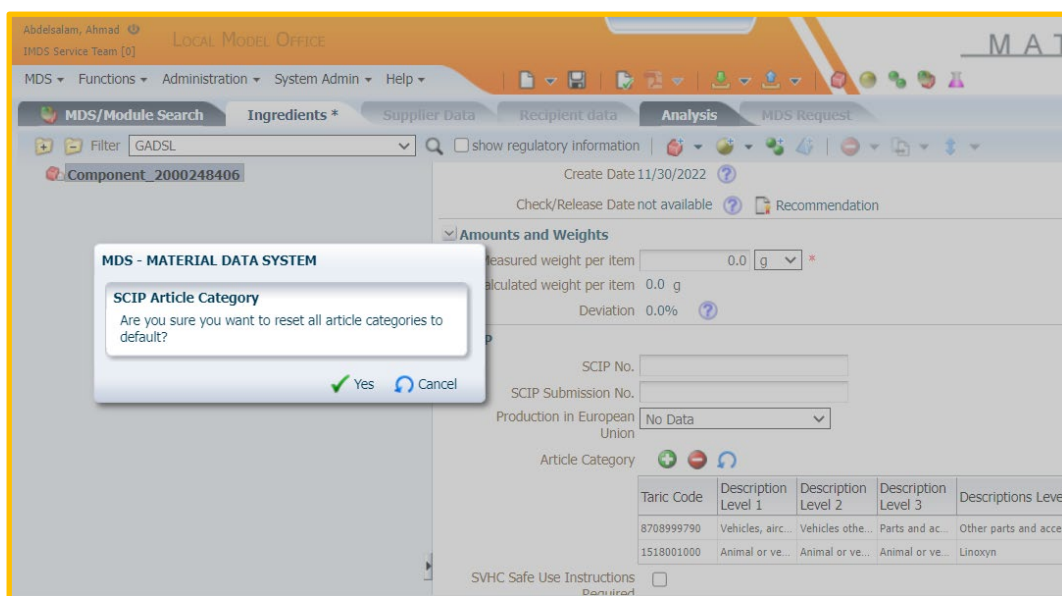
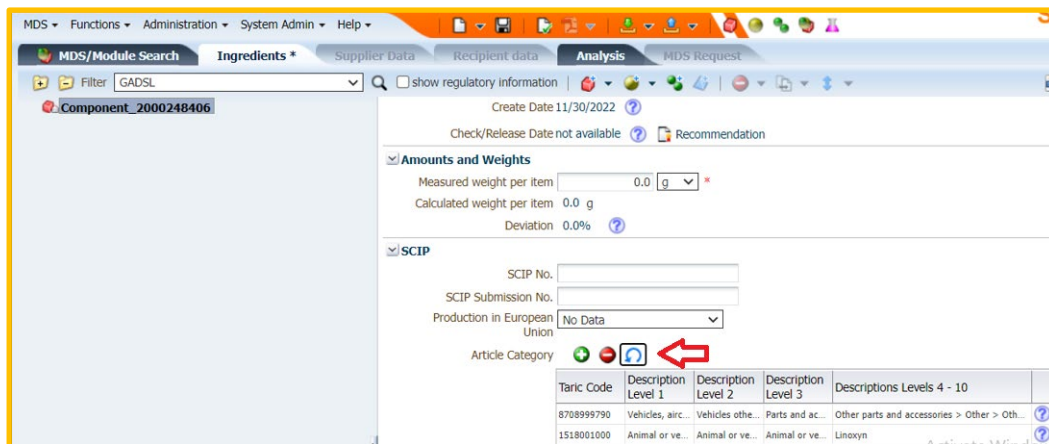
Taric Code

Taric Code	Description Level 1	Description Level 2	Description Level 3	Descriptions Levels 4 - 10	
8708999790	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Parts and acc...	Other parts and accessories > Other > Othe...	?
8712007091	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Bicycles and...	Other > Other > Consigned from Indonesia,...	?
87120070	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Bicycles and...	Other	?

Safe Use Instructions Required



デフォルトへのリセットは、リセットボタンを使って行うことができます。テーブルがデフォルトのカテゴリのみを含む場合、リセットボタンは無効です。テーブルがデフォルト以外の Article Category を含む場合は有効です。リセットボタンを押すと、リセットを確認するためのダイアログが表示されます。



- SVHC Safe Use Instructions Required

このボックスは、このコンポーネントに利用可能な Safe Use Instructions がある場合にチェックを入れることができます。デフォルトではチェックが入っていないので、新しいコンポーネントを作成した場合、Safe Use Instructions フィールドは編集できません。

SCIP No. S123
 SCIP Submission No. SS123
 Production in European Union EU Imported
 Taric Code

Taric Code	Description Level 1	Description Level 2	Description Level 3	Descriptions Levels 4 - 10
8708999790	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Parts and acc...	Other parts and accessories > Other > Othe...
87120070	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Bicycles and...	Other

Safe Use Instructions Required ☒

Safe Use Instructions This is Safe use instructions ..

チェックボックスが選択されている場合は、Safe Use Instructions の入力が必要となります。

MDS - Functions - Administration - System Admin - Help

Component Search Ingredients * Supplier Data * Recipient data * Analysis MDS Request

Filter GADSL show regulatory information

Component_2000161000

Article Category

Taric Code	Description Level 1	Description Level 2	Description Level 3	Descriptions Levels 4 - 10
8708999790	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Parts and acc...	Other parts and accessories > Other > ...

SVHC Safe Use Instructions Required ☒

Safe Use Instructions

Check results - 5 Error(s) / 0 Warning(s)

No.	Type	Tab	Node / Recipient	Message
1	Ingredients	Component_2000161000	Replace the default name of this dataset/module by a meaningful name.	
2	Ingredients	Component_2000161000	Non basic substances must be decomposed further	
3	Ingredients	Component_2000161000	The measured weight per item needs to be greater than zero.	
4	Ingredients	Component_2000161000	Please specify the safe use instructions	
5	Supplier Data	-	Contact must be specified	

- Safe Use Instructions

ユーザーはこのフィールドで Safe Use Instructions を指定することができます。このフィールドは、Safe Use Instructions Required がチェックされた場合にのみ編集可能になります。

12.1.2 材料 SCIP 情報

材料画面に新しいフィールド SCIP Material Category が追加されました。最初に、選択された材料分類によるデフォルトのマッピングが入力されますが、表の上のボタンをクリックして編集することができます。SCIP Material Category 追加をクリックすると、利用可能なすべての Category を含むダイアログが開きます。このダイアログには、いくつかのフィルター条件も含まれています。Identifier、Type、Description Level 1、Description Level 2 です。Identifier の入力テキストはプレフィックスまたは Identifier の始まりの数字と一致する数値テキストを入力するために使用されます。Type のドロップダウンリストには、利用可能なすべてのタイプ（Material、Mixture、Additional）が含まれています。Description Level 1 のドロップダウンリストは、最初は空ですが、タイプを選択すると、利用可能なすべての Level 1 の説明が入力されます。Description Level 2 は、最初は空で、Level 1 を選択した後、利用可能なすべての Level 2 の説明が入力されます。

この表には、最初は利用可能なすべてのカテゴリが含まれており、前のドロップダウンリストの 1 つが選択されるたびにデータが更新されます。

SCIP Material Category   		
Identifier	Type	Description Levels 1 - 3
66399	Material category	metal > magnesium (and alloys of)
65100	Mixture category	PC-TEC-21 Solvents and extraction agents

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

SCIP Material Category

Identifier

タイプ

Description Level 1

Description Level 2

Identifier	タイプ	Description Level 1	Description Level 2	Description Level 3
66323	Material category	ceramic	clays / silicate ceramic	
66324	Material category	ceramic	clays / silicate ceramic	clays
66325	Material category	ceramic	clays / silicate ceramic	earthenware
66328	Material category	ceramic	clays / silicate ceramic	other
66326	Material category	ceramic	clays / silicate ceramic	porcelain or china
66327	Material category	ceramic	clays / silicate ceramic	stoneware
66349	Material category	ceramic	frit	
66340	Material category	ceramic	non-oxide ceramic	
66341	Material category	ceramic	non-oxide ceramic	aluminium nitride ceramic
66342	Material category	ceramic	non-oxide ceramic	boron carbide ceramic
66343	Material category	ceramic	non-oxide ceramic	boron nitride ceramic
66348	Material category	ceramic	non-oxide ceramic	other
66344	Material category	ceramic	non-oxide ceramic	silicon aluminium oxynitride
66345	Material category	ceramic	non-oxide ceramic	silicon carbide ceramic
66346	Material category	ceramic	non-oxide ceramic	silicon nitride ceramic
66347	Material category	ceramic	non-oxide ceramic	titanium nitride ceramic

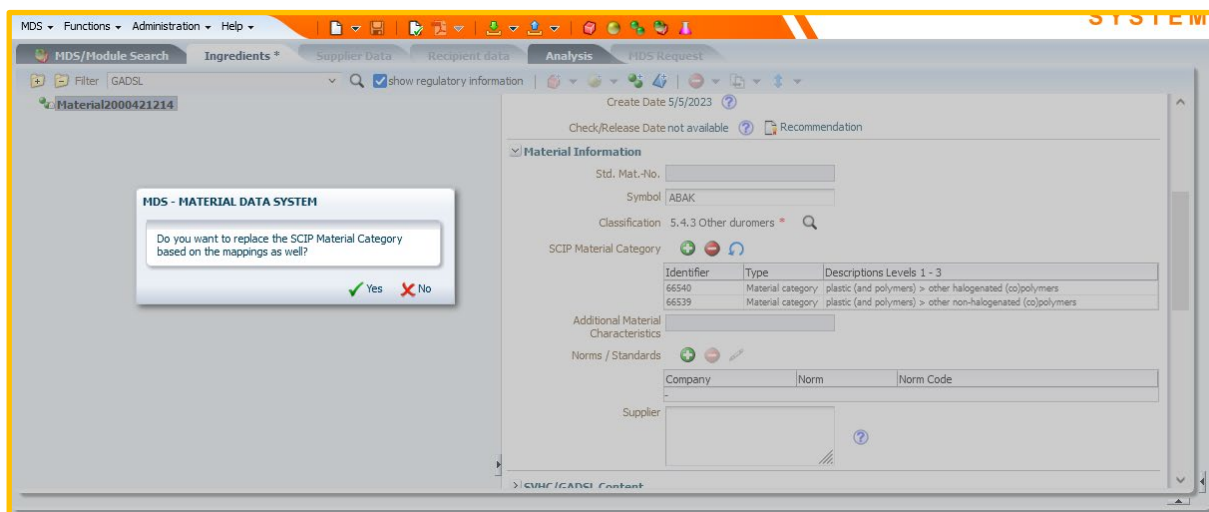
 適用
 キャンセル

新規に材料データシートを作成すると、Material Category テーブルにデフォルトの Material Category が表示されます。

材料のデータシートの新しいバージョンまたはコピーを転送または作成：

材料に Material Category が割り当てられていなかった場合（既存材料）、デフォルトの Material Category が材料に割り当てられ、Material Category 表に追加されます。

材料分類を置き換える際に、ダイアログが表示されます。この場合、ユーザーは既に割り当てられている Category を置き換えるどうかを尋ねられます。



IMDS リリース 13.0 では、Additional Material Characteristics フィールドが追加されました。このフィールドは、SCIP Material Category が正確に選択されている場合はすべて無効です。Other (Material Category ID 1342)を選択した場合は有効になります。

デフォルトへのリセットは、リセットボタンで行うことができます。リセットボタンは、テーブルにデフォルトの Category しか含まれていない場合は無効です。デフォルト以外の Material Category が表に含まれている場合は有効です。リセットボタンを押すと、リセットを確認するダイアログが表示されます。

12.2 SCIP 提出

ユーザーは、データシートメニューの「SCIP にデータシートを提出」から ECHA にデータシートを提出することができます。このメニューは、データシートの詳細画面からアクセスでき、コンポーネントで、自社の社内送信済みのデータシートでのみ有効です。SCIP 提出ダイアログは、データシート/モジュール検索、コンポーネント検索、送信済み一覧、Where-Used 分析の検索画面の下にある結果表のコンテキストメニューからもアクセスできます。このメニューで

は、SCIP 提出ダイアログが起動します。読み込まれたデータシートの検証は、SCIP 提出ダイアログが開かれると同時に実行され、検証エラーメッセージが表示されます。

4 種類の検証エラーが発生します。

1. 0.1%以上の SVHC が含まれているコンポーネントがありません。「SCIP SVHC」化学物質グループに含まれない SVHC、材料分類 9.x（提出ダイアログのドロップボックス「材料分類 9.x（燃料及び補充材）」に SVHC を含める」が「はい」に設定されていない場合）の材料に含まれる SVHC、材料分類 7.2 または 8.x の材料に含まれる特定の鉛化合物は、SCIP 提出の対象にはなりませんのでご注意ください。

これは、現在読み込まれているデータシートには、ECHA への報告閾値を超える SVHC 物質が含まれていないことを意味しています。SCIP 提出に関連する化学物質を含むデータシートは、「SCIP SVHC」という化学物質グループを使った分析で見つけることができます。

さらに、特定の SVHC 物質は、提出の際に無視されます。すなわち、特定の材料分類の材料で参照されたり、特定のアプリケーション化学物質が含まれる材料で参照されたりしても、提出レポートに含まれず、ECHA に報告されません。以下の表は、無視される化学物質/材料分類/アプリケーションの組み合わせをまとめたものです。

化学物質	CAS Number	Is an SVHC in Material Category 7.2	Is an SVHC in Material Category 8.x
Diboron trioxide	1303-86-2	No	No
Lead-monoxide	1317-36-8	No	No
Lead titanium zirconium oxide	12626-81-2	No	No
Lead(II,IV)-oxide	1314-41-6	No	No

Lead-titanium-trioxide	12060-00-3	No	No
Lead	7439-92-1	No	Yes (No, if AC #10a-d)

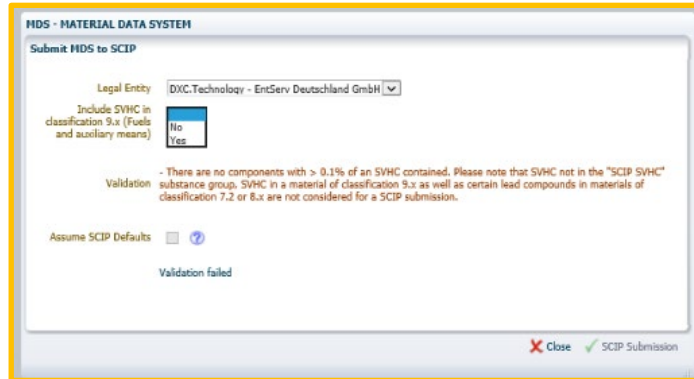
2. このデータシート/モジュールは現在提出中です。

このメッセージは、このデータシートに対して既に送信された提出依頼が、現在処理されていることを示しています。

3. 少なくとも1つのコンポーネントまたは材料に SCIP 情報がありません。

この検証エラーが返された場合、データシートツリー内の1つ以上の材料参照に SCIP 情報が欠けています。ユーザーは「デフォルトを仮定する」ことでこのエラーを回避することができます。デフォルトを仮定することを許可するチェックボックスが用意されています。

ドロップボックスの「材料分類 9.x を含む」の項目で「はい」を選択すると、材料分類 9.x の材料に含まれる SVHC が dossier の中に含まれ、「いいえ」を選択すると無視されます。



4. データシート/モジュールには、少なくとも 1 つの機密扱いの SVHC が含まれています。

データシートに機密扱いの SVHC が 1 つでも含まれていると、このメッセージが表示されます。SVHC の相対的な含有率は問題ではありません。

ドロップダウンリストから、S2S Key を選択することができます。リストには、以下の条件に基づき、利用可能なすべての S2S Key が含まれています。

- モジュールの場合：ドロップダウンリストには、ルートカンパニーの S2S Key が含まれています。

- データシートの場合：ドロップダウンリストには、組織の S2S Key があればそれを、なければルートカンパニーの S2S Key を含んでいます。

S2S Key のデフォルト値は、送信するデータシート/モジュールのノード ID に基づき、以下のルールで決定されます。

- データシート/モジュールが以前に送信されたことがない限り、デフォルトの選択項目は空欄です。

- 再送信の場合、S2S Key がドロップダウンリストに存在すれば、それが事前に選択されます。それ以外の場合、デフォルトは空白です。

「SCIP のデフォルトを仮定」チェックボックスは、「少なくとも 1 つのコンポーネントまたは材料の SCIP 情報がありません」という検証エラーメッセージが返された場合に有効になります。「SCIP のデフォルトを仮定」がチェックされていると、このエラーは回避され、他にエラーや不足している情報がない場合には提出が許可されます。この場合、提出ボタンが有効になります。「SCIP のデフォルトを仮定」チェックボックスの横には、その機能を説明するためのヘルプボタンがあります。

提出ボタンは、ECHA にデータシートを提出するためのボタンで、以下の場合にのみ有効です。

- S2S Key が空でない場合
- 検証エラーが存在しないか、「SCIP 情報がありません」検証エラーのみが返され、ユーザーは「デフォルトを承認」にチェックを入れて続行することになります。

「提出」をクリックすると、現在のデータシートの新規提出が作成され、ECHA へのエクスポートが予定されます。それぞれのポップアップメッセージが表示されます。

データシートが正常に SCIP に送信され、SCIP Number を受け取った場合、SCIP Submission No. 入力フィールドの下にメッセージが表示され、IMDS から SCIP にデータシートが転送されたことがユーザーに通知されます。構成情報画面では、SCIP 提出の詳細が表示されます。



SCIP No.

3c8cca1f-5ef5-4eb3-9671-7203b727b1ef

SCIP Submission No.

YKY278902-94

Assume SCIP Defaults

false

Include classification 9.x

false

First Submission Date

2/15/2021

Last Submission Date

9/20/2021

This MDS has been submitted to SCIP by IMDS.

Production in European Union

No Data

Article Category

?

Taric Code	Description Level 1	Description Level 2	Description Level 3	Descriptions Levels 4 - 10
8708999790	Vehicles, airc...	Vehicles othe...	Parts and ac...	Other parts and accessories > Other > Oth... ?

SVHC Safe Use Instructions Required

Yes

12.3 SCIP 提出検索画面

この画面は、機能 >> SCIP 提出 メニューからアクセスできます。

ユーザーは、以下の検索条件で自社の SCIP 提出を検索することができます。

左側の上部では、名称、部品番号、ID、ドロップダウンメニューを使用しての現在のバージョンなどのデータシートデータを指定することができます。

中央上部では、ユーザーは少なくとも 1 つの送信状態を指定する必要があります。デフォルトでは全てのデータシートを検索します。

右側の上部では、日付のタイプ（作成日またはステータス変更日）を選択し、日付の範囲を from-to で指定します。デフォルトでは、過去 7 日間に設定されています。

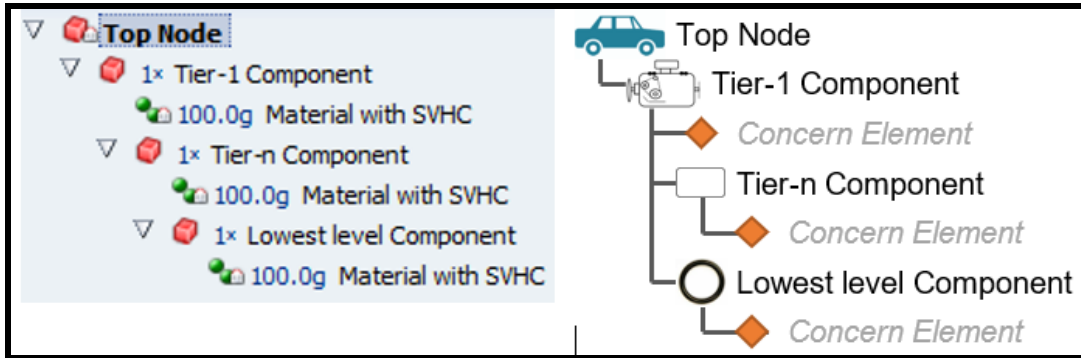
検索ボタンを押すと、検索を行うことができます。結果の表は以下のように表示され、提出のデータが含まれています。デフォルトでは、結果は提出日でソートされ（新しい順）、すべての列がソート可能です。

項目名	説明	コメント
タイプ	データシートタイプのアイコン表示	
部品名称	データシートの名称	
ID / バージョン	データシートの ID / バージョン	
ステータス	現在の提出ステータス	いずれかの状態になります 提出済み／未提出／完了／失敗
ステータス変更日	提出ステータスの最終変更日	
作成日	提出を作成した日	
提出日	提出した日	
SCIP Submission No.	The SCIP submission number	ECHA のサイトにある提出レポートを開くためのリンクです。
SCIP No.		
SCIP のデフォルトを仮定	SCIP のデフォルトが適用されている場合の表示	
エラーメッセージ	検証エラーメッセージを複数行で表示	検証エラーメッセージ、または ECHA 側でエラーが発生した場合はリンクが表示され、リンクをクリックすると ECHA のエラーレポートが表示されます。
リーガルエンティティ	企業名	
材料分類 9.x を含む	材料分類 9.x（燃料及び補充材）の SVHC を含むかどうかを表示	

12.4 SCIP Dossier

データシートを選択して SCIP Dossier を生成すると、生成された複合オブジェクトは内部的に 3 つのレベルのみに縮小されます。トップノードの直下にあるコンポーネント（存在する場合）とその間にある成形品コンポーネントは、アップロードされた構造の一部ではありません。

コンポーネントデータシートに SVHC を含む成形品と材料データシートの両方への参照が含まれている場合、ツリーの最下層にないコンポーネントでも成形品とみなすことができます。3 階層構造のため、IMDS のツリーの異なる階層にある成形品が、SCIP に報告された構造では同じ階層に表示されることがあります。



部品番号は、成形品の主要な識別子として使用されます。コンポーネントが承認されたデータシートへの参照ではない場合、そのコンポーネントからの成形品が使用されますが、これは定義されていない可能性があります。この場合、次のようなロジックを適用して、適切な成形品の一次識別子を見つけます。

- 成形品を報告するだけの場合（複雑なオブジェクトではない）、データシートがすでに送信された成形品の最初の送信先に提供された部品番号が代わりに使用されます。編集モードの送信先は、まだ部品番号を持っていない可能性があるため、無視してください。利用可能な送信先がない場合は、その成形品の名前が使用されます。

- 複雑なオブジェクトの中で成形品が参照されている場合は、親コンポーネントの部品番号（例："12345"）と成形品の名前（例："Screw"）を組み合わせ使用します："12345 / Screw"

- 親ノードに部品番号がない場合は、同様のロジックで、トップノードの部品番号（例："67890"）が代わりに使用されます："67890 / Screw"

- トップノードにも部品番号がない場合は、その名前（例："Assembly"）が代わりに使用されます："Assembly / Screw"

13 Aston Martin Lagonda 向け拡張機能

AML に提出する部品番号(送信先情報画面の部品番号)は正しいものである必要があります。AML は、承認可能な全ての部品番号のファイルを作成しています。そして IMDS によるチェックでそのファイルと照合しており、部品番号が誤っている場合は送信できません。もし入力した部品番号が、AML の作成したファイルに含まれていなかった場合は、IMDS ではなく AML のヘルプデスクへお問い合わせください。同様に、AML が作成したファイルに自社のサプライヤーコードを追加してもらいたい場合も、AML のヘルプデスクへ依頼してください。ただし、IMDS 企業、GSDB、および IMDS の部品番号の間で相互チェックが行われるわけではないため、送信する部品番号が実際に AML からの要件に合っているかどうかはサプライヤーの責任において確認してください。

もしこれらの部品番号がリストから選択されなかった、あるいは正しくなかった場合、データシート送信前のエラーチェック時にエラーが出力されます。部品番号に問題がある場合には、部品番号の一部を入力し「検索」をクリックすることで正しい形式を確認することができます。

14 BMW 向け拡張機能

BMWにデータを提出する場合、BMW固有の追加チェック機能が実行されます。

部品番号のフィールドは、7桁の英数字(数字と文字)でなければなりません。特殊文字は使用できません。

15 FCA US LLC 向け拡張機能

FCA US LLCに提出する部品番号(送信先情報画面の部品番号)は正しいものである必要があります：FCA US LLCはすべての受け入れ可能な部品番号のファイルを作成し、IMDSはこのファイルに対してチェックを実行します。システムは、ユーザーが誤った部品番号で送信することを許可しません。部品番号がファイルにない場合は、あなたの部品を入力するためにFCA US LLCに連絡してください。

同様に、入力されたサプライヤーコードをIMDSが受け入れない場合は、FCA US LLCに連絡して、サプライヤーコードをファイルに追加するよう依頼してください。

これらの番号がリストから選択されず、正しくない場合、（データシートを送信する前の）チェック手順によりエラーメッセージが表示されます。ユーザーが部品番号で問題を抱えている場合、ユーザーは部分的な番号を入力し、検索をクリックすることが、正しい形式を特定するのに役立ちます。

上記 2 つのチェックは、量産準備初段階の「事前申告」データシートでは実行されません。

FCA が確認する追加の固有フィールドがあり、これは同じデータシートを参照する 1 つ以上の参照部品番号を許可します。これらの部品番号には、標準の部品番号と同じチェックがあります。

16 ダイムラー AG 向け拡張機能

ダイムラーAG にデータを提出する場合、サプライヤーがデータシートの送信先にダイムラー AG を指定すると、送信先情報画面に次の 3 つのフィールドが表示されます。

- SC1 (supplementary code1) - 4 文字
- SC2 (supplementary code2) - 4 文字
- DGL (drawing geometry technical level) - 3 桁

追加のエラーチェックは、以下の項目で行われます。

Details

▼ **Transfer Information**

Company Daimler AG [101]
 Organisation unit -
 Recip. Status [edit mode](#)
 Supplier Code 12-345-6789 ?
 Name My Test assembly
 Part/Item No. ?
 Transmission/Check Date not available
 Forwarding allowed ☐

▼ **Drawing**

Drawing No.
 Drawing dated ?
 Drawing Change Level ?

▼ **Purchase Order**

Purchase Order No.
 Bill of Delivery No.

▼ **Report**

Report No.
 Date of Report ?

▼ **Company specific**

SC1 (supplementary code1)
 SC2 (supplementary code2)
 DGL (drawing geometry technical level)

17 Fiat 向け拡張機能

Fiatに提出する部品番号(送信先情報画面の部品番号)は正しいものである必要があります : Fiatはすべての受け入れ可能な部品番号のファイルを作成し、IMDSはこのファイルに対してチェックを実行します。システムは、ユーザーが誤った部品番号で送信することを許可しません。部品番号がファイルにない場合は、あなたの部品を入力するためにFiatに連絡してください。

同様に、入力されたサプライヤーコードをIMDSが受け入れない場合は、Fiatに連絡して、サプライヤーコードをファイルに追加するよう依頼してください。

これらの番号がリストから選択されず、正しくない場合、（データシートを送信する前の）チェック手順によりエラーメッセージが表示されます。部品番号に問題がある場合、一部の番号を入力して、検索をクリックすることで適切な形式を特定できる場合があります。

上記 2 つのチェックは、量産準備初段階の「事前申告」データシートでは実行されません。

FCA が確認する追加の固有フィールドがあり、これは同じデータシートを参照する 1 つ以上の参照部品番号を許可します。これらの部品番号には、標準の部品番号と同じチェックがあります。

18 フォード向け拡張機能

18.1 Certification

フォード向けには、Ford Motor Company's Restricted Substance Management Standard (RSMS) WSS-M99P9999-A1 (「Hex 9」) に基づいたサプライヤー製品の内容証明要求(年次)が含まれています。

フォードは各サプライヤーに対し、Ford Restricted Substance Management Standard (WSS-M99P9999-A1) において指定されている禁止物質の規定を毎年満たすよう義務づけています。(ただしIMDS上で既に非準拠と報告されている部品は除きます。) 個別サイトごとにFord GSDBコードを使用して内容を証明するか、または企業全体として内容を証明する必要があります。

この内容証明はサプライヤーがフォードに提供する全製品に対して適用されます。この機能は、「管理: 証明」権限を持つユーザーのみ利用可能です。その他の全てのユーザーは、このメニューを見ることはできません。認証のために必要な情報は全て、フォード サプライヤーネットワークまたはIMDSを経由してフォードへ提供される必要があります。メインメニューにおいて、前述のユーザーは「証明」メニューで内容を確認した上で、「同意します」と書かれたボックスをチェックすることができます。

18.2 フォード指定の部品番号とサプライヤーコード

フォードに提出する部品番号(送信先情報画面の部品番号)は正しいものである必要があります。フォードでは、承認可能な全ての部品番号のファイルを作成しています。そしてIMDSによるチェックでそのファイルと照合し、部品番号が誤っている場合は送信ができません。もし入力した部品番号が、フォードの作成したファイルに含まれていなかった場合には、IMDSではなくフォードのヘルプデスクへお問い合わせください。同様に、フォードが作成したファイルに自社のサプライヤーコードを追加してもらいたい場合は、フォードのヘルプデスクへ依頼してください。ただし、IMDS企業、GSDB、およびIMDSの部品番号の間で相互チェックが行われるわけではないため、送信する部品番号が実際にフォードの期待しているものであるかどうかはサプライヤーの責任において確認してください。

もしこれらの部品番号がリストから選択されなかった、あるいは正しくなかった場合、データシート送信前のエラーチェック時にエラーが出力されます。部品番号に問題がある場合には、部品番号の一部のみを入力して検索すると適切な形式を特定できる場合があります。

入力したサプライヤーコードをもとに、サイトコードを入力することができます。デフォルトでは、親会社のレベルで報告されますが、同じ部品番号を複数のサイトから一意の構成で供給している場合は、サイトコードを使用することができます。

▼ 企業細目

サプライヤーサイトコード ● 親レベルでレポートしてください(推奨)。部品データは、この部品をフォード社に供給する全てのサイトに対して適用されます。

○ サイトでのレポート(複数のサイトから同じ部品番号が供給され、なおかつこれらの部品が独自の材料/化学物質の組成を持つ場合にのみ使用して下さい。)

フォードに必要な情報がすべて入力されている場合のみ、チェックに成功します。

19 GM 向け拡張機能

General Motors を送信先として追加した場合、サプライヤーコードのデフォルトは、企業登録の DUNS ナンバーとなります。サプライヤーコードは変更可能ですが、サプライヤーコードが DUNS ナンバーのスキーマに合致しているかどうかのチェックが行われます。

詳細

▼ 送信情報

企業 General Motors- NA Vehicle Operations [5751]
組織 -
送信先ステータス 編集モード

サプライヤーコード 12-345-6789 ?

名称 test

部品番号 ?

旧式スペアパーツ ☐ ?

送受信/確認日 なし

転送許可 ☒

▼ 図面情報

図面番号

図面作成日 ?

設計変更番号 ?

▼ 発注書

発注番号

納品番号

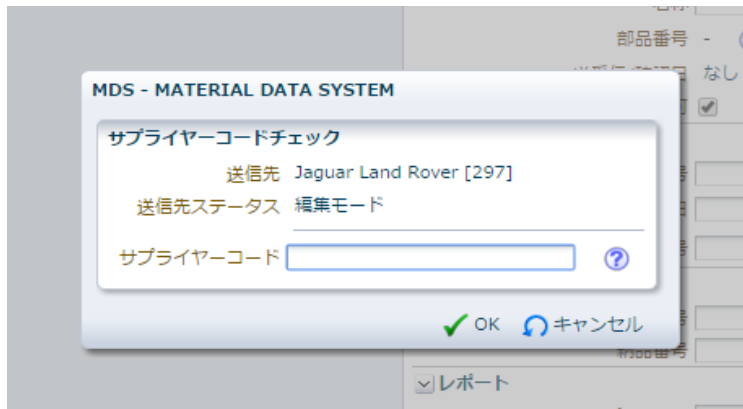
▼ レポート

レポートNo.

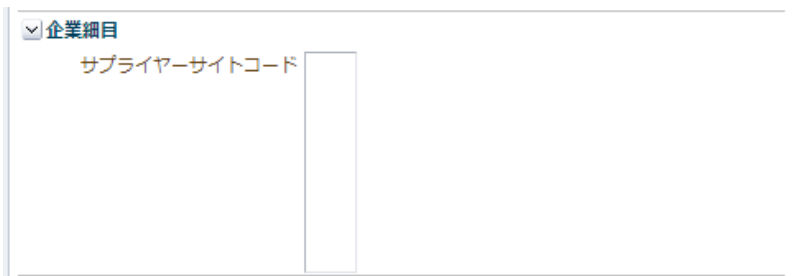
レポートロ ?

20 Jaguar Land Rover 向け拡張機能

IMDS が貴社のサプライヤーコードを受け付けない場合は、サプライヤーコードを追加取得するために Jaguar Land Rover へお問い合わせください。IMDS 企業間、GSDB と IMDS 上の部品番号にはクロスチェックがないため、ユーザーは Jaguar Land Rover が期待する実際の部品番号で提出しているということをチェックする責任があります。



Jaguar Land Rover を送信先として選択した後に表示されるこの画面では、4桁のサイトコードを入力する必要があります。(これは発注の際に利用可能なものです。) GSDB コードに関してヘルプが必要な場合は、Jaguar Land Rover のバイヤーにお問い合わせください。このコードが入力された後、画面の右側に以下の企業固有のオプションが表示されます。



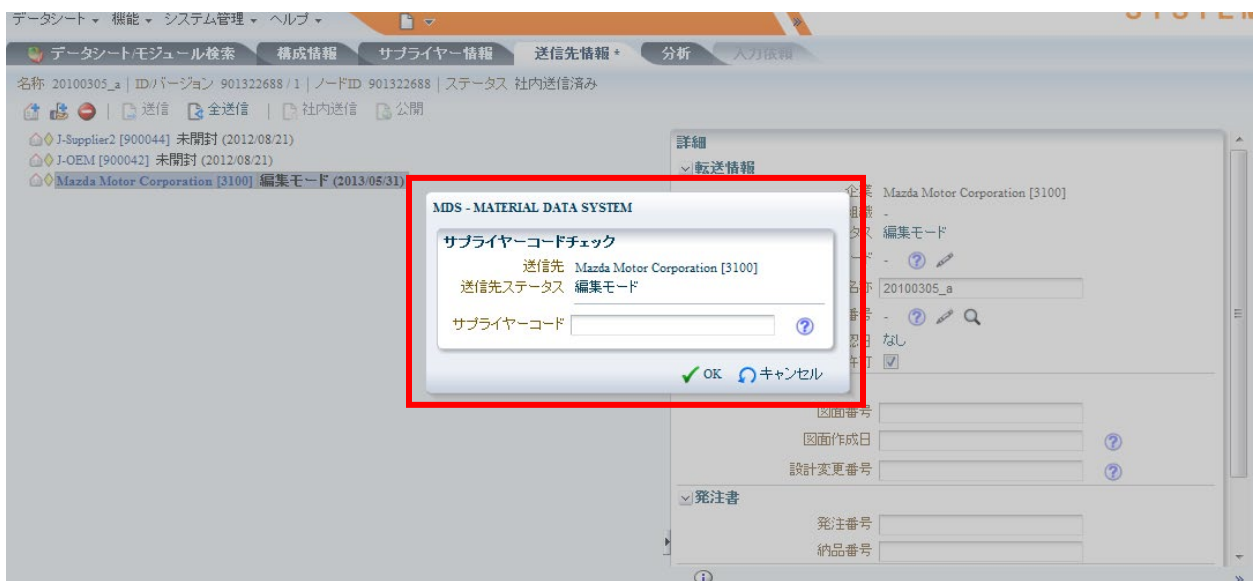
Jaguar Land Rover に送信するには、サイトコードレベルで報告する必要があります。必ず正しいサイトコードを選択してください。

部品番号は正しくなければなりません。システム上、間違った部品番号で送信することはできません。部品番号がファイルにない場合、ジャガー・ランドローバーに連絡して部品の入力を依頼してください。部品番号に問題がある場合、部品番号の一部を入力し、検索をクリックすると、適切な形式を特定できる場合があります。Jaguar Land Rover に必要な情報がすべて入力されている場合にのみ、チェックは成功します。

21 マツダ向け拡張機能

マツダにデータ提出する際には以下のチェックが実行されます。マツダでは部品番号とサプライヤーコードのファイルを作成し、承認前にIMDSのチェックで確認を行っています。

- マツダでは部品番号とサプライヤーコードのファイルを作成し、承認前にIMDSのチェック時に確認を行っております。もし入力した部品番号や自社のサプライヤーコードがファイルに含まれなかった場合にはマツダまでお問い合わせください。



マツダ向け情報が全て入力された場合のみ、送信することができます。

22 Next.e.GO Mobile 向け拡張機能

Next.e.GO Mobileにデータ提出する際にはいくつかの追加チェックが実行されます。

Next.e.GO Mobileにデータシートを提出する場合

1. 部品番号が特定の形式であることがチェックされます。Next.e.GO Mobile を送信先として選択した場合、Next.e.GO Mobile の部品番号の入力方法をクエスチョンマークボタンで確認することができます。

部品番号は、以下のパターンのいずれかに一致する必要があります：

文字"C"または"E"の後に 11 桁の数字（例："C12345678901"）

例："E12345678901A123"または "E12345678901B123"のように、"E"の後に 11 桁の数字、
"A"または"B"の後に 3 桁の数字

2. トップノードの 部品質量 と 部品質量(自動計算値)が同一である場合、警告メッセージが表示されます。
3. チェックルーチンは、レコメンデーション 001 規則 3.2.2.B 違反の場合、警告の代わりにエラーを出力します。(3.3.16 データシートの社内送信/送信/全送信 参照)
4. 図面作成日が "dd.mm.yyyy"パターンと一致しない場合、エラーメッセージが表示されます。
5. 設計変更番号が大文字で構成されていない場合は、エラーメッセージが表示されます。
6. 部品名称が以下のパターン(部品番号に基づく)に一致しない場合、エラーメッセージが表示されます：

部品番号が"E"で始まる場合、部品名称は以下のものからのみ構成できます：

- 大文字
- 数字
- アンダースコア

部品番号が"C"で始まる場合、部品名称に規定はありません。

23 日産向け拡張機能

質量公差のチェック

質量公差が $\pm 5\%$ より大きい場合にはエラーが表示されます。エラーとなったデータシートを日産に送ることはできません。

材質表示のチェック

材料分類が 5.x の材料がコンポーネントに追加された際に、材料分類の種類、材料の質量、材質表示の質問への回答の組み合わせによって、日産固有のエラーチェックが行われます。エラーまたは警告が発生するルールは以下の通りです

材料分類 5.x は以下の 2 つのグループに分けられます:

グループ 1: 5.1, 5.1.x, 5.4, 5.4.x, 5.5, 5.5.x

グループ 2: 5.2, 5.3

以下の 2 つの値に対して、下図の閾値が設定されます:

グループ 1 に分類される材料の質量を合計した値

グループ 2 に分類される材料の質量を合計した値

グループ 1 に対する閾値

グループ1の合計値 回答	0g	25g	100g	200g
はい			n/a	
いいえ		n/a	Warning	
該当しない		n/a	Warning	
未回答		n/a	Error	

グループ 2 に対する閾値

グループ1の合計値 回答	0g	25g	100g	200g
はい			n/a	
いいえ			n/a	Warning
該当しない			n/a	Warning
未回答			n/a	Error

n/a: エラーも警告も発生しません。

Warning: 警告が表示されます。

Error: エラーが表示されます。

稀に、IMDS の通常のエラーチェックの方が日産固有のエラーチェックよりも厳しい場合があります。例えば、コンポーネントに含まれる樹脂・ゴム材料(材料分類 5.1.x、5.3、5.4.1)の質量の合計が 25g を超えているにもかかわらず未回答の場合です。樹脂・ゴム材料(材料分類 5.1.x、5.3、5.4.1)のグループ 1、2 の内訳によっては、日産固有のエラーチェックでは警告もエラーも発生しませんが、IMDS の通常のエラーチェックで警告が発生します。

禁止物質のチェック



ツリー構造中に GADSL の禁止物質が含まれていないかどうかチェックされ、含まれている全ての禁止物質に対して警告メッセージが発生します。

材料記号のチェック

ツリー構造中に含まれる全ての高分子材料(材料分類 5.1.x、5.2、5.3)に対して、材料記号が入力されているかどうかのチェックが行われます。材料記号が入力されていない場合はエラーが表示されます。

ワイルドカードのチェック

ツリー構造中に、現在は無効な"Request/Hg/Cr6/Cd/Pb"というワイルドカードが含まれているかどうかのチェックが行われます。含まれている場合にはエラーが表示されます。

“量産準備初期段階の「事前申告」データシート”のチェック

日産では“量産準備初期段階の「事前申告」データシート”に該当するデータシートを承認しないため、このようなデータシートを日産に送信しようとする、エラーメッセージが出ます。データシートを日産に送信する場合、エラーチェックの実行前に日産を送信先に追加することを推奨します。

24 PSA 向け拡張機能

PSA が送信先として選択された場合、PSA 固有の送信先情報画面が表示されます。最初のステップでは、別の小さなウィンドウで、PSA サプライヤーコードを入力する必要があります：

デフォルトの送信先情報に加えて、以下の入力フィールドが提供されます：

- PSA 部品インデックス
- PSA 送信先 E メールアドレス
- MACSI 番号

次の図は PSA 送信先情報画面の要件と入力フィールドに適用される検証の役割を示しています：

サプライヤーコード

- 必須
- 英数字
- = 6 文字 (リストと照合し、確認)

部品番号

- 必須
- 英数字
- = 10 文字

PSA 部品インデックス

- 必須
- 英数字
- = 2 文字

PSA 担当者の E メール

- 必須
- メール

MACSI 番号

- 必須
- 数字
- 最大 8 文字

詳細

☒ **送信情報**

企業 PSA OEM [900775]
組織 -
送信先ステータス 編集モード
サプライヤーコード - ? »
名称
部品番号 - ? »
送受信/確認日 なし
転送許可 ☒

☒ **図面情報**

図面番号
図面作成日 ?
設計変更番号 ?

☒ **発注書**

発注番号
納品番号

☒ **レポート**

レポートNo.
レポート日

☒ **企業細目**

PSA 部品インデックス ?
この部品インデックスが使用中であることをPSA設計者に確認してください。
設計者のEメールアドレス ? »
MACSI 番号 ?

詳細

送信情報

企業 PSA OEM [900775]

組織 -

送信先ステータス 編集モード

サプライヤーコード . ? »

名称

部品番号 . ? »

送受信/確認日 なし

転送許可 ☒

図面情報

図面番号

図面作成日 ?

設計変更番号

発注書

発注番号

納品番号

レポート

レポートNo.

レポート日

企業細目

PSA 部品インデックス ?

この部品インデックスが使用中であることをPSA設計者に確認してください。

設計者のEメールアドレス ? »

MACSI 番号 ?

アプリケーションコードの編集

材料規格の編集

材質表示の編集

リサイクル情報の編集

サプライヤーコードは COFOR に対応しています。

このコードがわからない場合は、B2B ポータルで確認してください。それは 6 文字のコードです。(例 12345A)

部品番号は PSA 部品の参照番号です。

それは 10 文字です。(スペースなし)

参照(例 9800000080, YP00000080...)

部品インデックスは PSA 部品インデックスです。

それは 2 文字のインデックスです。(例 00, 05, A., BB)

アフターセールスまたは材料データシートについては、このフィールドは自由です。

PSA 担当者の E メール

MACSI 番号は PSA データシート番号に対応しています。(MACSI メールで受け取ったもの)

それは最大 8 桁の数字番号です。(例 12345678, 7654321 ...)

IMDS の標準のエラーチェックに加えて、送信先情報の入力には下記の規則に沿ってチェックされます。

ユーザーが無効な情報を入力すると、誤ったフィールドと値を示すメッセージが表示されます。定義された検証ルールを満たさないデータシートは、PSA に送信することはできません。

- **サプライヤーコード**は6文字の英数字が含まれていることを確認するためにチェックされます。このフィールドは入力必須です。サプライヤーコードはサプライヤーコードの参照リストと照合されません。
- **部品番号**は 10 文字の英数字で、スペースはありません。このフィールドは入力必須です。
- **PSA 部品インデックス**は 2 文字の英数字でなければなりません。このフィールドは入力必須ですが、アフターセールスパートや材料データシートの場合は省略できます。
- **PSA 送信先の E メール** は入力する必要がある、有効な E メールアドレスでなければなりません。このフィールドは入力必須です。
- **MACSI 番号入力フィールド**は、最大 8 桁の数字にチェックされます。このフィールドは入力必須です。

25 ルノー向け拡張機能

この画面の部品番号と企業固有の項目は必須なので、サプライヤーは必ず入力してください。部品番号は10文字の英数字で入力してください。青色のリンクを選択すると、ヘルプが表示されます。

画面をスクロールすると、ルノー向けサプライヤー用の詳細画面が現れます。これはルノー向けに拡張された企業データ画面であり、同社でのみ必要とされる情報のフィールドがあります。

企業固有の項目にある次のフィールドは必須です。

1. ルノー部品の Index
2. 設計者の E メールアドレス
3. E メールアドレスの確認
4. 標準 Index (--H はあらかじめ入力済み) (Renault substance-Standard 00-10-050/--H のダウンロードボタンあり)

ルノー向け必須情報が全て入力された場合のみ、送信することができます。

データシートが送信/全送信される前に実行されるルノー向けチェックの概要を次に示します。

チェック事項	チェックウィンドウのエラー表示
企業固有の項目でEメールアドレスの再入力内容が一致しているか	二つのEメールアドレスが一致しません。
企業固有の項目で設計者のEメールアドレスが入力されているか	設計者のEメールアドレスは入力必須項目です。
企業固有の項目でルノー部品のIndexの入力形式が正しいか	ルノー部品の正しいIndexを入力して下さい。
企業固有の項目で標準Indexの入力形式が正しいか	正しい標準Indexを入力して下さい。
質量の実測値と自動計算値の差が20%を超えていないか	質量と質量(自動計算値)の差が20%を超えてはいけません。
ルノー向けデータシートの一般的禁止事項に反し、構成情報のツリー内で材料の下に材料が属している箇所がないか	材料の下にを材料を作ることはできません。

ルノーは”量産準備初期段階の「事前申告」データシート”にチェックが入ったデータを承認しないという方針を取っています。このため、もしチェックの入ったデータの送信先企業がルノーの場合はエラーメッセージが表示されます。ルノーにデータシートを送信する場合は、エラーチェックの前に送信先企業にルノーを追加することを強くお勧めします。

26 Scania 向け拡張機能

Scaniaにデータを提出する場合、Scania固有のチェック機能が実行されます。

部品番号:

Scania指定の部品番号はすべて数字のみで、他の特殊文字や記号は含みません。また"0"で始まる番号は認められていません。

設計変更番号:

設計変更番号の項目は、部品の異なるバージョンを指定するために使用される ScaniaEngineering Change Order (ECO)番号を指します。ECO 番号はScania部品の図面に記載されています。

ECO が適用されない場合、フィールドに "0" を入力する必要があります。

ECO 番号は数字のみで指定し、特殊文字やテキストは使用しないでください。

サプライヤーコード:

7桁の数字(例: "0123401")から構成されるScania指定のサプライヤー番号を入力します。

この項目は必須です。サプライヤー番号はScaniaのIMDS社内システムで、Scania部品の契約サプライヤーのリストと照合してチェックされます。

7桁の数字のサプライヤー番号がわからない場合は、Scaniaの購買担当に問い合わせてください。

さらに、Scania では“量産準備初期段階の「事前申告」データシート”に該当するデータシートを承認しないため、このようなデータシートを Scania に送信しようとする、エラーメッセージが出ます。データシートを Scania に送信する場合、エラーチェックの実行前に Scania を送信先に追加することを推奨します。

27 Tesla 向け拡張機能

Tesla に提出する部品番号(送信先情報画面の部品番号)は正しいものである必要があります : Fiatはすべての受け入れ可能な部品番号のファイルを作成し、IMDSはこのファイルに対してチェックを実行します。 システムは、ユーザーが誤った部品番号で送信することを許可しません。 部品番号がファイルにない場合は、あなたの部品を入力するためにTeslaに連絡してください。

The screenshot shows a confirmation window titled "MDS - MATERIAL DATA SYSTEM". Inside, there is a section labeled "確認" (Confirmation) with a label "部品番号" (Part Number) next to an empty text input field. To the right of the input field is a blue question mark icon. At the bottom of the window, there are two buttons: a green checkmark icon followed by the text "はい" (Yes), and a blue circular arrow icon followed by the text "キャンセル" (Cancel).

同様に、入力されたサプライヤーコードをIMDSが受け入れない場合は、Teslaに連絡して、サプライヤーコードをファイルに追加するよう依頼してください。

The screenshot shows a dialog window titled "MDS - MATERIAL DATA SYSTEM" with the subtitle "サプライヤーコードチェック" (Supplier Code Check). It displays "送信先" (Destination) as "Tesla Motors [113431]" and "送信先ステータス" (Destination Status) as "編集モード" (Edit Mode). Below this is a label "サプライヤーコード" (Supplier Code) next to an empty text input field, with a blue question mark icon to its right. At the bottom, there are two buttons: a green checkmark icon followed by "はい" (Yes), and a blue circular arrow icon followed by "キャンセル" (Cancel).

28 トヨタ向け拡張機能

トヨタにデータを提出する場合、トヨタ固有のチェック機能が実行されます。

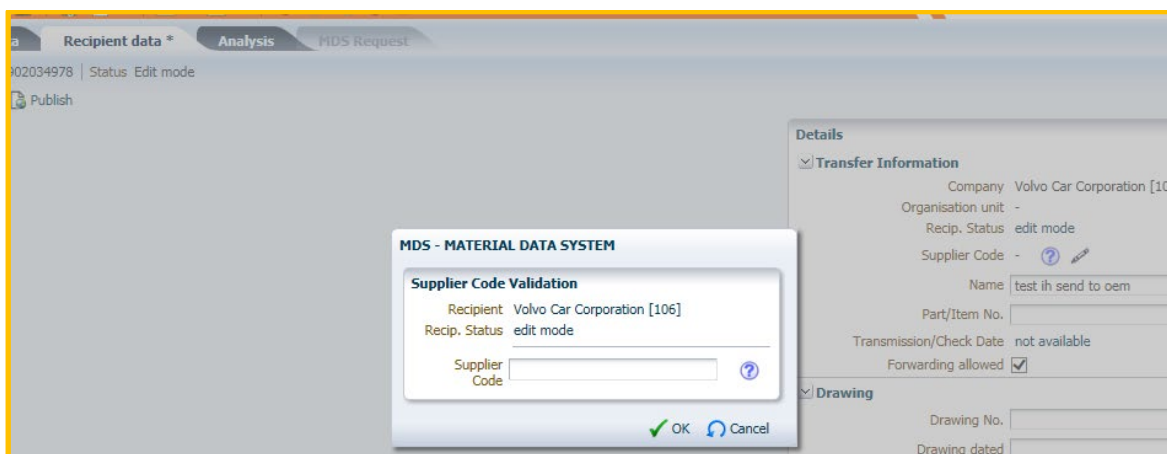
- 部品番号の形式はトヨタ固有の形式に一致しなければなりません。
- 材料データ中に公的材料規格かトヨタ材料規格の少なくとも一つが入力されていなければなりません(企業ID: 10674へ送信する場合のみ)。
- コンポーネント/セミコンポーネント-材料-化学物質のツリー構造がレコメンデーション001を満たさなければなりません。

The screenshot shows the MDS - MATERIAL DATA SYSTEM interface. A red box highlights a confirmation dialog box titled "MDS - MATERIAL DATA SYSTEM" with the sub-header "確認". The dialog contains a text input field labeled "社内材料コード" (Internal Material Code) and two buttons: "OK" (with a green checkmark icon) and "キャンセル" (with a blue circular arrow icon). The background interface shows the "送信情報" (Transmission Information) section for "企業 TOYOTA MOTOR CORPORATION [10674]". It includes fields for "Organisation unit", "送信先ステータス" (Transmission Status) set to "編集モード", "サプライヤーコード", "名称", "社内材料コード" (with a question mark icon), "送受信/確認日" (Transmission/Confirmation Date) set to "なし", and "転送許可" (Transfer Permission) checked. Below this, there are fields for "図面番号" (Drawing Number), "図面作成日" (Drawing Creation Date), and "設計変更番号" (Design Change Number). At the bottom, there is a "発注書" (Purchase Order) section with fields for "発注番号" (Purchase Order Number) and "納品番号" (Delivery Number).

トヨタ向けのエラーチェックをが通った場合のみ、送信することができます。

29 Volvo Car Corporation 向け拡張機能

Volvo Car Corporationにデータを提出する場合、Volvo Car Corporation固有のチェック機能が実行されます。



Volvo Car Corporation の場合は、サプライヤーコードとしてサイトコードを入力することが必須です。親コードはもはや受け入れられません（IMDS リリース 11.1 以降）。データシートが複数の製造サイトで有効な場合は、製造サイトごとにデータシートのコピーを Volvo Car Corporation に送付する必要があります。IMDS がサプライヤーコードを承認しない場合は、Volvo Car Corporation に連絡してサプライヤーコードを追加してもらってください。

送信先の Volvo Car の部品番号が正しいこと（送信先情報データの部品番号）：Volvo Car は許可される全ての部品番号のファイルを作成し、IMDS はこのファイルに対してチェックを行います。IMDS はこのファイルとの照合を行います。システム上、不正な部品番号での送信は許可されません。部品番号がファイルに含まれていない場合、Volvo Car に連絡して部品の入力を依頼してください。

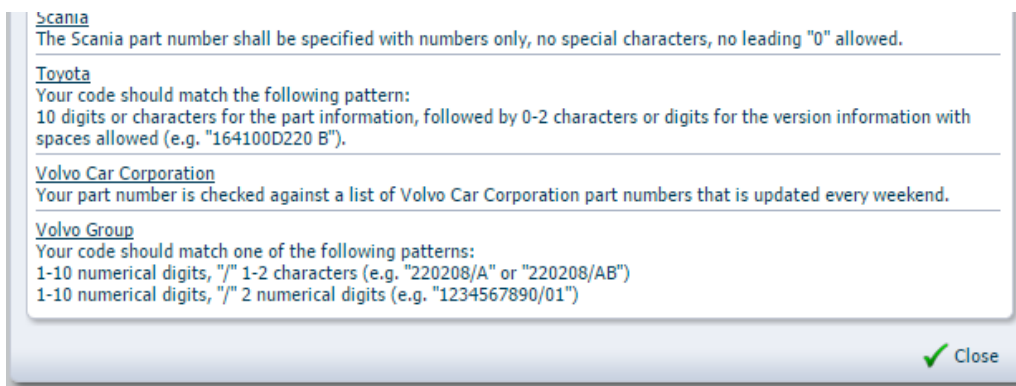
30 Volvo Group 向け拡張機能

Volvo Groupにデータを提出する場合、Volvo Group固有のチェック機能が実行されます。

Volvo Group にデータシートを送信する場合、部品番号は特定の形式でチェックされ

Volvo Groupにデータを提出する場合、Volvo Group固有のチェック機能が実行されます。

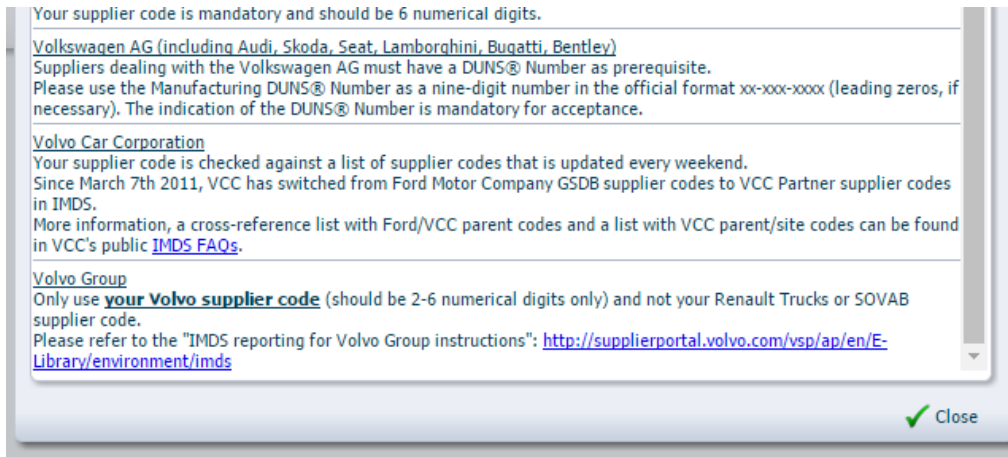
1. Volvo Group にデータシートを送信する場合、部品番号は特定の形式でチェックされます。
Volvo Group を送信先とした場合、クエスチョンマークボタンによって、Volvo Group の部品番号の入力方法を確認することができます。



部品番号のパターンは 8 桁または 10 桁の数値の部品番号に変更されます。短い部品番号の場合、ユーザーは 8 桁にするために頭に 0 を付けなければなりません。

2. Volvo Group にデータを送信/全送信する場合、サプライヤーコードがチェックされます:

Volvo Group を送信先とした場合、サプライヤーコードを入力するためのサプライヤーコード確認画面が開かれます。クエスチョンマークボタンによって、次のスクリーンショットに見られるように、サプライヤーコードに関する詳細情報のページへアクセスすることができます:



Volvo のサプライヤーコードを入力するように通知され、2～6 桁の数字で入力する必要があります。入力されたサプライヤーコードを作成元企業の企業 ID および Volvo Group (46569) の企業 ID と比較することによりチェックします。いずれかが合わない場合、エラーが表示され、データは送信できません。

31 IMDS – アドオンサービス

IMDS は無料で使用できる基本のサービス以外にも拡張機能をご利用いただけます。この章では、そのような拡張サービスをご紹介します。詳細についてはIMDS アドバンスド・ソリューションズ・サービスページ(www.mdsystem.com/services)をご参照ください。



31.1 IMDS-a2 Optimizer

IMDS-a2 Optimizer は IMDS でのデータ入力を簡易化し、社内の IMDS 担当者の生産性を向上させ、さらに他社から受信したデータシートを承認するまでの所要時間を短縮します。長年、IMDS-a2 は多くの IMDS ユーザーの間でデータ入力効率化のためのツールとして認識されてき

ました。更に IMDS-a2 の新機能によって、ユーザーの IMDS 利用プロセス、データ管理、品質を最適化(最適化)することが可能となりました。

IMDS-a2 の主な特徴：

- 簡易なユーザーインターフェースと複数ウィンドウの同時利用
- 取引先ごとに自由にルールを設定可能なチェック機能(検査機能)
- ユーザーが設定したルールに基づき、受信データシートを自動的に検査
- データシートと入力依頼のステータスを見やすく表示するダッシュボード機能
- 不完全なデータを識別し、サプライヤー管理を支援するレポート機能
- 優れた検索の機能とドラッグ&ドロップが可能。
- 全ての検索結果をエクスポートする機能の設定が可能。
- 生産性向上のためキャッシュデータを活用。

31.2 IMDS Connect

IMDS Connectを使用すると、現行のシステムで管理されている既存データを活用して、データ収集、データ整形、およびIMDSシステムへのデータ入力にかかる手間を低減することができ、生産性が向上します。IMDS Connectには、XMLコードを利用して、社内システムとIMDSの間でデータシートを自動的に連携させる機能があります。その結果、社内の業務プロセスとIMDSとのいっそう緊密な統合を実現できます。

またIMDS Connectでは、自社で閲覧可能なIMDS上の全データを社内システムに移行できます。これには、公開データシート、自社データシート、受信データシートが含まれます。ご希望であれば、承認前の受信データシートをIMDS Connectを用いてダウンロードし、社内システムで自動エラーチェックを行い、承認/拒否の作業をアシストすることもできます。または、承認/拒否作業はWebブラウザで行い、承認済みデータシートのダウンロードのみを行う方法もあります。

アップロード機能を使用して、IMDS上にデータシートを作成できます。

31.3 IMDS Reorganization

企業のオーナーや社内の IMDS のプロセスが変更になった際、IMDS 上での自社のデータの構成を変更する必要がある場合があります。そのような企業のために、DXC では 2 種類の再構成サービスを提供しています。

31.3.1 Company Merge

- IMDS上の複数の企業を一つの企業に統合

以下に企業統合の主要なケースを4つ示します。:

1. 組織の無い親企業(roof company)のデータを、組織を作成せずに新規の親企業に移行する。
2. 一つ以上の組織が存在する親企業のデータを、組織を作成せずに新規の親企業に移行する。
3. 組織の無い親企業のデータを、新規の親企業傘下の組織に移行する。
4. 親企業のデータとその傘下の組織のデータを、新規の親企業とその傘下の組織にそれぞれ移行する。

多くの場合、組織の無い企業を複数統合しますが、Company Mergeサービスの手続きや費用は上述のケースを組み合わせた形式にも対応可能なため、問題ありません。ただし、このサービスを利用されるカンパニアドミニストレーターの方には、統合作業の前に新しい企業を構成していただく必要があります。

31.3.2 Company SplitOff

- 企業内の組織をIMDS上の独立した企業として分離

SplitOffサービスとは、IMDSに登録されている、ある親企業の傘下にある複数の組織のデータを、別の親企業に移行するサービスです。データが確実に移行されているかどうかを確認するのは、移行対象となる企業のカンパニアドミニストレーターの責任です。このサービスは、ある組織の中に現存するデータを移行することを想定しています。多くの企業は、作成した組織を活用していると考えがちですが、実際には活用できていないケースが多数あります。組織にユーザーを割り当てていない、またはデータシートが組織に割り当てられていない、といった事例が多くあります。

全てのデータを分離もしくは移行できるとは限りません。移行可能なデータの量は、データがどのように参照されているかに依存します。データシートは、一つの企業のみしか存在できません。データシートは、最終的には移行前の企業または移行先の企業のどちらかに存在することになります。

移行されずに残るデータシートが参照しているデータシートを参照しているデータシートは移行できません。また、移行されずに残るデータシートに参照されているデータシートも移行できません。唯一の例外は、参照されているデータシートが公開されている場合です。例えば、移行されずに残るデータシートが参照している材料を参照しているデータシートは通常移行できませんが、参照されている材料が公開データシートであれば移行できます。

SplitOffサービスの実施に当たり、DXCは2回まで調査を実施いたします。調査でデータを移行できないことが判明した場合には、申請者に調査の意味を理解していただき、何らかのアクションをとっていただく必要があります。調査で移行できないことが判明したデータは、DXCは移行できません。また、IMDSの仕様上、ある企業のデータを別の企業にコピーすることもできません。

32 IMDS – ヒント

この章では IMDS に関する重要な補足情報をご案内します。

1 時間操作しなかった場合の自動ログオフ機能

データセキュリティを向上させ、パフォーマンスとシステム可用性を最適化するため、IMDS ユーザーは 60 分以上データの保存や更新を行わないと、自動的にログアウトするようになっています。

注意:一般的に、画面にデータを入力して「保存」または他の「操作」を行っていない場合、データは登録されません。入力したデータが失われることを防ぐため、操作が止まってしまう前に、常に保存や更新をこまめに行うようにご注意ください。

IMDS 使用条件

IMDS 使用条件は IMDS ユーザーと IMDS システム提供者との間の同意書で、お互いの権利と責任をまとめたものです。全てのユーザーは最初のログイン時に、この使用条件を必ず読み、理解する必要があります。使用条件はログイン画面のリンクからも入手することができます。使用条件を順守しなかった場合、批判の対象となったり、IMDS の使用を禁止されたり、まれに違法とみなされる場合があります。使用条件の主な内容は以下の通りです:

- IMDS は使用条件に定められている目的以外の用途で使用してはいけません。
- IMDS のユーザーID は個人ごとに所有すること。ID の共有は認められていない。
- IMDS カンパニアドミニストレーターは自社のユーザーの作成と管理を行う責任がある。IMDS システム提供者はこのような役割の責任は負っていない。ただし、カンパニアドミニストレーターが全員退職していた場合で、証明する詳細なドキュメント存在するといった一部の例外を除く。
- IMDS に入力する全てのデータは、ユーザーの知識に基づいて正確である必要がある。

二重登録

IMDS では、物理的に離れている複数の拠点などを、複数の「組織」として一つの企業の傘下に登録したり、企業を分けたりすることが認められています。しかし、各拠点を複数の企業に分け、類似する企業名で登録すると、「二重登録」となってしまう可能性があります。この場合の唯一の合法的な手段は、2 つの企業を同一の住所と類似企業名で登録することです、例えば、各拠点がそれぞれ違う個別のプロセス(場所は同じだが、扱う材料や部品、顧客、サプラ

イヤー、担当者がそれぞれ異なる)を持っている場合などです。それ以外の場合は二重登録となり、認められていません。もし二重登録が既に行われていた場合、IMDS サービスデスクでは他のサポートの前に、まず二重登録の解決を実施させていただきます。

二重登録が認められていないのには、いくつかの理由がありますが、ほとんどは登録企業を守るためです。最初に重要な点として挙げられるのは、IMDS に適用される欧州連合(EU)のプライバシーと機密情報保護の規制(IMDS はドイツで運用されているため)の下、二重登録のいくつかのケースが、この EU の法律に違反するということです。

二重登録してしまった後、サプライヤーが持っている二つの企業を「統合」するための方法として2通りあります。一つは有料で IMDS のデータを統合するサービスを利用する方法、もう一つは、有料サービスは使わないが、工数を使ってサプライヤー自身でデータシートの送受信を行い、データを片方の企業 ID に統合する方法があります。しかし、いずれの方法でも無駄な費用が発生します。更に、二重登録は作為的な IMDS の入力データ数が増え、サプライヤーと顧客間のやり取りが複雑になる可能性があり、システムメンテナンスのコストも不必要に増大させます。

二重登録を防ぐため、システム保護のための機能を IMDS に実装する案がいくつか提案されました。例えば、企業登録時に類似企業名を検索して繰り返しの登録がないかどうかチェックするときにより自由度の高い検索を行ったり、企業登録時に DUNS ナンバーの入力を求めたりするといったものです。これらの方法は正当な登録を妨げるとして却下されました。このため、二重登録を防ぐには「正直なシステム」である必要があります。全ての企業には、二重登録が行われないよう十分に警戒して頂く必要があります。

ユーザーアカウントの管理

使用条件の説明で述べたとおり、ユーザーアカウントの作成や管理のために、IMDS の各企業は最低でも 1 名、可能であれば複数のカンパニアドミニストレーター(旧クライアントマネージャー)の登録を求められています。全てのユーザーはログインをするために、常に自分の氏名、電話番号、E メールアドレスを正確な状態に保ち、さらに最低でも年に 1 回ログインを行ってユーザーID を有効な状態にしておく必要があります。カンパニアドミニストレーターはこれらの情報に不整合がないかどうかを監視する責任があります。加えて、部署移動や部署の分離、長期休暇などによって社内の材料情報の報告業務に関係のなくなったユーザーを無効化するため、各ユーザーの「有効期限」を管理する特別な権限も与えられています。

カンパニアドミニストレーターは自社の全てのユーザーを最低でも 4 半期に 1 回確認することを強く推奨します。特にユーザー名、E メールアドレス、「有効」かどうか、権限(ユーザー承認プロファイル)、有効期限に注意を払ってください。大企業でない限りは、4 半期に一度行えば 10~15 分程度、1 年に一回であれば 1 時間程度で済むはずです。車のオイル交換のように、このような予防策をとっておくことが、今後のスムーズな運用や、起こりうる重大な課題

を未然に防ぐために非常に重要です。これらの役割を果たすための方法を示した説明は、このマニュアルの中にあります。また、公式な IMDS インフォメーションページにもこれらのやり方について順を追って説明した有効な資料が掲載されています。

正しい E メールアドレスの重要性

誰しもがユーザーID やパスワードを忘れてしまった経験があると思います。IMDS では、ログイン画面にある「ID の確認」「新パスワードの発行依頼」というリンクからユーザーID またはパスワードを入手することができます。ただし、これらの機能は、IMDS に登録されている E メールアドレスが正しくないと利用できません。これは法律上必要なセキュリティ機能です。ユーザーの ID とパスワードは、システムで個人を特定する重要なメカニズムです。カンパニーアドミニストレーターは自社の全てのユーザーの E メールアドレスを更新することができ、ユーザー自身による管理ができなかった場合の次の手段となります。ユーザーID の入手とパスワード再発行のリンクと E メールアドレスの更新作業は第三の“バックアップ”手段です。これらの手段が全て使えなくなり、IMDS にどうしてもログインができない場合は、そのユーザーが確かに IMDS の所有データ/機密情報にアクセスできる権限を持つべき人物かどうかを証明する文書が求められます。この証明が必要なケースとして特に注意していただきたいのは、企業の買収、統合、社名変更などで、E メールアドレスのドメインが変わったにも関わらず、アドレスの更新を行わなかったために、社内の全ユーザーがログインできなくなってしまう場合などです。

IMDS サポートセンターとユーザーアカウント

多くの人はユーザーアカウントについての問題(パスワードを忘れたなど)が発生すると、サポートセンターへのお問い合わせをする習慣がついているかと思いますが、IMDS には当てはまりません。IMDS には機密性が高く社外秘の情報が含まれており、組織における機密/社外秘のデータに関する EU の法規制は広がりを見せています。第三者であるサポートセンターが、ユーザーが再び IMDS にログインできるようにするために、例えばあなたの金融情報や、医者が持っている医療情報など同等の機密情報である IMDS の情報にアクセスすることを想像してみてください。サポートを依頼するユーザーはこれらの情報にアクセスする権限を持っていますが、適切な証明がないサポートセンターは、妥当な理由あるいは法的に保証が求められている場合を除き、本来アクセスすべきではありません。

本来 IMDS サポートセンターの対応範囲には、ユーザーアカウントの問題のサポートは殆ど含まれていないという事をご了承ください。サポートセンターはシステム障害のレポートや解決、もしくは IMDS の機能の使い方の質問にお答えするという業務を請け負っています。ユーザーID の管理やアカウントが有効期限切れにならないよう確認する業務はカンパニーアドミニストレーターの役割です。1 企業につき複数のカンパニーアドミニストレーターが登録されてい

るが、全員がアクセスできない、といった状況の時だけ、サポートセンターが対応する権利が与えられ、責任が発生します。これは本来、法的要求に関連していて有料ともなりうるサポートです。IMDS をご利用の多くの企業とサポートセンターの間には、現状直接のコストや費用は発生していませんが、ユーザーのデータシートの作成のサポートやメンテナンスには、無視できない時間や工数がかかっています。ぜひ IMDS 使用条件でデータシートの管理についてご承諾いただいたのと同じように、ユーザーアカウントのメンテナンスを行う事で、コスト削減にご協力ください。

IMDS を利用するためのブラウザのバージョン

以下に挙げるブラウザは IMDS の全ての機能を適切にサポートできるという事がテストにより確認できたものです。以下に挙げられていないブラウザの種類とバージョンは十分なテストが行われていない、または問題が見つかっていますので、使用はお勧めしません。

Microsoft Edge (current version)

Firefox (current version)

Chrome (current version)

IMDS のほとんどの機能は、他のブラウザでも動作します。

ブラウザの設定：

XMLHTTP XMLHTTP を有効にする必要があります。

JavaScript JavaScript を有効にする必要があります。

スタイルシート スタイルシートを有効にする必要があります。

ブラウザのアドオン サードパーティ製のブラウザのアドオンは、ブラウザと ADF Faces のクライアントフレームワークの実行を阻害する可能性があるため、無効化または削除する必要があります。

Cookies ブラウザでセッション Cookie の保存を許可するように設定する必要があります。(少なくともドメイン mdsystem.com に対し設定する必要があります。)

IMDS アプリケーションのサポート対象の全てのブラウザは IMDS インフォメーションページの IMDS システム情報から確認できます。

化学物質

化学物質は、コンポーネントやセミコンポーネントや材料と同じようにユーザー自身が作成することはできません。必要な化学物質が見つけれない場合は、その化学物質を特定する

CAS No.のような情報を使って該当する化学物質を検索してください。新たに IMDS の化学物質リストに新規追加が必要な場合は、IMDS 中の「化学物質の申請」機能を使用してください。

言語

IMDS では項目名、メニュー、ボタンなどの表示言語を以下の中から選択することができます: 英語、ドイツ語、中国語、日本語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、韓国語。ただし入力される値は全て英語です。ユーザーが入力した文字列がシステムで翻訳されるという事はありません。

表示される言語は、基本的にはログイン前に選択します。また、ブラウザの設定でポップアップウィンドウを表示できるようにしてください。また、ユーザーマニュアルは PDF ファイルでブラウザ上に表示されます。オンラインヘルプは英語のみ対応しています。

色が薄くなったアイコン/記号

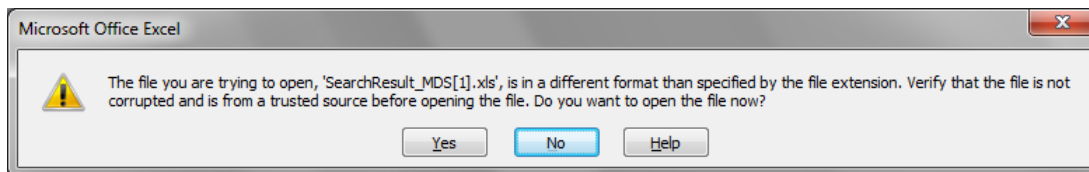
構成情報画面に表示されるツリーで、ノードを表しているアイコンの色が薄くなっている時は、その参照データシートが削除されたことを表しています。

アイテムの選択

検索結果などで表示されたアイテム(例:データシートやユーザーID など)をダブルクリックすると、そのデータの詳細が表示されます。また右クリックでも編集/閲覧を選ぶことができます。

検索結果を Excel でエクスポート

 **エクスポート** を押すと、検索結果の表を Microsoft Excel 形式で出力することができます。Microsoft Excel 2007 またはそれ以降のバージョンを使用している場合は以下のメッセージが表示されます:

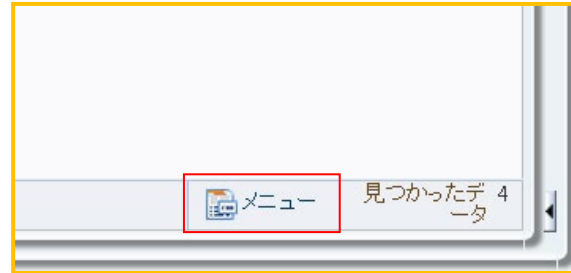
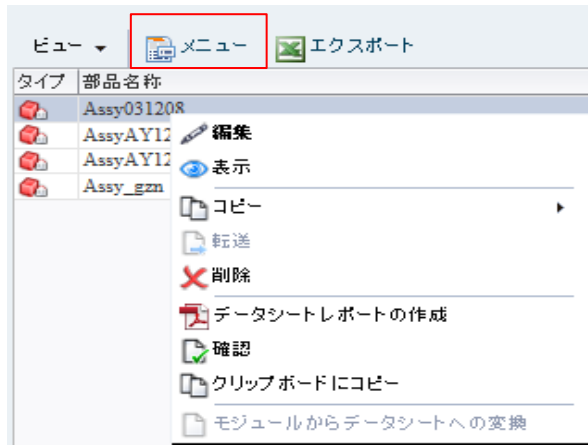


問題がなければ「はい」を選択するとファイルを開くことができます。

更に、検索結果の列は「表示」メニューを使って表示/非表示にしたりソートすることができます。ただし、この設定は Exxcel で出力した表には反映されません。

コンテキストメニュー

検索結果の一覧において、ユーザーが各項目の上で右クリックすると、その時の画面に応じたオプション（コンテキストメニュー）が表示されます。今後は右クリックの代わりに、検索結果の一覧の上部または右下にある「メニュー」オプションをクリックしても、コンテキストメニューが表示されます。



ネットワークテスト

IMDS を使用するための、PC のインターネット接続キャパシティは ISDN 回線の容量（64 キロビット/秒）に標準化されています。システムの動作が遅い場合、いくつかの要因が考えられます。例えば、自身の会社のインターネット接続やインターネットサービスプロバイダのインターネットサーバの性能などです。そのパフォーマンスをテストするために、システム上に自身で実行することができるテストがあります。分析では比較値を見ることがもできます。

ネットワークテストは、ログイン後に「ヘルプ」の「ネットワークテスト」メニューで実行することができます。結果の画面にお使いの PC のネットワークパフォーマンスが表示されます。

IMDS Network Performance Index Report

Hostname: www.next.model.mdsystem.com

Test Finished.

I. Introduction:

Generally users see as performance related issues

1. System is slow (long response times) but functionality working correctly
2. System unexpectedly logs users out of the application
3. Data retrieved from the application is not loaded correctly/complete into the screens

Bullet 2 and 3 might have different reasons, although experienced in a few cases could be caused by slow performance in combination with the client's Browser behavior. HP completed various individual performance investigations for IMDS-users having problems due to long response times. The experience and results of these activities were bundled in here and should help together with your personal measure results to solve your performance issues.

Please take this report containing your measures and descriptions and contact in your company the adequate IT specialists for help.

II. Client - Network Measures:

5 single measures and average in absolute time value.

The term "latency" in this context describes the time it takes for HTTP requests to travel from your browser to the IMDS server, being processed, and the answer being send back to your browser. The measurement is done using the 1kByte file transfers shown above. Latency is measured in milliseconds. Reference values show a fair international latency.

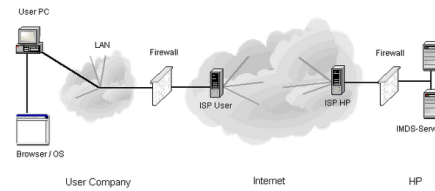
Latency (lower is better):

Test #	HTTP Version	Your Values	Comparison Values
1	1.0		282 ms
2	1.0		275 ms
3	1.0		275 ms
4	1.0		283 ms
5	1.0		275 ms
6	1.1		275 ms
7	1.1		277 ms
8	1.1		272 ms
9	1.1		278 ms
10	1.1		280 ms

V. Understanding the Performance-Relevant Factors:

Performance is a very complex problem which has to be looked at in every special case.

When a user is working with IMDS three major network components are involved in the data transfer. The first part consists of the local network, the Internet proxy and the network line to the Internet Server Provider (ISP) of the user's company. The second part is the public Internet itself and the third part is the connection to HP's ISP and through an HP firewall until it reaches the IMDS servers. This is summed up in the following picture:



33 用語説明

化学物質

化学物質とはケミカルな成分、あるいはケミカルな混合物のことであり、自然界に存在しているか、または人工的に作られたもののことです。これには、安定性を保守するために必要な全動因が含まれます。安定性を低下させることなく、また性質を変えることなく、その材料から分離可能な溶剤は含まれません。データシートをリリースするためには、ツリー構造上のいかなるトップノードも、最終的に化学物質までたどり着くような構造である必要があります。

チャプター

1つのデータシートはIMDS上ではタブ画面が分かれています。例えば、構成情報、サプライヤー情報、送信先情報といった各情報は、「チャプター」に分かれています。場合によってはOEM固有のチャプターも表示される場合があります。

コンポーネント

コンポーネントとは組み立てコンポーネントと同じものです。1つのコンポーネントは複数の異なったコンポーネントから成り得ます。特別なケースでは、コンポーネントは完全な自動車そのものを表すことさえあり、その他の何千というコンポーネントから成立することもあります。

GADSL - Global Automotive Declarable Substance List

GADSLと呼ばれる新しい化学物質リストがILRSを置き換えます。IMDS経験者にとってIRLSは、2004年の間にかけて使用されたリストとして認識されているかもしれません。ILRSの目的は、要申告物質に関するOEMの異なった全要件を一つのリストに統合することでした。ILRSの最初のバージョンよりこの取り組みは続いています。部品および化学業界の協力を得て、私たちは今、さらに一歩進んだGADSLをリリースしました。

GADSLは、Global Automotive Stakeholders Group(GASG)を組織化した自動車産業界、自動車部品メーカー（サプライヤー）、化学/プラスチック業界の代表による1年間のグローバルな取り組みによる結果です。GASGの目的はサプライ・チェーンを通して、コミュニケーションや自動車の部品に使用される特定の物質についての情報の交換を促進することです。GADSLは販売時に自動車に残っている材料または部品に存在していると予想される物質をカバーするだけのものです。

GADSLは、IMDSとは関係なく、2005年の間または以降に、OEM規格に組み込まれるでしょう。これはIMDSユーザーにとってGDASLが、要申告物質を確認するための唯一のリストとなることを意味しています。この事実を反映するために、他のドキュメントと同様に現在のすべてのIMDS Recommendations を更新しています。

GADSLについての問い合わせ、またはGADSLのドキュメントについては、ホームページ (<https://www.gadsl.org>)より詳細情報を見ることができます。

「GADSL分類」という用語は、特別な扱いが必要なGADSLにおける材料を示します。これは材料のグルーピングを示すIMDS材料分類と混同してはなりません。

分類の意味：

「P」 - 一部のアプリケーションでは禁止されています（免除の可能性あります）

「D/P」 - 使用目的によっては禁止、その他については要申告。GADSLドキュメントより、詳細を確認してください。

「D」 - 閾値を超えて使用する場合は常に要申告の物質。しかしながらその物質は自動車部品への使用を禁止されてはいません。

重要：GADSLはOEMとサプライヤー間での契約上の同意より優先されるものではありません。

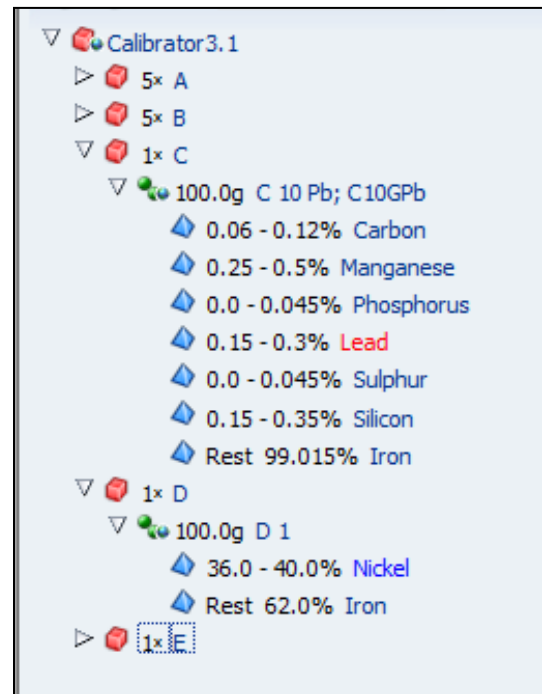
GADSL ページ <https://www.gadsl.org> への直接リンクは、ボタンとして、さまざまな IMDS 画面に表示されます。このボタンを押すと、新しいブラウザタブが開き、GADSL ホームページが表示されます。

材料

材料は化学物質単位で記述しなければなりませんが、製品データを入力する場合、それらは基本的な構成要素に過ぎません。成分を100%把握している材料メーカーが作成した材料データこそが高品質なデータであるため、全てのユーザーが材料を登録する必要はありません。公的材料規格に沿って製造されている材料は、全てのユーザーのためにIMDSステアリングコミッティーによって公開されています。全ての材料が公的材料規格に従って製造されているわけではありません。加えて、公的材料規格は材料に含まれている化学物質の100%を記述しているわけでもありません。Material Safety Data Sheet (MSDS) およびIMDSの要求事項は同一ではありません。

MDS (マテリアルデータシート)

データシートとは論理的なデータの単位のことであり、部品に関する一連の情報から成立しています。データシートにはつねに最低2つのノードが含まれており(例:材料の中に化学物質が1種類含まれているデータ)、改定管理に順じます。該当するデータに変更があった場合、データシート新規バージョンの作成が必要となります。バージョンが送信・受信されると、このデータシートに対する変更は一切不可能となります。



モジュール

モジュールは合理化されたデータシートで、自社企業でのみ使用します。モジュールには、製品に含有される材料と化学物質に関する全ての情報およびツリー構造が含まれますが、サプライヤー情報や送信先情報は含まれません。

また、モジュールは改定管理の対象となります。つまり、一度ユーザーがモジュールを社内送信した場合、それ以上の編集はできないことを意味しています。モジュールの作成方法は3通りあります。他のモジュールからコピーするか、メニューから「新規作成」を使用して作成するか、もしくは、他社が作成し、自社へ送信したデータシートまたは公開データシートをコピーする方法です。コピーを作成した場合、モジュールにはコピー元の情報が含まれますが、手動でコピー先のデータに新たなモジュールを追加することもできます。

本当にプロセスケミカルを使用するかどうかを確認し、さらに、材料にプロセスケミカルが0.1%より多く含まれている場合は、“intended use”(意図的使用)、“reaction residue”(反応残留物)、“impurity”(不純物)のいずれかの存在形態を入力する必要があります。プロセスケミカルの含有率が0.1%より多いにもかかわらず、存在形態が入力されていない場合には、エラーが発生します。

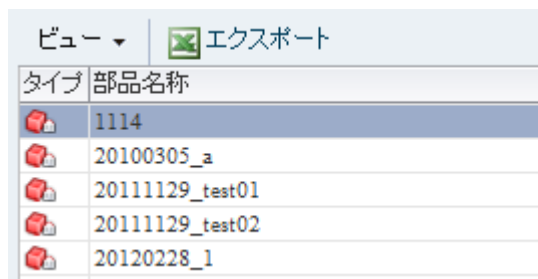
REACH-SVHC(Substances of Very High Concern 高懸念物質)

REACH-SVHC のためのフィルター機能が追加されました。これは、GADSL フラグの要申告物質や禁止物質のような化学物質への追加フラグの一つとして実装されています。ユーザーは、REACH-SVHC を検索したり、分析用絞込み検索で REACH-SVHC を含むデータシートやモジュールを分析できます。自動車業界に関連する全ての REACH-SVHC が GADSL に追加されるため、REACH-SVHC のための GADSL 分類やフラグが IMDS 上へまとまって表示されます。どのフィルターを選択したかに関わらず、REACH-SVHC は構成情報画面の製品ツリー構造内で常に下線が引かれた状態で表示されます。すべての SVHC は、GADSL に含まれていない場合でも機密扱い化学物質とすることはできません。

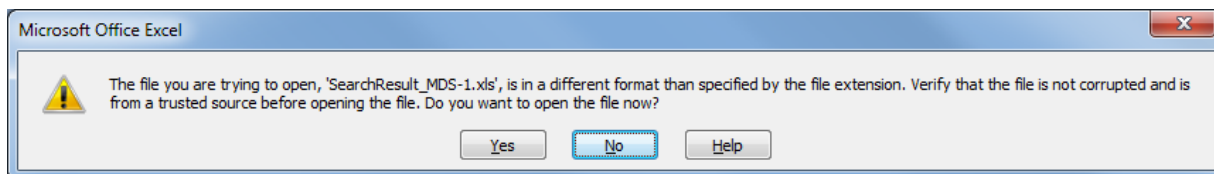
REACH-SVHC という名称が画面のどこかに表示されている場合はいつでも、クエスチョンマークがその隣に表示されます。このシンボルをクリックすると「候補物質リスト」にある物質であることを示しているという説明が出てきます。

検索結果のエクスポート

いくつかの画面ではエクスポート機能が利用できます。



Excel2007 を利用してエクスポート機能を使用すると、以下のメッセージが表示されます。



IMDS からエクスポートされたファイルは問題なく表示できますので、エクスポートを行うにはメッセージ画面で「はい」を選択してください。エクスポートした情報を Excel で開封し、

ツリー構造

モジュールはツリー構造となっています。パーツに含まれる各材料および化学物質の構成表示であり、各ノードから成り立っています。

VDA-公示「申告義務材料」

自動車の製造には、多数の建造材料、オペレーショナル材料、プロセス材料が使用されます。それらの選択と適切な用途は最後まで、自動車の質、安全性、環境への配慮に対して影響を与えます。その特性の改善には、使用法、最終再利用、廃棄に関して、価値創造連鎖内（原素材の抽出から半製品、コンポーネント、自動車そのものに至るまで）における情報交換と意見交換の啓発が必要です。サプライヤー・顧客チェーンにおける情報の転送に向け、すでに法的な要請が設定されています。将来的な開発を含め、情報は引き続き付け加えられ、人と環境に対する潜在的な危険性に関して意見交換がスタートしています。信頼性のある協力体制は、目的志向の解決に向け材料の用途に関して必要不可欠な条件です。そこで、材料の用途に関する利益と潜在的な危険性を示すため、ジョイント評価のプロセスが開始されました。この協力結果が、コンポーネントおよび原材料に含有される化学物質-「申告義務材料リスト」です。このコンポーネントおよび原材料に含有される化学物質-「申告義務材料リスト」では、自動車の使用中、再利用、廃棄に渡り、現在の知識に基づき提供し得る、人と環境への潜在的な危険性を示す、自動車の化学物質/化学物質カテゴリが記載されています。

IMDS は当初このリストに基づいていましたが、後に GADSL に基づくよう変更されました。

同リスト構成は下記に基づいています。

- 法的要請
- 環境保護、作業中の危険防止安全要求、建造中、オペレーショナル中、加工処理中の材料による人および環境に対する潜在的な危険性を回避
- 環境を意識して行動するというモットーに基づく人と環境への責任

以下のように特別な危険性を有する化学物質に対しては、特別な配慮がなされています。

- 発癌性化学物質
- 再生産危険化学物質
- 遺伝子変質化学物質

- 感光性化学物質
- 有毒性化学物質および強度な中毒性化学物質
- 環境に対して危険をおよぼす化学物質

34 連絡先

各地域の IMDS サービスセンターをご利用ください。

地域	営業時間	電話番号	Eメール
ヨーロッパ(英語)	月 - 金 8:00-16:30(GMT+1)	+36 1 2981536	imds- servicedesk@dx.com
ヨーロッパ (フランス語、 ドイツ語)	月 - 金 8:00-16:30(GMT+1)	+33 1 57 32 4856 and +36 1 778 9821	imds- servicedesk@dx.com
米国	月 - 金 8:00-12:00 CET(UTC-6) 月 - 金 1:00-17:00 CST(UTC+1)	+1 844 650 4217	imds- servicedesk@dx.com
日本	月 - 金 9:00-17:00日本標準時 (GMT+9)	+81 3 4530 9270	jpimds- helpdesk@dx.com
韓国	月 - 金 9:00-17:00ソウル (GMT+9)	+82 2 6138 3661	imds- helpdesk@dx.com
中国	月 - 金 13:30 – 17:00 pm BST (GMT+8)	+86 027-59180129	imds-helpdesk- china@dx.com

DXC Technology

DXCテクノロジー・ジャパン株式会社